

武蔵野市障害者計画・第6期障害福祉計画策定のための
武蔵野市障害者福祉についての実態調査
報 告 書

令和2年3月

武 蔵 野 市

目 次

第1章 調査の概要	7
1. 調査実施の目的	9
2. 調査設計	9
3. 回収結果	9
4. 調査結果を見る上での注意事項	9
第2章 調査結果のまとめ	11
1. 回答者について	13
2. 本人について	13
3. 保健・医療について	13
4. 相談について	14
5. 放課後や休日のサービスについて（児童）	15
6. 就労について	15
7. 障害者差別解消法について	16
8. 障害福祉サービスについて	17
9. 災害時の対応について	18
10. 引きこもりについて	19
11. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について	20
12. 今後のことについて	20
13. 施策要望について	21
第3章 調査結果の詳細	23
1. 回答者について	25
(1) 回答者	25
2. 本人について	26
(1) 年齢と居住地域	26
(2) 現在の生活場所	28
(3) 同居者	29
(4) 収入源	29
(5) 世帯年収	31
3. 本人の状況について	32
(1) 手帳の所持状況	32
(2) 手帳の種類と等級	32
(3) 身体障害の種類	36
(4) 医療費の助成状況	37
(5) 受けている障害や疾患の診断	39
(6) 介助や支援の必要性	40
(7) 必要とする介護や支援	42

(8) 主な介助者	45
4. 保健・医療について	47
(1) かかりつけ医師等の有無	47
(2) 健康・医療面での困りごと	51
(3) 介護保険の認定状況（40歳以上の方）	53
(4) 要介護度（40歳以上の方）	55
(5) 利用中（利用経験あり）の介護保険サービス	56
5. 相談や情報入手について	57
(1) 日常生活で困っていること	57
(2) 相談相手〔家族や友人を除く〕の有無	59
(3) 相談相手	61
(4) 相談する際に不便なこと	64
(5) 相談相手がない理由	67
(6) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源	68
6. 通園・通学について	71
(1) 通園・通学状況	71
(2) 保護者の就労状況	72
(3) 通園・通学先（通園・通学者）	73
(4) 通園・通学する上で困っていること（通園・通学者）	74
(5) 放課後や休日のサービス利用状況（通園・通学者）	75
7. 就労について	77
(1) 就労状況（通園・通学者以外）	77
(2) 現在の職場へ就職した時期（通園・通学者以外）	79
(3) 就職の際に利用した機関（通園・通学者以外）	81
(4) 今後の就労意向	83
(5) 就労の際に心配なこと	85
(6) 必要な就労支援	87
8. 災害時の対応について	90
(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況	90
(2) 災害時の不安	92
9. 外出の状況について	94
(1) 外出頻度	94
(2) 外出の際の移動手段	96
10. 趣味の活動や地域の活動について	99
(1) 趣味などの活動への参加状況	99
(2) 参加していない理由	101
(3) 特に用事のないときの過ごし方の満足度	104
(4) 参加したい活動（現在参加中も含む）	106
(5) 周囲の人たちとの会話頻度	109
11. サービスの利用等について	115

(1) 障害福祉サービスの利用状況	115
(2) 障害福祉サービスを利用する際の不便	117
12. 障害者差別について	121
(1) 障害者差別解消法の認知状況	121
(2) 差別を感じる場面	123
(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験	124
(4) 相談しなかった（できなかった）理由	126
13. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について	127
(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果の認知	127
(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向	129
14. 今後のことについて	131
(1) 成年後見制度の認知	131
(2) 将来の暮らし方	133
(3) 武蔵野市での暮らしの満足度	136
(4) 充実すべき障害者福祉施策	138
(5) 回答者からの意見・要望（自由記述）	140

第4章 調査票	147
---------	-----

第1章 調査の概要

1. 調査実施の目的

この調査は、令和2年度に改定を予定している武蔵野市障害者計画・第6期障害福祉計画に反映するとともに、日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料として活用するために実施した。

2. 調査設計

調査対象：令和元年11月1日現在武蔵野市が援護の実施機関である身体障害者手帳・愛の手帳・精神障害者保健福祉手帳の各手帳所持者と自立支援医療（精神通院）受給者で「つながり」、「こころのつながり」送付対象者、及び医療費助成（難病、肝炎、小児慢性）受給者 ※3,000名を無作為抽出

※障害が重複する場合は主なもの

調査方法：郵送法（郵送配布－郵送回収） 督促1回

調査票は障害に応じてルビ付版、拡大版等で送付した。

調査期間：令和元年11月28日（木）～12月20日（金）

3. 回収結果

区分	発送数	有効回収数	有効回収率
身体障害者	1,288	748	58.1%
知的障害者	410	260	63.4%
精神障害者	792	373	47.1%
難病・特定疾患	510	310	60.8%
合計	3,000	1,691	56.4%

4. 調査結果を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。

第2章 調査結果のまとめ

1. 回答者について (25ページ)

- 障害区別にみた構成比は、身体障害者が44.2%、知的障害者が15.4%、精神障害者が22.1%、難病・特定疾患が18.3%となっている。
- 本人による回答は、精神障害者、難病・特定疾患が8割台、身体障害者が7割弱となっているが、知的障害者では対象者の年齢が若いこともあるが1割程度と少なく、「宛名の本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」が6割を占めている。以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

2. 本人について

- 年齢は、身体障害者では「75歳以上」が約5割で高齢層が多く、知的障害者では6歳から29歳の若年層、精神障害者では40歳から64歳の壮年期にかけて多くなっている。難病・特定疾患では50歳以上が多くなっている。

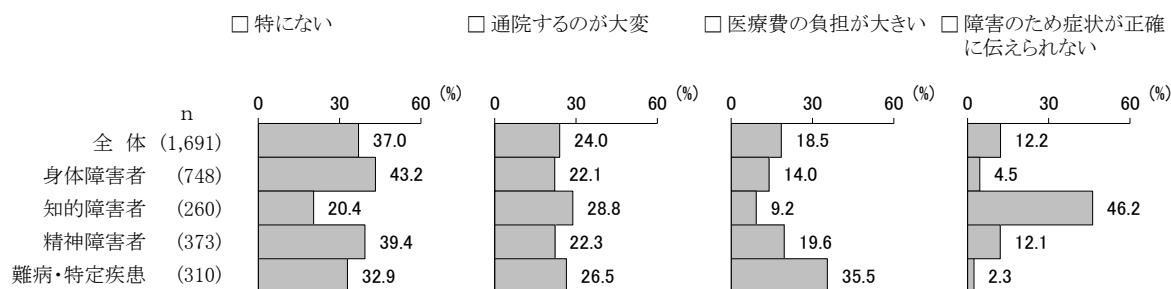
	n	＜年齢＞								無回答
		0～5歳	6～18歳	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上	
全体	1,691	0.9	5.4	8.8	7.6	13.7	18.3	16.1	26.7	2.5
身体障害者	748	0.4	1.2	2.4	2.9	5.3	13.8	21.7	49.7	2.5
知的障害者	260	4.6	25.8	30.8	14.6	14.6	5.8	1.9	0.8	1.2
精神障害者	373	-	3.2	8.3	11.3	28.4	28.7	13.7	3.8	2.7
難病・特定疾患	310	0.3	1.0	6.1	8.7	15.5	27.1	17.4	20.3	3.5

※網掛けはその各区分で20%以上の数値

3. 保健・医療について

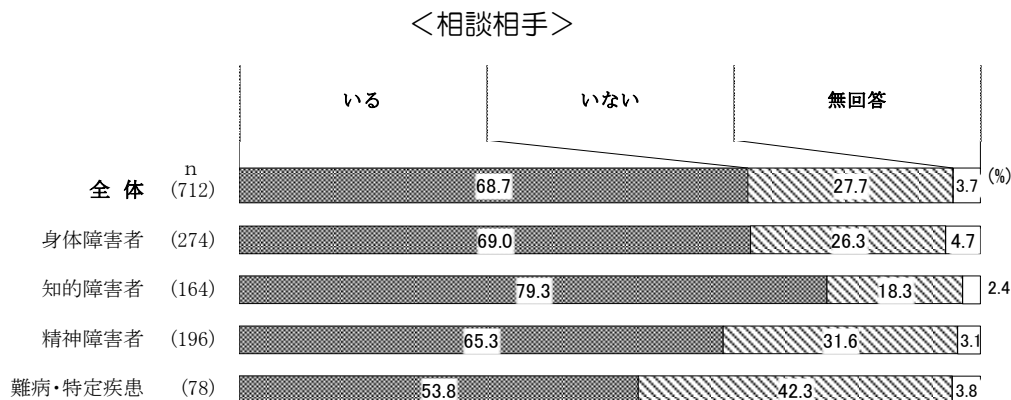
- 健康管理や医療の面で困ったり不便に思うことは、「特にない」が身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患で3割から4割台と多くなっている。「通院するのが大変」はいずれの障害でも2割台となっている他、「障害のため症状が正確に伝えられない」は知的障害者に特に多く、「医療費の負担が大きい」は難病・特定疾患での指摘が多くなっている。

＜健康管理や医療の面で困ったり不便に思うこと＞

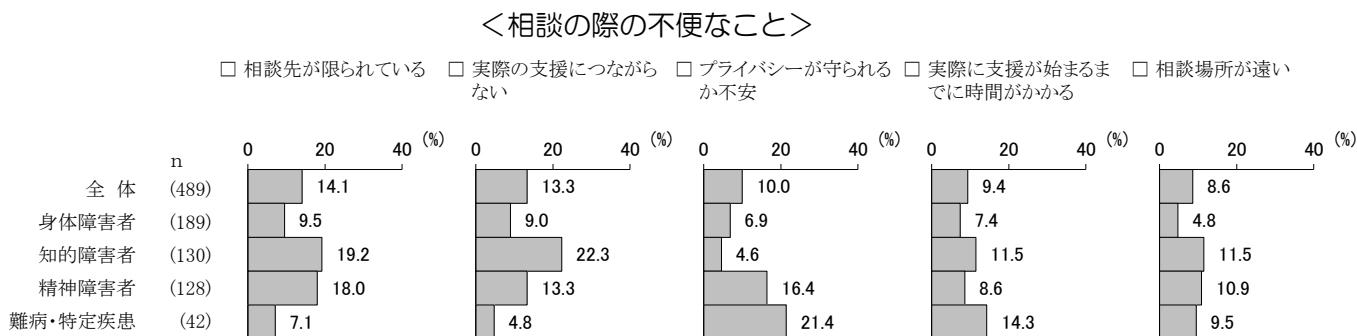


4. 相談について

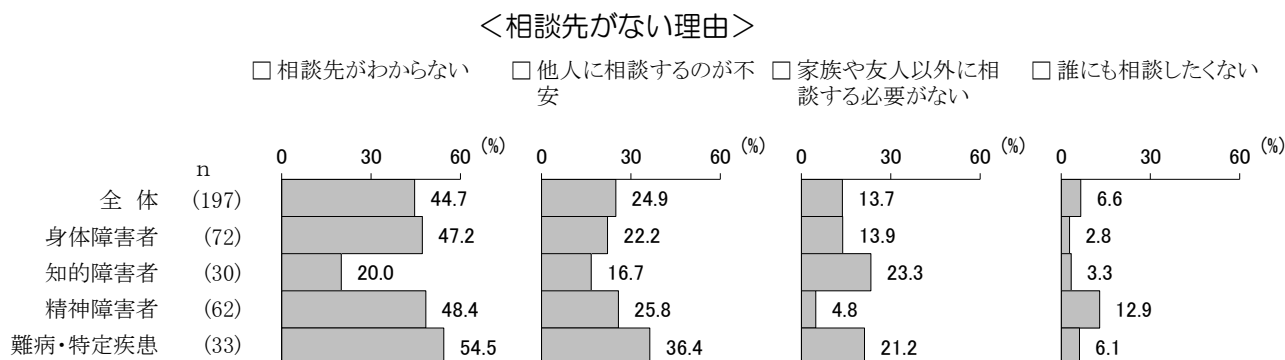
○相談相手が「いる」は知的障害者で8割近く、身体障害者と精神障害者でも6割台となっている。



○相談の際の不便なことでは、知的障害者と精神障害者では「実際の支援につながらない」「相談先が限られている」などの不満が多く、精神障害者と難病・特定疾患では「プライバシーが守られるか不安」もあげられている。

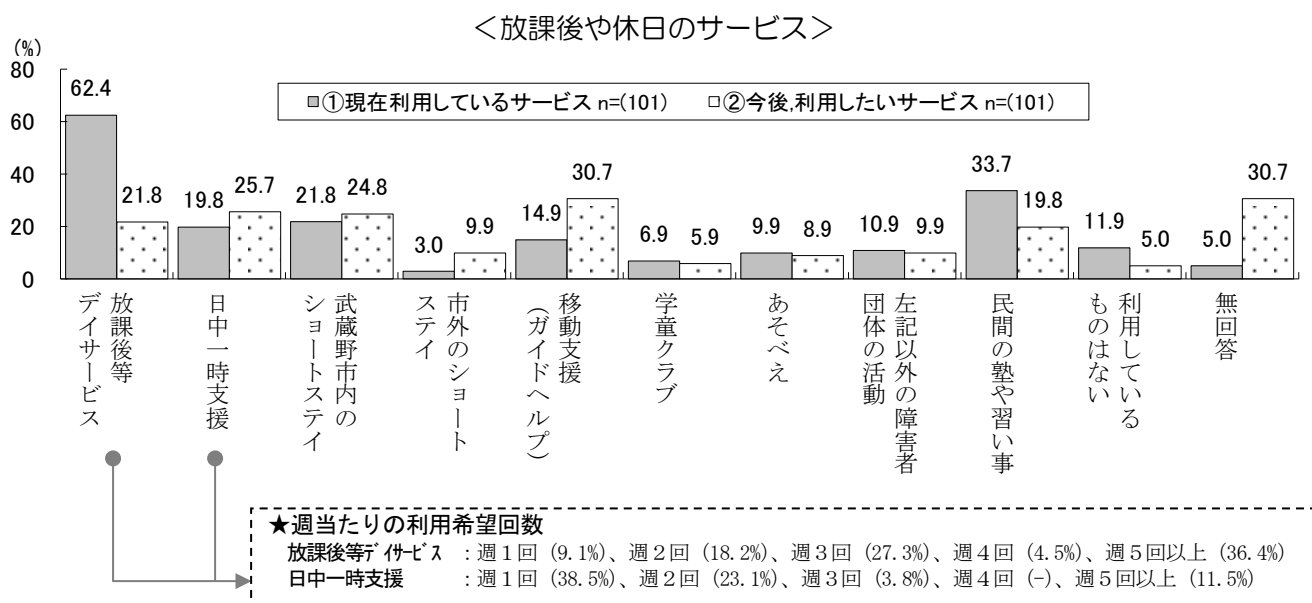


○相談先がない理由では、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患では「相談先がわからない」が4割以上、難病・特定疾患では「他人に相談するのが不安」が3割以上と多くなっている。また、知的障害者と難病・特定疾患では「家族や友人以外に相談する必要がない」が2割台となっている。



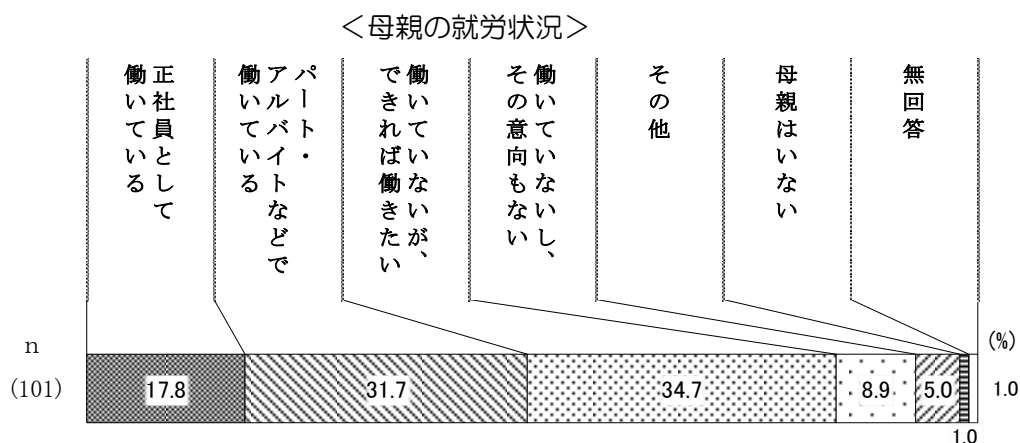
5. 放課後や休日のサービスについて（児童）

- 放課後や休日のサービスに関して、現在の利用状況では「放課後等デイサービス」が62.4%と多くなっている。利用意向が高いサービスとしては「移動支援（ガイドヘルプ）」が目立つ。また、「放課後等デイサービス」の利用希望回数は“週5回以上”、「日中一時支援」では“週1回”が多くなっている。週当たりの希望平均利用回数は「放課後等デイサービス」が3.5回、「日中一時支援」が2.1回となっている。
- 「放課後等デイサービス」の利用は前回調査の54.8%から今回は62.4%に、希望平均回数も週2.4回から週3.5回へと増えている。



6. 就労について

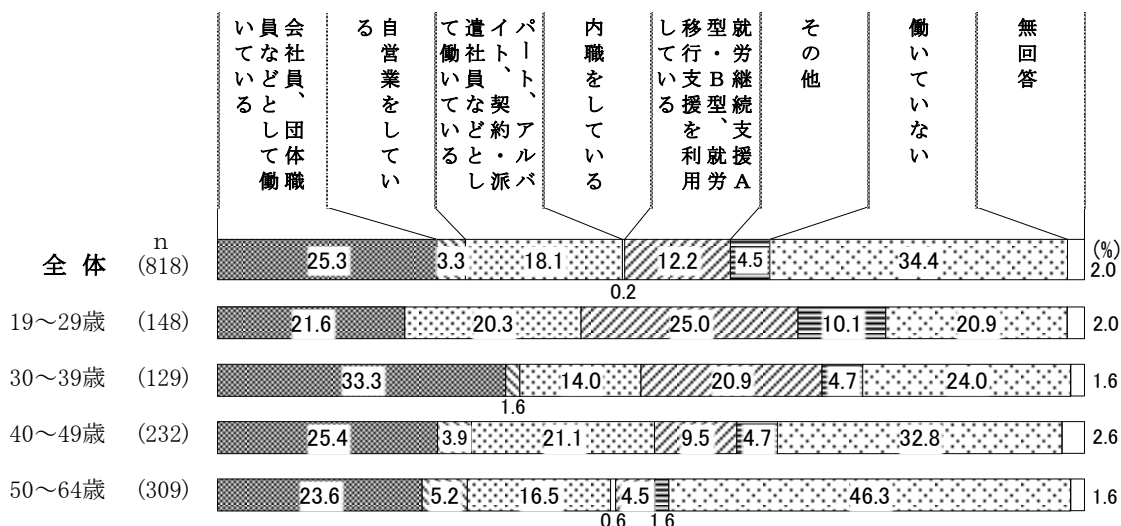
- 障害児を持つ母親の就労状況は「正社員として働いている」が17.8%で、「パート・アルバイトなどで働いている」(31.7%)をあわせた《就労中》は49.5%となっている。なお、「働いていないが、できれば働きたい」は34.7%と、就労意向のある人が多くなっている。
- 《就労中》の母親は前回の30.8%から今回は49.5%と大きく増加している。



第2章 調査結果のまとめ

- 本人の就労状況は、19歳から64歳の間では63.6%の人が何らかの形で就労しており、就労の形態としては、「会社員等」が25.3%、「パート、アルバイト等」が18.1%と多くなっている。
- 19歳～64歳の間で《就労中》の人は前回調査の60.6%から今回は63.6%に上昇している。

<本人の就労状況>

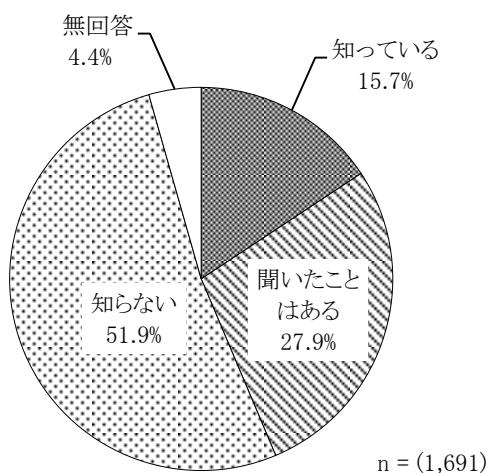


※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

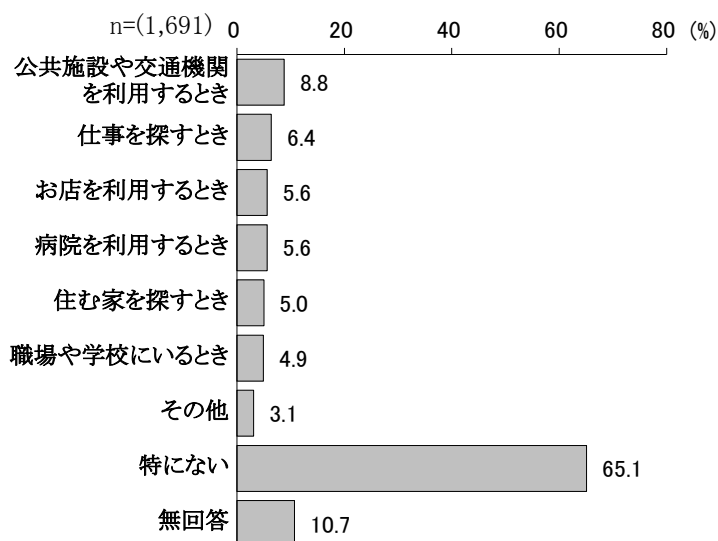
7. 障害者差別解消法について

- 障害者差別解消法を「知っている」は15.7%、「聞いたことはある」は27.9%となり、両者を合わせた認知度は43.6%となっている。
- 差別解消法の認知度は前回の31.6%から今回の43.6%へと大きく上昇している。
- 差別を感じる場面は「特にない」(65.1%)が多く、「公共施設や交通機関を利用するとき」が8.8%、「仕事を探すとき」が6.4%となっている。

<障害者差別解消法の認知状況>



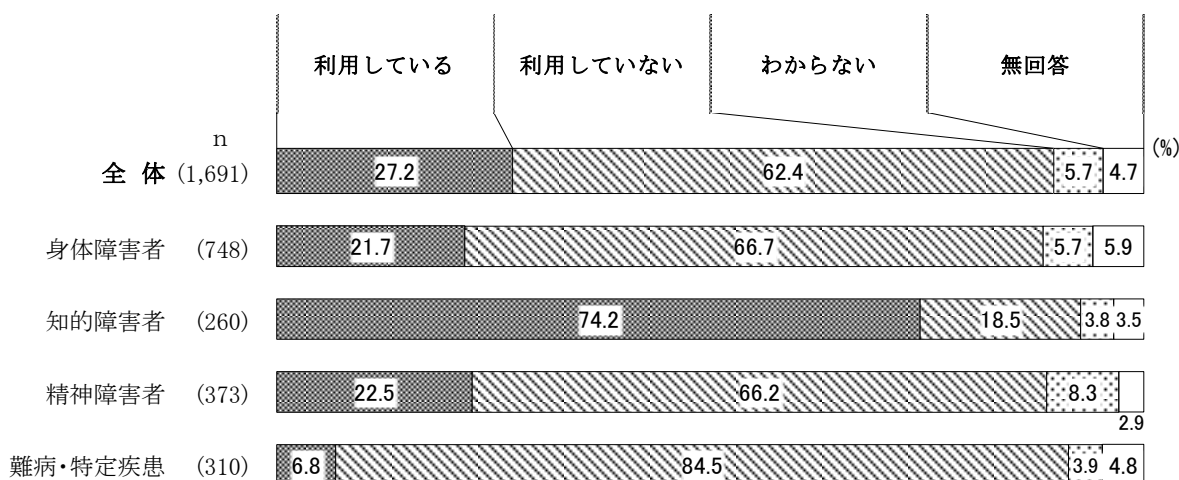
<差別を感じる場面>



8. 障害福祉サービスについて

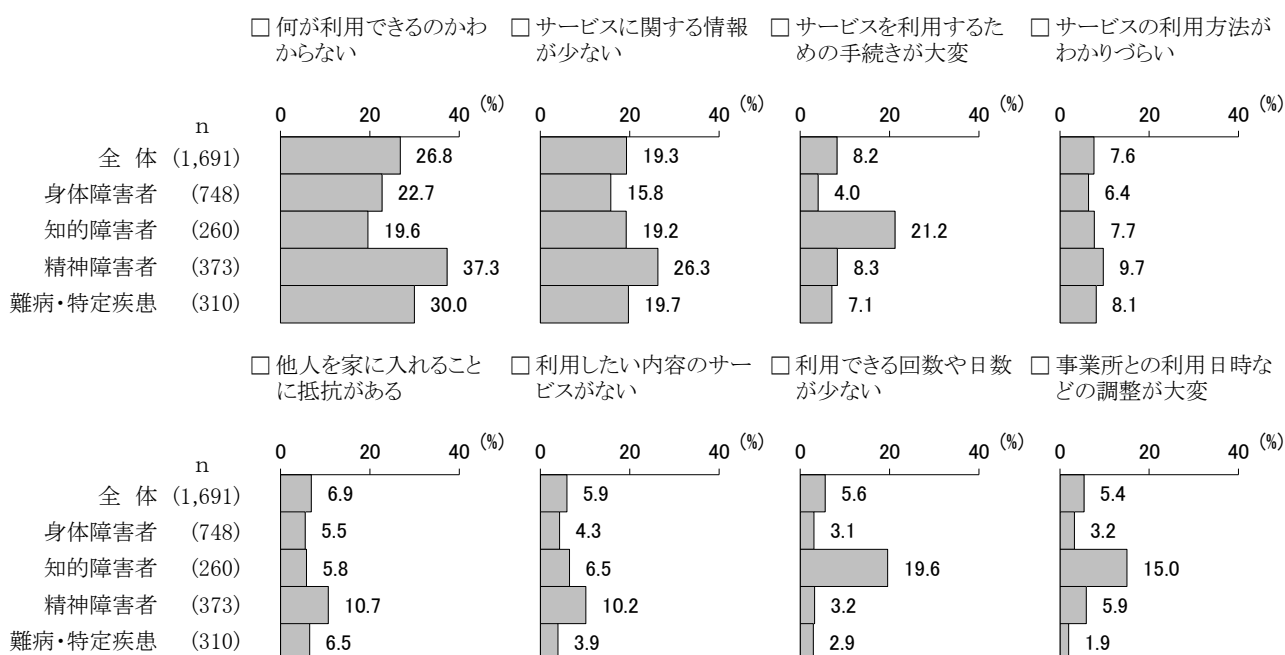
○障害福祉サービスを「利用している」は知的障害者では7割を超えているが、難病・特定疾患では「利用していない」が84.5%、身体障害者と精神障害者でも6割台となり、区分による偏りが大きい。

＜障害福祉サービスの利用状況＞



○障害福祉サービスの利用の際に不便だと思うことでは、「何が利用できるのかわからない」や「サービスに関する情報が少ない」という声が少なくない。特に精神障害者ではこれらの情報不足を指摘するものが他の障害より多くなっている。また、知的障害者では、「サービスを利用するための手続きが大変」なども多くなっている。

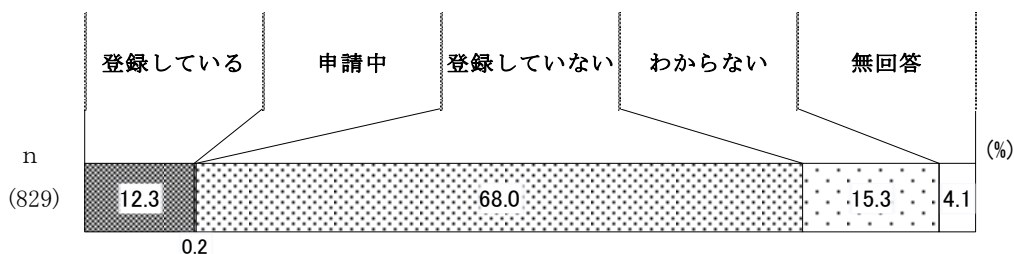
＜障害福祉サービスの利用の際に不便だと思うこと＞



9. 災害時の対応について

○市の災害時要援護者対策事業の対象者に限ってみると、「登録している」は12.3%となっている。

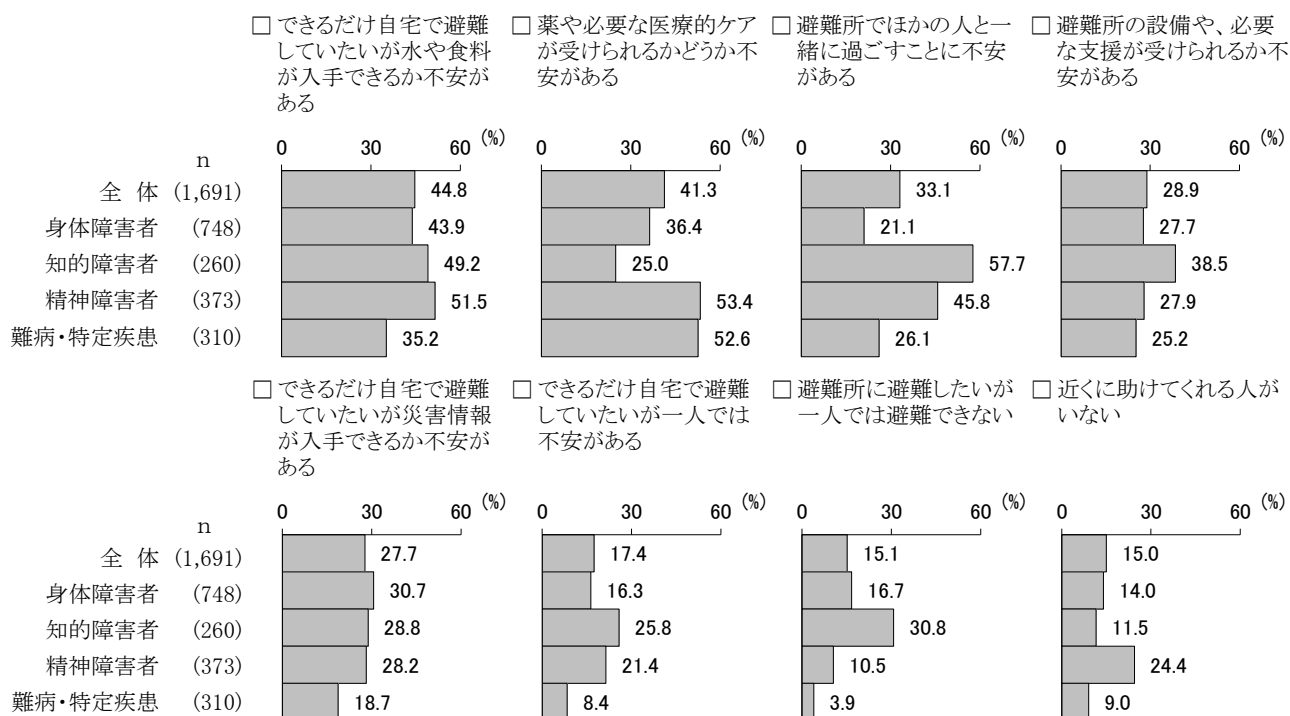
＜災害時要援護者対策事業への登録状況＞



※上図は事業対象者に絞って表示している。

○災害時の不安は、精神障害者と難病・特定疾患では、「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」が5割台と多くなっている。知的障害者とは「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」が4割以上と多くなっている。知的障害者ではこの他、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」「避難所に避難したいが一人では避難できない」が3割台、精神障害者では「近くに助けってくれる人がない」が2割台で他の区分より多くなっている。

＜災害時の不安＞



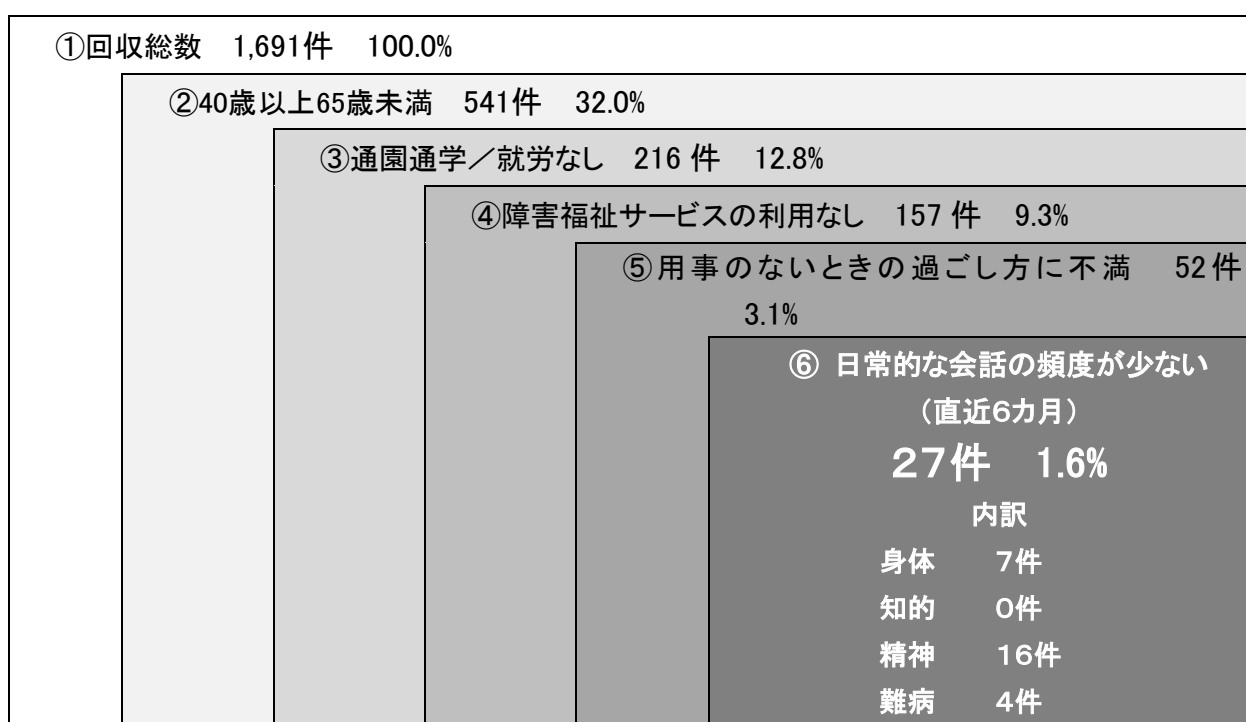
10. 引きこもりについて

○障害当事者の引きこもりの状況を把握するため、回答内容をいくつか組み合わせて算出したところ、引きこもりの可能性がある該当者は27人、全体の1.6%となった。

【算出方法】

内閣府調査も参考に、社会的な接点の少なさに着目して以下の項目で抽出した。

まず、回収総数1,691件（①）から、年齢を40歳から65歳未満に絞り（②）、通学も就労もしていない（③）、障害福祉サービスの利用がない人（④）で、用事のない時の過ごし方に不満を持っている人（⑤）のうち、さらに同僚・友人・近所の人との日常的な会話の頻度が少ない人（⑥）とした。



※表示している比率はすべて回収総数1,691件を100%とした値

※⑤用事のないときの過ごし方に不満：「あまり満足していない」を含む

※⑥日常的な会話の頻度が少ない人：問28の②学校や職場、施設の人、③友人・知人、④近所の人、地域の人の回答がいずれも「ほとんど話さない」（無回答を含む）

【参考】内閣府調査（生活状況に関する調査 平成30年度） 該当者 1.45%

調査対象：全国の40歳～64歳 5,000人 調査時期：平成30年12月

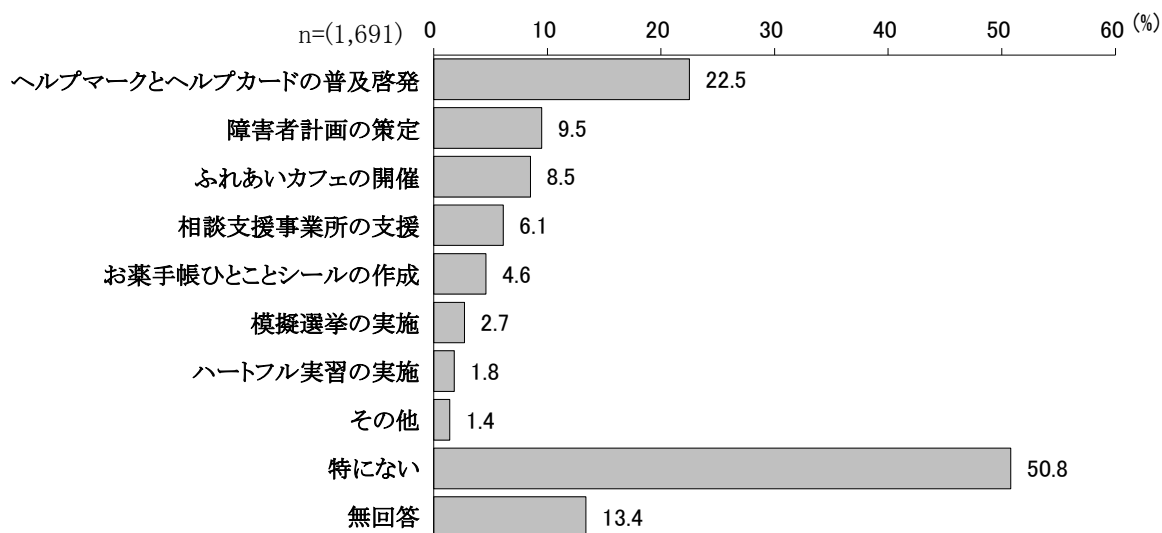
内閣府調査では引きこもりを、自室や家からほとんど出ない状態に加え、趣味の用事や近所のコンビニ以外に外出しない状態が6カ月以上続く場合と定義。

なお、内閣府調査では身体的理由による場合は定義から外している。

11. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について

○武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果として、知っているものは、「ヘルプマークとヘルプカードの普及啓発」が22.5%で最も多く、これに「障害者計画の策定」が9.5%、「ふれあいカフェの開催」が8.5%が続いている。なお、「特にない」が50.8%となっている。

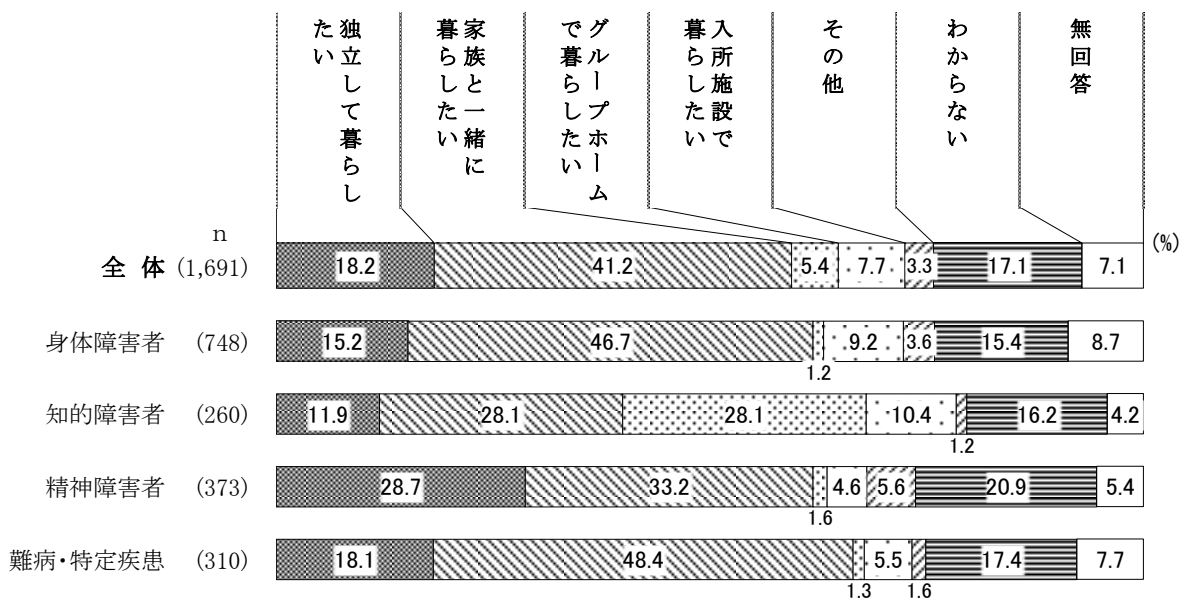
＜武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果の認知＞



12. 今後のことについて

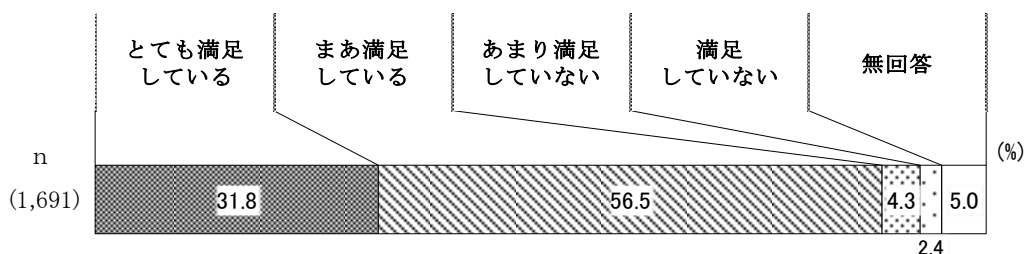
○将来の暮らしの希望をみると「家族と一緒に暮らしたい」は身体障害者と難病・特定疾患で4割台と多く、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が28.1%と他の区分より多くなっている。また、精神障害者では「独立して暮らしたい」も2割台となっている。

＜将来の暮らし方＞



○武蔵野市での暮らしに「とても満足している」は31.8%で、「まあ満足している」を合わせた《満足している》は88.3%（前回87.0%）と多くなっている。また、いずれの障害区分、年齢でも《満足している》は8割以上となっている。

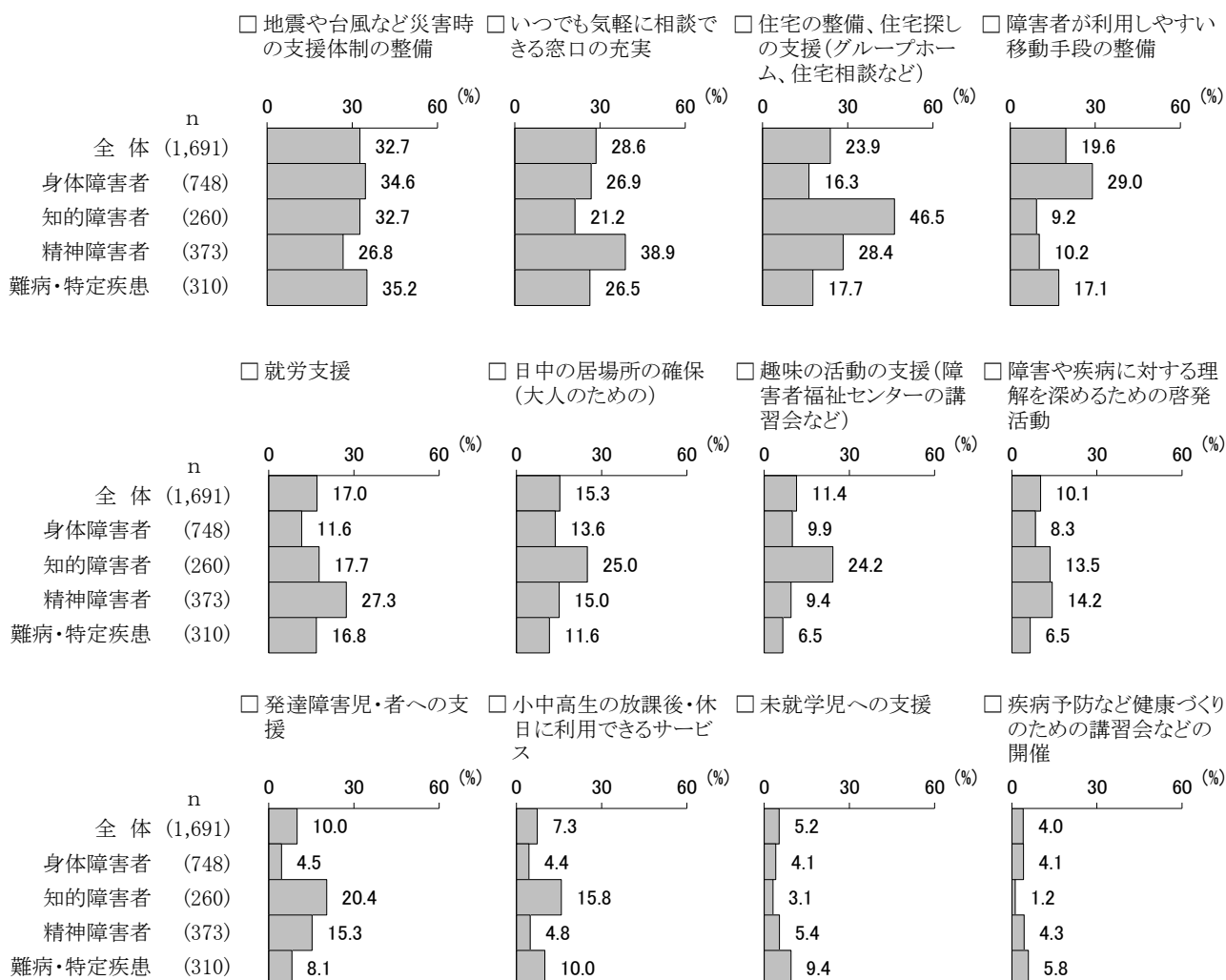
＜武蔵野市での暮らしの満足度＞



13. 施策要望について

○施策要望では、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」「住宅の整備、住宅探しの支援」の3項目は障害に関わらず上位にあげられており、共通した施策要望となっている。この他、身体障害者では「障害者が利用しやすい移動手段の整備」、知的障害者では「日中の居場所の確保」「趣味の活動の支援」「発達障害児・者への支援」、精神障害者では「就労支援」などが上位にあげられている。

＜施策要望＞

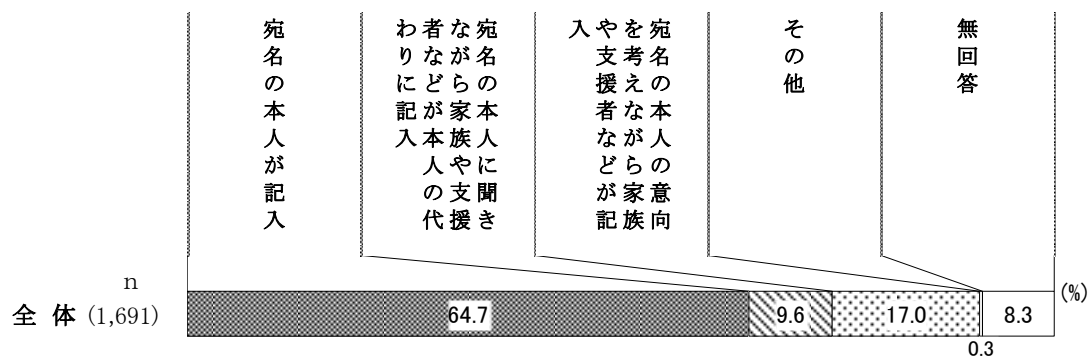


第3章 調査結果の詳細

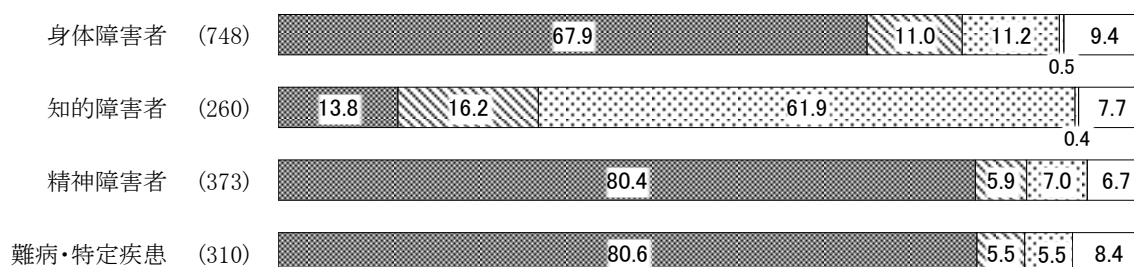
1. 回答者について

(1) 回答者

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)



【調査区分】



調査票の記入者は、「宛名の本人が記入」が最も多く64.7%となっている。

調査区分別にみると、「宛名の本人が記入」は精神障害者（80.4%）、難病・特定疾患（80.6%）が8割台、身体障害者が67.9%となっているが、知的障害者では13.8%と少なく、「宛名の本人の意向を考慮しながら家族や支援者などが記入」が61.9%となっている。

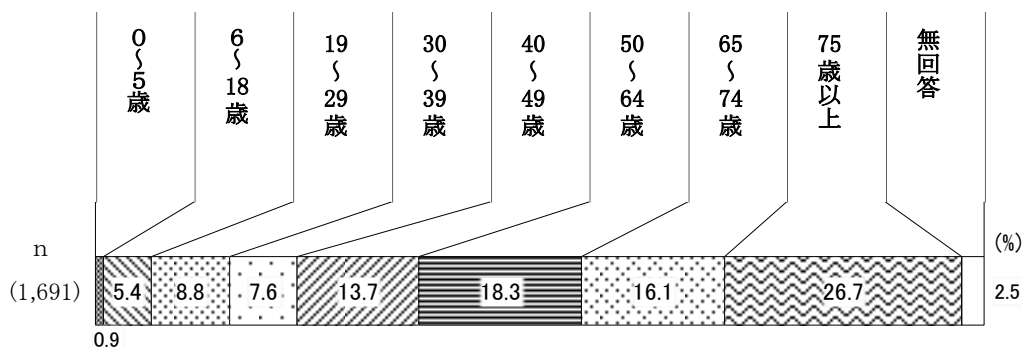
以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

2. 本人について

(1) 年齢と居住地域

問2 あなたの年齢、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

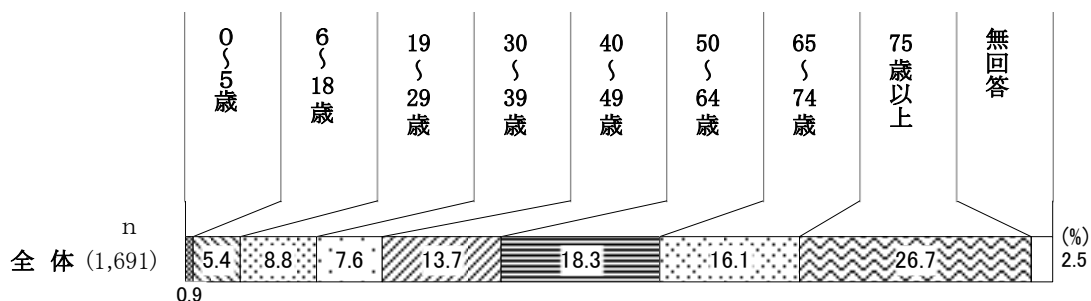
①年齢（令和元年11月1日現在）



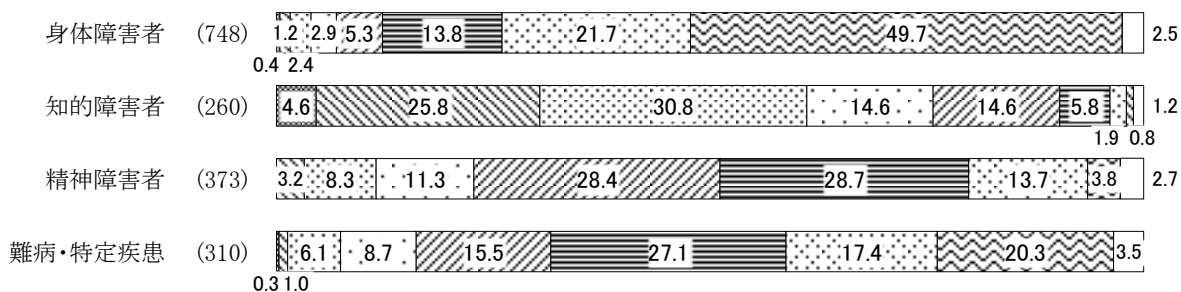
年齢は「75歳以上」が26.7%で最も多く、「65～74歳」は16.1%で65歳以上の高齢者は42.8%となっている。

調査区別にみると、身体障害者では「75歳以上」が49.7%を占める。知的障害者では6歳から29歳の若年層、精神障害者では40歳から64歳の年齢層、難病・特定疾患では50歳以上が多くなっている。

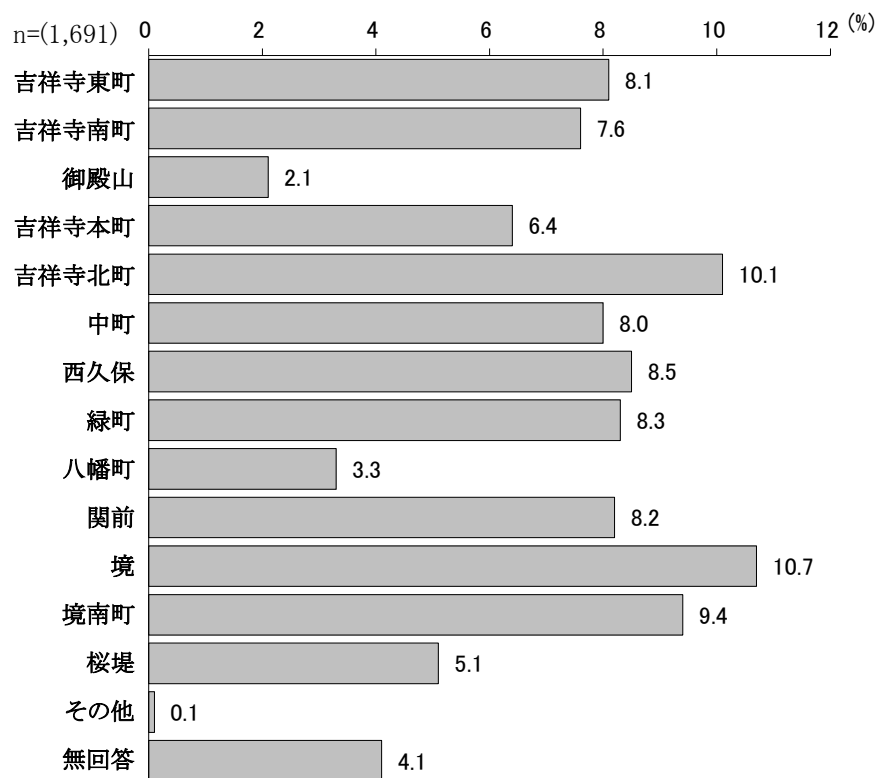
調査区分別



【調査区分】



②居住地区

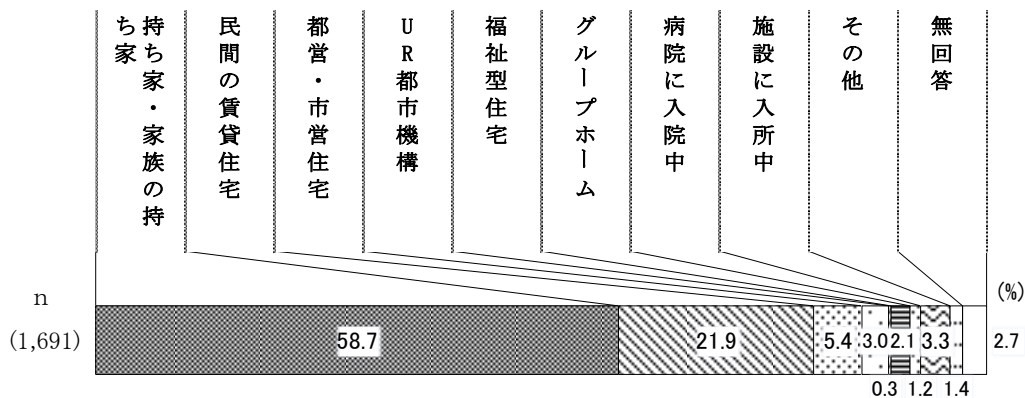


居住地区は、「吉祥寺北町」(10.1%)、「境」(10.7%)、「境南町」(9.4%)が1割前後となっている。

(2) 現在の生活場所

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

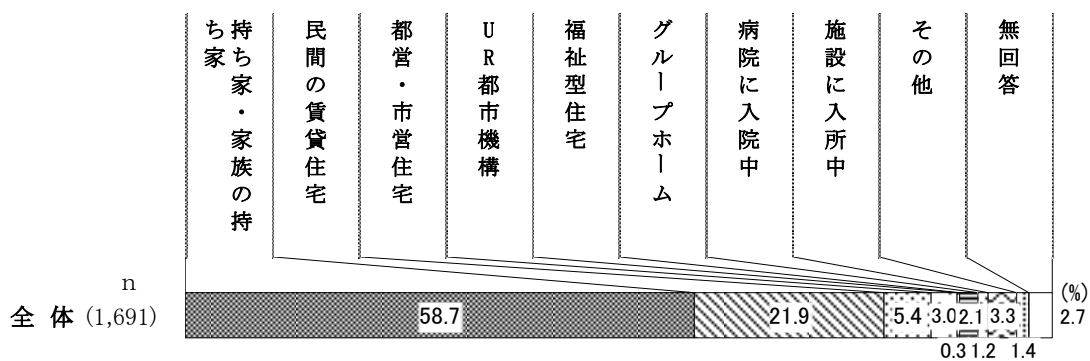
※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。



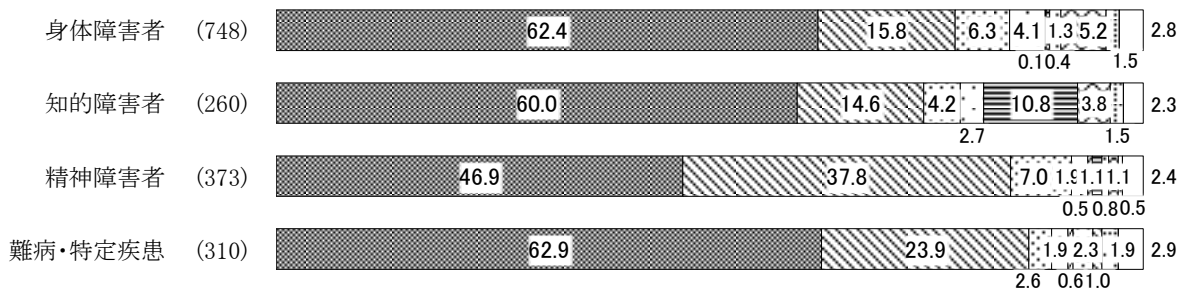
現在の生活場所は、「持ち家・家族の持ち家」が58.7%で最も多く、これに「民間の賃貸住宅」が21.9%で次いでいる。

調査区別にみると、「持ち家・家族の持ち家」は身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患で6割台となっている。精神障害者では「持ち家・家族の持ち家」(46.9%)とともに「民間の賃貸住宅」(37.8%)も多くなっている。

調査区別別

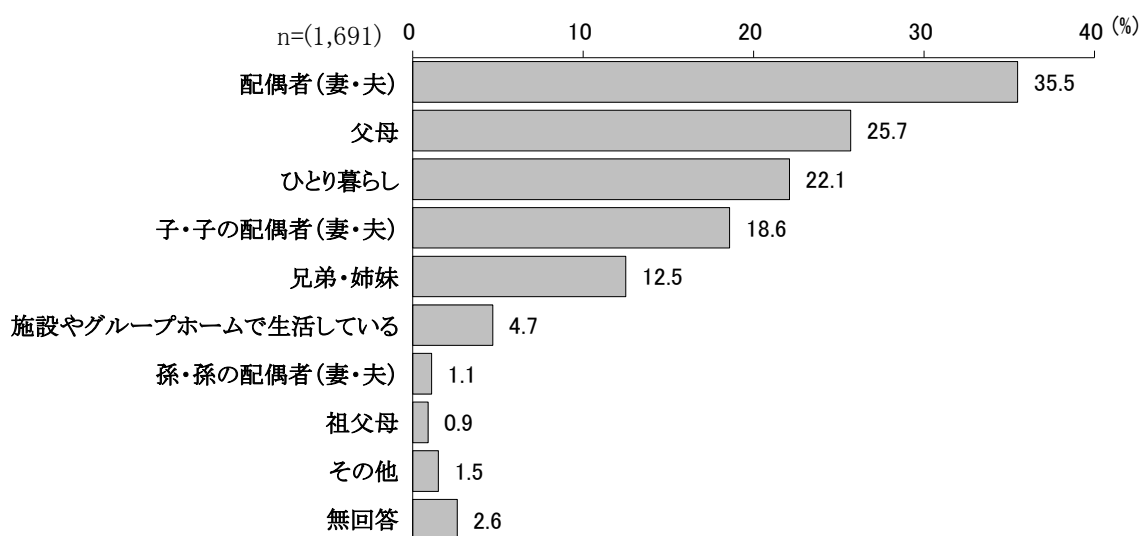


【調査区分】



(3) 同居者

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

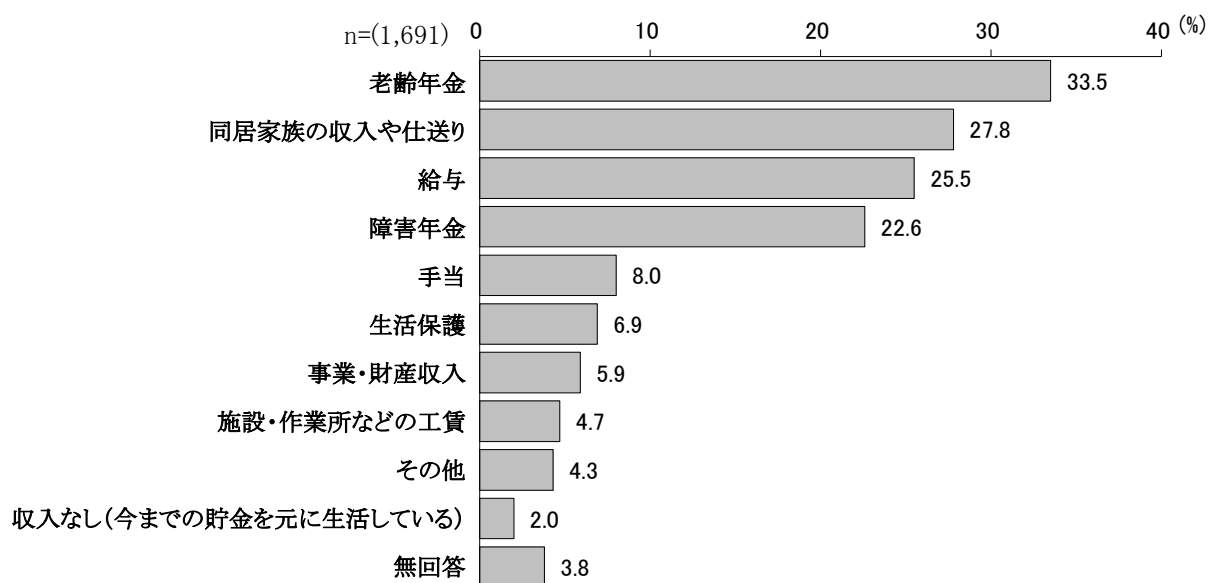


同居者は、「配偶者(妻・夫)」が35.5%で最も多く、以下、「父母」(25.7%)、「ひとり暮らし」(22.1%)が2割台、「子・子の配偶者(妻・夫)」(18.6%)、「兄弟・姉妹」(12.5%)が1割台で続いている。

(4) 収入源

問5 あなたが生活するためのお金(収入源)は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

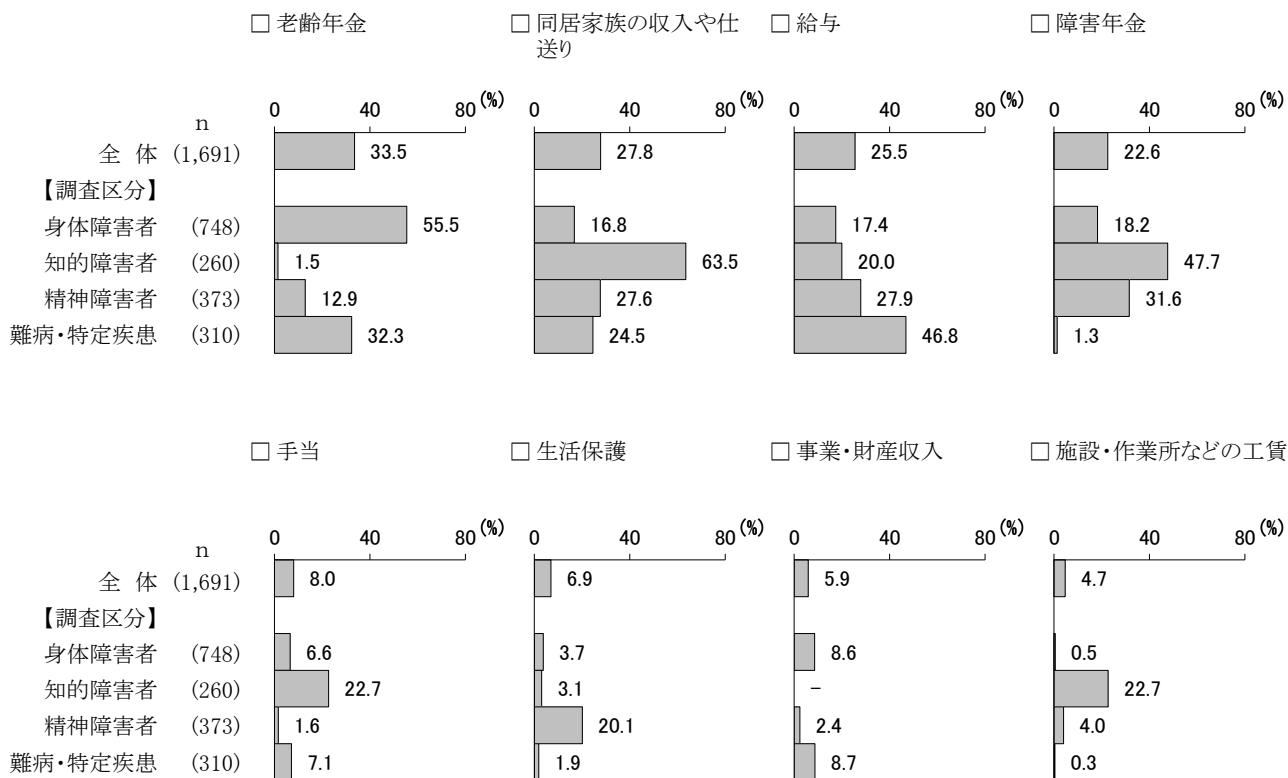


収入源は、「老齢年金」が33.5%で最も多く、以下、「同居家族の収入や仕送り」(27.8%)、「給与」(25.5%)、「障害年金」(22.6%)が2割台となっている。

第3章 調査結果の詳細

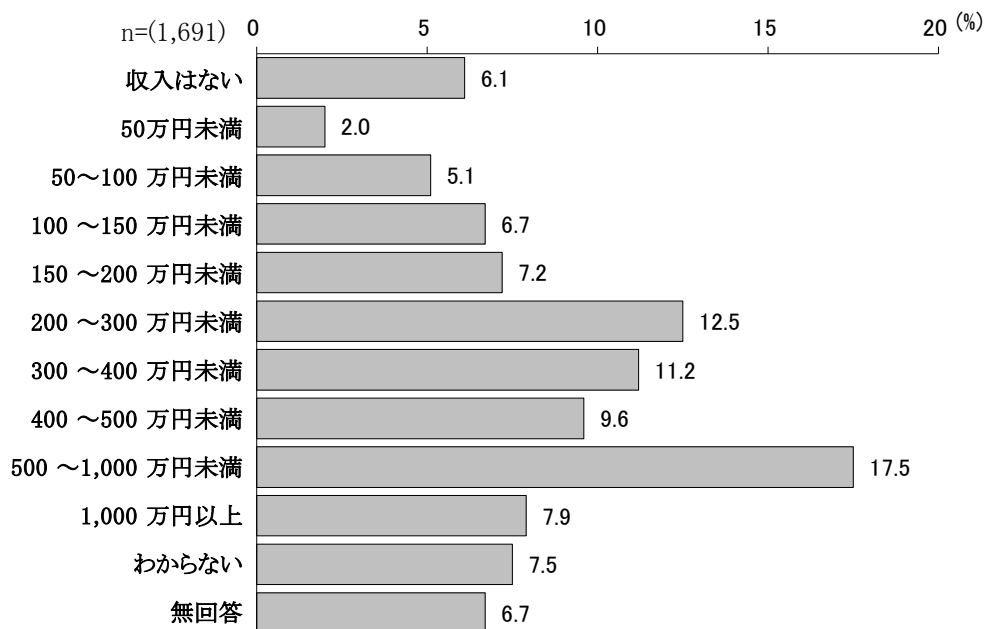
調査区別にみると、「老齢年金」は身体障害者が55.5%、難病・特定疾患でも32.3%となっている。知的障害者では、「同居家族の収入や仕送り」(63.5%)、「障害年金」(47.7%)が多くなっているが、「手当」(22.7%)、「施設・作業所などの工賃」(22.7%)も他の調査区分より多くみられる。精神障害者では「障害年金」が3割台、「同居家族の収入や仕送り」、「給与」が3割弱、「生活保護」が20.1%となっている。難病・特定疾患では「給与」が46.8%と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別



(5) 世帯年収

問6 あなたの世帯全体の平成30（2018）年中の収入額はどのくらいでしたか。（1つに○）
 ※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入（税金を引かれる前の金額）でお答えください。

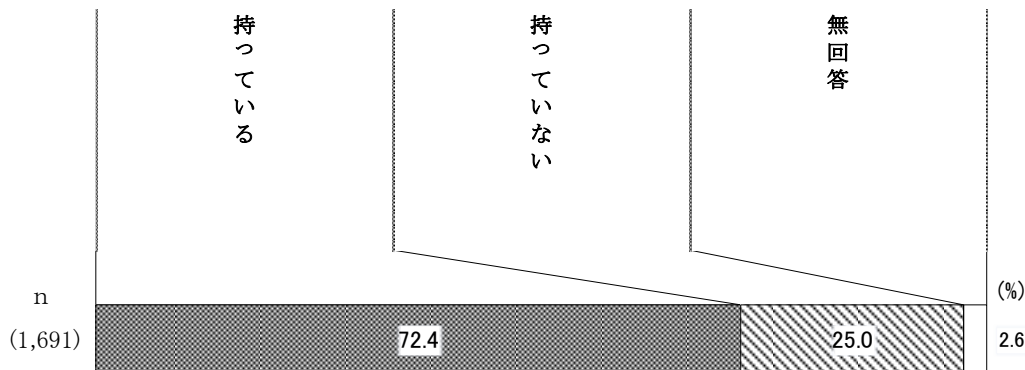


平成30年中の世帯収入額は、「500～1,000万円未満」が17.5%で最も多くなっている。以下、「200～300万円未満」（12.5%）、「300～400万円未満」（11.2%）が1割台となっている。

3. 本人の状況について

(1) 手帳の所持状況

問7 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)



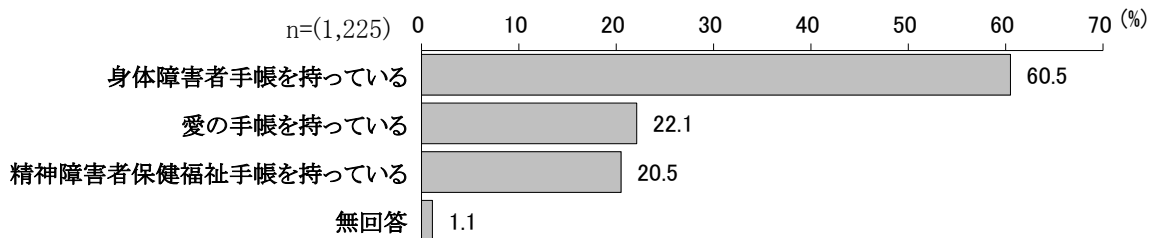
障害者手帳や愛の手帳を「持っている」は72.4%、「持っていない」は25.0%となっている。

(2) 手帳の種類と等級

【問7で「持っている」と回答した方に】

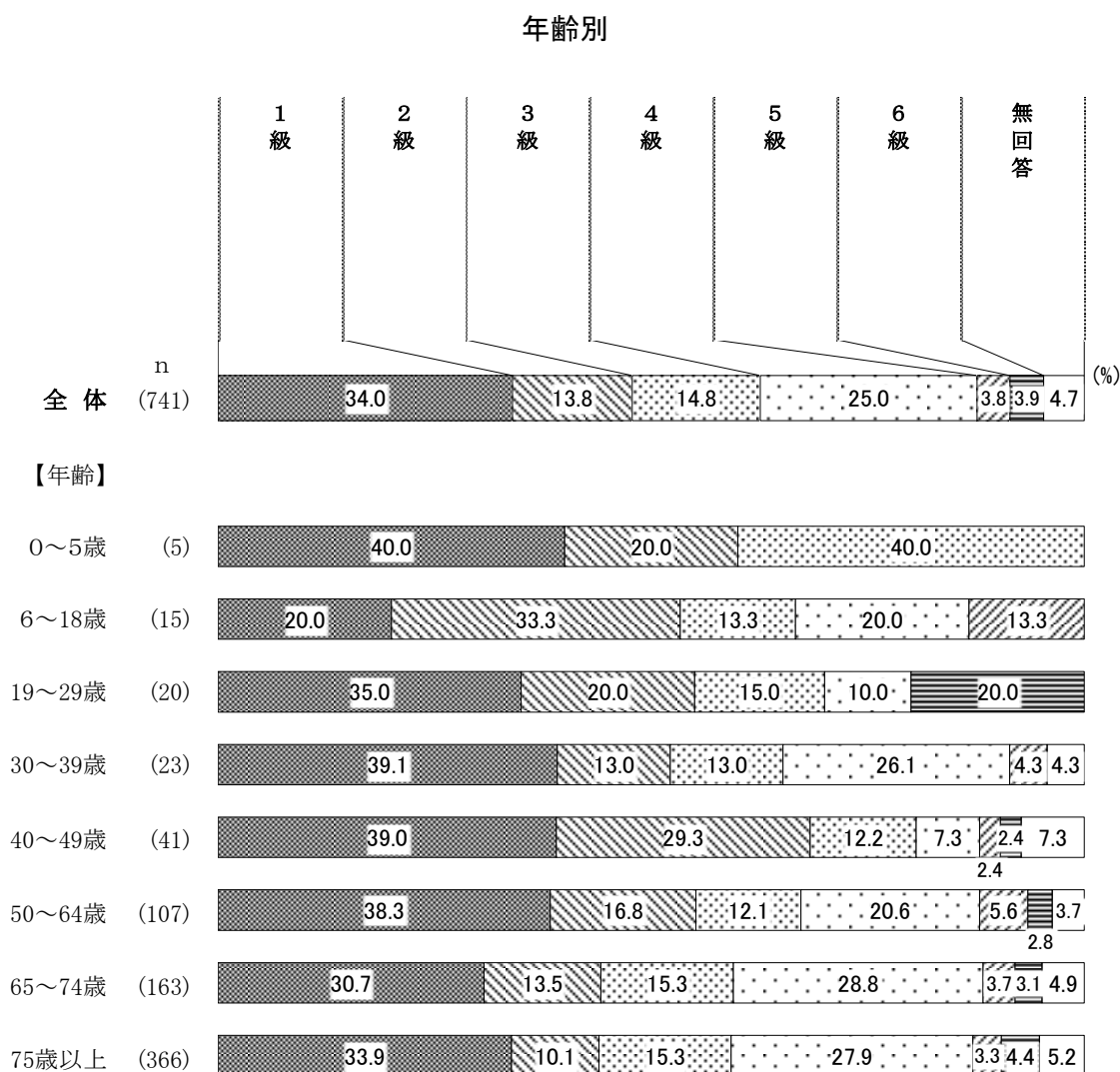
問7-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○をつけて記入)



「身体障害者手帳を持っている」は60.5%、「愛の手帳を持っている」は22.1%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」は20.5%となっている。

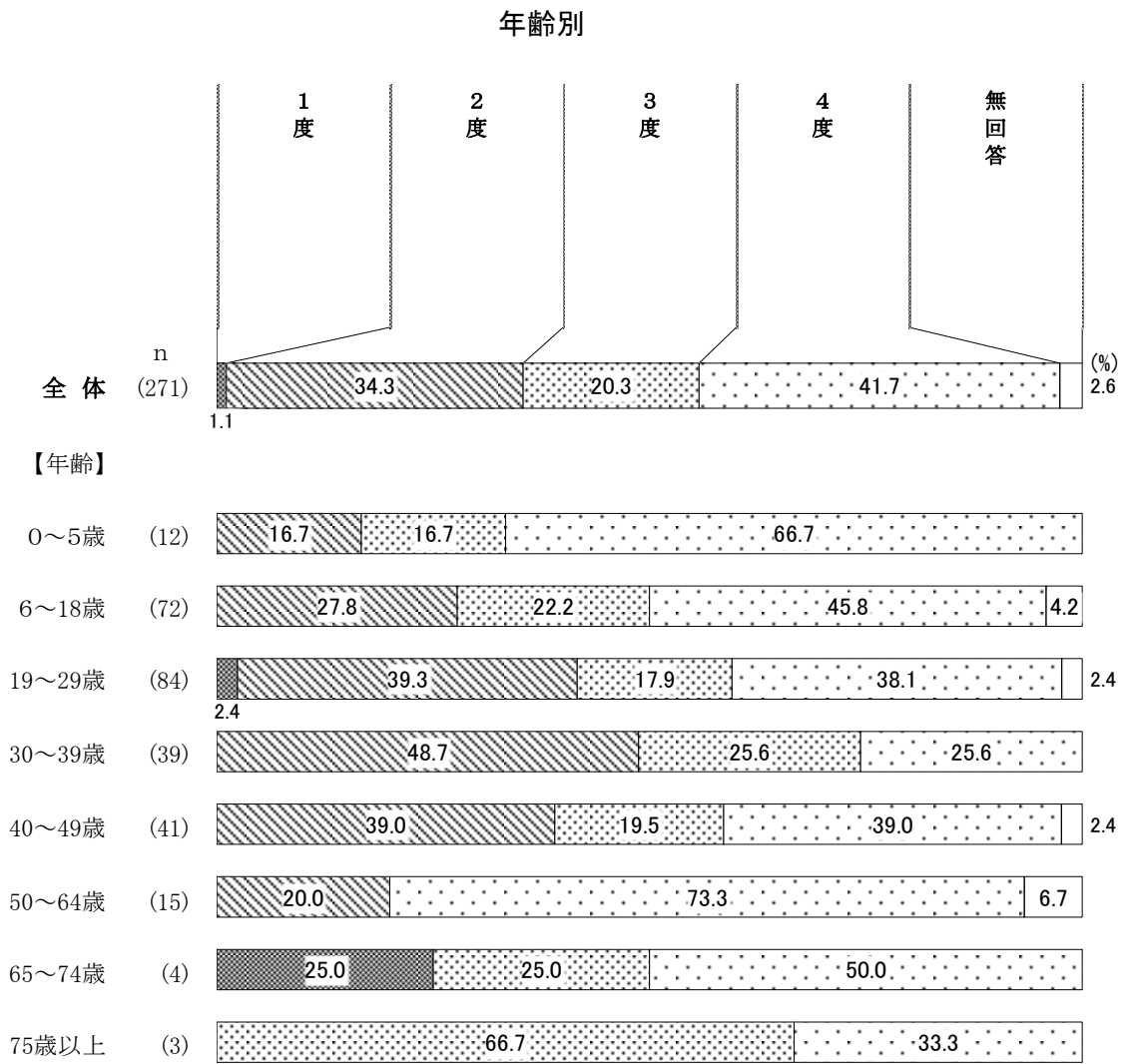
①身体障害者手帳等級



身体障害者手帳の等級は、「1級」が34.0%、「2級」が13.8%で合わせて47.8%を占める。また、「3級」が14.8%と「1級」から「3級」で大半を占めている。

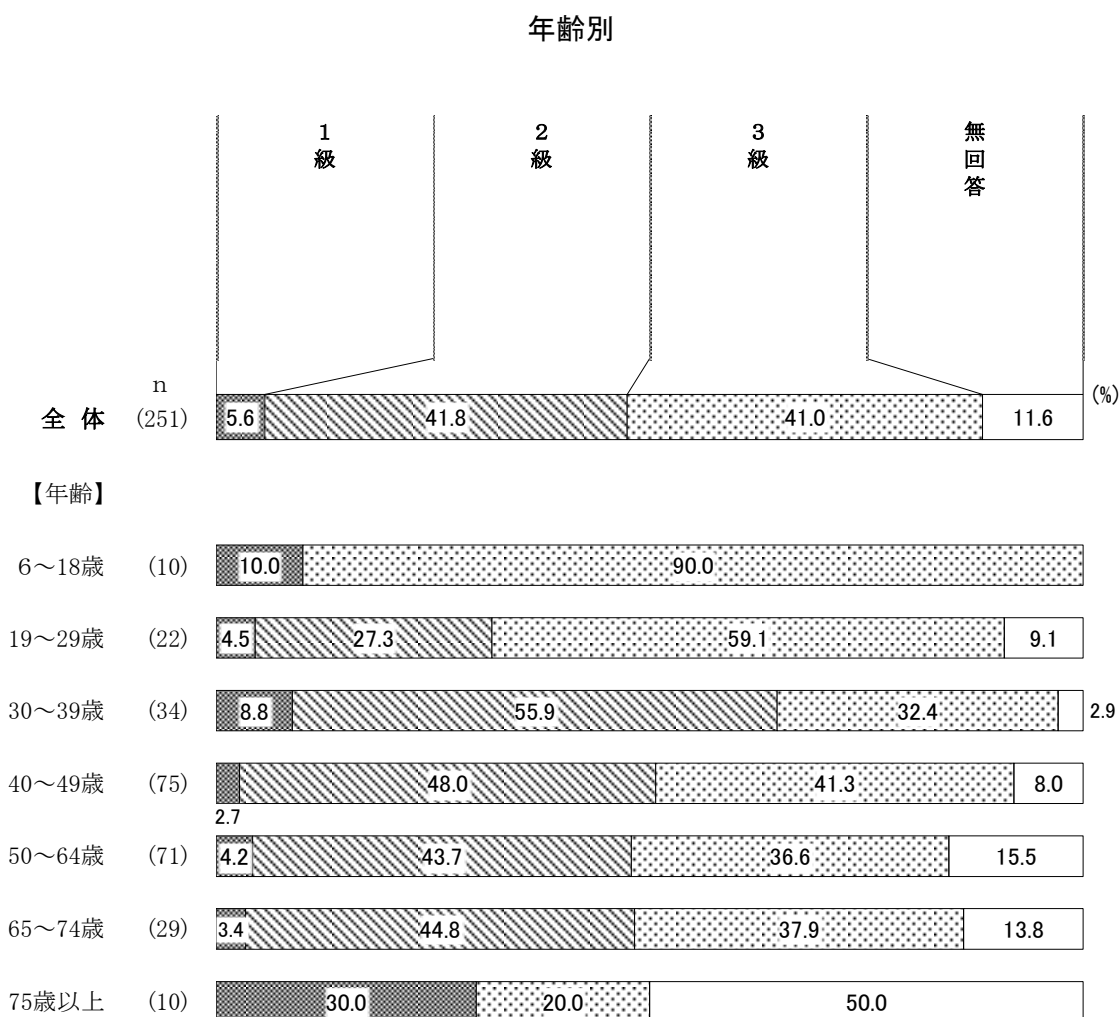
年齢別にみると、40～49歳は「1級」・「2級」で68.3%を占めている。

②愛の手帳等級



愛の手帳の等級は、「2度」が34.3%、「3度」が20.3%、「4度」が41.7%となっている。
 年齢別にみると、6歳から49歳の年齢にかけては「2度」と「3度」が多く、特に30～39歳では「2度」が48.7%と多くなっている。

③精神障害者保健福祉手帳等級

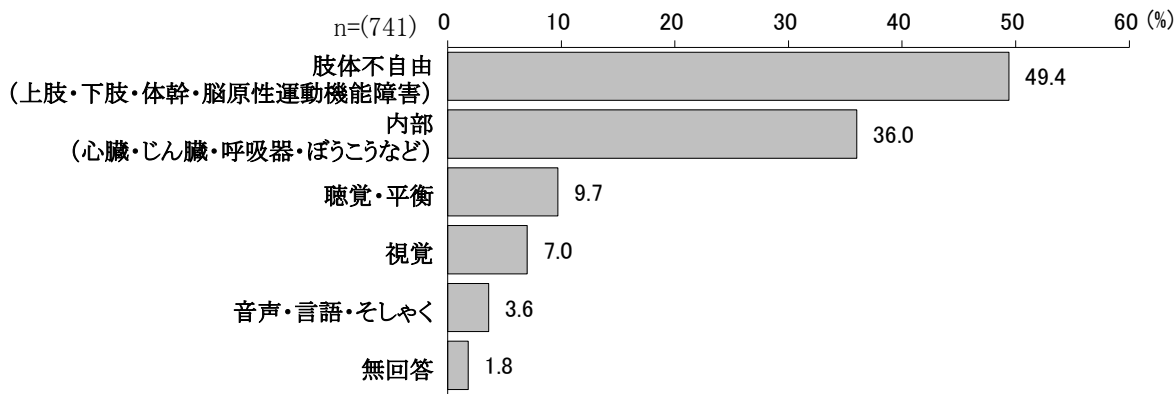


※0～5歳は回答者なし

精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が41.8%、「3級」が41.0%となっている。
年齢別にみると、19歳から74歳の年齢にかけて、「2級」と「3級」が多くを占めている。

(3) 身体障害の種類

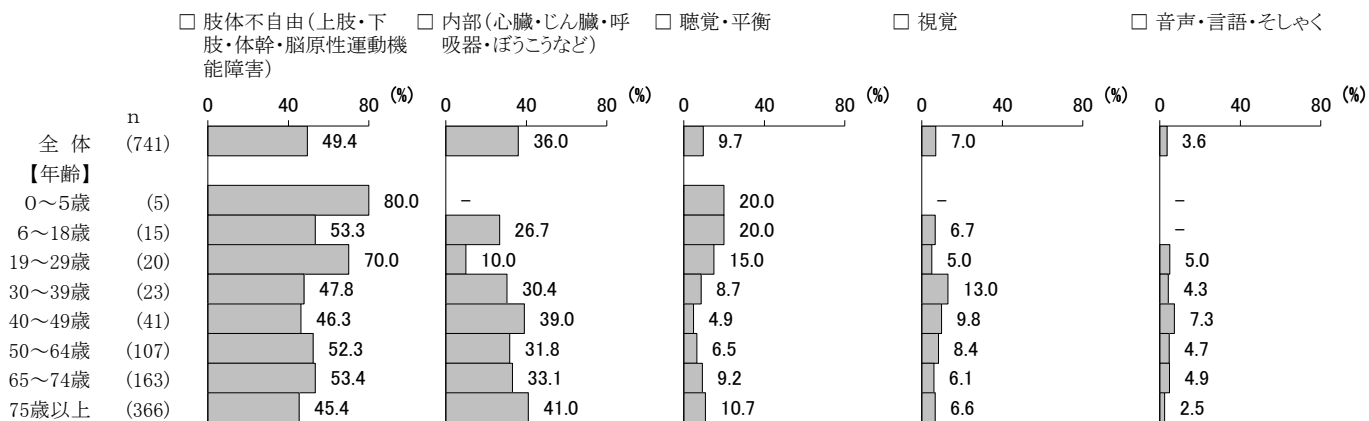
【問7-1で「身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】
 問7-2 障害の種類はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)



身体障害の種類は、「肢体不自由」が49.4%で最も多く、これに「内部」が36.0%で次いでいる。

年齢別にみると、「肢体不自由」は40歳以降で4割から5割台、「内部」は40歳以降で3割から4割台となっている。

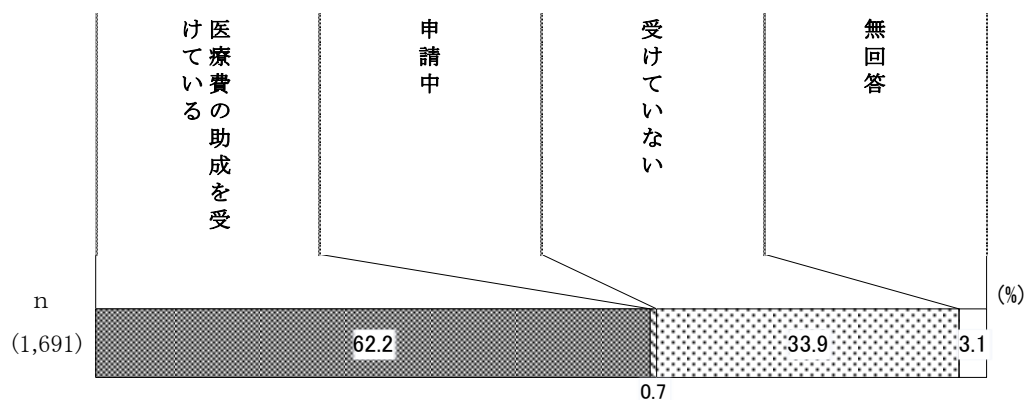
年齢別



(4) 医療費の助成状況

問8 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、小児慢性疾患医療などが含まれます。



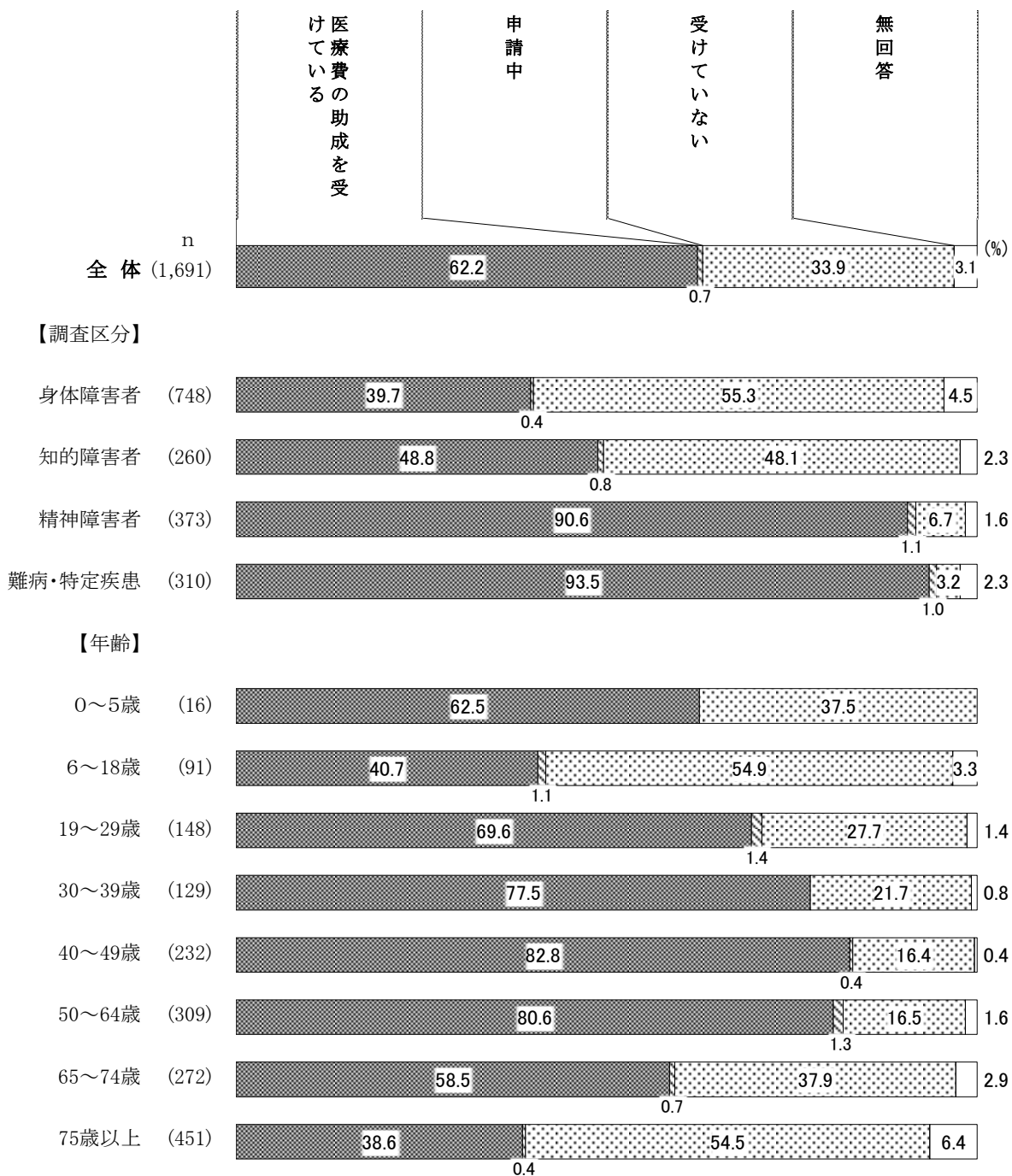
医療費の助成状況は、「医療費の助成を受けている」が62.2%と多く、「受けていない」は33.9%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「医療費の助成を受けている」は難病・特定疾患で93.5%、精神障害者でも90.6%を占めている。知的障害では「受けている」と「受けていない」が並んでおり、身体障害者では「受けていない」が55.3%となっている。

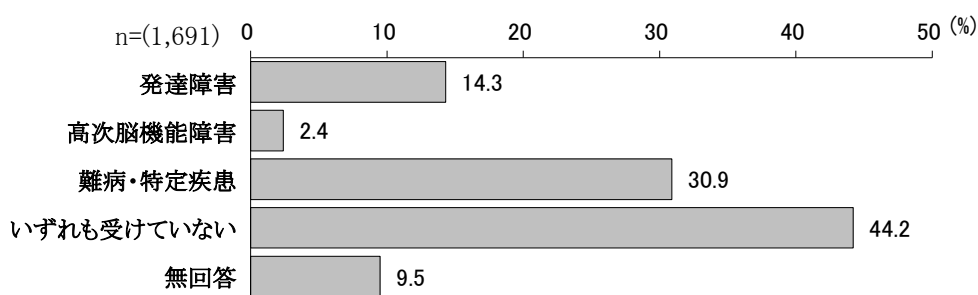
年齢別にみると、「医療費の助成を受けている」は19歳から74歳の年齢にかけて半数を上回っている。「受けていない」は、6～18歳で54.9%、75歳以上でも54.5%と半数を上回っている。

調査区分別、年齢別



(5) 受けている障害や疾患の診断

問9 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

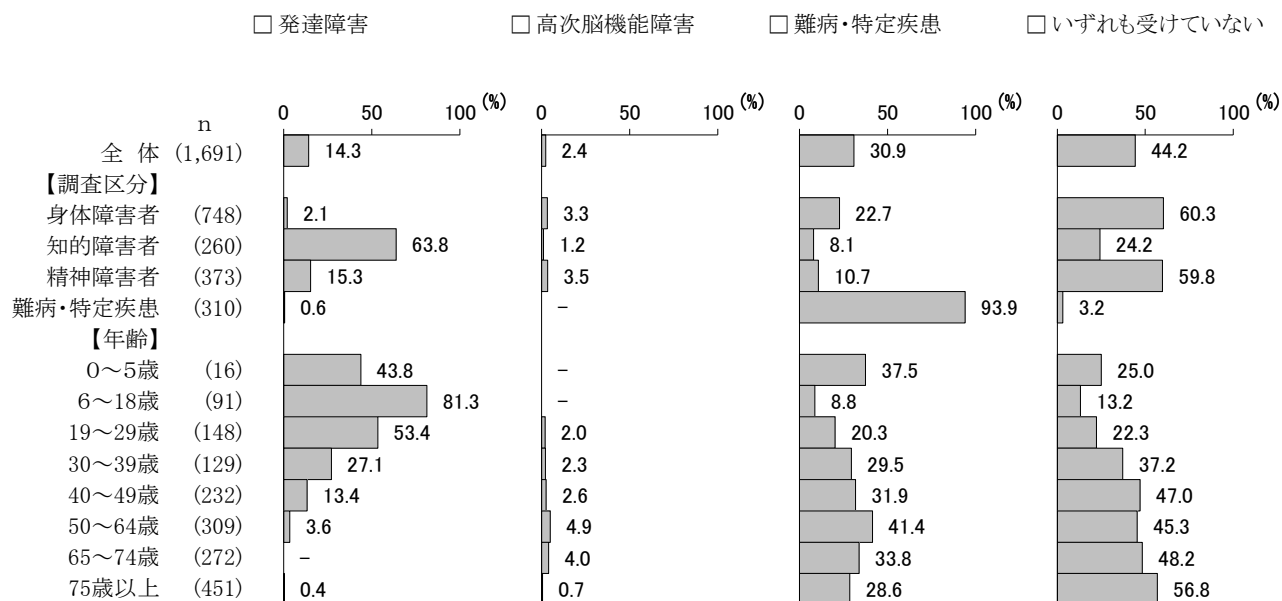


現在、障害や疾患の診断を受けているか聞いたところ、「難病・特定疾患」が30.9%、「発達障害」が14.3%、「高次脳機能障害」が2.4%となっている。

調査区分別にみると、「発達障害」は知的障害者で63.8%、「難病・特定疾患」は難病・特定疾患で93.9%と特に多くなっている。

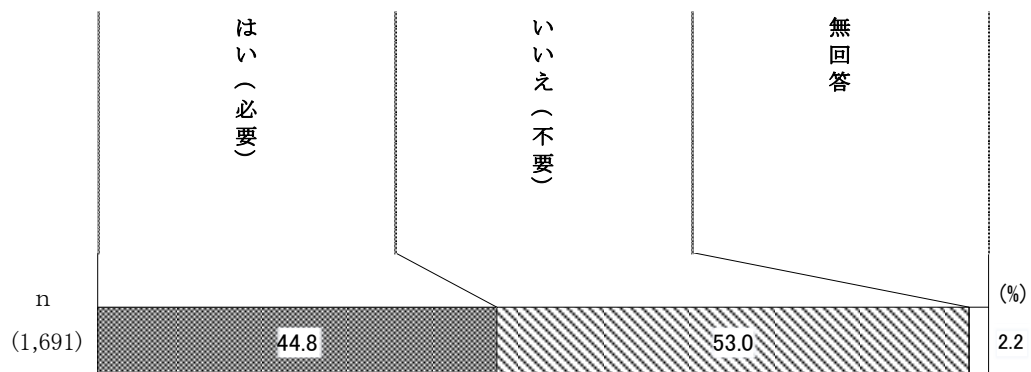
年齢別にみると、「発達障害」は6～18歳（81.3%）を中心に多く、「難病・特定疾患」は40歳から74歳の年齢にかけて3割から4割台となっている。

調査区分別、年齢別



(6) 介助や支援の必要性

問10 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

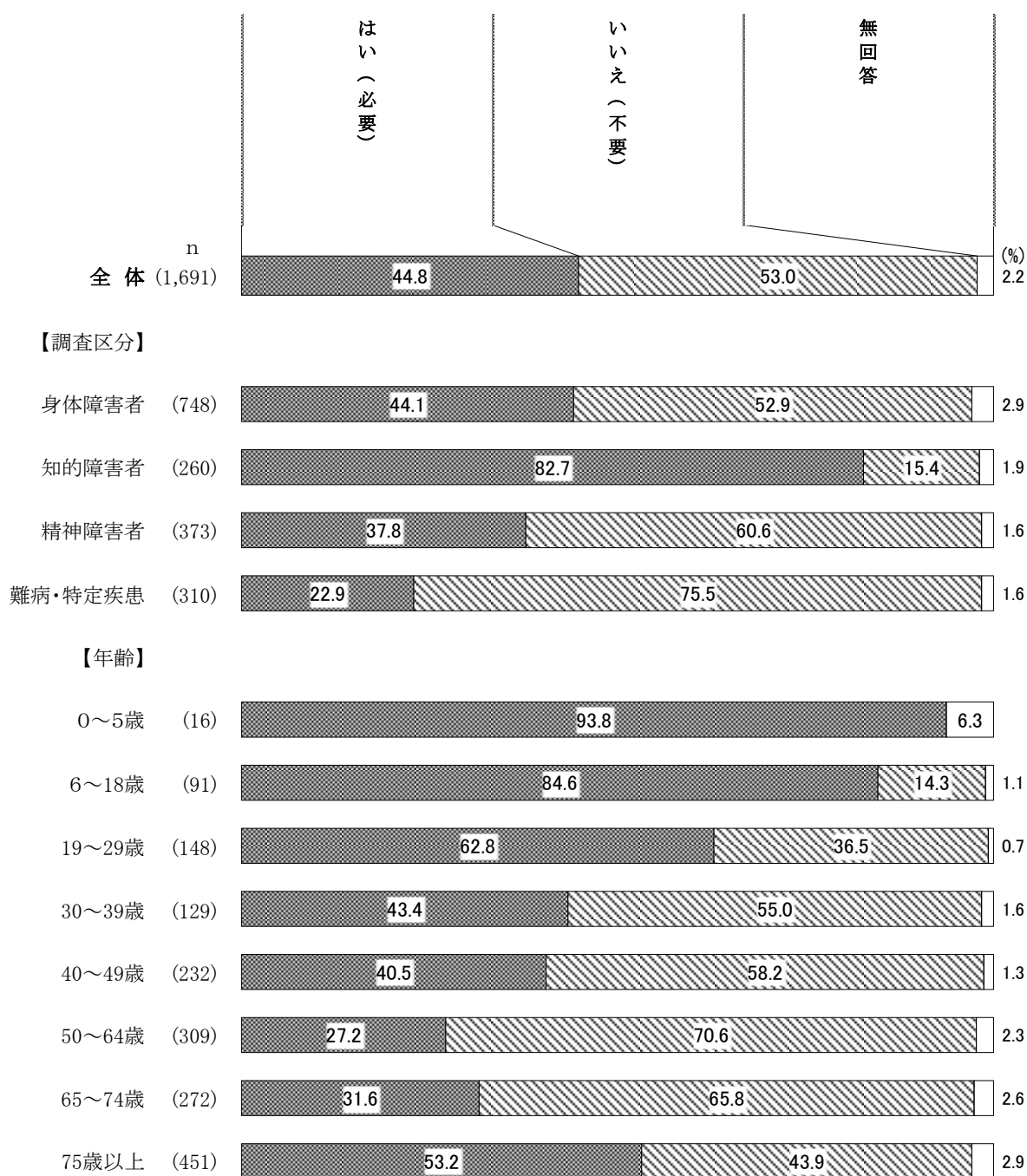


普段の生活の中で、何らかの介助や支援が「必要 (はい)」は44.8%、「不要 (いいえ)」は53.0%となっている。

調査区分別にみると、「はい（必要）」は知的障害者で82.7%を占めており、唯一「いいえ（不要）」を上回っている。

年齢別にみると、「はい（必要）」は未成年を中心に29歳までが多い。30歳以上の年齢からは半数を下回るが、75歳以上では53.2%が介助等を必要としている。

調査区分別、年齢別

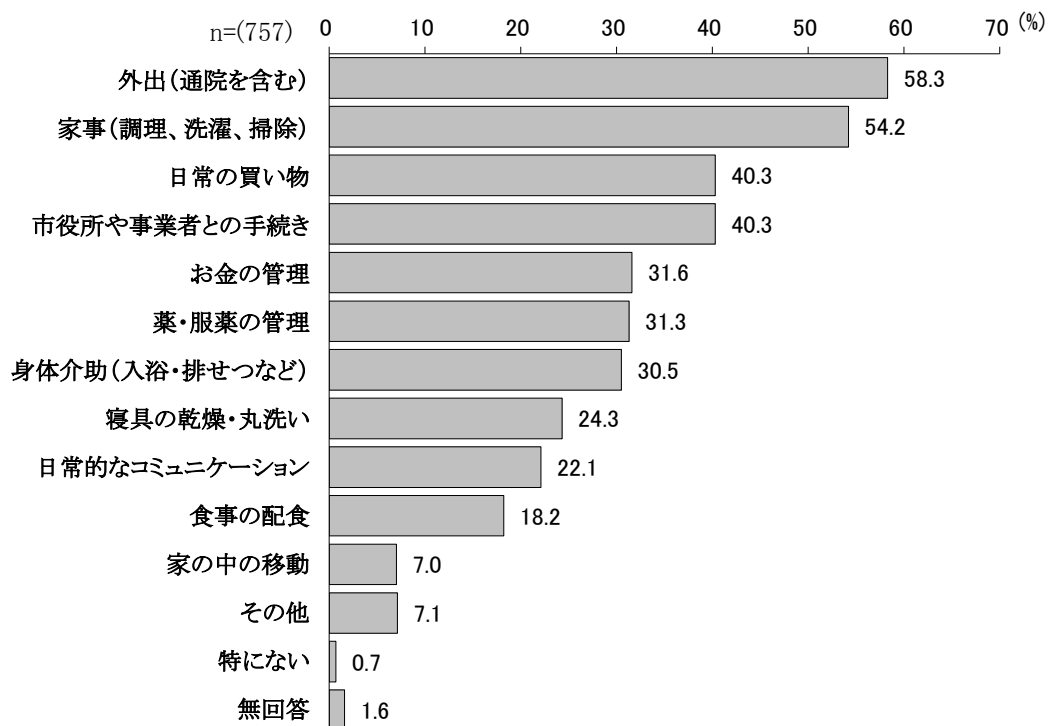


(7) 必要とする介護や支援

【問10で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。

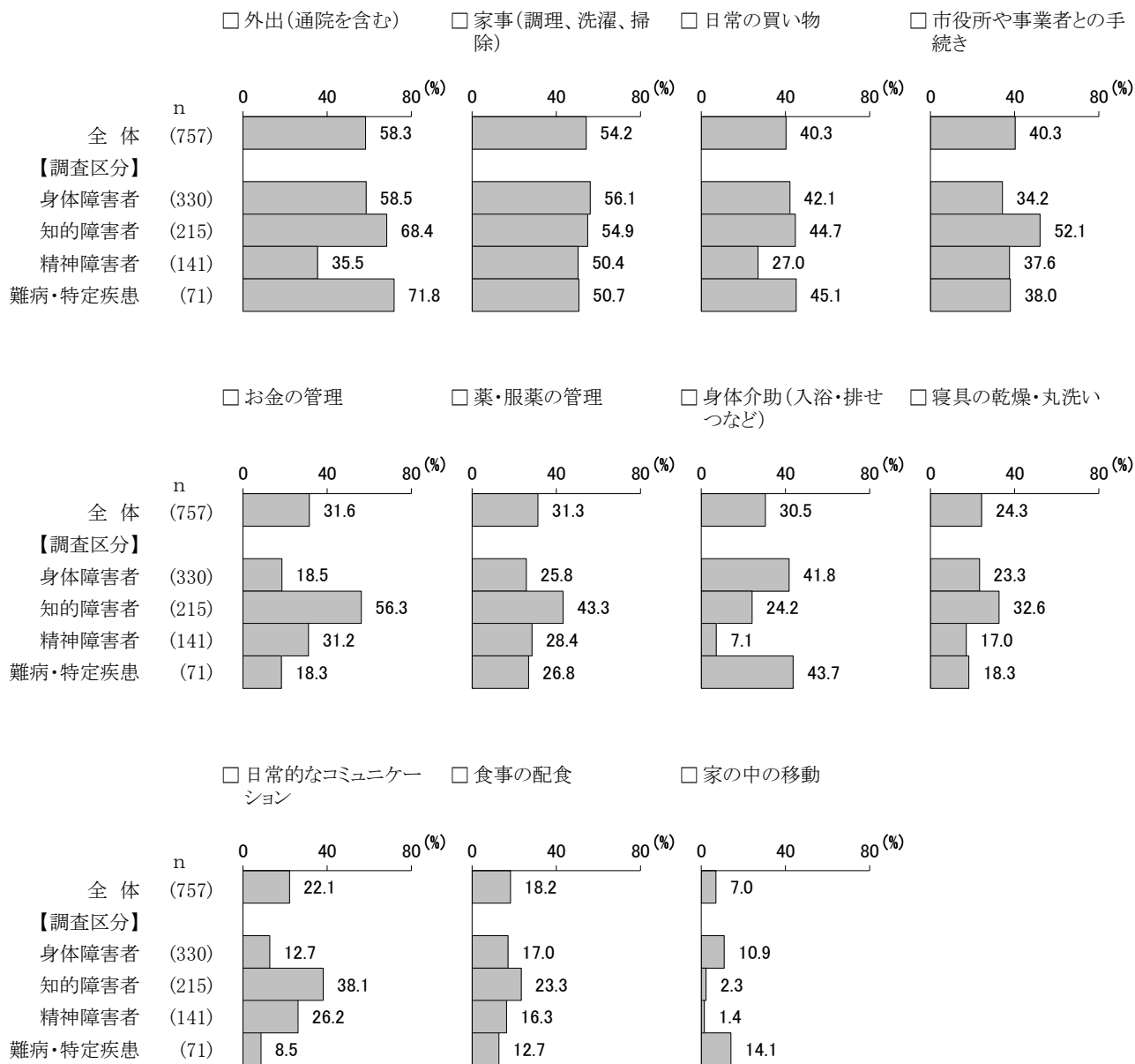
(主にあてはまるもの5つまでに○)



介助や支援が必要になる場面は、「外出」(58.3%)、「家事」(54.2%)の2項目が5割台で多くなっている。以下、「日常の買い物」と「市役所や事業者との手続き」(ともに40.3%)が4割台、「お金の管理」(31.6%)、「薬・服薬の管理」(31.3%)、「身体介助」(30.5%)が3割台、「日常的なコミュニケーション」(22.1%)が2割台で続いている。

調査区分別にみると、「家事」はいずれの調査区分でも5割以上となっている。「外出」は身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患で5割を超え、「日常の買い物」も4割を超えている。また、身体障害者、難病・特定疾患では「身体介助」も4割台である。知的障害者ではこの他に「市役所や事業者との手続き」、「お金の管理」も5割台、「薬・服薬の管理」も4割台となっている。

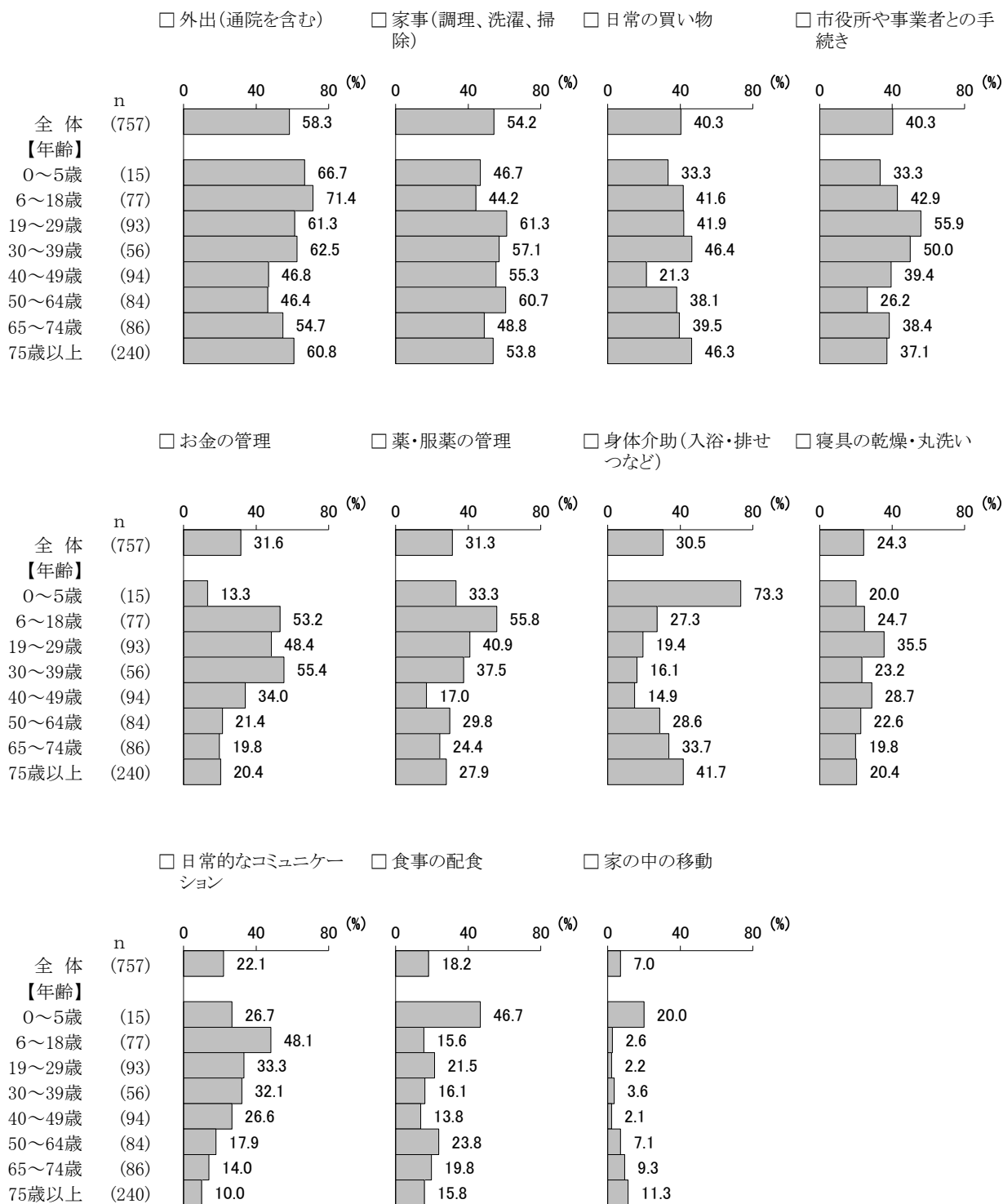
調査区分別



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、39歳までは「外出」、「日常の買い物」、「市役所や事業者との手続き」、「お金の管理」など多岐にわたっている。「家事」は年代に関わらず多い。また、75歳以上では「身体介助（入浴・排せつなど）」が41.7%となっている。

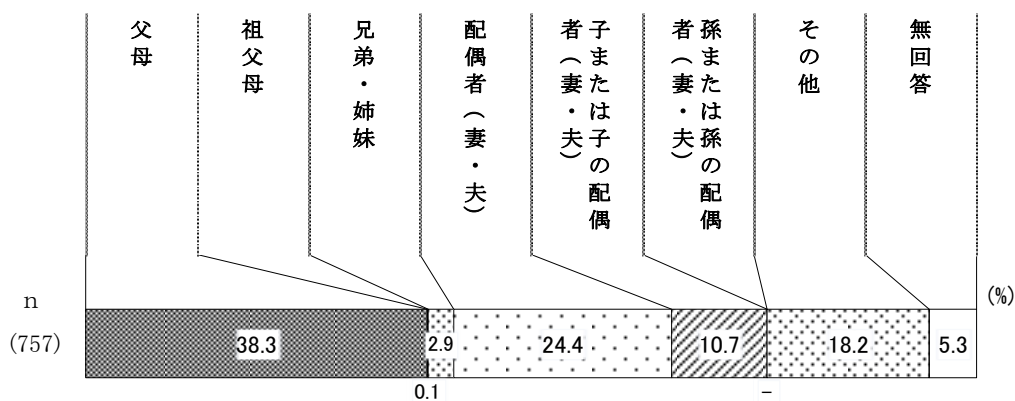
年齢別



(8) 主な介助者

【問10で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。】

問10-2 主に介助しているのはどなたですか。（1つに○）



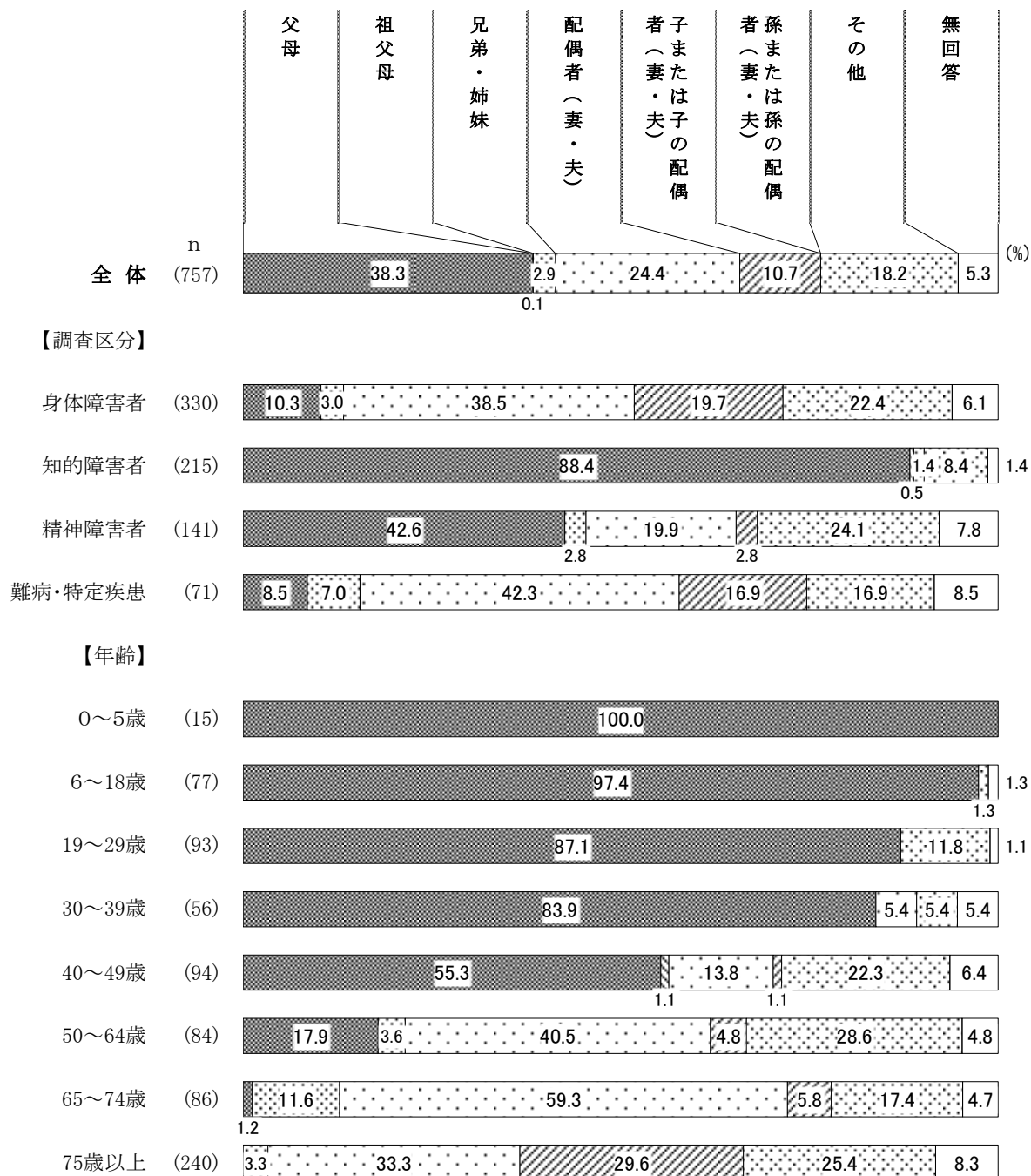
主な介助者は、「父母」が38.3%、「配偶者（妻・夫）」が24.4%、「子または子の配偶者（妻・夫）」が10.7%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「父母」は知的障害者で88.4%を占めており、精神障害者で42.6%となっている。「配偶者（妻・夫）」は難病・特定疾患で42.3%、身体障害者で38.5%となっている。

年齢別にみると、「父母」は未成年を中心に49歳までが多い。50歳から74歳では「配偶者（妻・夫）」が多く、65～74歳では59.3%となっている。

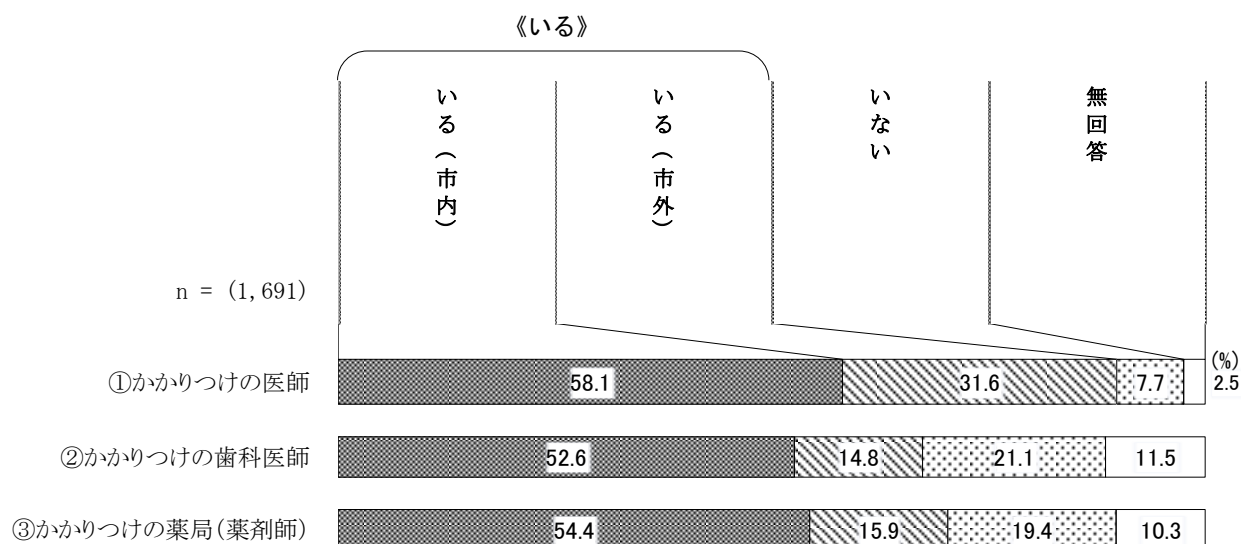
調査区分別、年齢別



4. 保健・医療について

(1) かかりつけ医師等の有無

問11 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれるかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。（それぞれ1つに○）



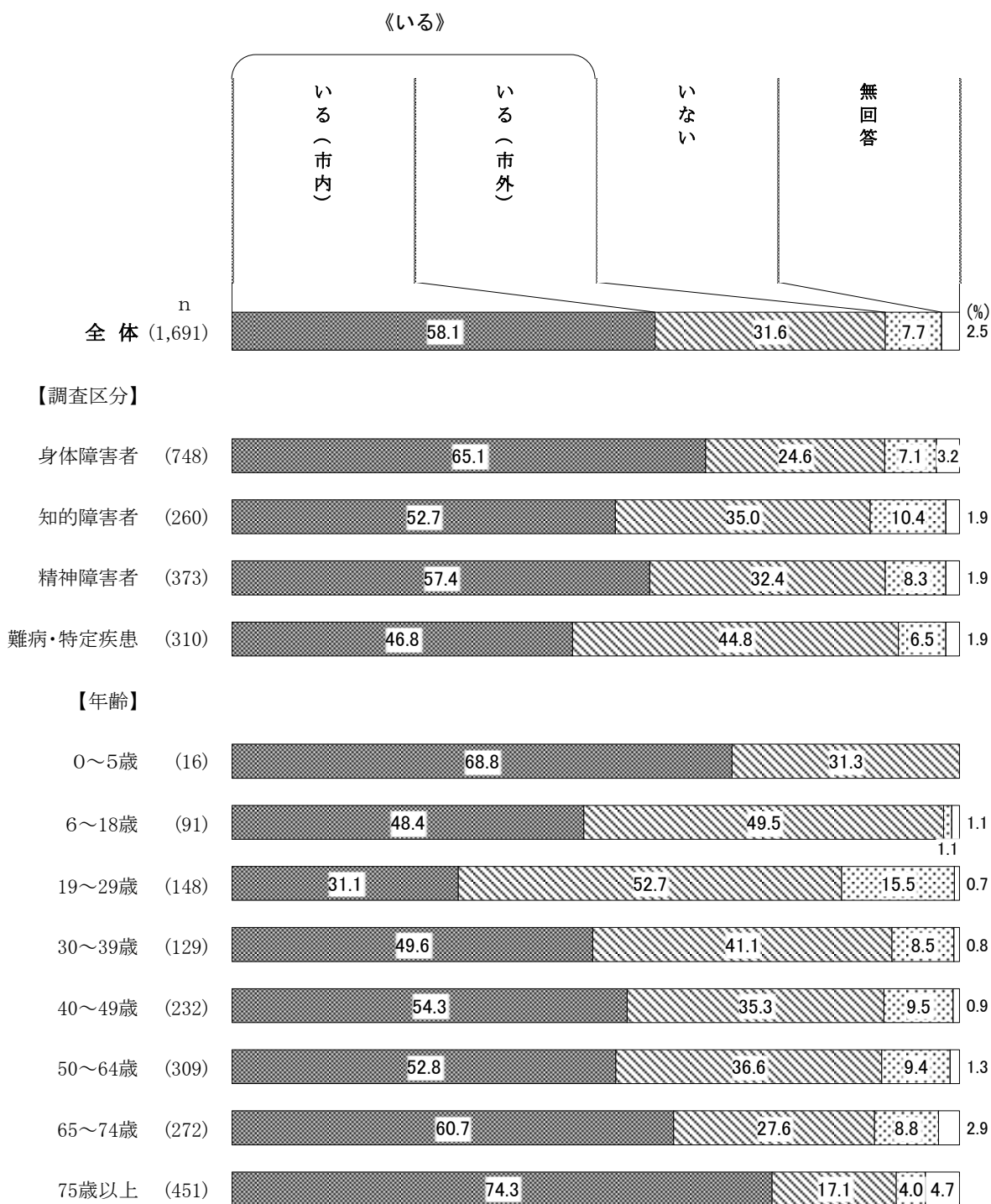
普段から治療を受けたり、日常の健康について相談を受けてくれるかかりつけ医の有無を聞いた。“①医師”、“②歯科医師”、“③薬局（薬剤師）”いずれも市内に「いる」が5割台となっている。市内外をあわせた《いる》で見ると、“①医師”は89.7%と多く、“②歯科医師”は67.4%、“③薬局（薬剤師）”は70.3%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別に①かかりつけの医師をみると、市外も含めた《いる》は、いずれも9割前後となっている。また、市内に「いる」は身体障害者で65.1%と多くなっている。

年齢別にみると、市外も含めた《いる》は、いずれも8割以上となっている。また、市内に「いる」は40歳以上で5割以上となっており、特に75歳以上では74.3%となっている。

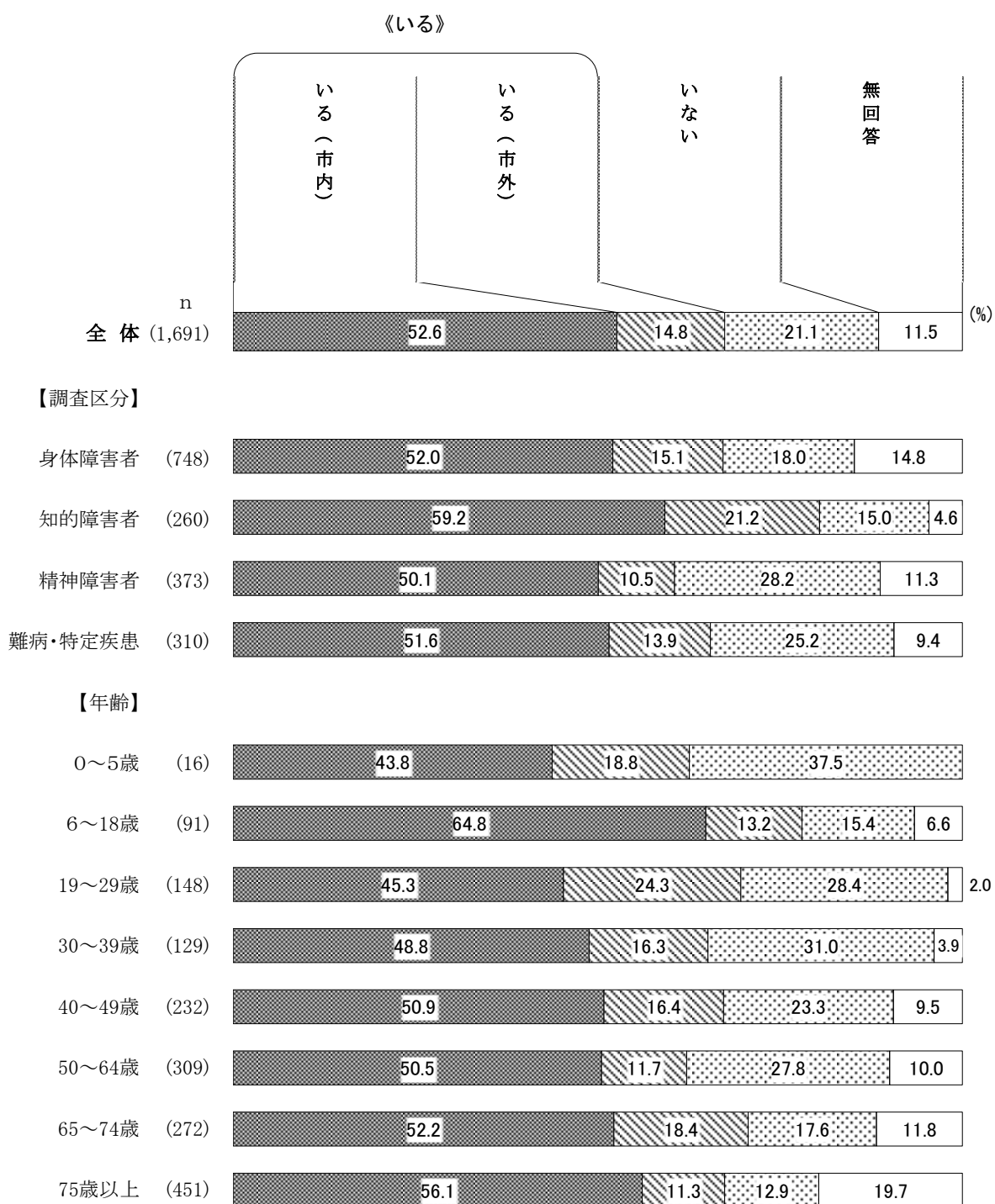
調査区分別、年齢別（①かかりつけの医師）



調査区分別に②かかりつけの歯科医師をみると、市外も含めた《いる》は、いずれも6割以上となっており、特に知的障害者では80.4%と多くなっている。

年齢別にみると、市外も含めた《いる》は、いずれの年齢でも6割以上となっており、特に6～18歳では78.0%と多くなっている。

調査区分別、年齢別（②かかりつけの歯科医師）

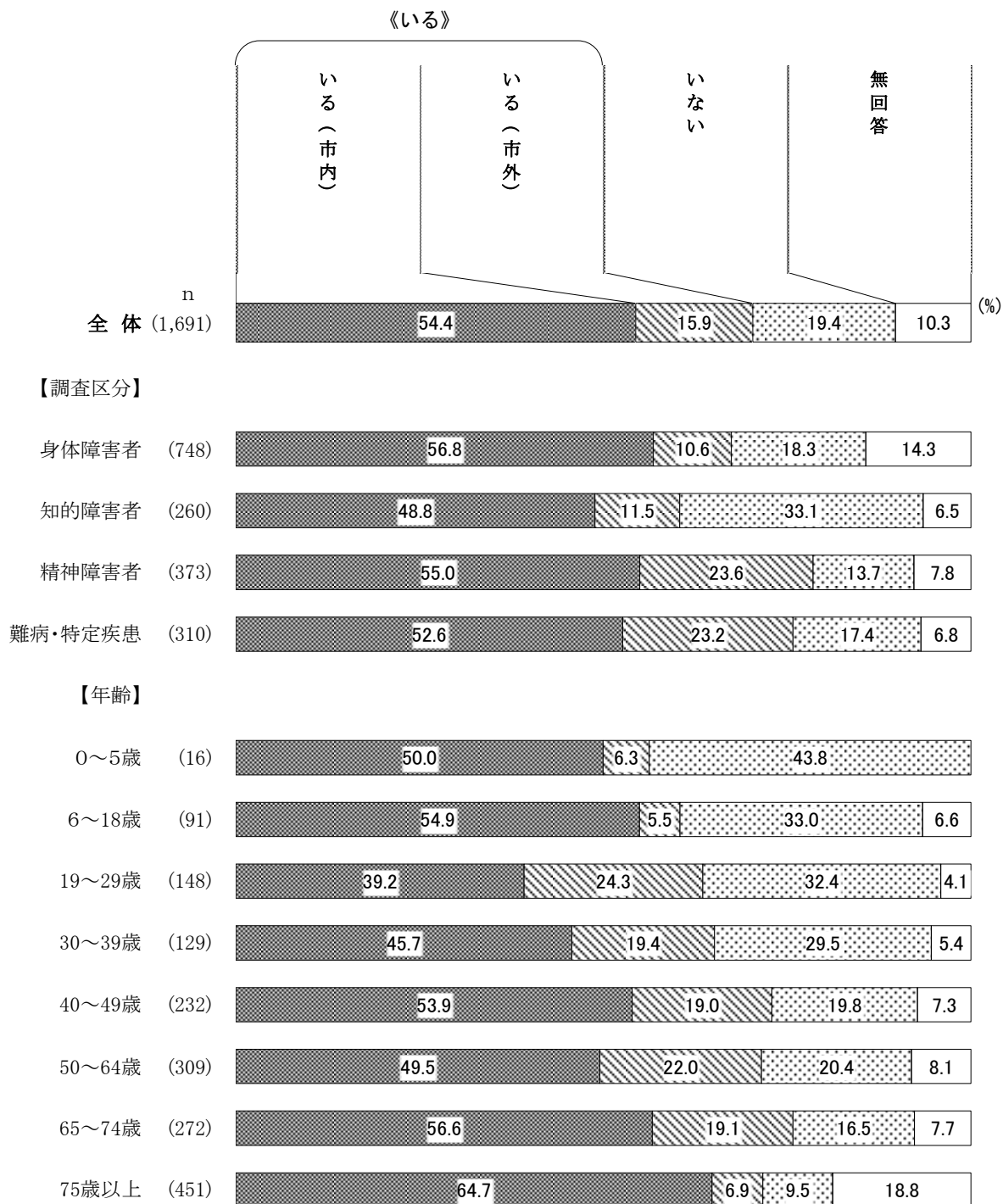


第3章 調査結果の詳細

調査区分別に③かかりつけの薬局（薬剤師）をみると、市外も含めた《いる》は、精神障害者と難病・特定疾患では7割台、身体障害者で67.4%、知的障害者では60.3%となっている。

年齢別にみると、市外も含めた《いる》は、年齢が上がるにつれて多くなる傾向となっており、40歳以上で7割以上となっている。また、市内に「いる」は多くの年齢で4割以上となっており、特に75歳以上で64.7%となっている。

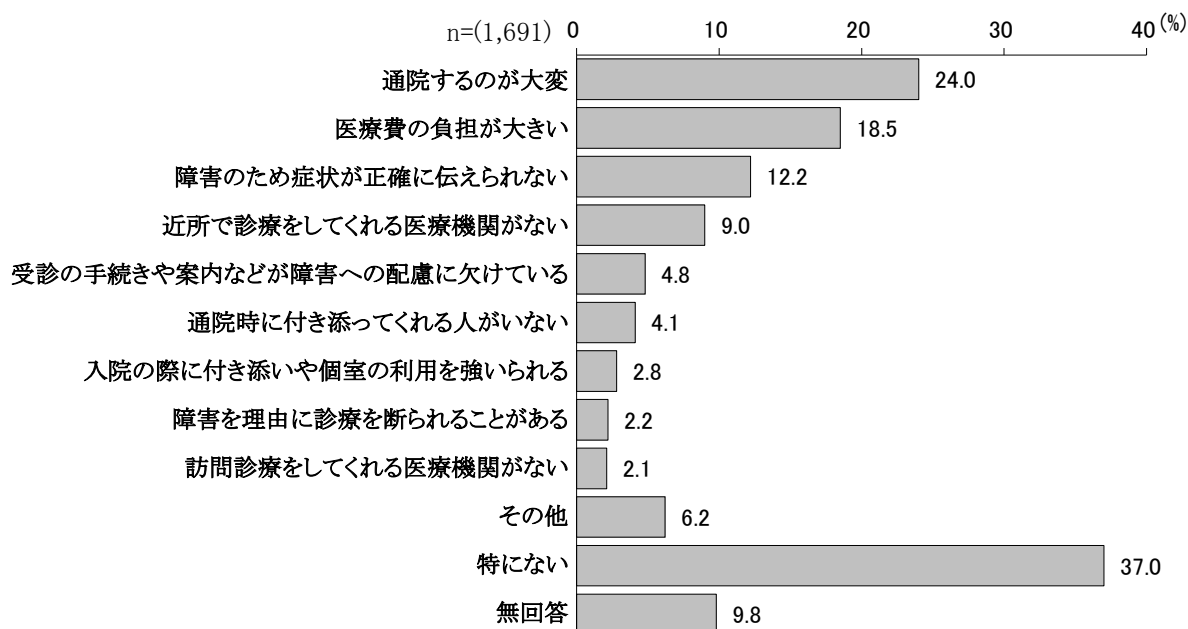
調査区分別、年齢別（③かかりつけの薬局〔薬剤師〕）



(2) 健康・医療面での困りごと

問12 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。

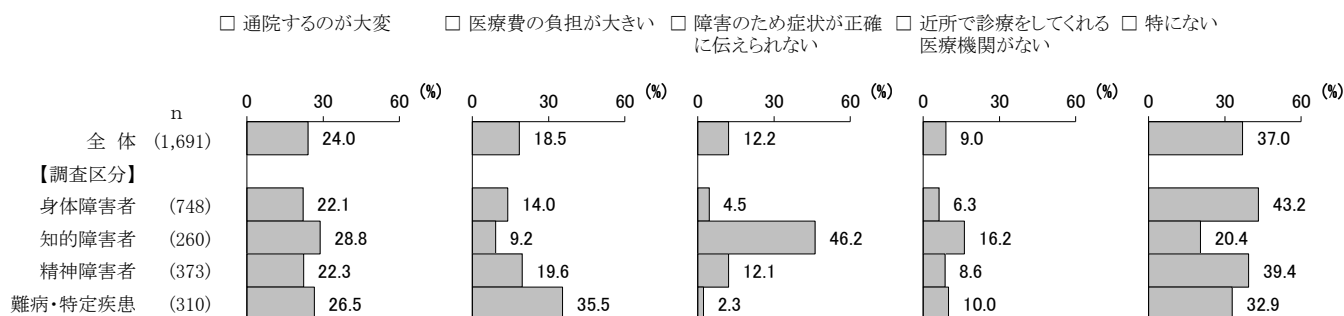
(主にあてはまるもの3つまでに○)



健康管理や医療で困ったり不便に思うことは、「特にない」が37.0%で最も多くなっている。困りごと等があるものでは、「通院するのが大変」が24.0%、「医療費の負担が大きい」が18.5%、「障害のため症状が正確に伝えられない」が12.2%となっている。

調査区分別にみると、「通院するのが大変」はいずれの調査区分でも2割台となっている。知的障害者では「障害のため症状が正確に伝えられない」が46.2%、難病・特定疾患では「医療費の負担が大きい」が35.5%と他の調査区分より多くなっている。

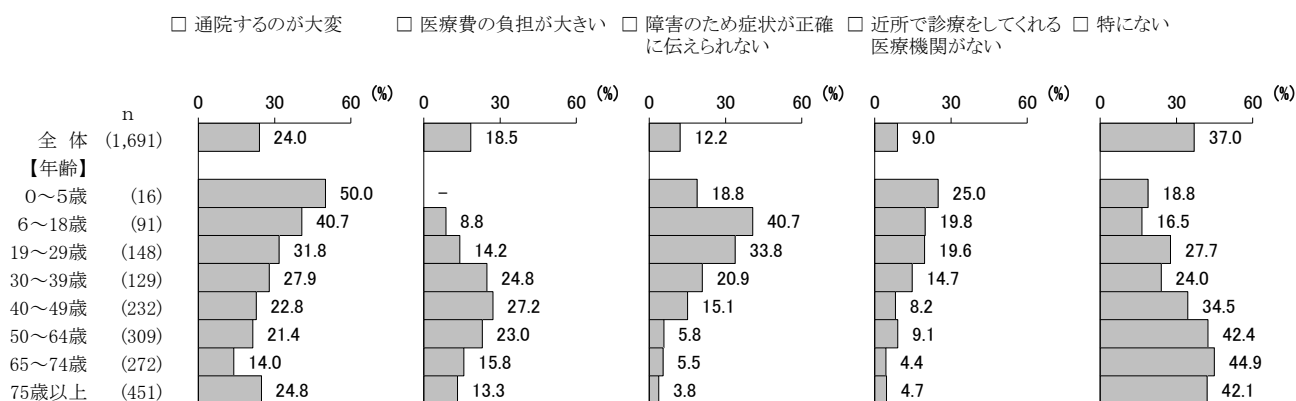
調査区分別 (上位4項目+「特にない」)



第3章 調査結果の詳細

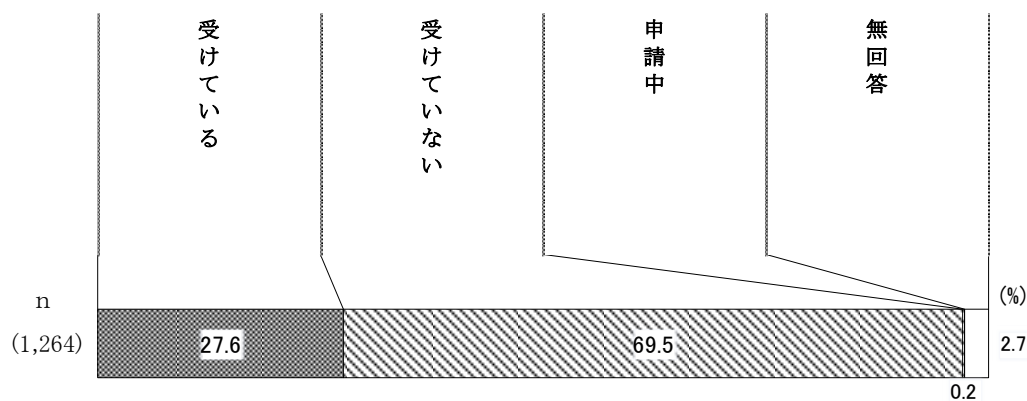
年齢別にみると、「通院するのが大変」は未成年を中心に多く、年齢が上がるとともに減少しているが75歳以上では24.8%となっている。「障害のため症状が正確に伝えられない」、「近所で診療をしてくれる医療機関がない」も未成年を中心に多く、年齢が上がるとともに少なくなる。「医療費の負担が大きい」は30歳から64歳の年齢にかけて2割台となっている。

年齢別（上位4項目＋「特にない」）



(3) 介護保険の認定状況 (40歳以上の方)

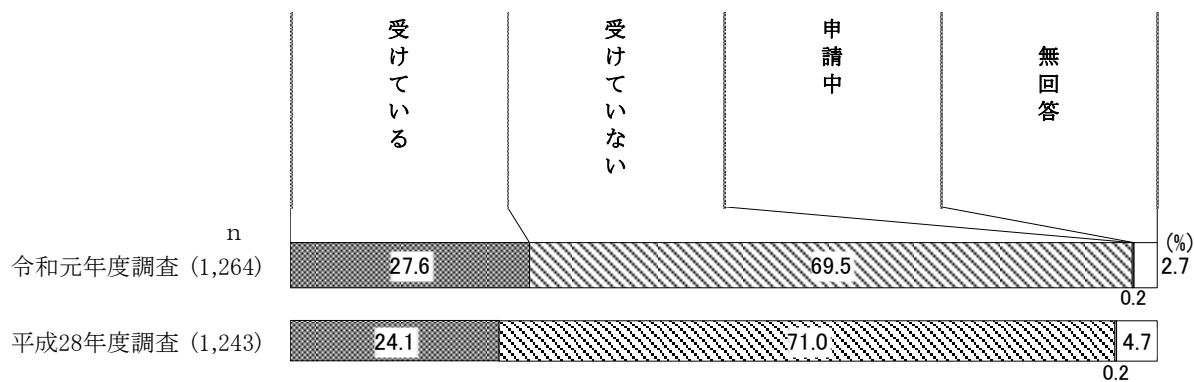
問13 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)



現在、介護保険の認定を「受けている」は27.6%、「受けていない」は69.5%となっている。

介護保険の認定状況を平成28年度調査と比較すると、「受けている」は平成28年度の24.1%から今回は3.5ポイント増加して27.6%となっている。

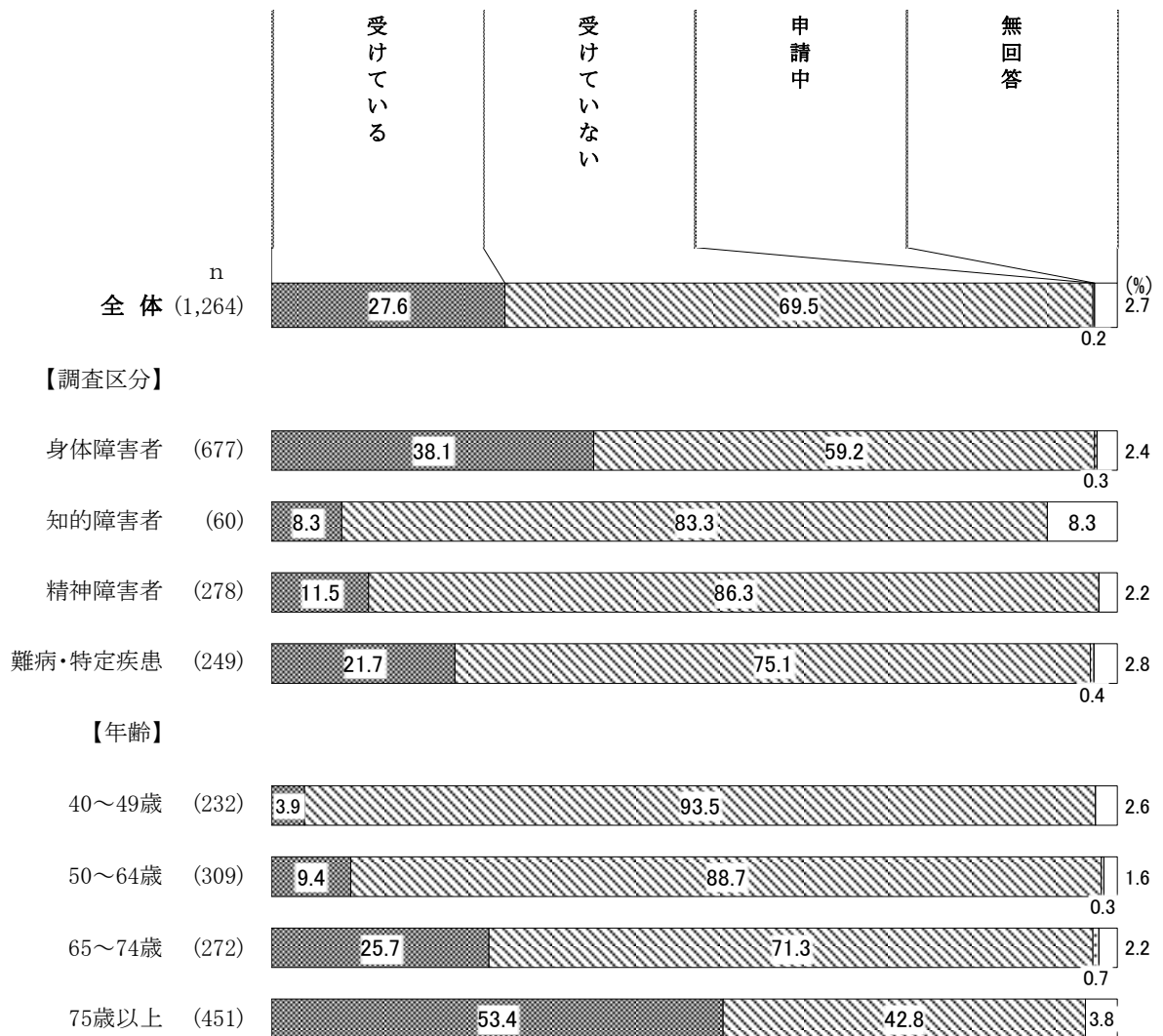
《参考》 介護保険の認定状況－平成28年度調査との比較



第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「受けている」は身体障害者が38.1%、難病・特定疾患が21.7%となっている。
 年齢別にみると、「受けている」は65～74歳で25.7%、75歳以上で53.4%となっている。

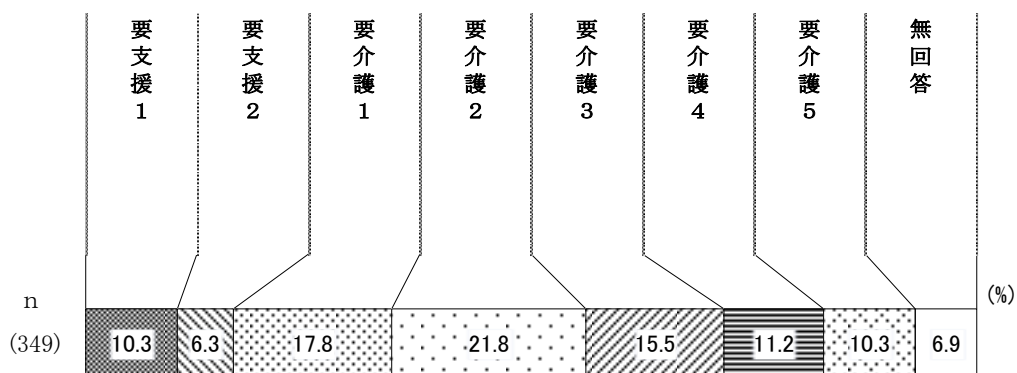
調査区分別、年齢別



(4) 要介護度 (40歳以上の方)

【問13で、「(介護保険の認定を) 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問13-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)



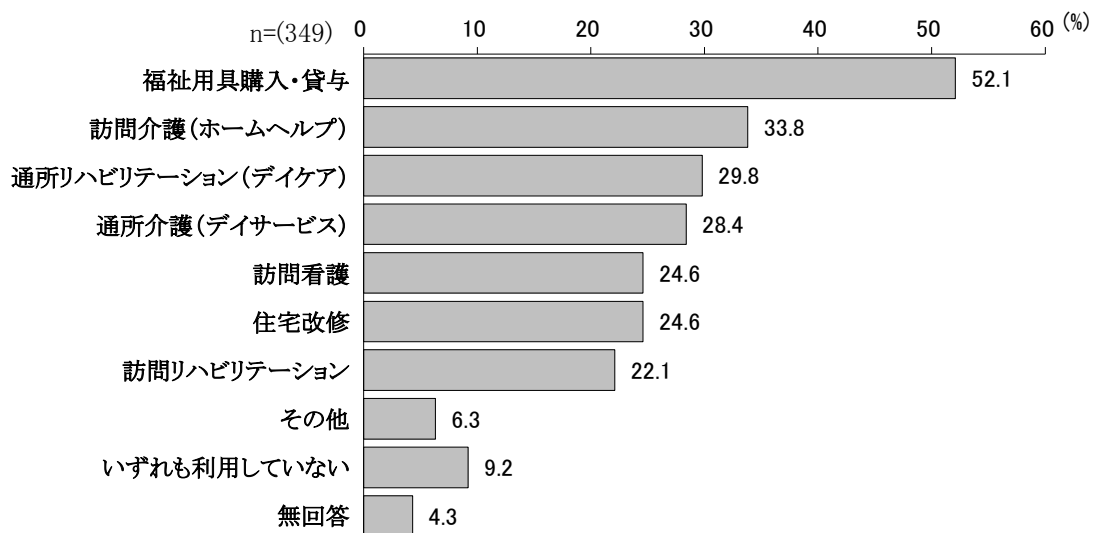
認定内容は幅広く分布しているが、「要介護2」(21.8%)を中心に「要介護1」(17.8%)、「要介護3」(15.5%)が比較的多くなっている。

(5) 利用中（利用経験あり）の介護保険サービス

【問13で、「(介護保険の認定を) 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問13-2 利用している、又は利用したことがある介護保険サービス はどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

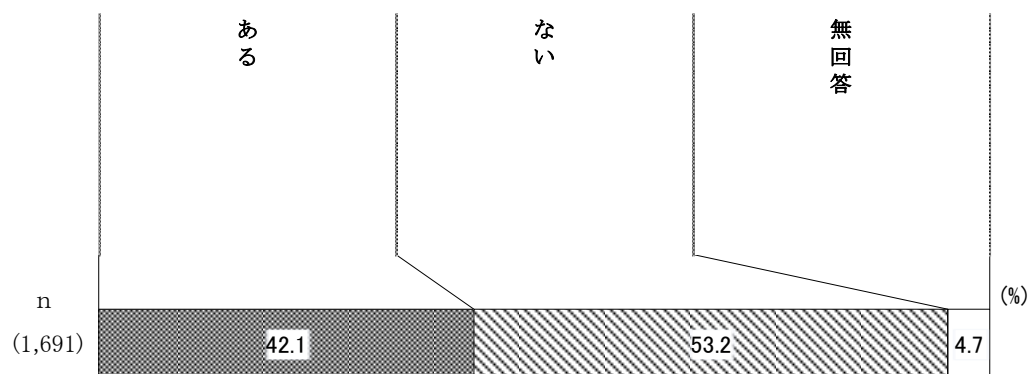


利用している（したことがある）介護保険サービスは、「福祉用具購入・貸与」が52.1%で最も多く、以下、「訪問介護（ホームヘルプ）」（33.8%）が3割台、「通所リハビリテーション（デイケア）」（29.8%）、「通所介護（デイサービス）」（28.4%）、「訪問看護」と「住宅改修」（ともに24.6%）、「訪問リハビリテーション」（22.1%）が2割台で続いている。

5. 相談や情報入手について

(1) 日常生活で困っていること

問14 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)



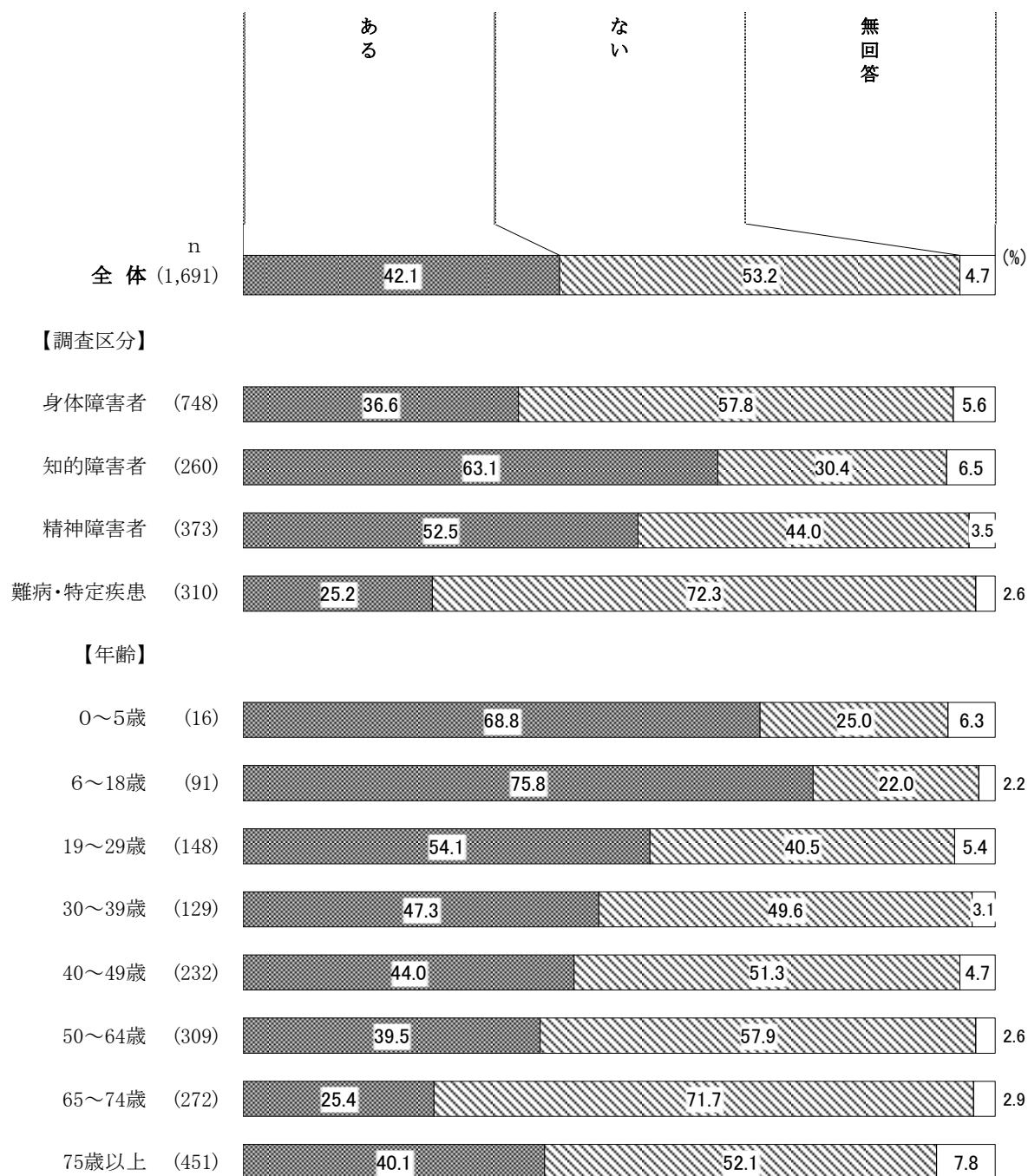
日常生活において、何か困っていることが「ある」は42.1%、「ない」は53.2%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「ある」は知的障害者（63.1%）で6割台、精神障害者（52.5%）で5割台となっている。

年齢別にみると、「ある」は6～18歳（75.8%）で7割台、19～29歳（54.1%）で5割台となっている。30～39歳では「ある」と「ない」が並んでいる。40歳以上の年齢では「ない」が5割から7割台となり、「ある」を上回っている。

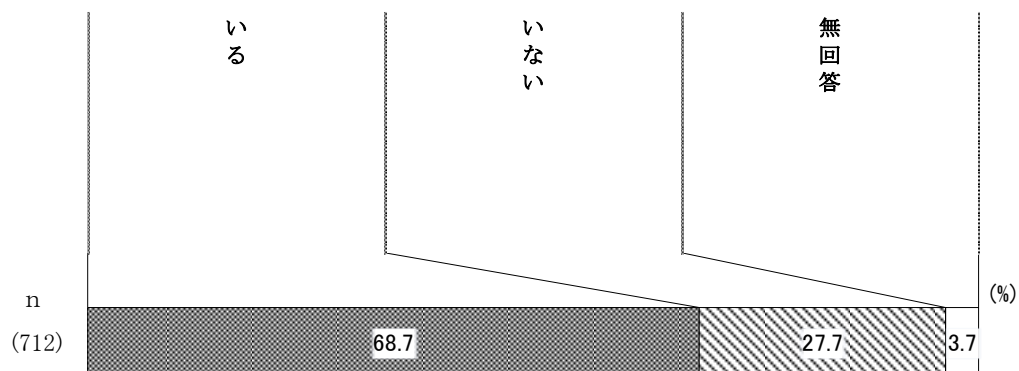
調査区分別、年齢別



(2) 相談相手〔家族や友人を除く〕の有無

【問14で「ある」と回答した方にお聞きします。】

問14-1 困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕(1つに○)



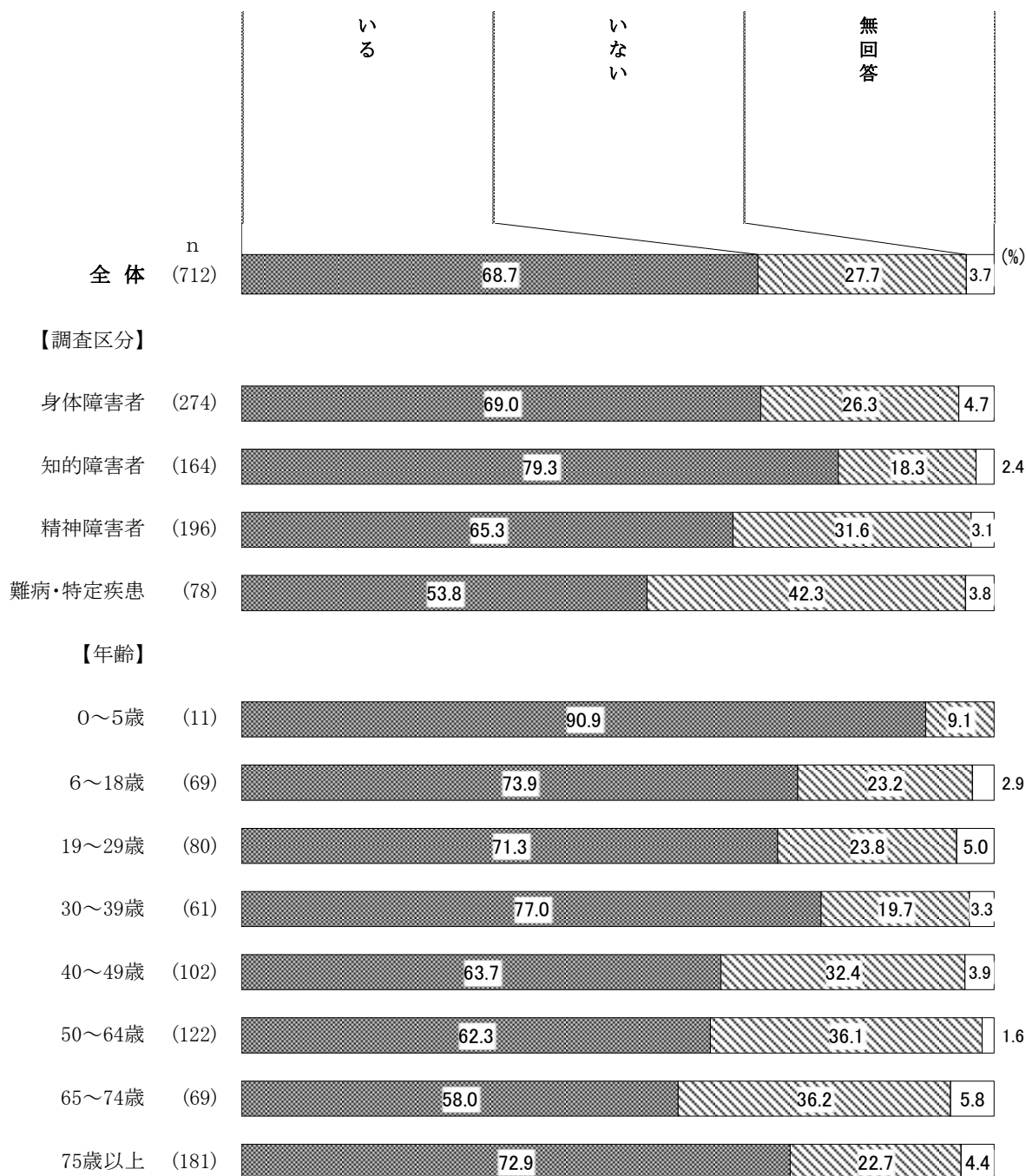
困っていることを相談する人が「いる」は68.7%、「いない」は27.7%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「いる」は身体障害者、知的障害者、精神障害者で6割以上となっており、特に知的障害者では79.3%となっている。

年齢別にみると、「いる」は39歳以下と75歳以上で7割以上を占め、特に30～39歳では77.0%となっている。一方、40歳から74歳の年齢にかけては「いる」は6割前後と比較的少ない。

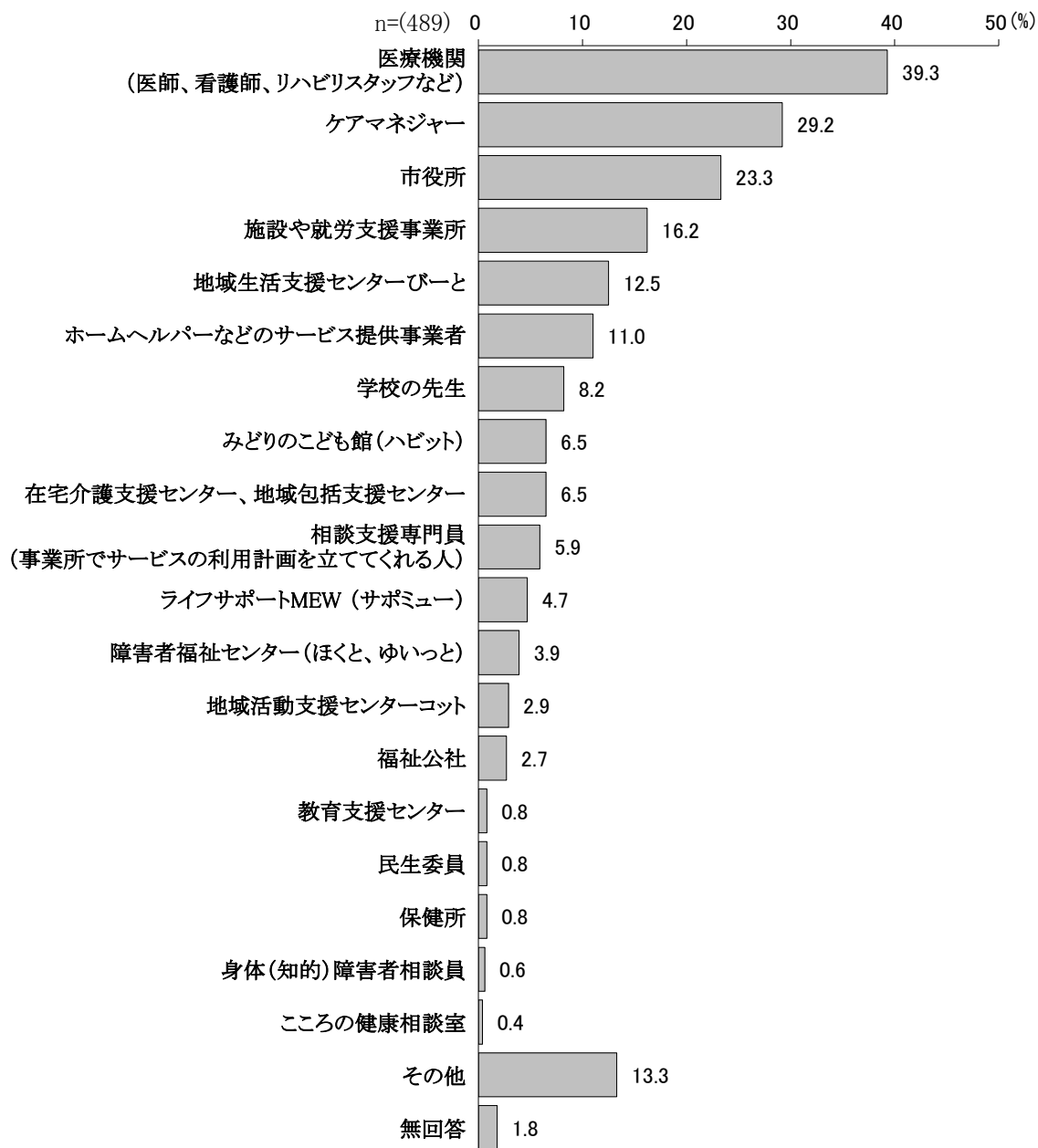
調査区分別、年齢別



(3) 相談相手

【問14-1で「いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-2 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

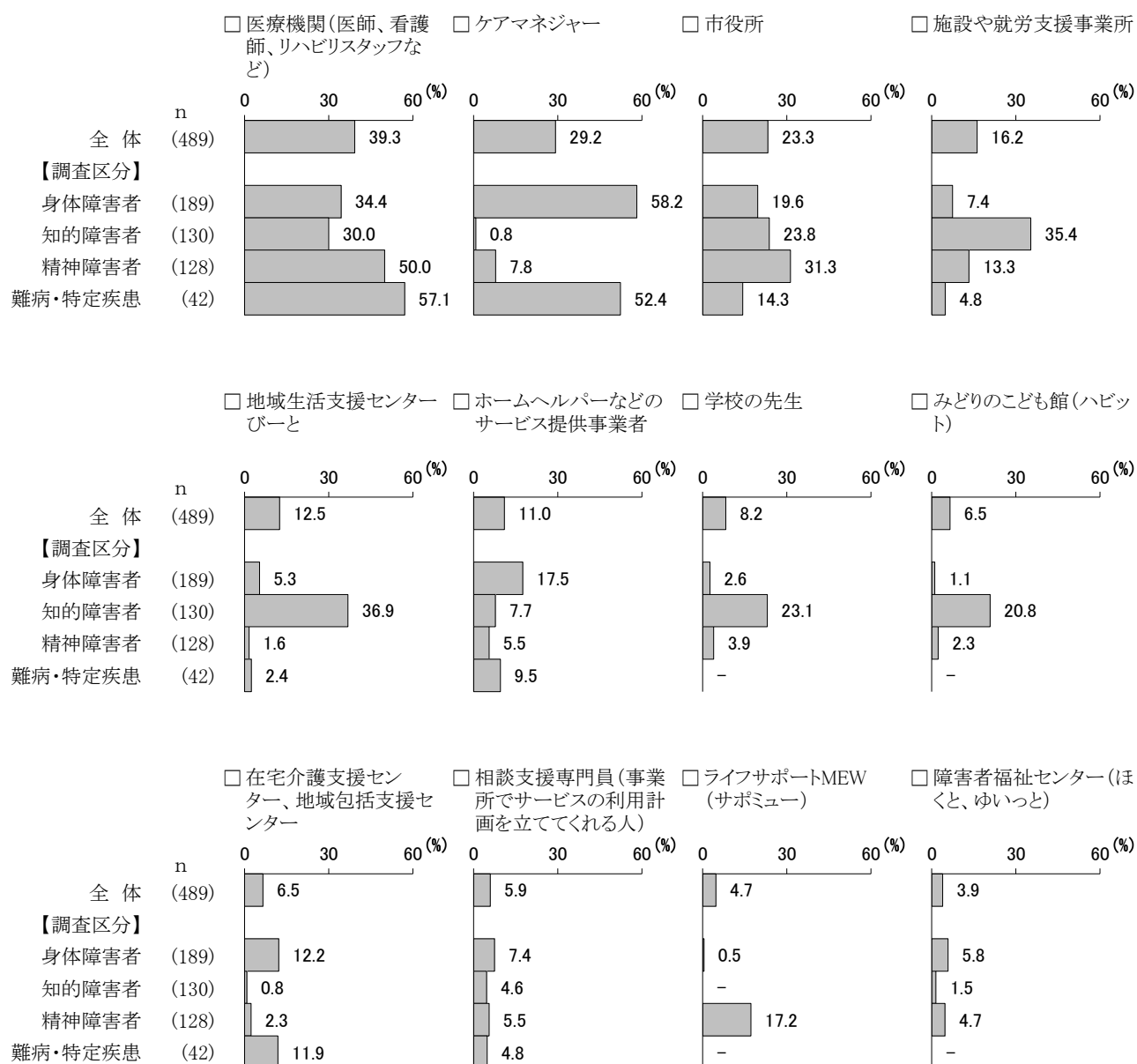


相談相手は、「医療機関」が39.3%で最も多く、以下、「ケアマネジャー」(29.2%)、「市役所」(23.3%)が2割台、「施設や就労支援事業所」(16.2%)、「地域生活支援センターびーと」(12.5%)、「ホームヘルパーなどのサービス提供事業者」(11.0%)が1割台で続いている。

第3章 調査結果の詳細

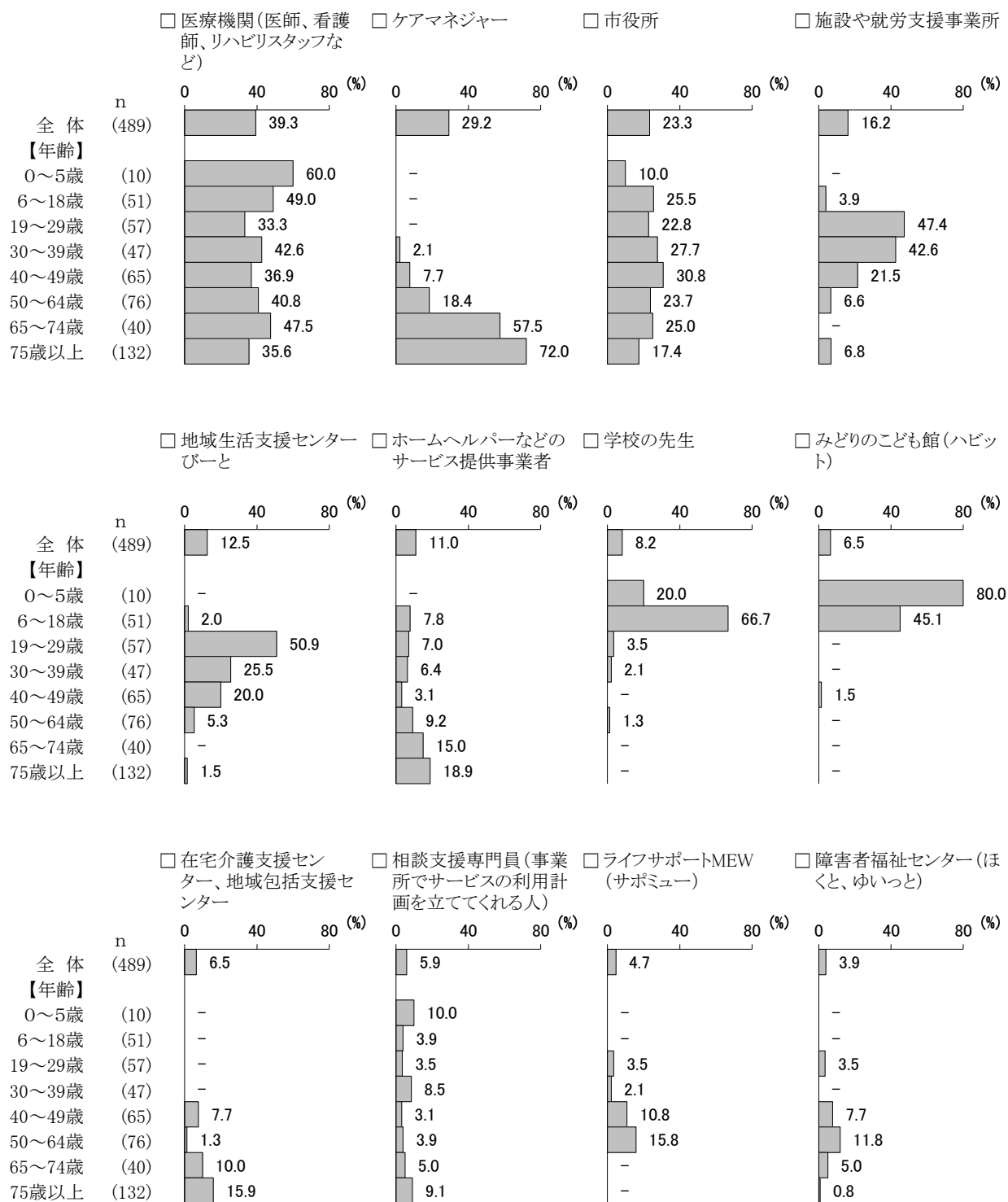
調査区分別にみると、「医療機関」は難病・特定疾患が57.1%、精神障害者が50.0%、「ケアマネジャー」は身体障害者が58.2%、難病・特定疾患が52.4%と多くなっている。市の取組として、知的障害者の相談窓口を「地域生活支援センターびーと」、精神障害者の相談窓口を「ライフサポートMEW」としており、知的障害者では「地域生活支援センターびーと」が36.9%、精神障害者では「ライフサポートMEW」が17.2%と他の調査区分より多くなっている。また、知的障害者ではこの他にも、「施設や就労支援事業所」(35.4%)、「学校の先生」(23.1%)とともに「みどりのこども館」(20.8%)が多くなっている。

調査区分別（上位12項目）



年齢別にみると、「ケアマネジャー」は75歳以上で72.0%、65～74歳でも57.5%と多くなっている。「施設や就労支援事業所」は19～29歳で47.4%、30～39歳で42.6%と他の年齢より多い。この他、6～18歳では「学校の先生」(66.7%)、「みどりの子ども館」(45.1%)が、19～29歳では「地域生活支援センターびと」(50.9%)が多くなっている。

年齢別（上位12項目）

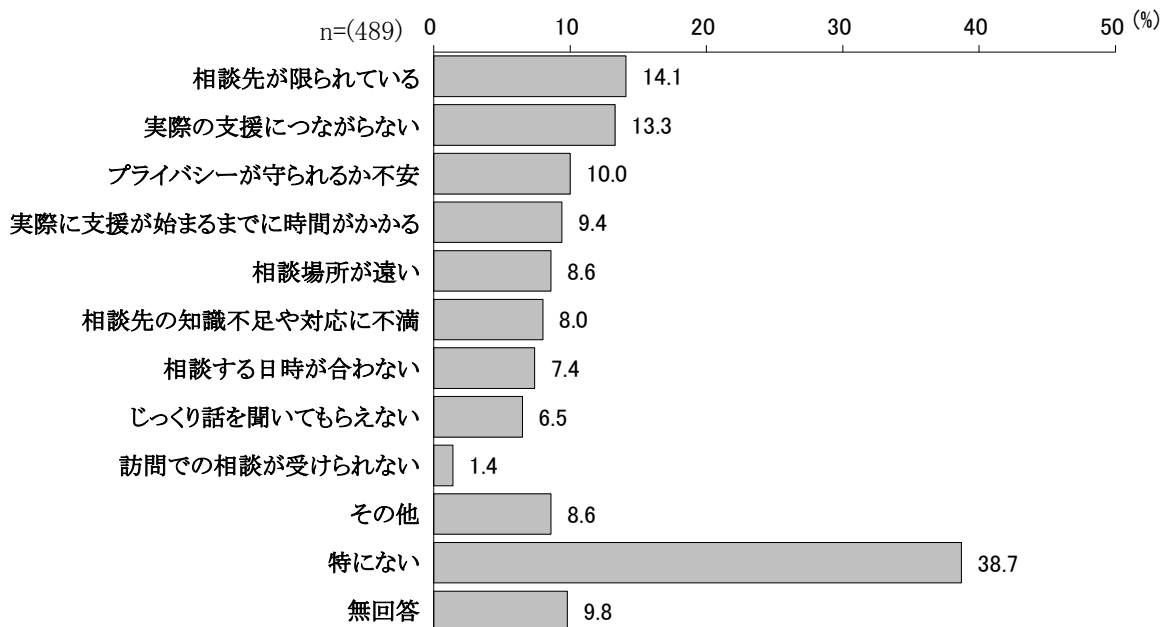


(4) 相談する際に不便なこと

【問14-1で「いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-3 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

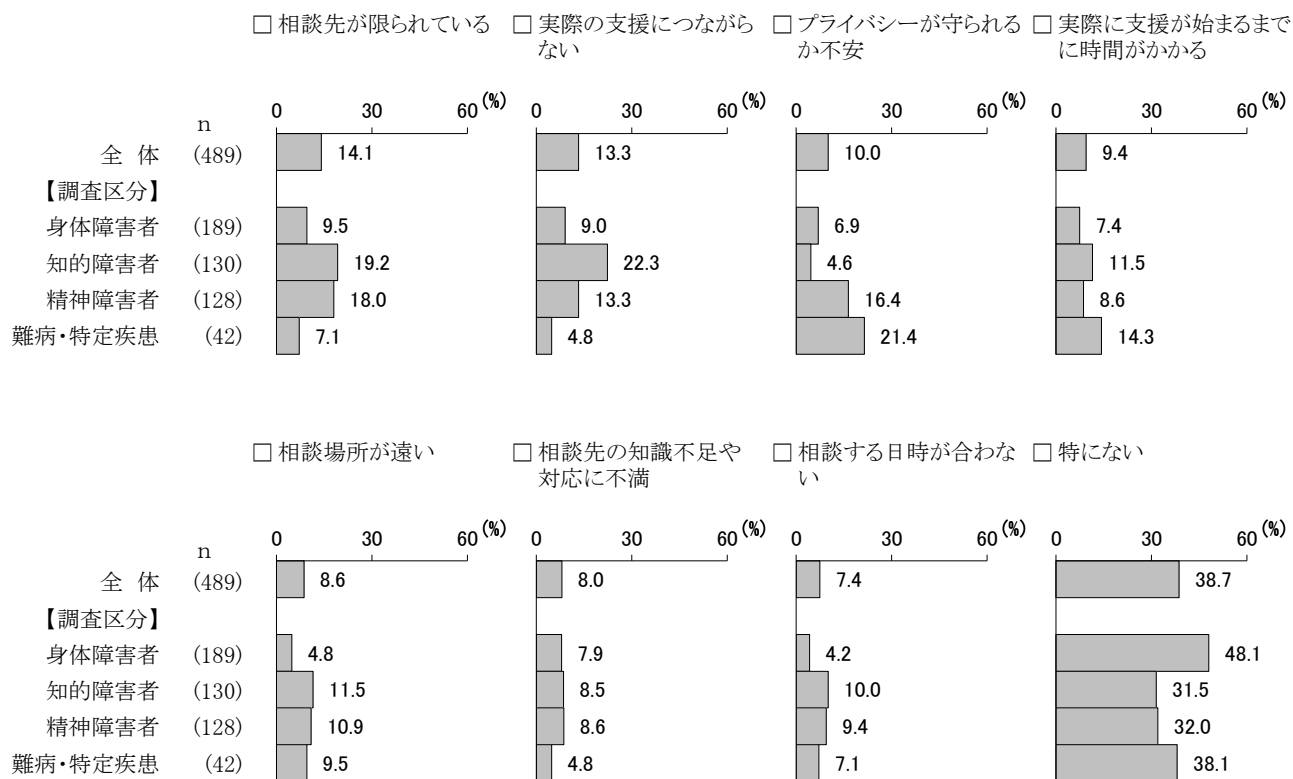
(主にあてはまるもの3つまでに○)



悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることは、「特にない」が38.7%で最も多くなっている。感じていることでは、「相談先が限られている」(14.1%)、「実際の支援につながらない」(13.3%)、「プライバシーが守られるか不安」(10.0%)が1割台となっている。

調査区分別にみると、「相談先が限られている」は知的障害者（19.2%）、精神障害者（18.0%）で2割弱となっている。「実際の支援につながらない」は知的障害者で22.3%、「プライバシーが守られるか不安」は知的障害者で22.3%、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」は難病・特定疾患で21.4%となっている。

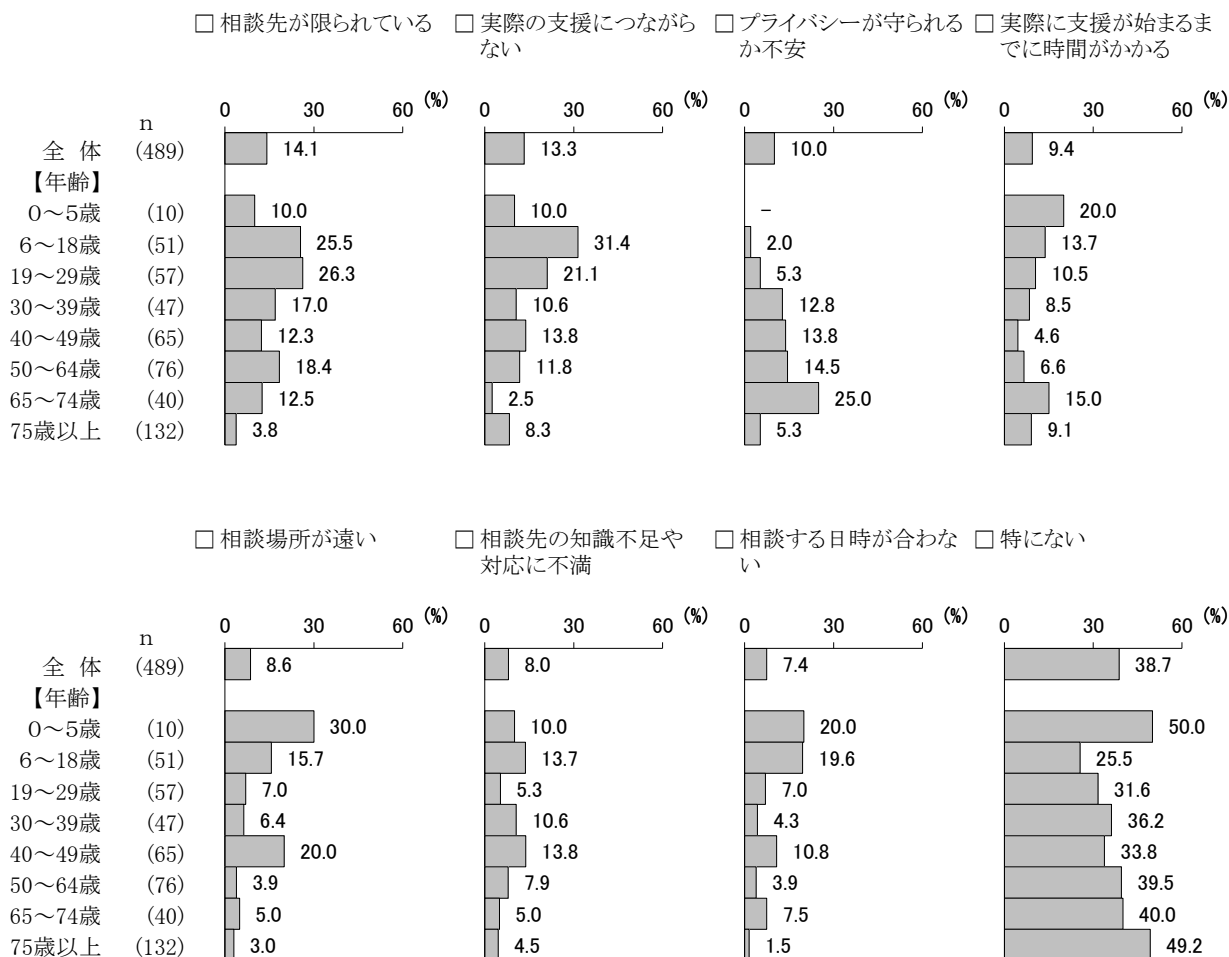
調査区分別（上位7項目＋「特にない」）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「相談先が限られている」は6～18歳（25.5%）と19～29歳（26.3%）で2割台、「実際の支援につながらない」は6～18歳で31.4%、19～29歳で21.1%と多くなっている。「プライバシーが守られるか不安」は65～74歳で25.0%、「相談場所が遠い」は40～49歳で20.0%と他の年齢より多くなっている。

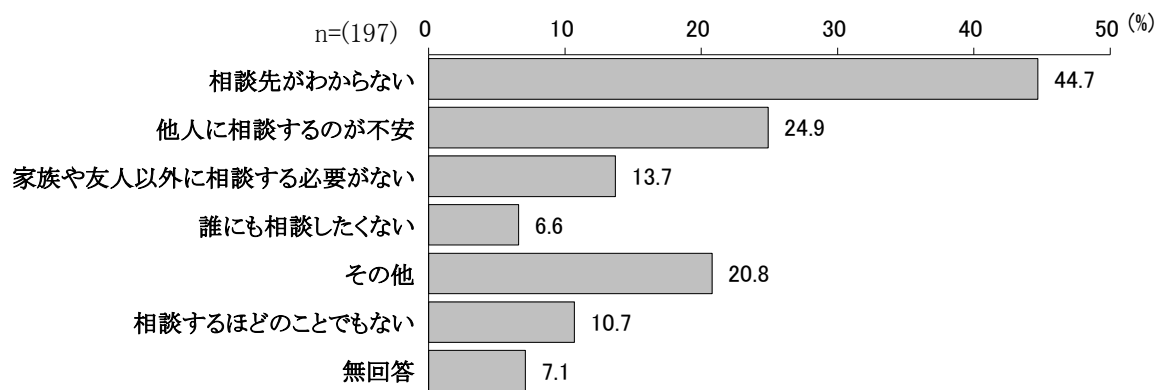
年齢別（上位7項目＋「特にない」）



(5) 相談相手がいない理由

【問14-1で「いない」と回答した方にお聞きします。】

問14-4 相談相手がいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

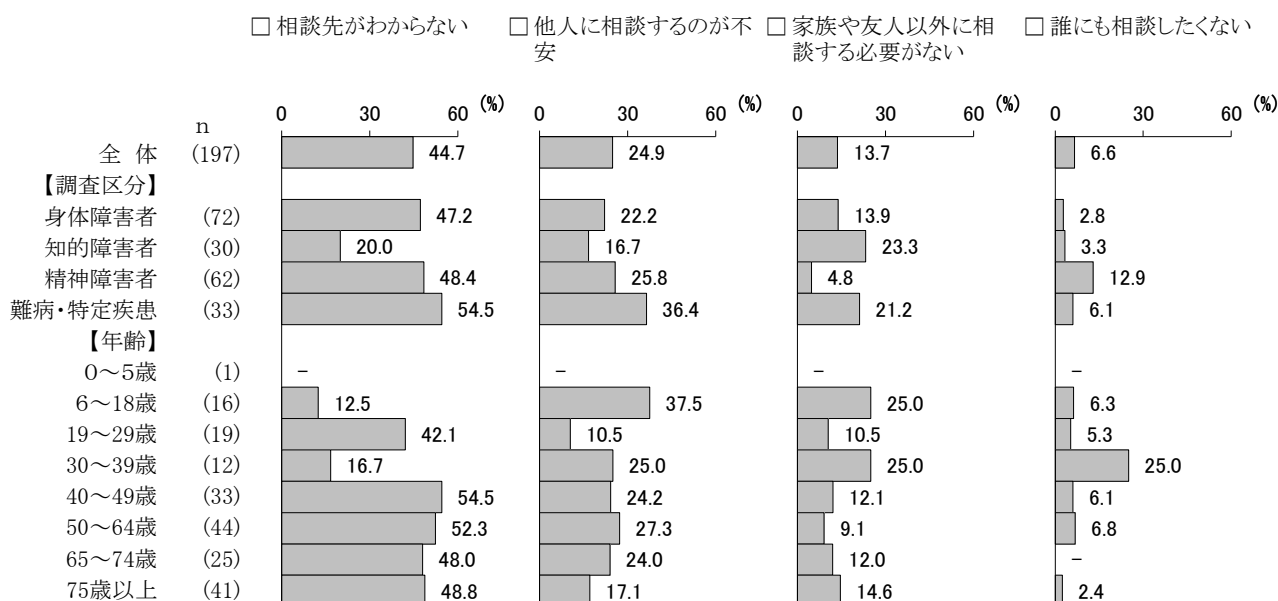


相談相手がいない理由は、「相談先がわからない」が44.7%で最も多く、以下、「他人に相談するのが不安」(24.9%)、「家族や友人以外に相談する必要がある」(13.7%)が続いている。

調査区別にみると、「相談先がわからない」は難病・特定疾患で54.5%、精神障害者(48.4%)と身体障害者(47.2%)でも5割弱となっている。「家族や友人以外に相談する必要がある」は知的障害(23.3%)と難病・特定疾患(21.2%)で2割台と他の調査区分より多くなっている。

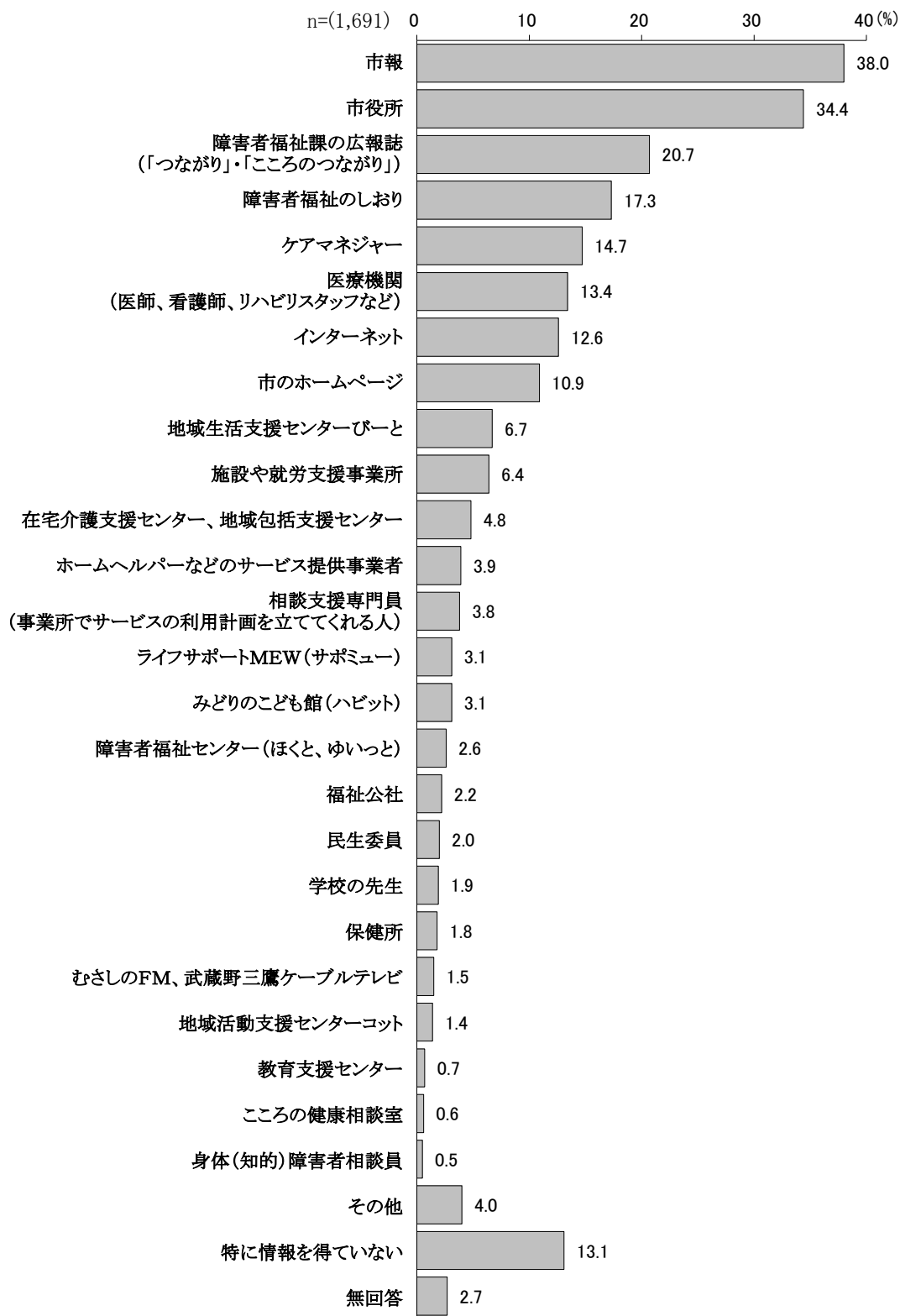
年齢別にみると、「相談先がわからない」は40歳以上の年齢から多くあげられている。

調査区分別、年齢別(上位4項目)



(6) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源

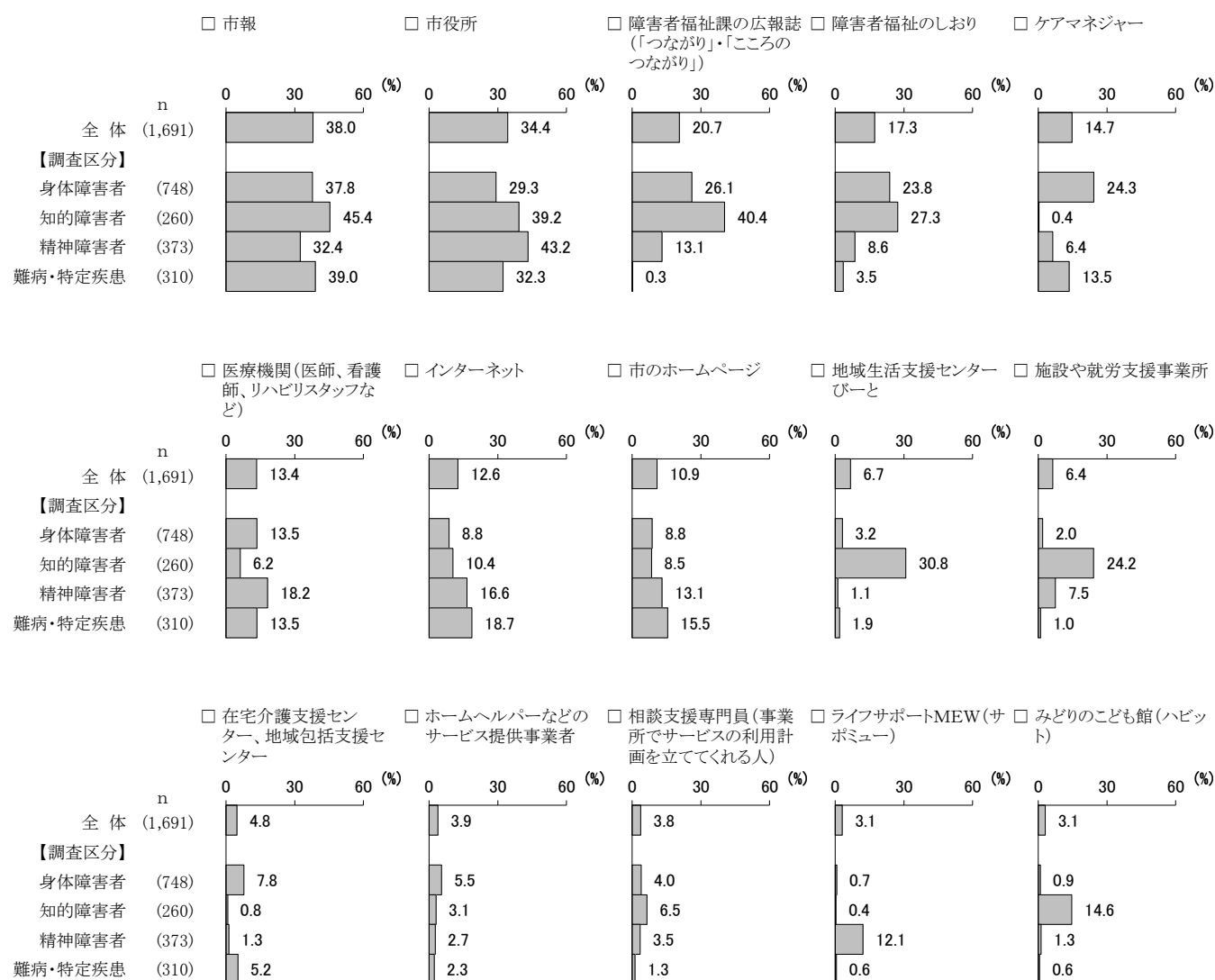
問15 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。
(あてはまるものすべてに○)



市の生活支援に関するサービスの情報の入手先は、「市報」が38.0%で最も多く、以下、「市役所」が34.4%、「障害者福祉課の広報誌」が20.7%と続いている。

調査区分別にみると、「市報」は知的障害者で45.4%、「市役所」は精神障害者で43.2%となっている。「障害者福祉課の広報誌」は知的障害者で40.4%と多く、身体障害者でも26.1%となっているが、精神障害者（13.1%）では少なく、「障害者福祉のしおり」でも同様の傾向がみられる。市の取組として、知的障害者の相談窓口を「地域生活支援センターびーと」、精神障害者の相談窓口を「ライフサポートMEW」としており、知的障害者では「地域生活支援センターびーと」が30.8%、精神障害者では「ライフサポートMEW」が12.1%と他の調査区分より多くなっている。また、身体障害者では「ケアマネジャー」（24.3%）、知的障害者では「施設や就労支援事業所」（24.2%）、「みどりのこども館」（14.6%）も多くなっている。

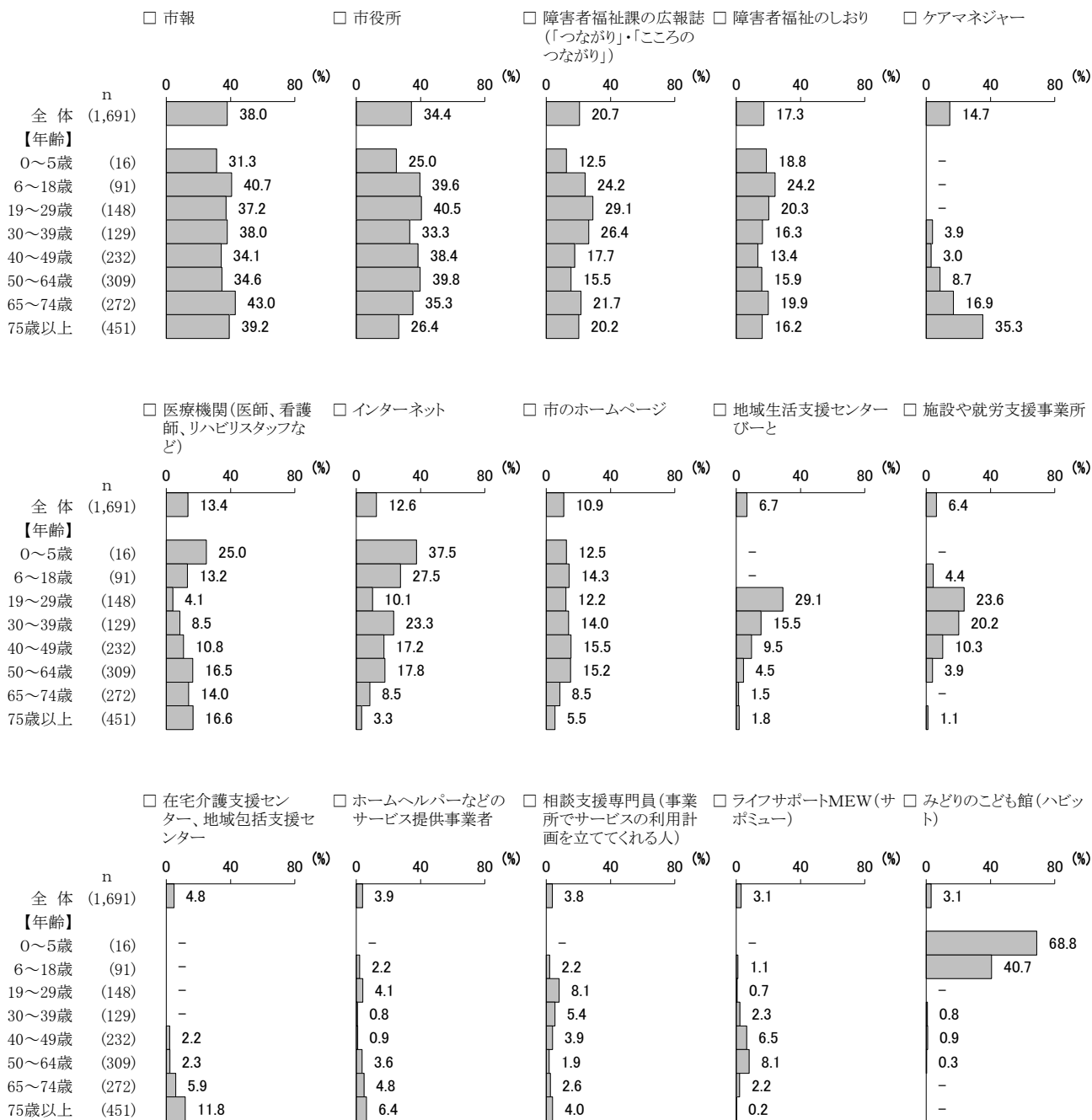
調査区分別（上位15項目）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「市報」と「市役所」はいずれの年齢からも多くあげられている。「障害者福祉課の広報誌」、「障害者福祉のしおり」、「インターネット」は若年層を中心に多くなっている。18歳までを対象としている「みどりの子ども館」は6～18歳で40.7%となっている。「地域生活支援センターぴーと」や「施設や就労支援事業所」は19歳から39歳を中心に多く、65歳以上の年齢では「ケアマネジャー」が多くなっている。

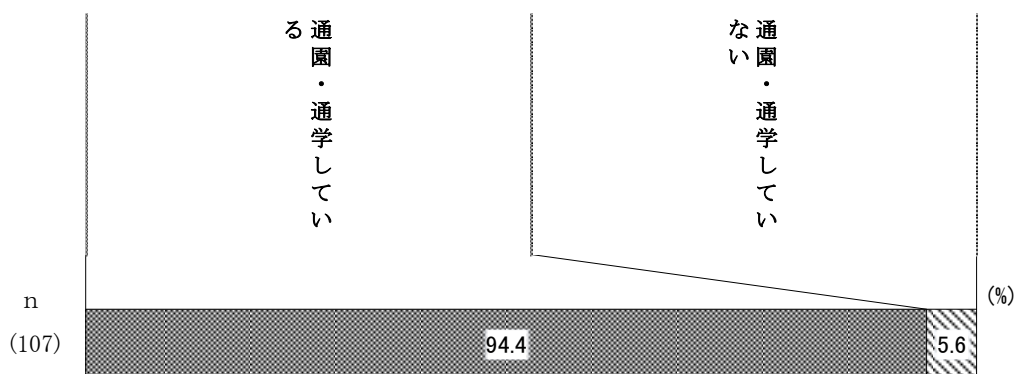
年齢別（上位15項目）



6. 通園・通学について

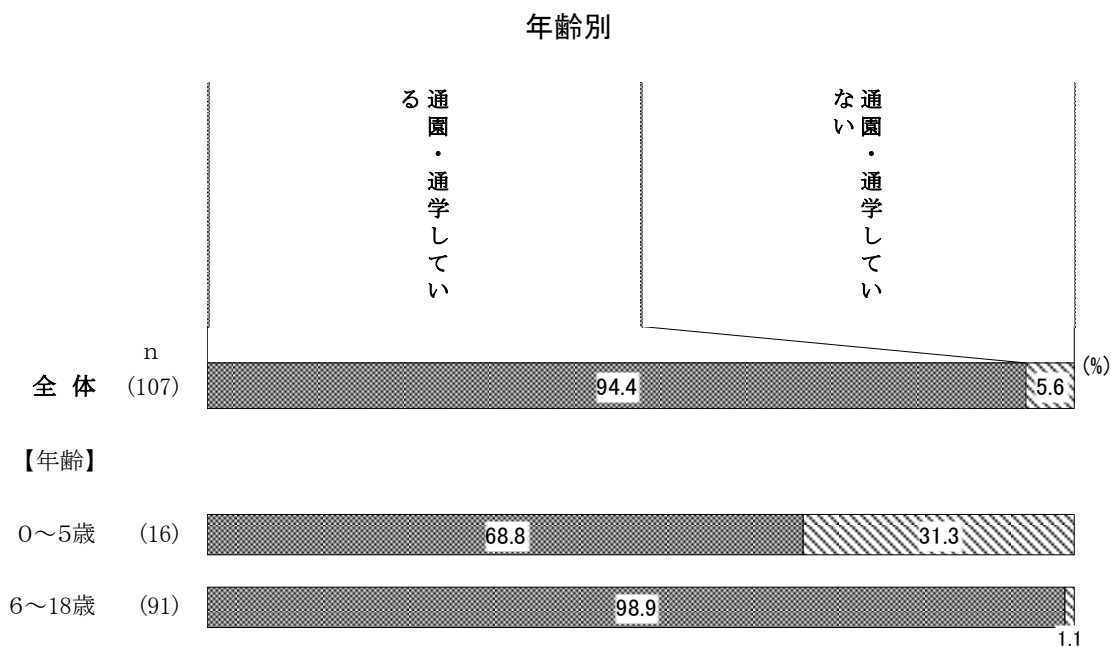
(1) 通園・通学状況

問16 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)



18歳以下の対象では、現在、保育園や幼稚園、学校へ「通園・通学している」は94.4%となっている。

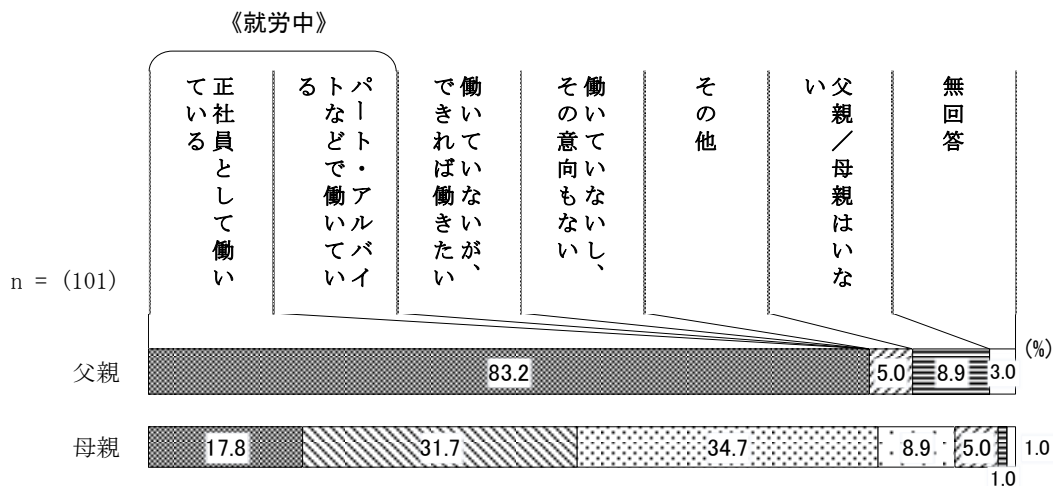
年齢別にみると、「通園・通学している」は6～18歳では98.9%を占めている。



(2) 保護者の就労状況

【問16で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問16-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

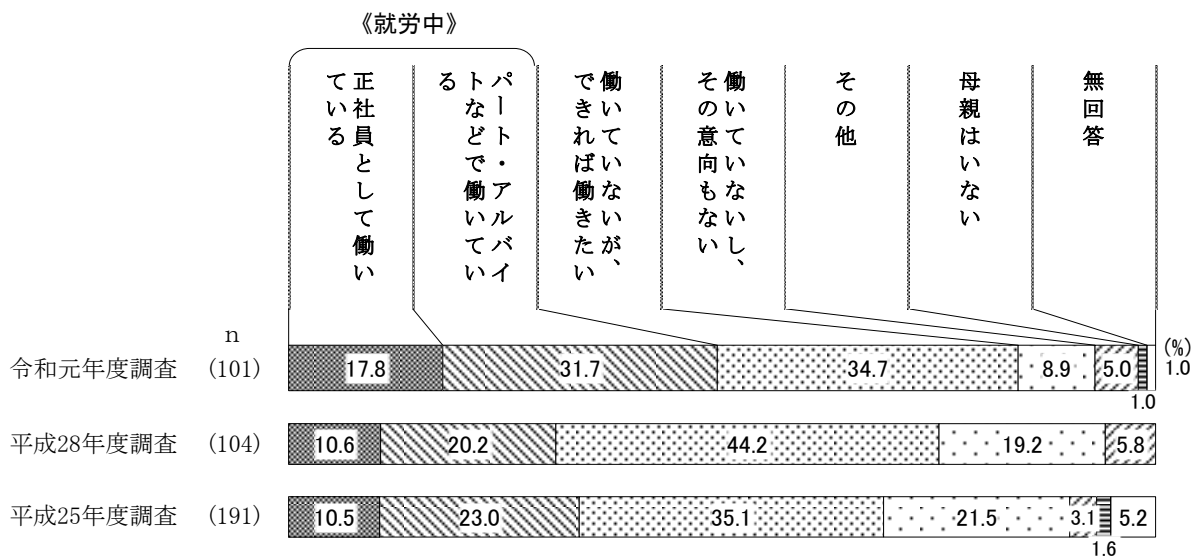


母親の就労状況は「正社員として働いている」が17.8%で、「パート・アルバイトなどで働いている」(31.7%)をあわせた《就労中》は49.5%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は34.7%となっている。

父親の就労状況は「正社員として働いている」が83.2%を占め、《就労中》は83.2%となっている。

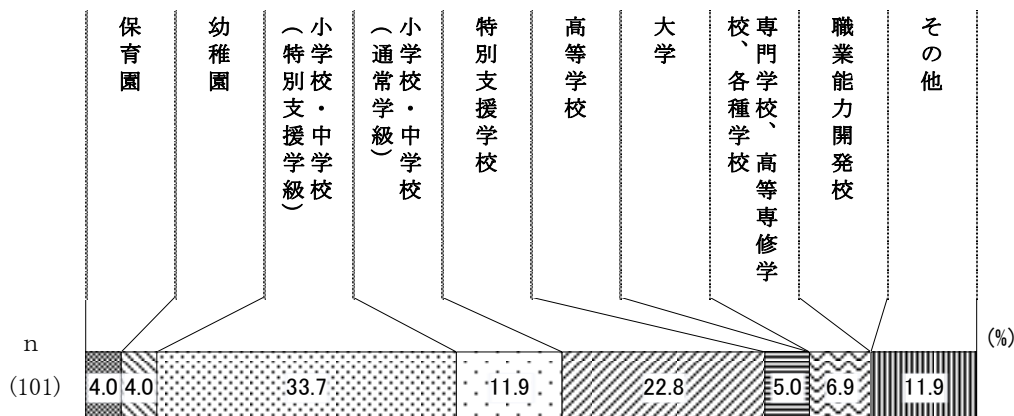
母親の就労状況を平成28年度、平成25年度調査と比較すると、《就労中》は平成28年度の30.8%から49.5%へと大きく増加し、「働いていないし、その意向もない」は平成25年度の21.5%から8.9%へ半分以下に減少している。

《参考》母親の就労状況—平成28年度、平成25年度調査との比較



(3) 通園・通学先 (通園・通学者)

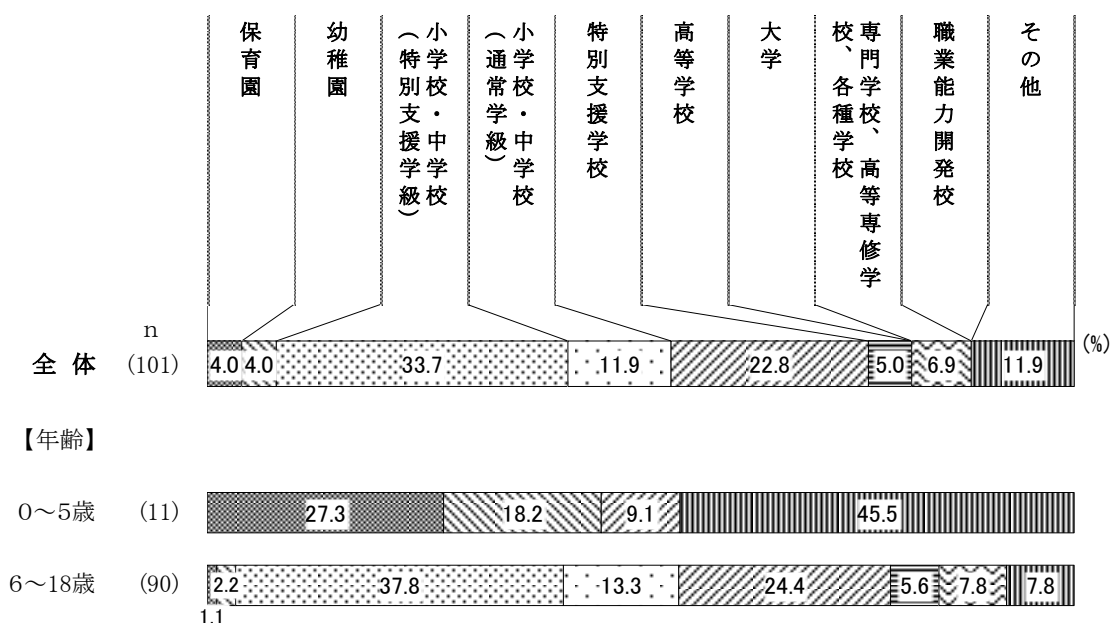
問17 通園・通学しているところはどこですか。(1つに〇)



通園・通学先は「小学校・中学校 (特別支援学級)」が33.7%で最も多く、これに「特別支援学校」が22.8%、「小学校・中学校 (通常学級)」が11.9%が続いている。

年齢別にみると、6～18歳は「小学校・中学校 (特別支援学級)」が37.8%、「特別支援学校」が24.4%となっている。

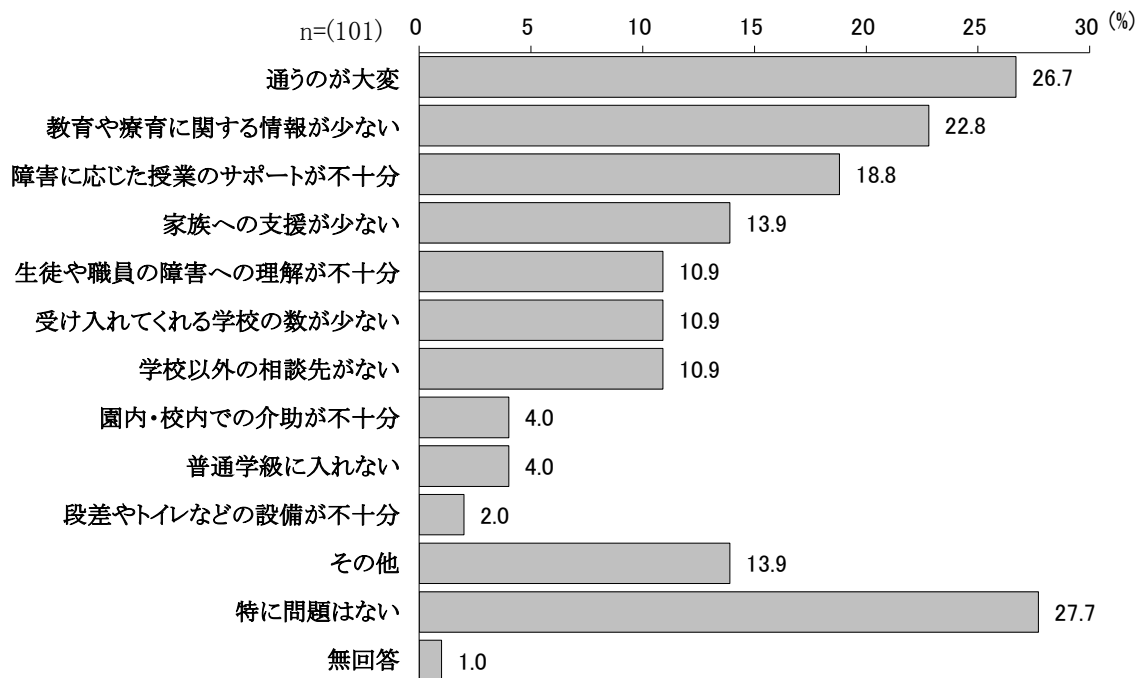
年齢別



(4) 通園・通学する上で困っていること (通園・通学者)

問18 通園・通学する上で困っていることはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)



通園・通学する上で困っていることは、「特に問題はない」が27.7%で最も多くなっている。実際に困っていることでは、「通うのが大変」が26.7%で最も多く、これに「教育や療育に関する情報が少ない」が22.8%、「障害に応じた授業のサポートが不十分」が18.8%と続いている。

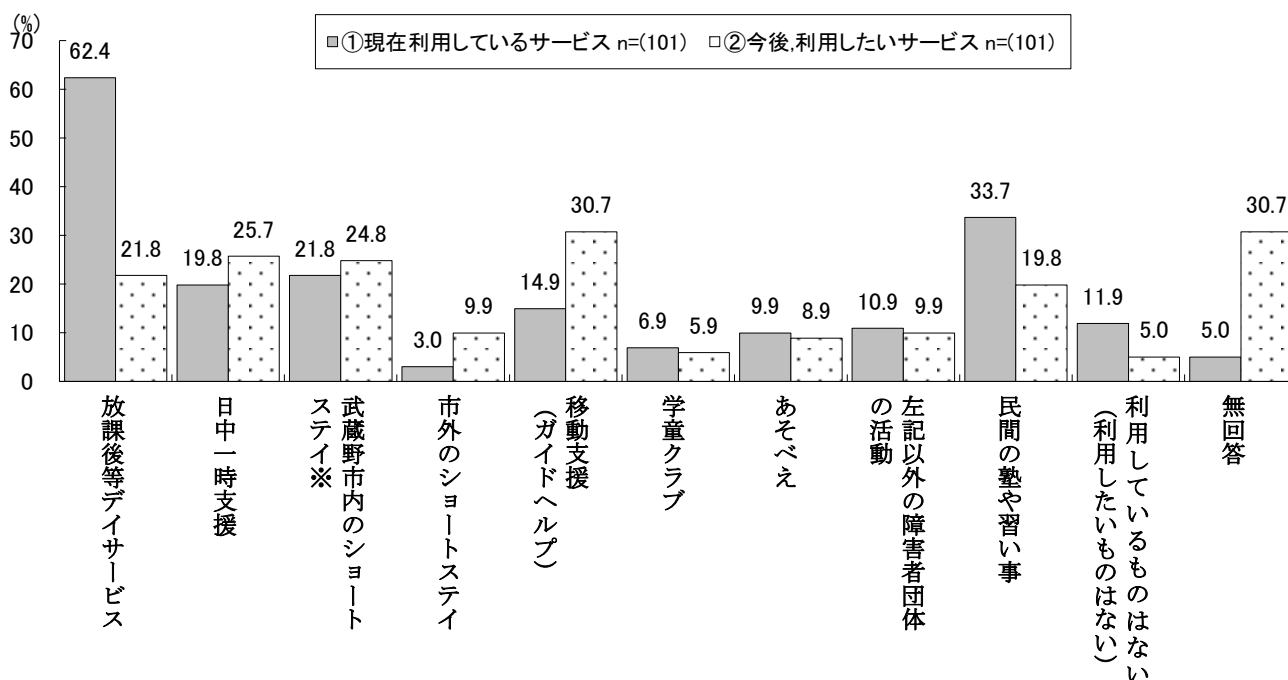
(5) 放課後や休日のサービス利用状況（通園・通学者）

問19 放課後や休みの日、以下のサービスを利用していますか。

①現在の利用状況、②今後の利用意向、③希望する利用回数をお答えください。

(①、②はあてはまるものすべて、③は②の「放課後等デイサービス」または「日中一時支援」に○をつけた方)

①現在利用しているサービス／②今後、利用したいサービス



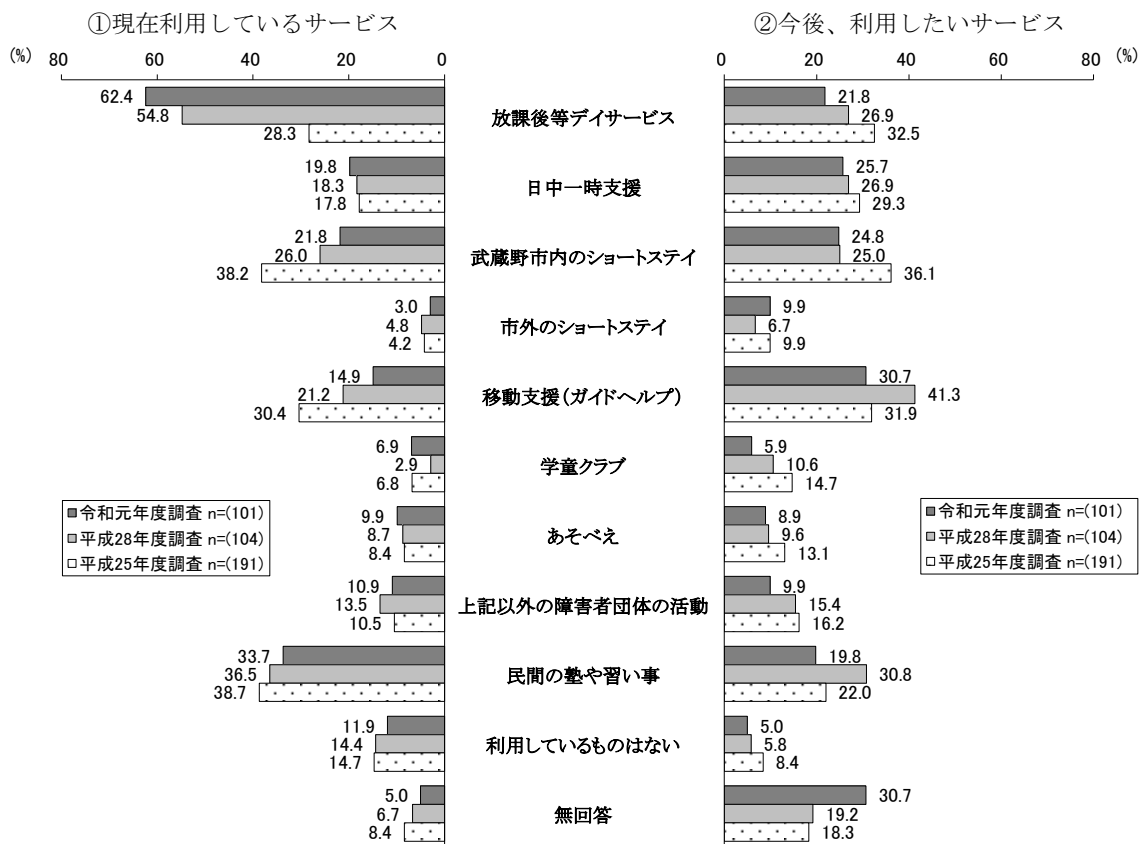
※武蔵野市内のショートステイ：桜はうす・今泉、井の頭はうす、なごみの家

①現在利用しているサービスは、「放課後等デイサービス」が62.4%と特に多い。以下、「民間の塾や習い事」が33.7%、「武蔵野市内のショートステイ」(21.8%)と「日中一時支援」(19.8%)が2割前後で続いている。

②今後、利用したいサービスは、「移動支援 (ガイドヘルプ)」が30.7%で最も多い。以下、「日中一時支援」(25.7%)、「武蔵野市内のショートステイ」(24.8%)、「放課後等デイサービス」(21.8%)が2割台で続いている。

“①現在利用しているサービス”と“②今後、利用したいサービス”を比較すると、現在よりも今後の希望が伸びているサービスとしては、「移動支援 (ガイドヘルプ)」(15.8ポイント増)、「市外のショートステイ」(6.9ポイント増)、「日中一時支援」(5.9ポイント増)となっている。

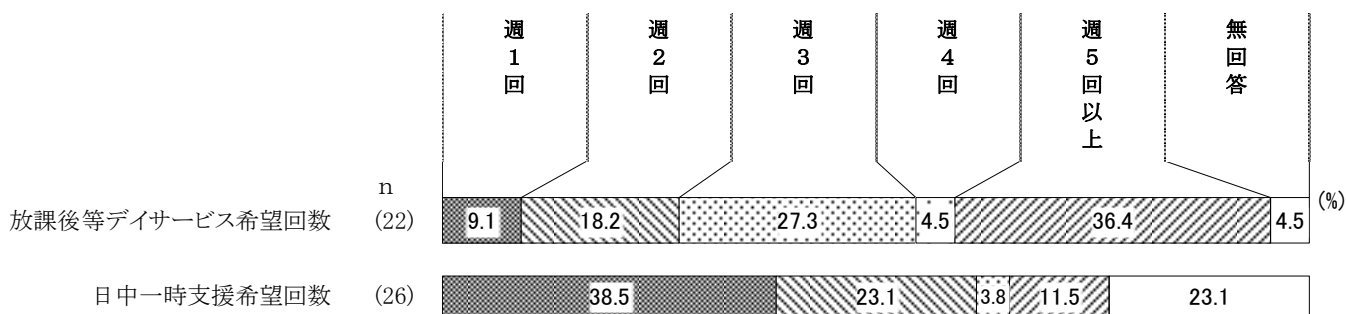
《参考》①現在利用しているサービス／②今後、利用したいサービス
 ー平成28年度、平成25年度調査との比較



平成28年度調査と比較すると、「①現在利用しているサービス」の「放課後等デイサービス」は平成28年度の54.8%から今回62.4%と増加している。

③希望する利用希望回数

※放課後等デイサービス／日中一時支援



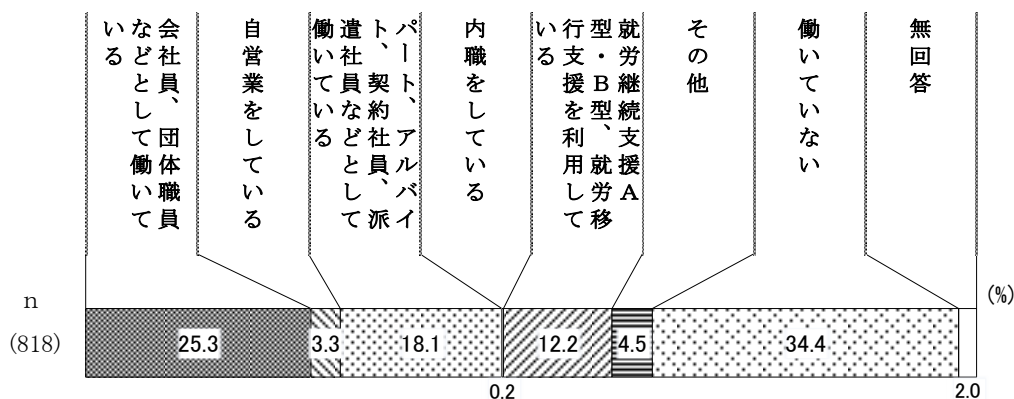
放課後等デイサービスを希望する利用回数は、「週5回以上」が36.4%で最も多くなっている。週3回以上は合計68.2%となり、週当たりの希望平均利用回数は3.5回となっている。

日中一時支援を希望する利用回数は、「週1回」が38.5%で最も多くなっている。週2回以上の合計は38.4%となり、週当たりの希望利用平均回数は2.1回となっている。

7. 就労について

(1) 就労状況（通園・通学者以外）

問20 あなたは、現在、どのように働いていますか。（1つに○）

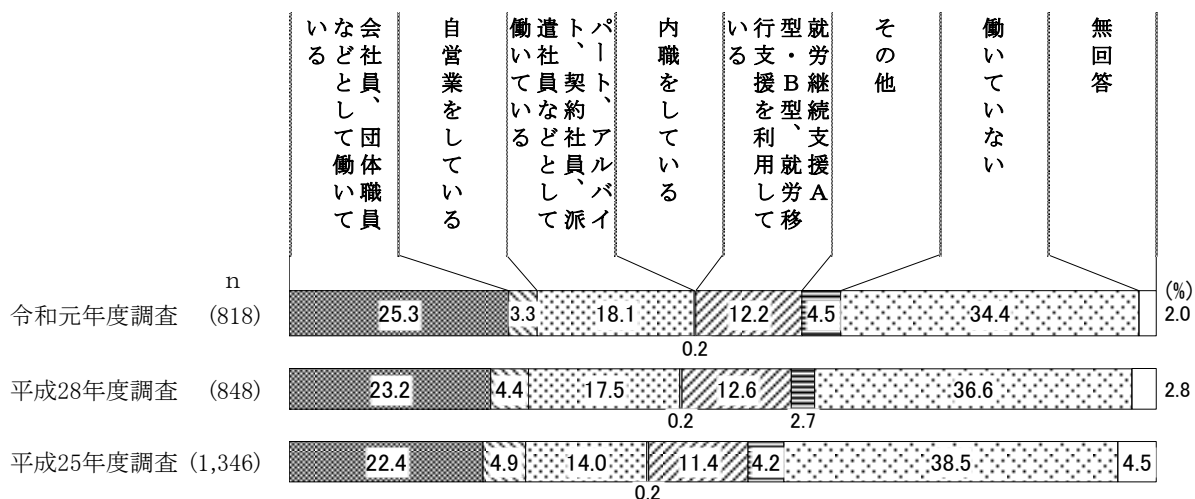


※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

現在通園・通学していない人に、現在の就労状況を聞いたところ、19歳～64歳の間では何らかの形で働いている人は63.6%、「働いていない」は34.4%となっている。就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」（25.3%）が2割台半ば、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」（18.1%）が約2割と多くなっている。

平成28年度調査と比較すると、「就労中」の人は平成28年度の60.6%から63.6%へと微増している。

《参考》就労状況（通園・通学者以外）－平成28年度、平成25年度調査との比較



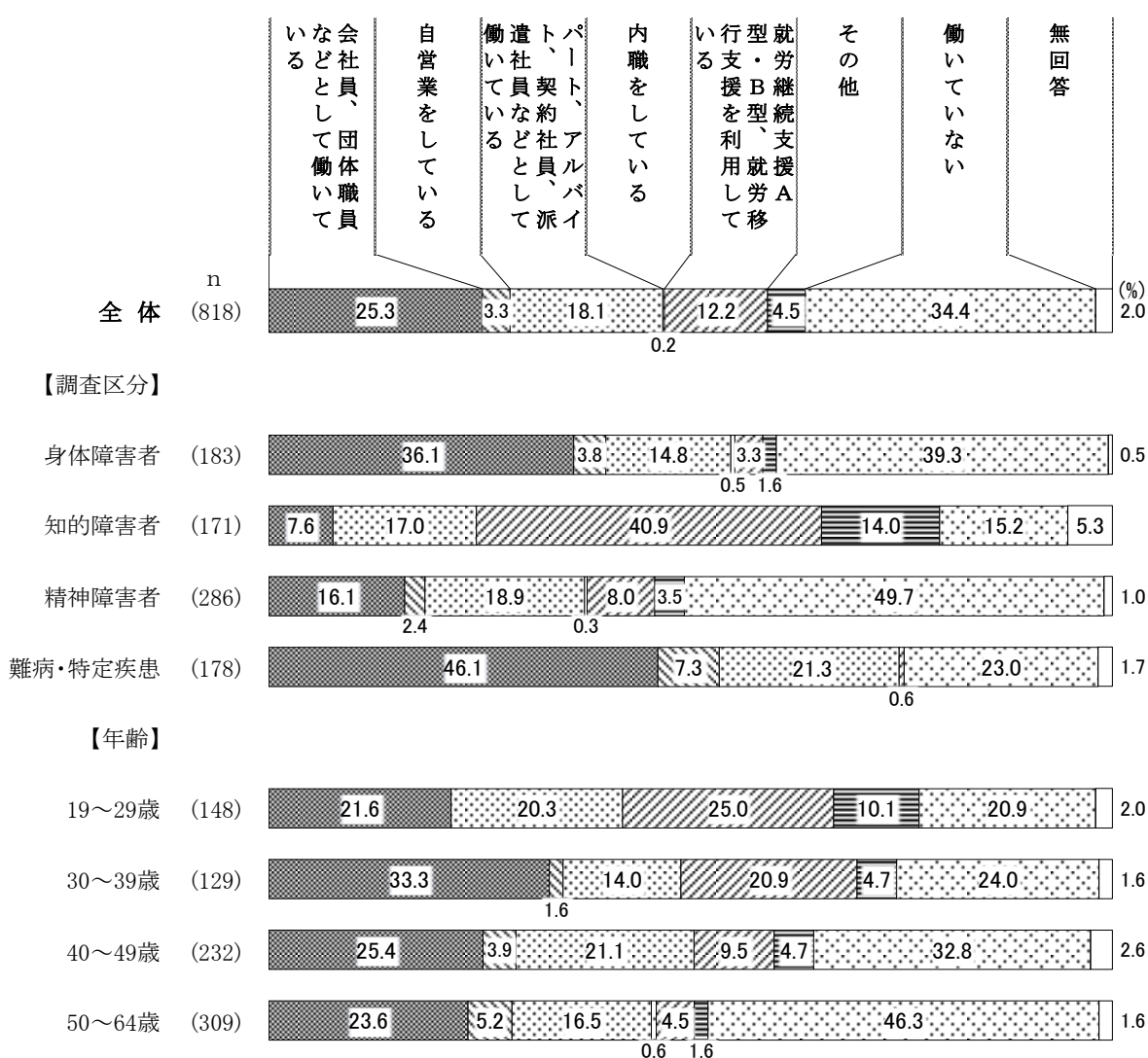
※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「働いていない」は精神障害者で49.7%、身体障害者で39.3%となっている。「会社員、団体職員などとして働いている」は難病・特定疾患で46.1%、身体障害者で36.1%、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」は難病・特定疾患で21.3%、それ以外の調査区分で1割台となっている。また、知的障害者では「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用している」が40.9%と多くなっている。

年齢別にみると、19歳から49歳の年齢にかけては就労している人が多く、50～64歳は「働いていない」が46.3%となっている。就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」とともに、19歳から39歳の年齢では「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用している」が多くなっている。

調査区分別、年齢別

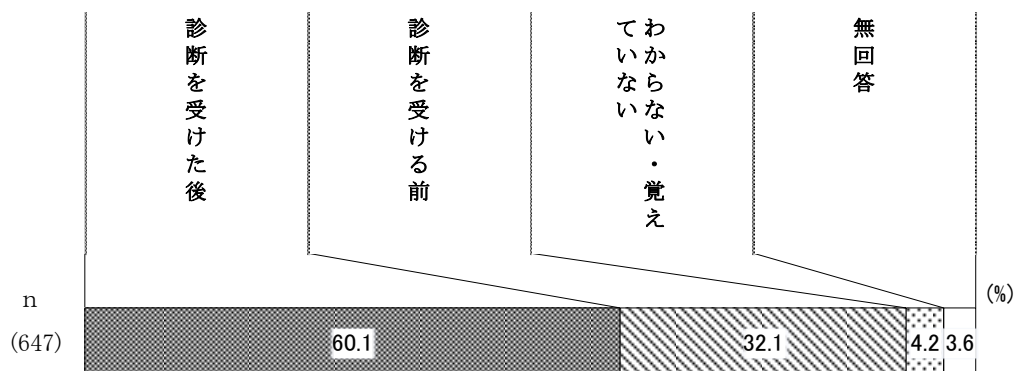


※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

(2) 現在の職場へ就職した時期（通園・通学者以外）

【問20で「会社員、団体職員などとして働いている」、「自営業をしている」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」、「内職をしている」、「就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用している」、「その他」と回答した方にお聞きします。】

問20-1 現在の職場に就職した、または現在の事業所を利用し始めたのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。（1つに○）



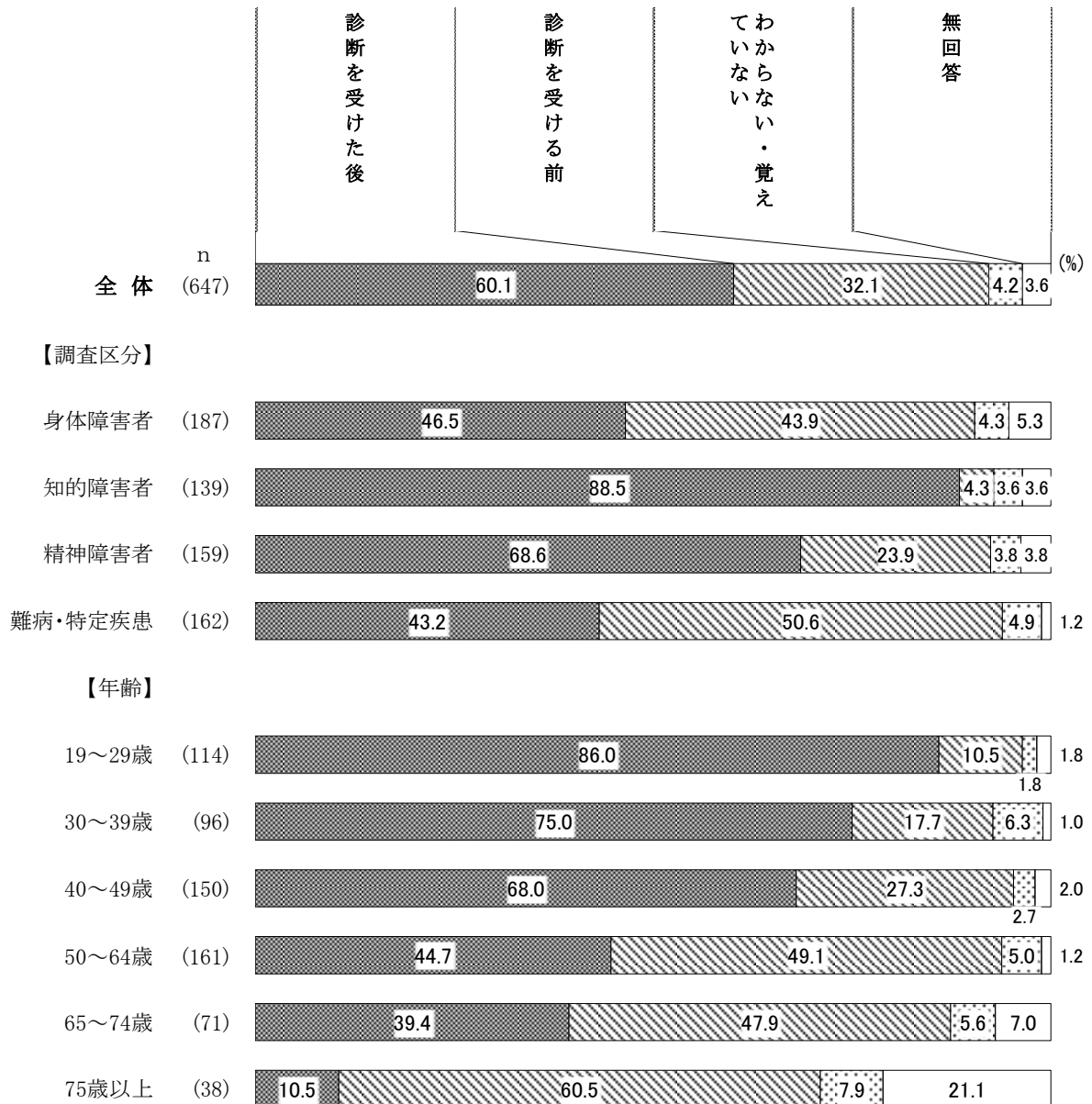
現在の職場に就職したのは、疾患や障害の「診断を受けた後」が60.1%、「診断を受ける前」が32.1%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「診断を受けた後」は知的障害者が88.5%と多く、精神障害者でも68.6%となっている。一方、「診断を受ける前」は難病・特定疾患が50.6%と多く、身体障害者でも43.9%となっている。

年齢別にみると、「診断を受けた後」は19～29歳で86.0%と多く、49歳以下では6割以上となっているが、50歳以上の年齢では半数以下となっている。

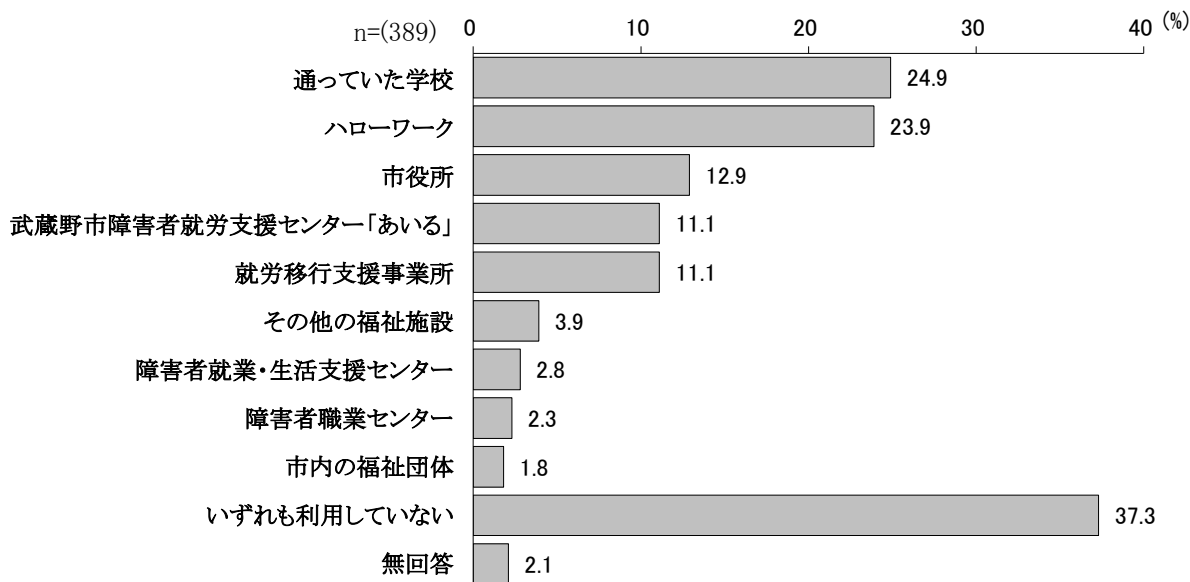
調査区分別、年齢別



(3) 就職の際に利用した機関（通園・通学者以外）

【問20-1で「診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】

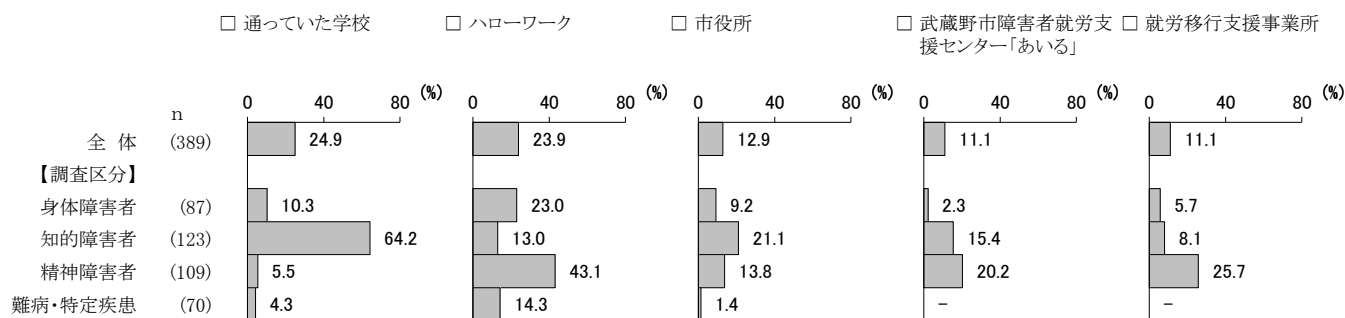
問20-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。（あてはまるものすべてに○）



就職する際に利用した機関は、「いずれも利用していない」が37.3%で最も多くなっている。利用したものでは、「通っていた学校」(24.9%)、「ハローワーク」(23.9%)が2割台、「市役所」(12.9%)、「武蔵野市障害者就労支援センター『あいる』」と「就労移行支援事業所」(ともに11.1%)が1割台となっている。

調査区分別にみると、「通っていた学校」は知的障害者が64.2%と特に多く、「ハローワーク」は精神障害者で43.1%と多い。また、「市役所」、「武蔵野市障害者就労支援センター『あいる』」は知的障害者と精神障害者で1割から2割台、「就労移行支援事業所」は精神障害者で25.7%と他の調査区分より多くなっている。

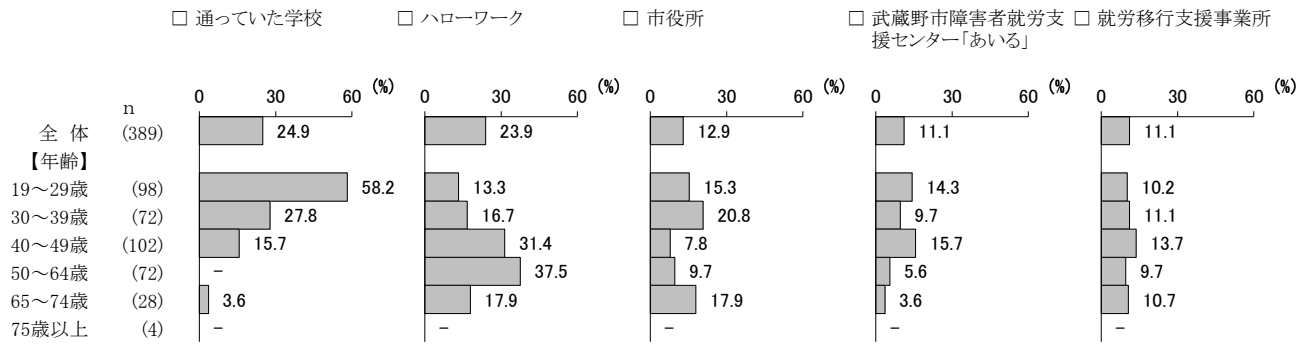
調査区分別（上位5項目）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、19～29歳では「通っていた学校」(58.2%)が多く、40歳から64歳では「ハローワーク」が3割台と多くなっている。

年齢別（上位5項目）

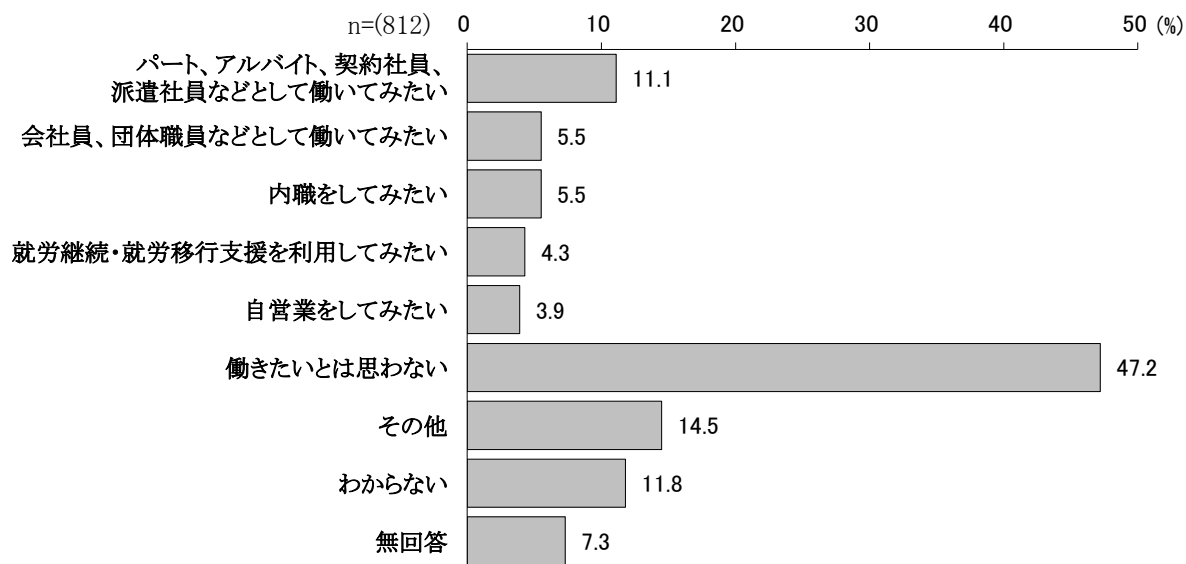


(4) 今後の就労意向

【問20で「働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問20-3 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

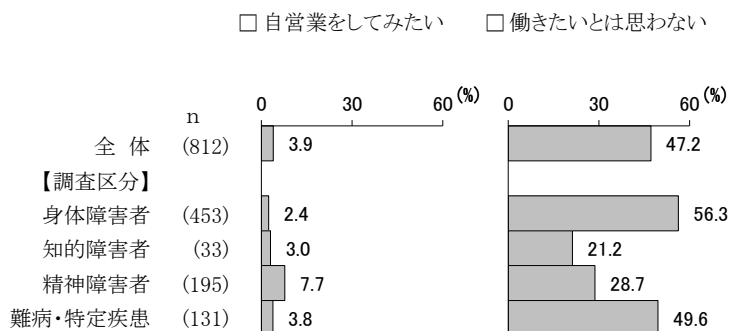
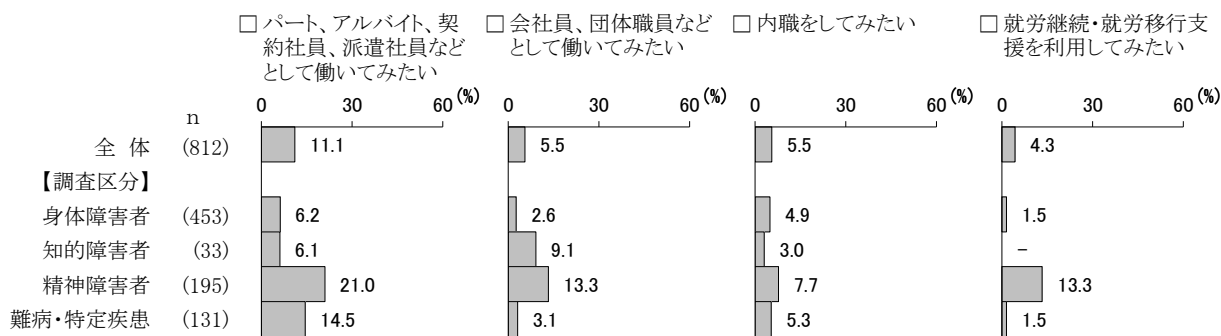


今後の就労意向としては、「働きたいとは思わない」が47.2%で特に多くなっている。働きたい人の就労形態としては、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が11.1%で最も多くなっている。

調査区分別にみると、精神障害者では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」(21.0%)、「会社員、団体職員などとして働いてみたい」、「就労継続・就労移行支援を利用してみたい」(ともに13.3%)が他の調査区分より多くなっている。また、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」は難病・特定疾患でも14.5%となっている。「働きたいとは思わない」は身体障害者で56.3%、難病・特定疾患で49.6%と多くなっている。

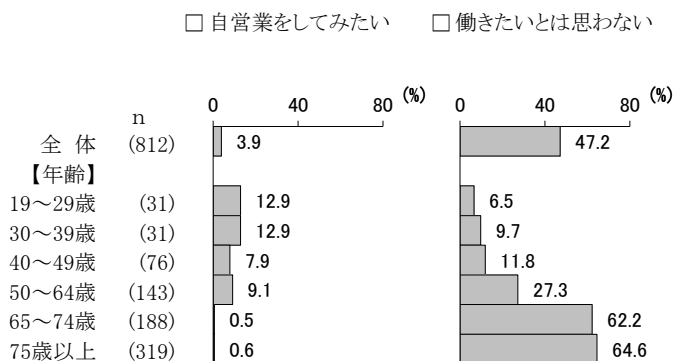
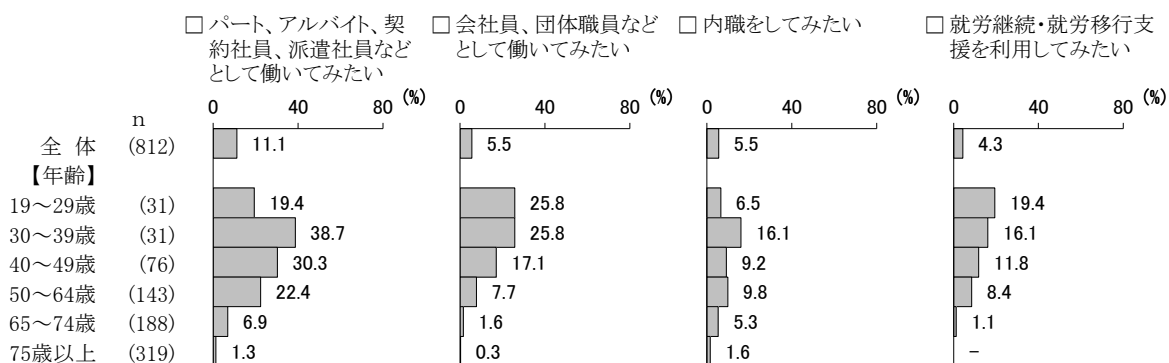
第3章 調査結果の詳細

調査区分別



年齢別にみると、64歳までの年齢では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」、39歳までの年齢では「会社員、団体職員などとして働いてみたい」の希望が多くなっている。「就労継続・就労移行支援を利用してみたい」は49歳までで1割台となっている。65歳以上では「働きたいと思わない」が6割以上を占めている。

年齢別

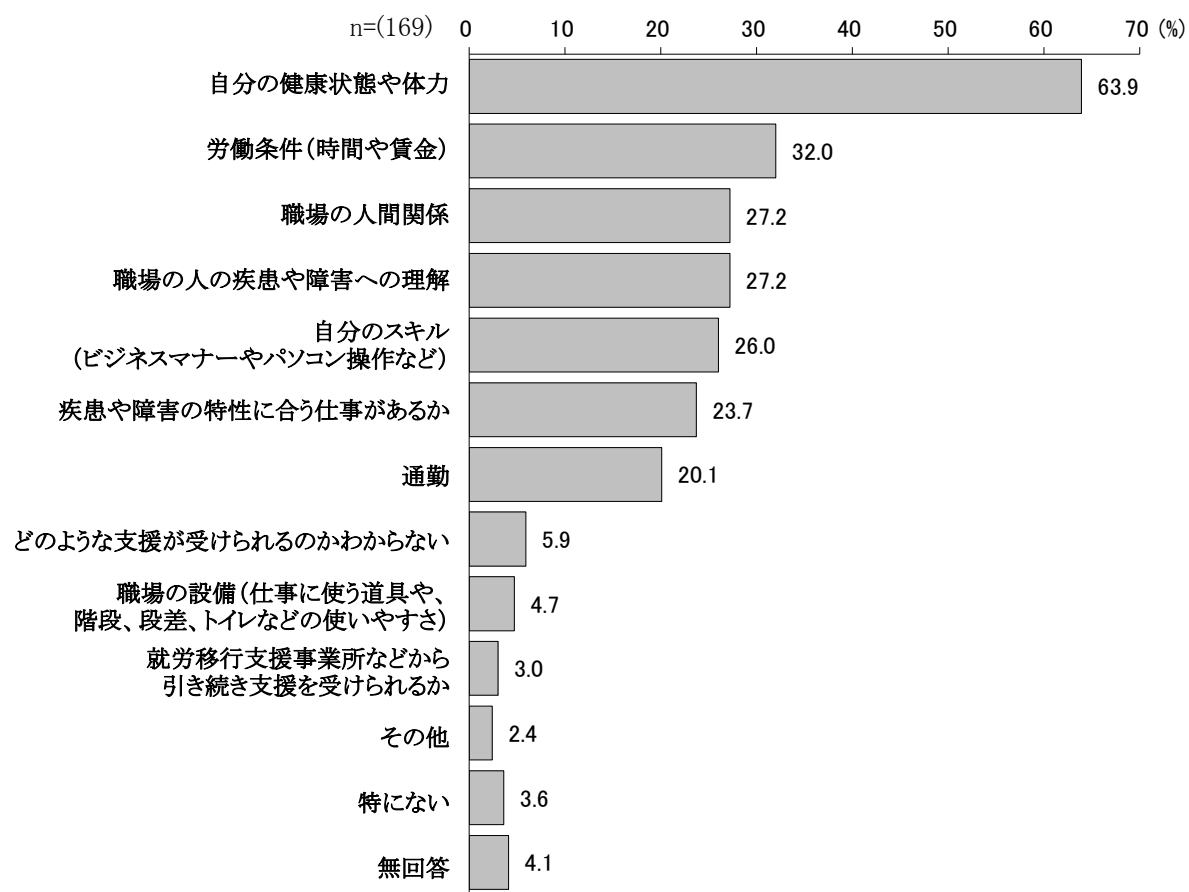


(5) 就労の際に心配なこと

【問20-3で「会社員、団体職員などとして働いてみたい」、「自営業をしてみたい」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」、「内職をしてみたい」、「就労継続・就労移行支援を利用してみたい」と回答した方にお聞きします。】

問20-4 働くにあたって、特に心配なことはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

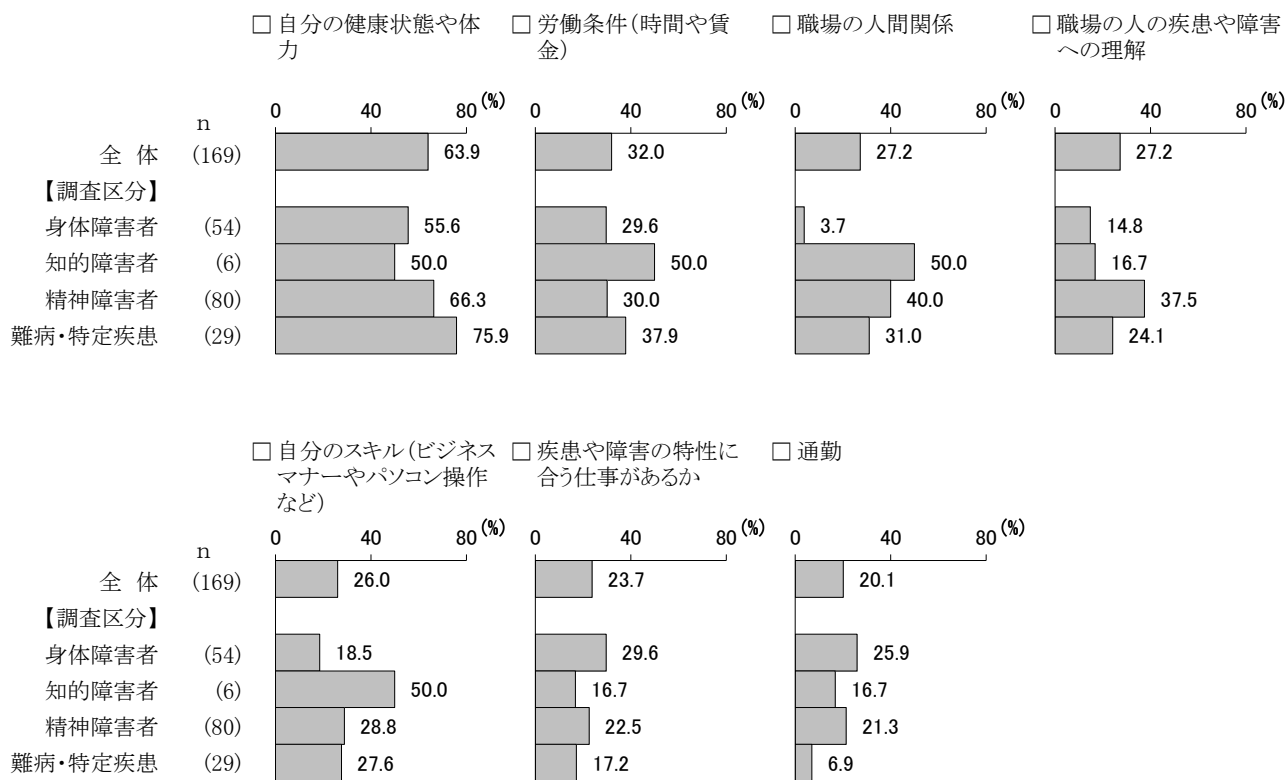


働くにあたって、特に心配なことは、「自分の健康状態や体力」が63.9%で特に多く、以下、「労働条件」が32.0%、「職場の人間関係」、「職場の人の疾患や障害への理解」(ともに27.2%)、「自分のスキル」(26.0%)、「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」(23.7%)、「通勤」(20.1%)が2割台で続いている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「自分の健康状態や体力」は難病・特定疾患（75.9%）と精神障害者（66.3%）で特に多い。精神障害者では「職場の人間関係」（40.0%）や「職場の人の疾患や障害への理解」（37.5%）も多くなっている。

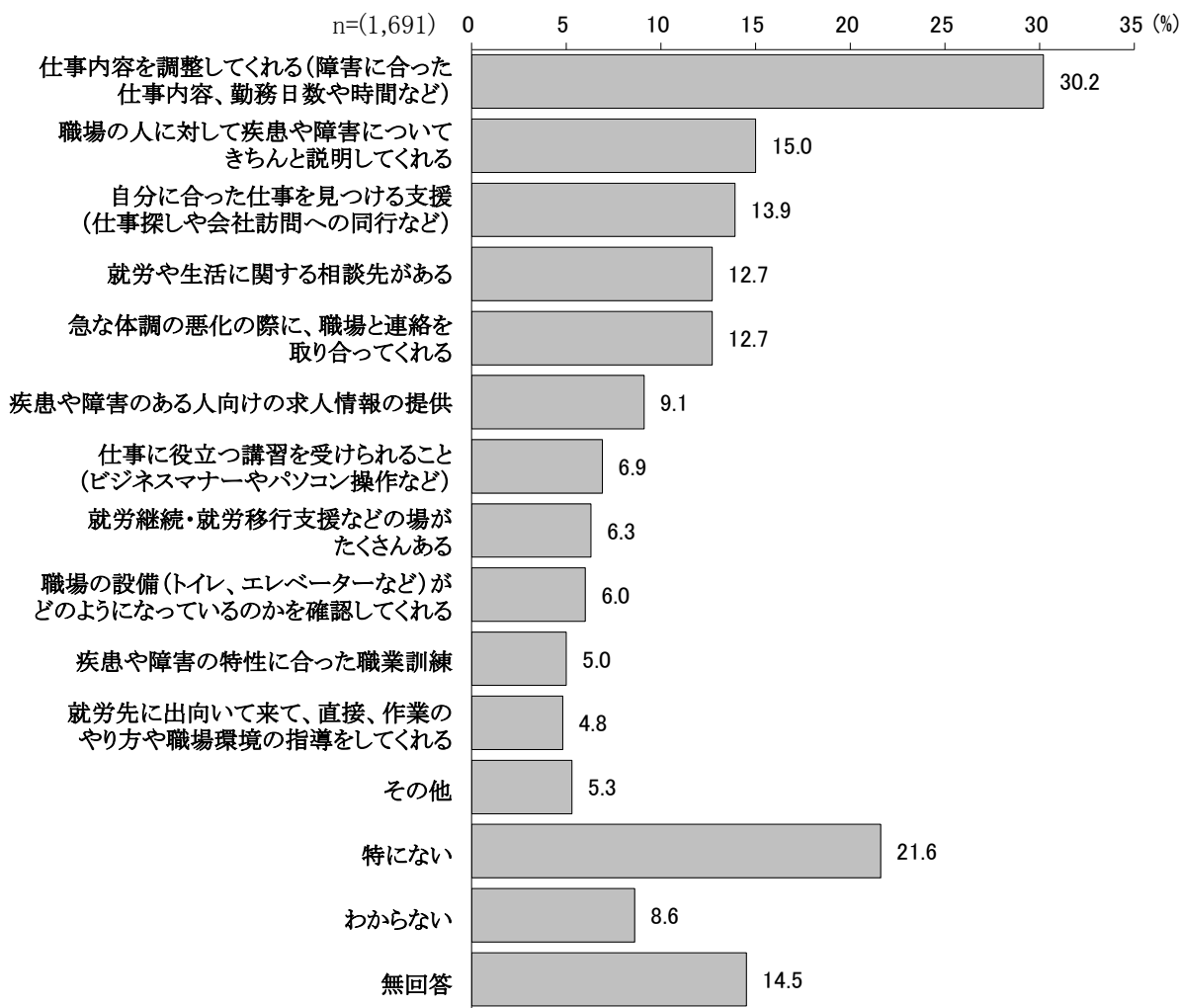
調査区分別（上位7項目）



(6) 必要な就労支援

問21 あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

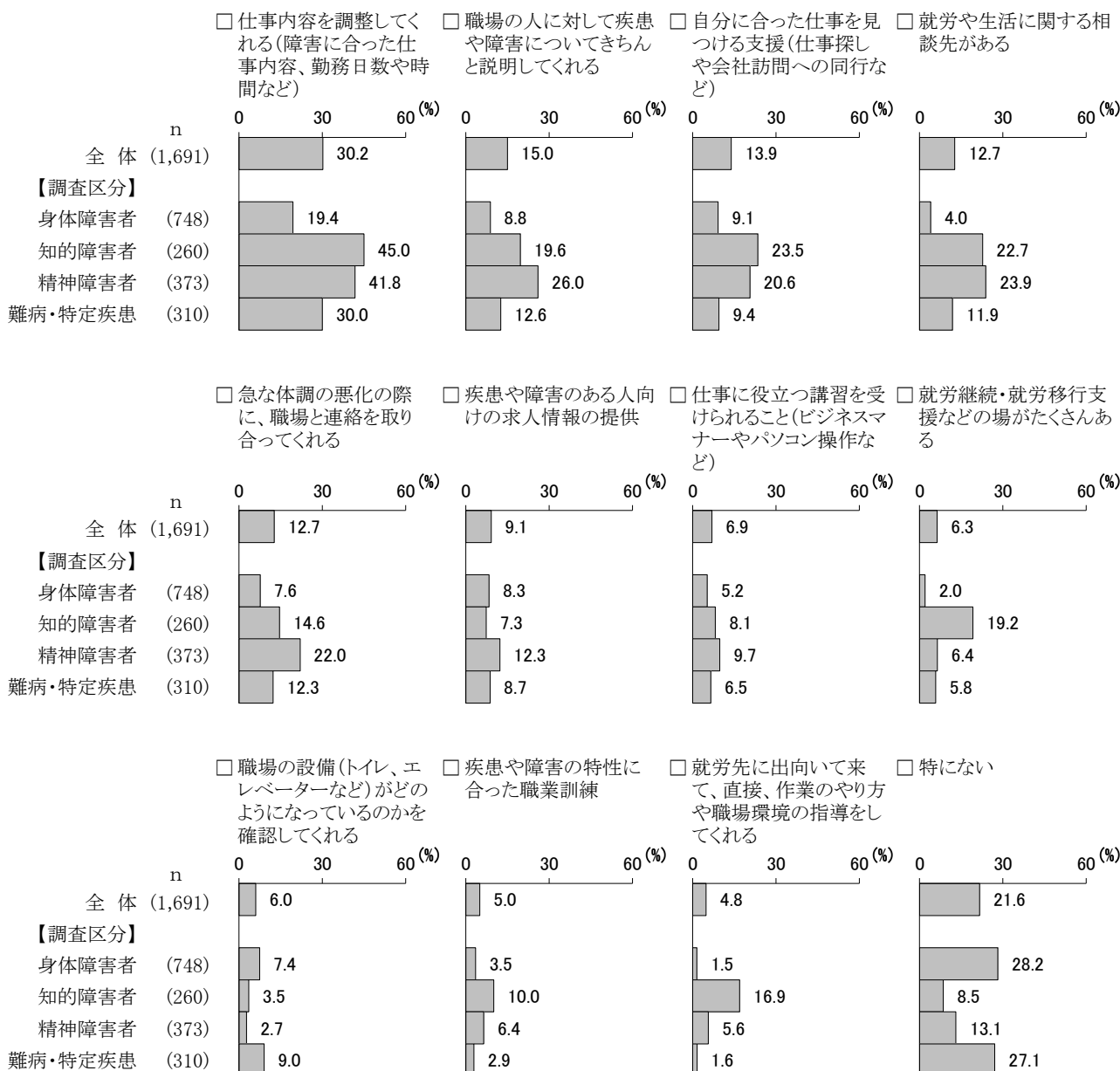


働く際、あったらよい支援は、「仕事内容を調整してくれる」が30.2%で最も多い。以下、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」(15.0%)、「自分に合った仕事を見つける支援」(13.9%)、「就労や生活に関する相談先がある」、「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」(ともに12.7%)が1割台で続いている。また、「特にない」が21.6%となっている。

第3章 調査結果の詳細

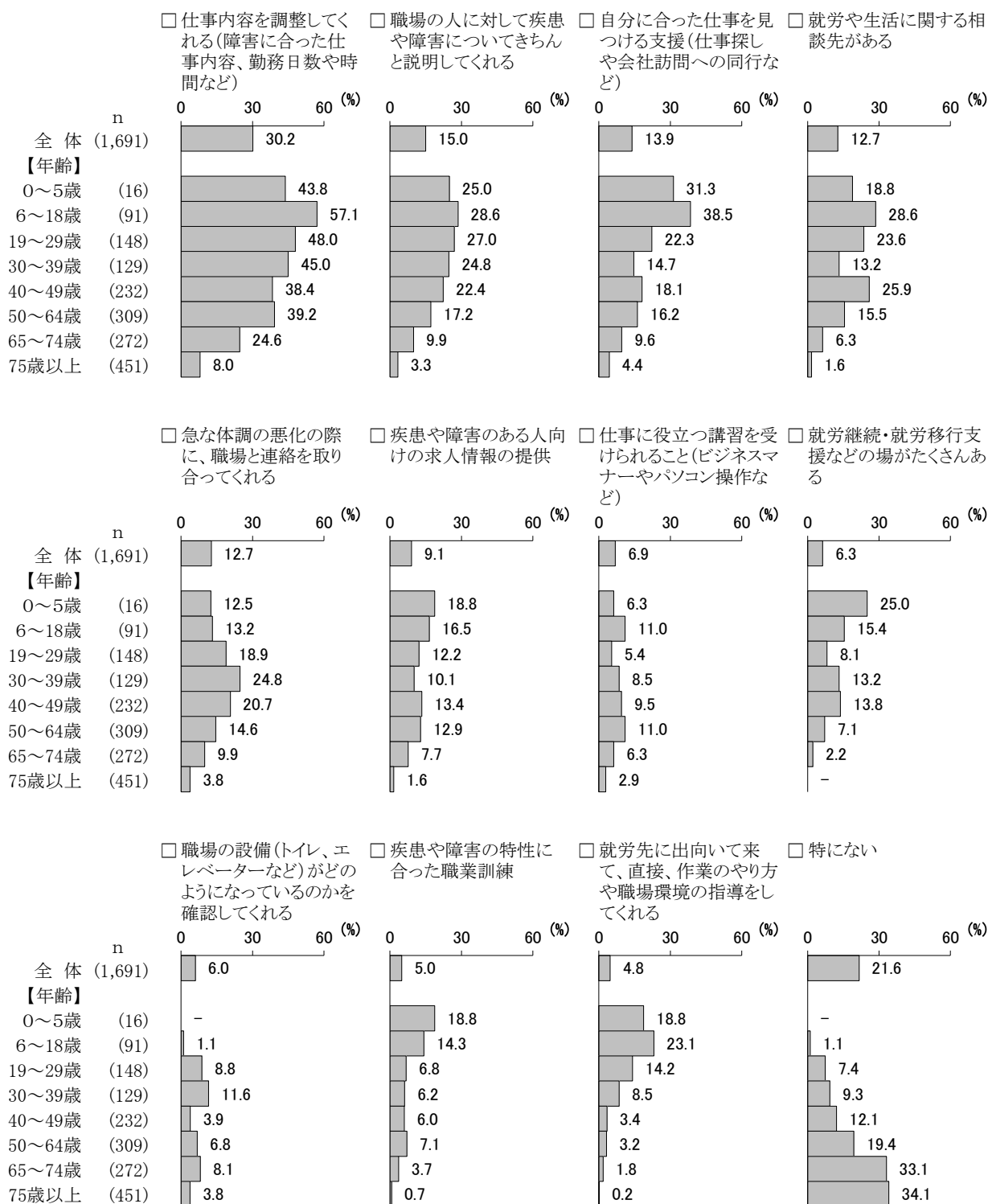
調査区分別にみると、知的障害者と精神障害者では「仕事内容を調整してくれる」が4割台、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」、「自分に合った仕事を見つける支援」、「就労や生活に関する相談先がある」が2割前後で他の調査区分より多くなっている。この他、「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」は精神障害者で22.0%、「就労継続・就労移行支援などの場がたくさんある」は知的障害者で19.2%と多くなっている。なお、「特にない」は身体障害者と難病・特定疾患で3割弱と多くなっている。

調査区分別（上位11項目+「特にない」）



年齢別にみると、「仕事内容を調整してくれる」をはじめ、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」、「自分に合った仕事を見つける支援」、「就労や生活に関する相談先がある」は49歳まではおおむね共通し、その後減少している。「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」は30～39歳を中心に多く、「就労先に出向いて来て、直接、作業のやり方や職場環境の指導をしてくれる」は6～18歳で23.1%と多くなっている。また、「特にない」は年齢が上がるとともに多くなり、65歳以上では3割台となっている。

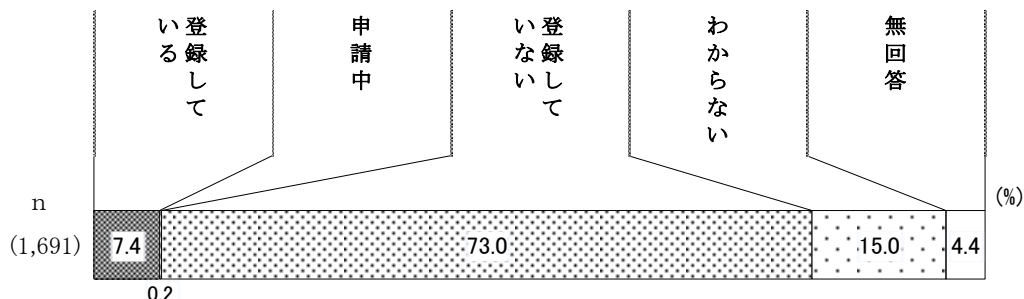
年齢別（上位11項目+「特にない」）



8. 災害時の対応について

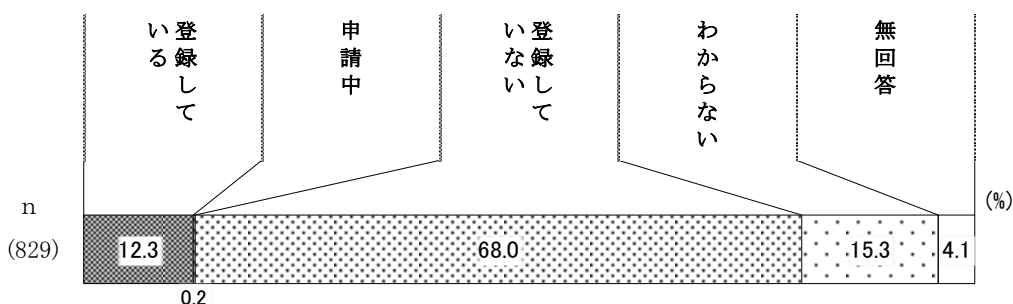
(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況

問22 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)



市の災害時要援護者対策事業に「登録している」は7.4%、「申請中」は0.2%、「登録していない」が73.0%を占めている。

災害時要援護者対策事業の対象者のみ



災害時要援護者対策事業の対象者

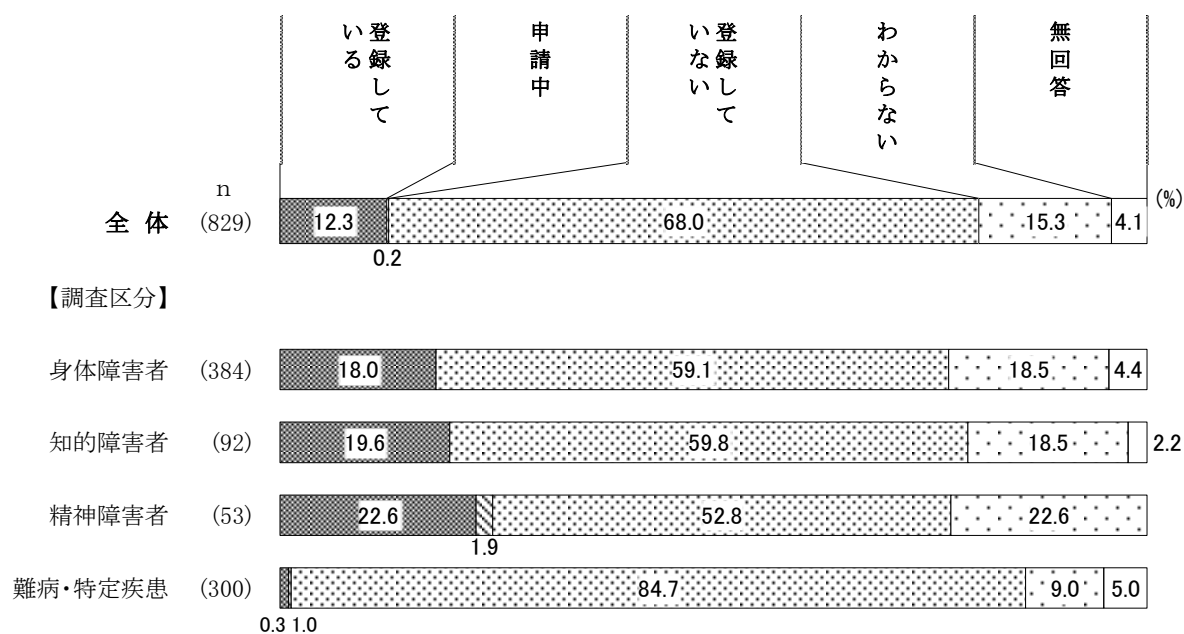
対象条件 (いずれかに当てはまる方)	今回調査の該当設問
①要介護3～5	問13-1「要介護度」で要介護3～5と回答した方
②身体障害者手帳第1種の1・2級 (心臓・腎臓機能障害のみの方は除く)※	問7-1「身体障害者手帳等級」で1・2級と回答した方
③愛の手帳1・2度	問7-1「愛の手帳等級」で1・2度と回答した方
④精神手帳1・2級の単身世帯	問7-1「精神障害者保健福祉手帳等級」で1・2級と回答の上、問4「同居者」でひとり暮らしと回答した方
⑤市の生活支援を受けている難病患者	調査区分「難病・特定疾患」の方で、問8「医療費の助成状況」を受けていないと回答した以外の方
⑥その他市長が必要と認めた方※	該当設問なし

※①の「第1種」、「心臓・腎臓機能障害のみの方は除く」、⑥「市長が認めた方」は調査票からは導き出せないため、回答者の中に制度の対象外の方が含まれている可能性がある。

これを市の災害時要援護者対策事業の対象者に限ってみると、「登録している」は12.3%、「申請中」は0.2%、「登録していない」は68.0%となっている。

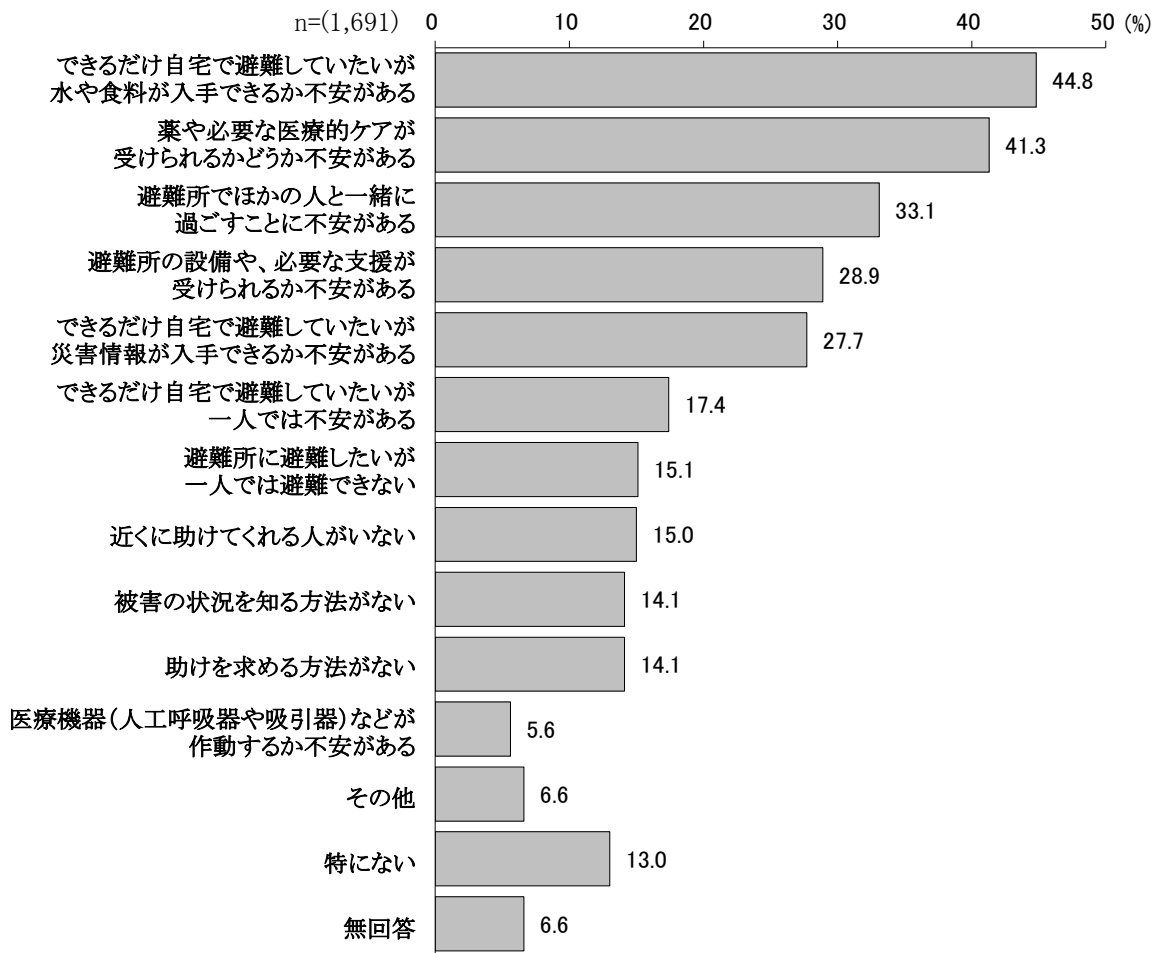
調査区分別にみると、「登録している」は精神障害者で22.6%、知的障害者で19.6%、身体障害者で18.0%となっている。

調査区分別－災害時要援護者対策事業の対象者のみ



(2) 災害時の不安

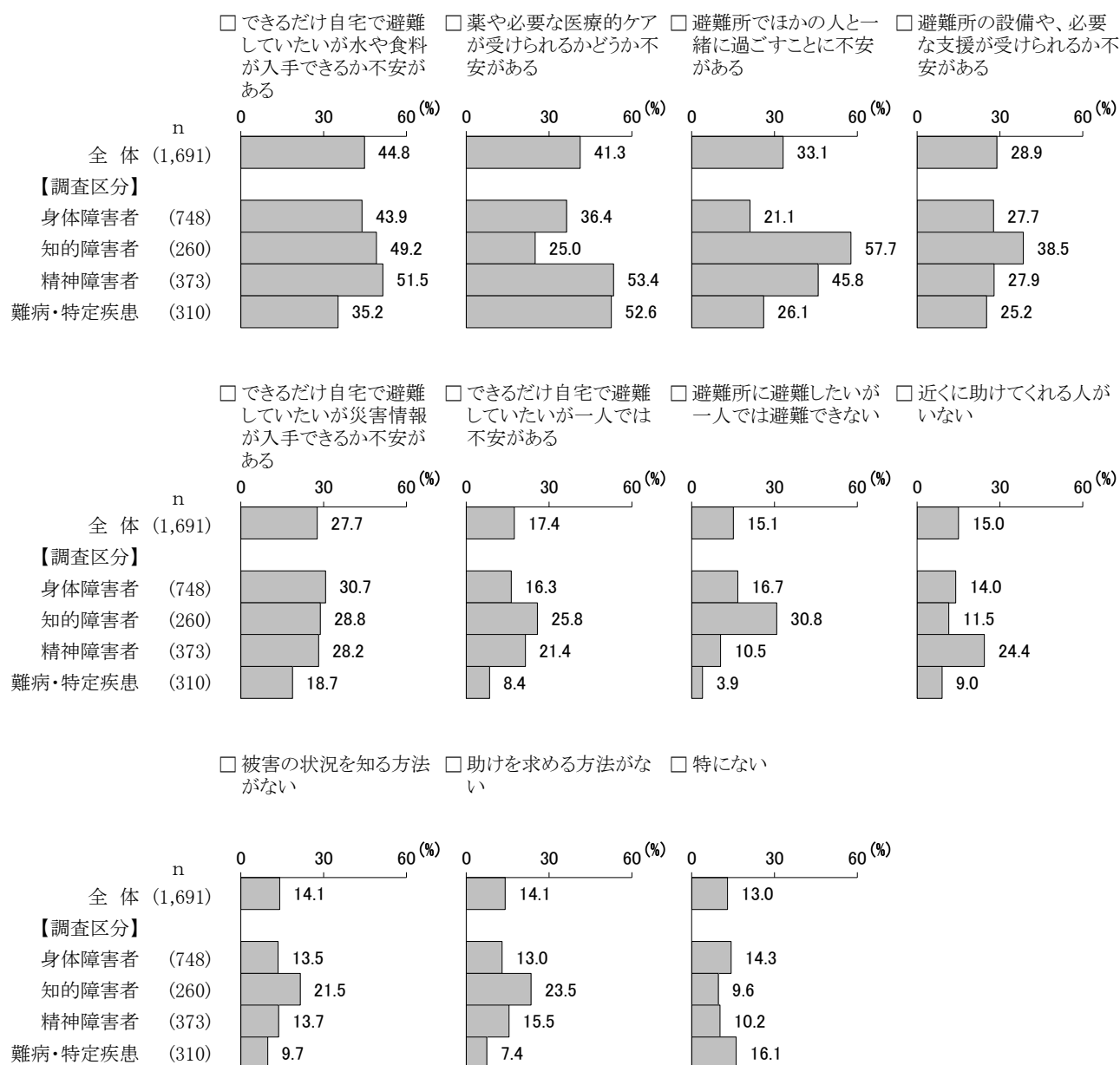
問23 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。
 (あてはまるものすべてに○)



大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことは、「できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある」(44.8%)、「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」(41.3%)の2項目が4割台で多くなっている。以下、「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」が33.1%、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」(28.9%)、「できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある」(27.7%)が2割台で続いている。

調査区分別にみると、「できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある」はいずれの調査区分でも多くなっている。「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」は精神障害者（53.4%）と難病・特定疾患（52.6%）で5割台と多くなっている。「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」は知的障害者で57.7%と特に多く、精神障害者でも45.8%となっている。知的障害者ではこの他にも「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」、「避難所に避難したいが一人では避難できない」、「被害の状況を知る方法がない」、「助けを求める方法がない」と多岐にわたる不安がより強く示されている。精神障害者では、「近くに助けてくれる人がいない」が24.4%と唯一2割台となっている。

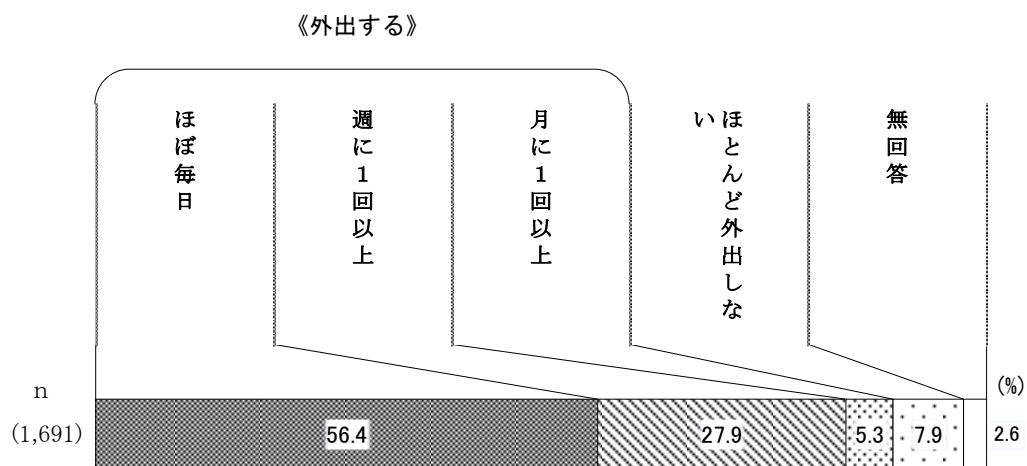
調査区分別（上位10項目＋「特にない」）



9. 外出の状況について

(1) 外出頻度

問24 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

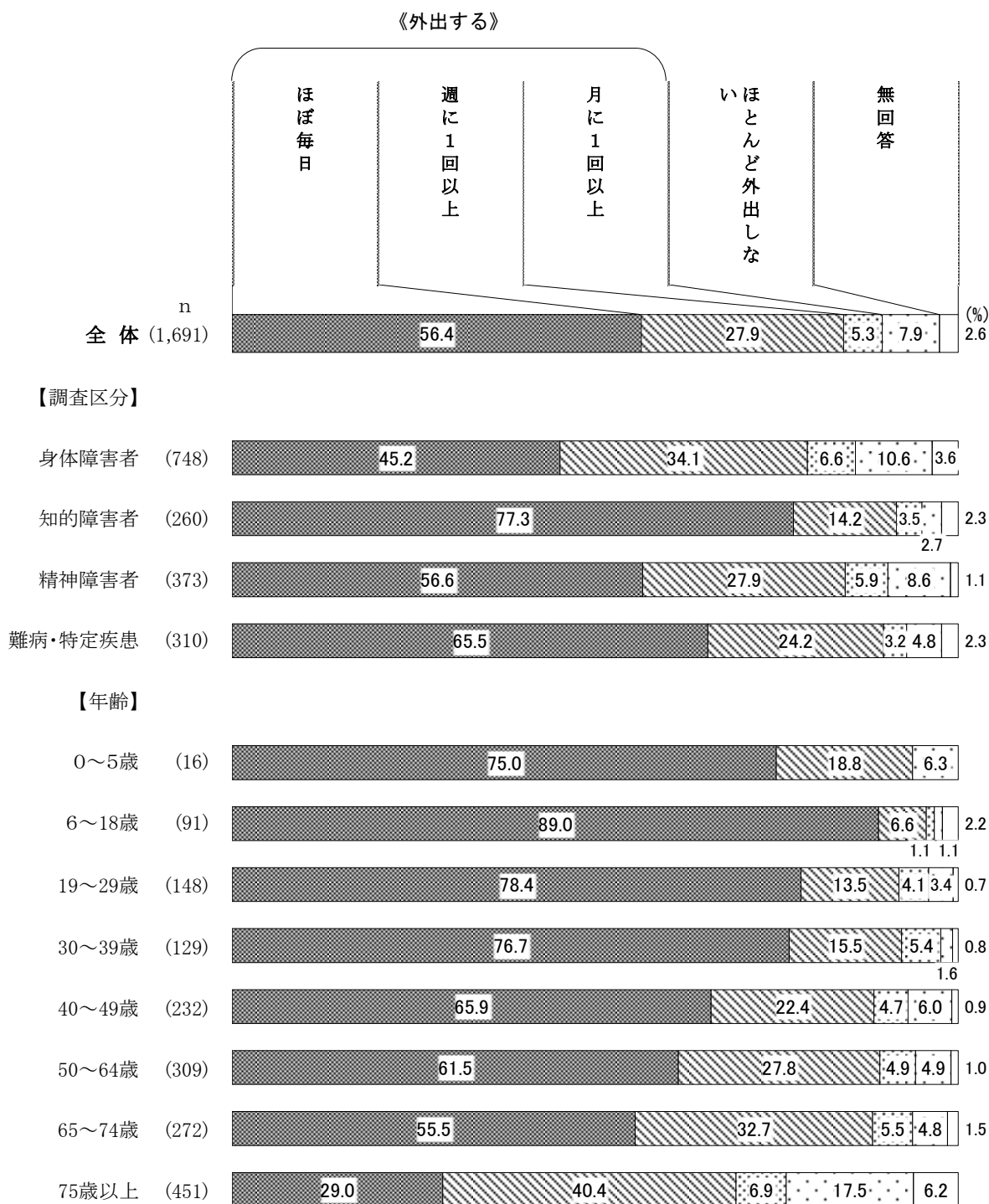


普段の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」が56.4%、「週に1回以上」が27.9%、「月に1回以上」が5.3%となっており、少なくとも月1回以上《外出する》人は89.6%となっている。

調査区別にみると、《外出する》はいずれの調査区分でも8割以上と多くなっている。「ほぼ毎日」は知的障害者で77.3%となっている。

年齢別にみると、《外出する》は74歳までの年齢では9割台、75歳以上でも76.3%となっている。「ほぼ毎日」は6～18歳で89.0%、19歳から39歳の年齢にかけても7割台と多いが、年齢が上がるとともに少なくなる。

調査区分別、年齢別

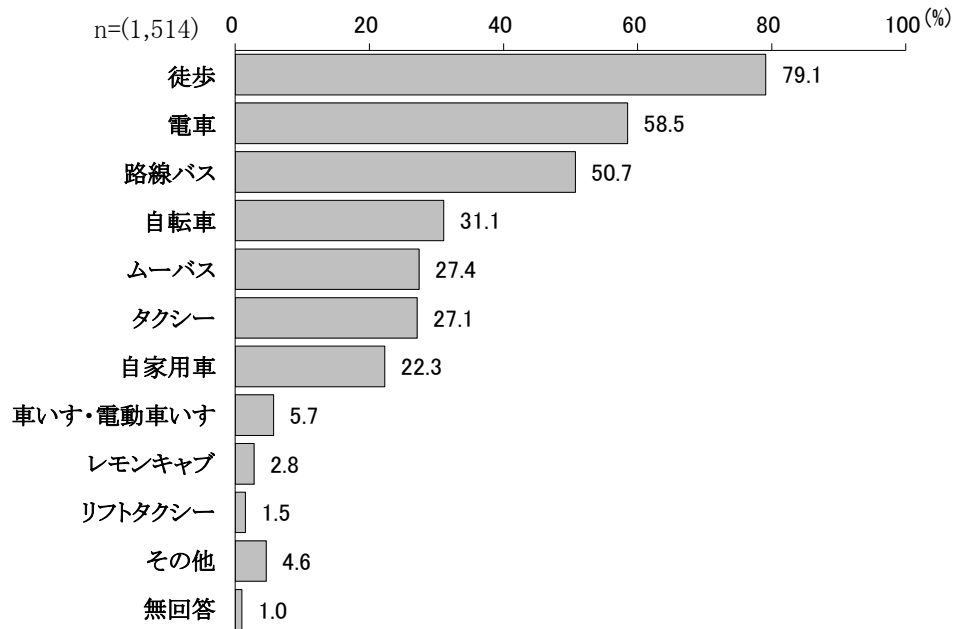


(2) 外出の際の移動手段

【問24で「ほぼ毎日」、「週に1回以上」、「月に1回以上」と回答した方にお聞きします。】

問24-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。

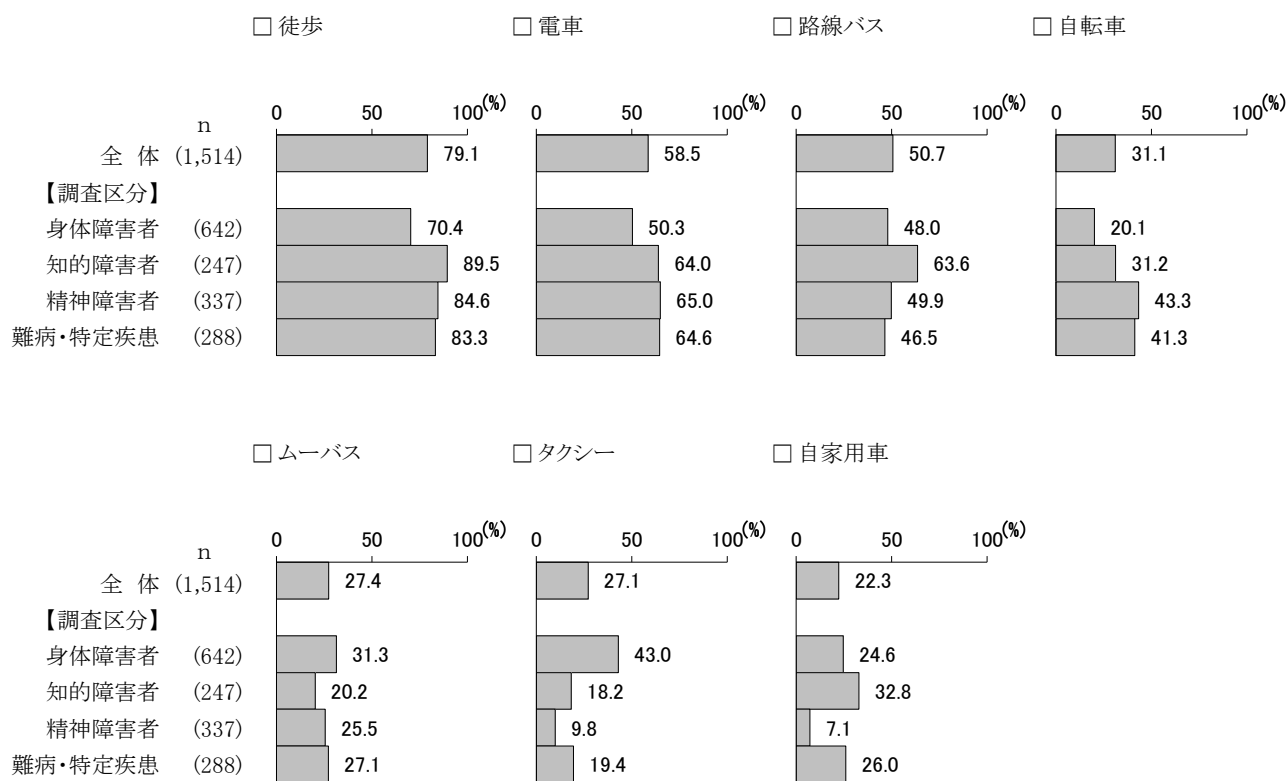
(あてはまるものすべてに○)



外出する際に利用する移動手段は、「徒歩」が79.1%で最も多く、以下、「電車」(58.5%)、「路線バス」(50.7%)が5割台、「自転車」が31.1%、「ムーバス」(27.4%)、「タクシー」(27.1%)、「自家用車」(22.3%)が2割台で続いている。

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「徒歩」や「電車」、「路線バス」の公共交通機関が中心となっている。精神障害者と難病・特定疾患では「自転車」が4割台、身体障害者では「タクシー」が43.0%と他の調査区分より多くなっている。

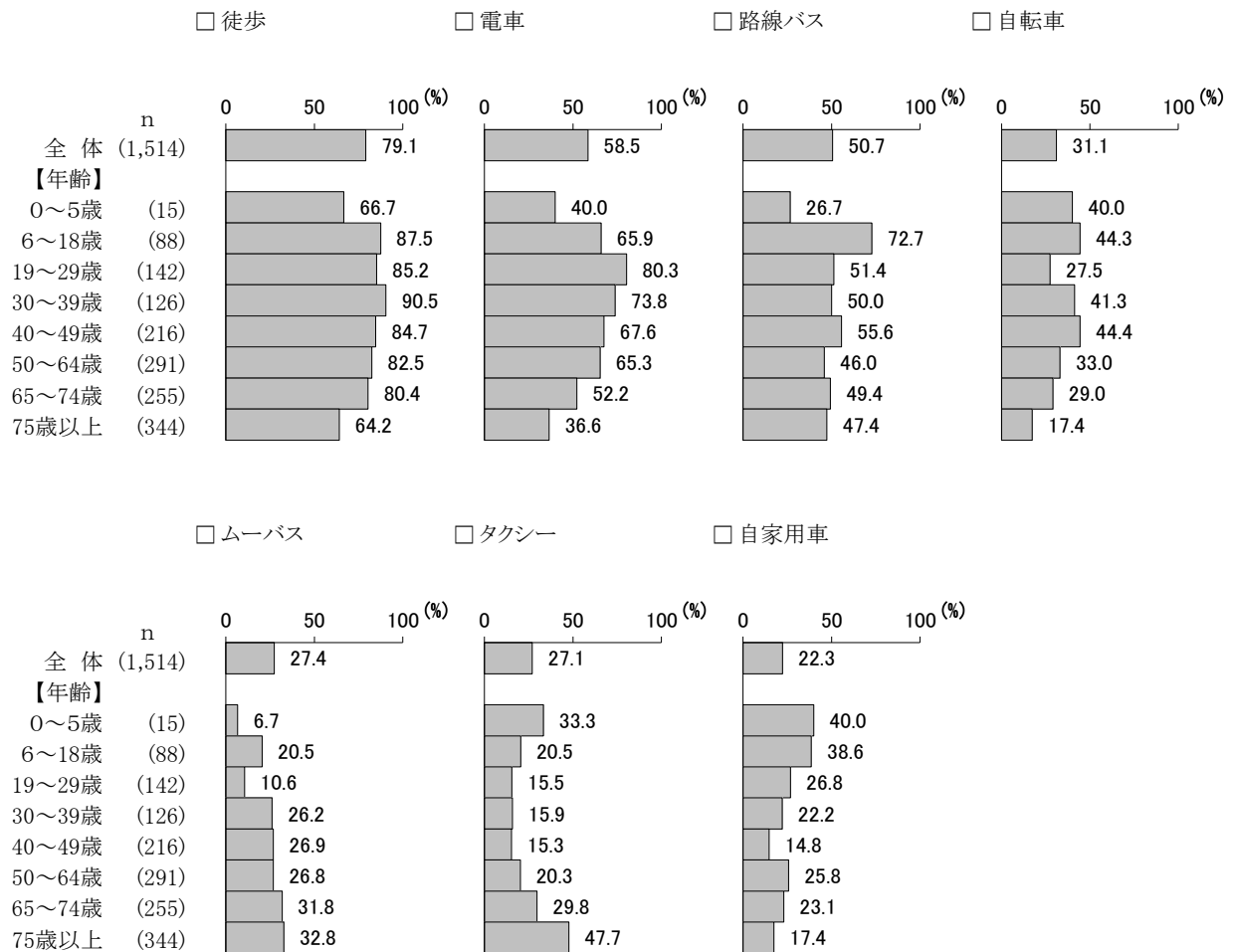
調査区分別（上位7項目）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「徒歩」はすべての年齢で6割以上、「電車」は64歳までで6割以上となっている。「路線バス」、「自転車」、「ムーバス」は幅広い年齢で利用されている中で、6～18歳では「路線バス」が72.7%と多くなっている。また、75歳以上では「タクシー」が47.7%、6～18歳では「自家用車」が38.6%と他の年齢より多くなっている。

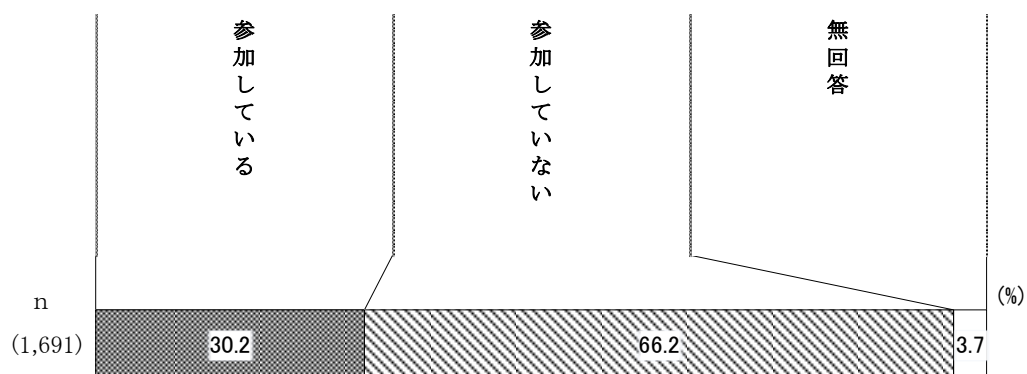
年齢別（上位7項目）



10. 趣味の活動や地域の活動について

(1) 趣味などの活動への参加状況

問25 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)



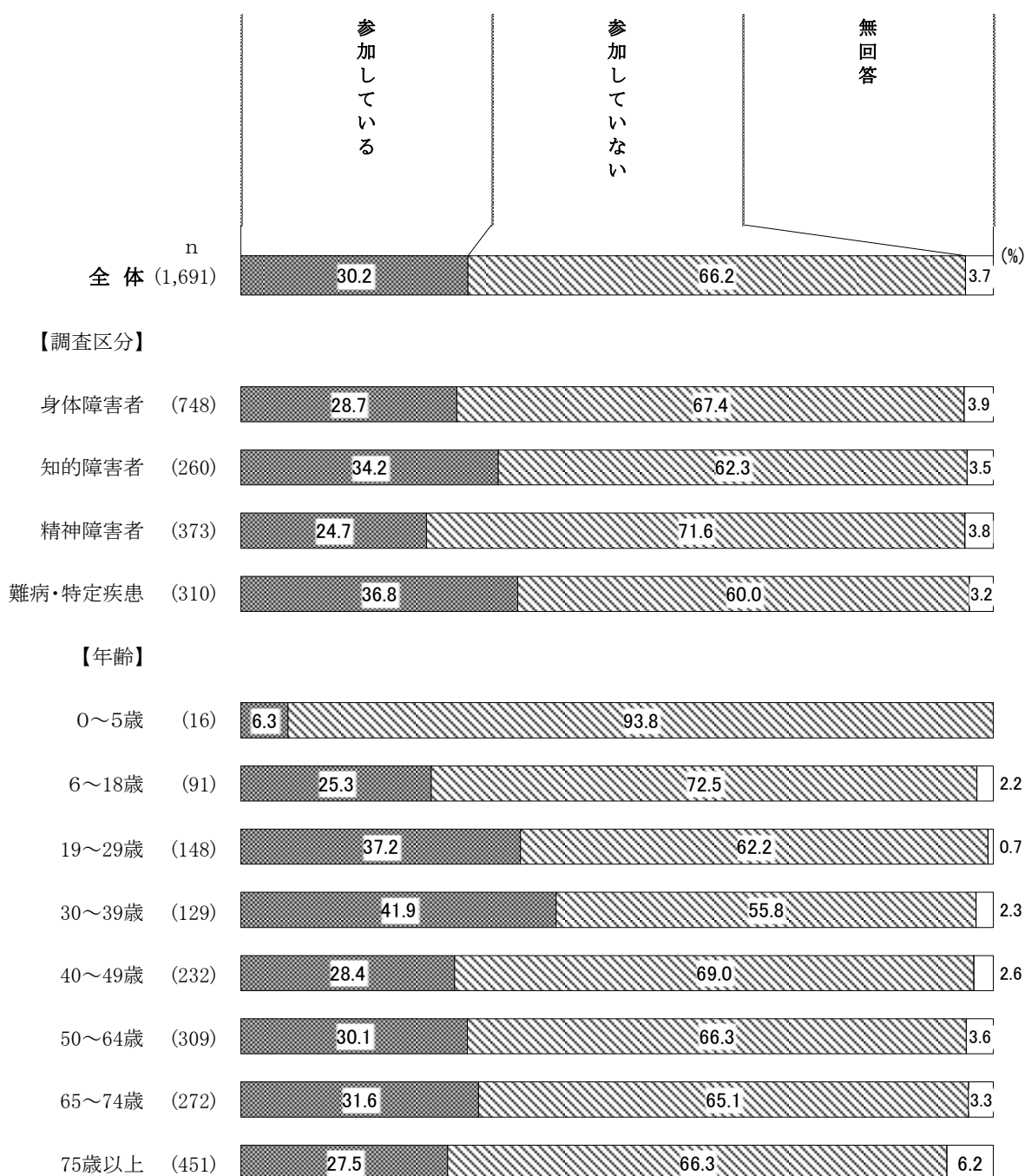
現在、趣味などの活動に「参加している」は30.2%、「参加していない」は66.2%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「参加している」は難病・特定疾患が36.8%、知的障害者が34.2%と他の調査区分より多くなっている。

年齢別にみると、「参加している」は多くの年齢で2割から3割台となっており、特に30～39歳では41.9%と多くなっている。

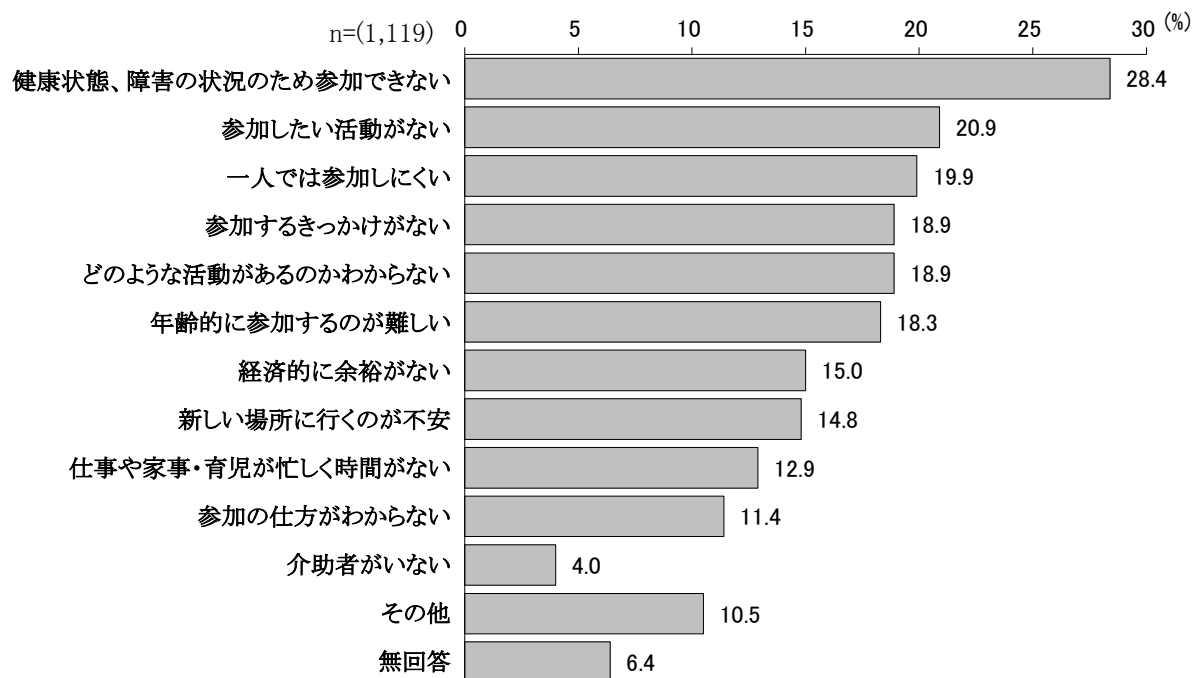
調査区分別、年齢別



(2) 参加していない理由

【問25で「参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問25-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

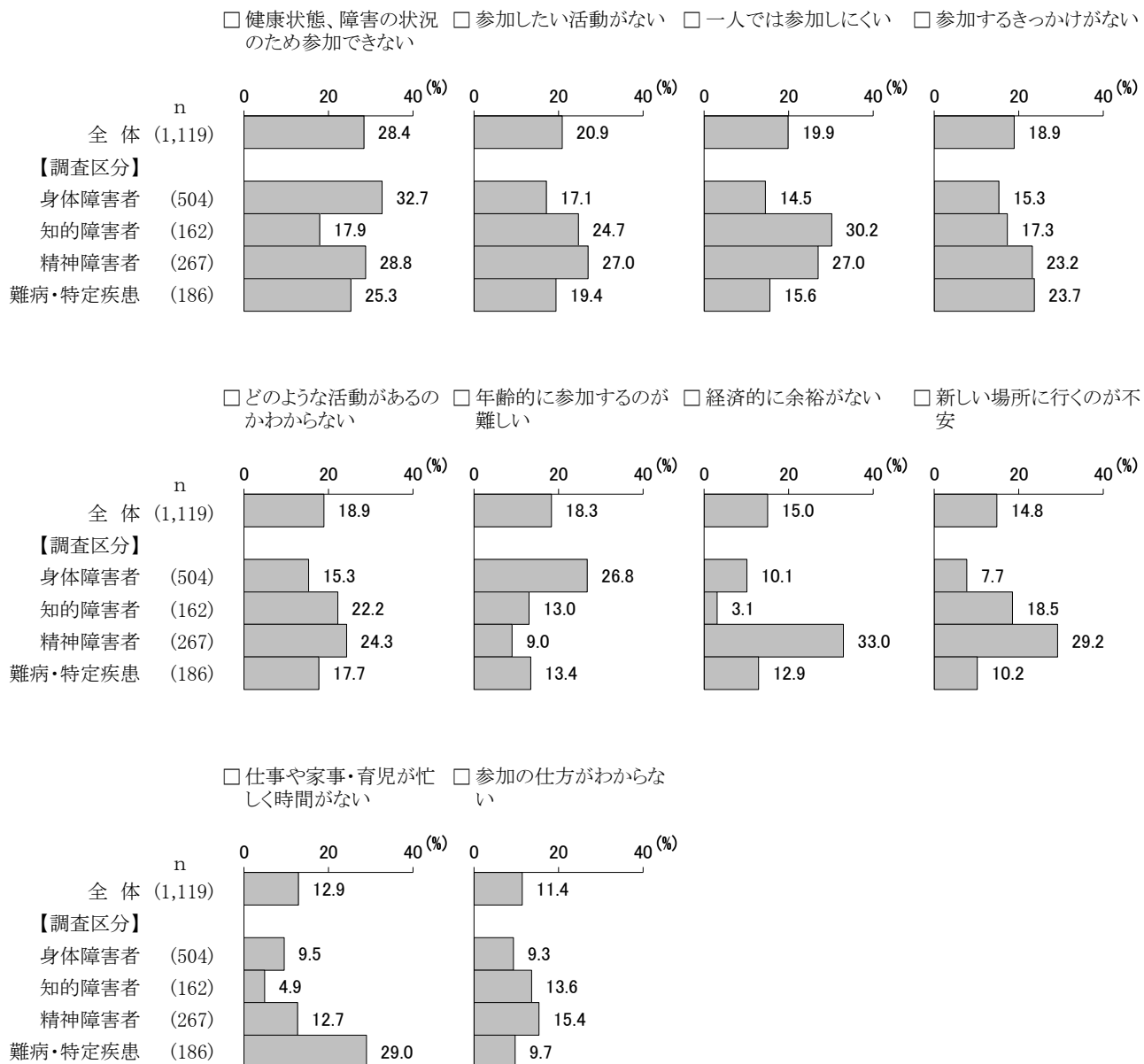


参加していない理由は、「健康状態、障害の状況のため参加できない」が28.4%で最も多い。以下、「参加したい活動がない」(20.9%)、「一人では参加しにくい」(19.9%)、「参加するきっかけがない」と「どのような活動があるのかわからない」(ともに18.9%)、「年齢的に参加するのが難しい」(18.3%)が2割前後で続いている。

第3章 調査結果の詳細

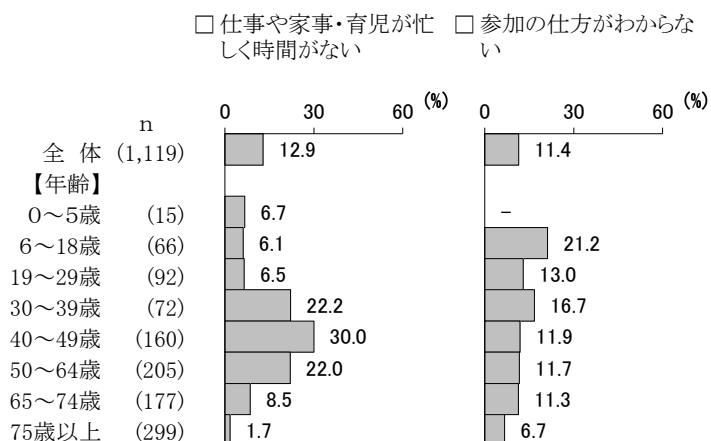
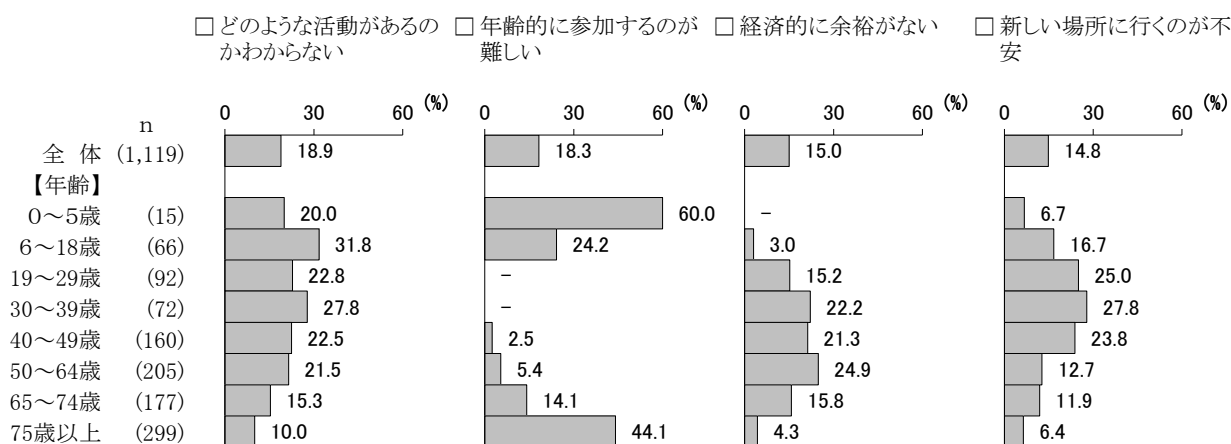
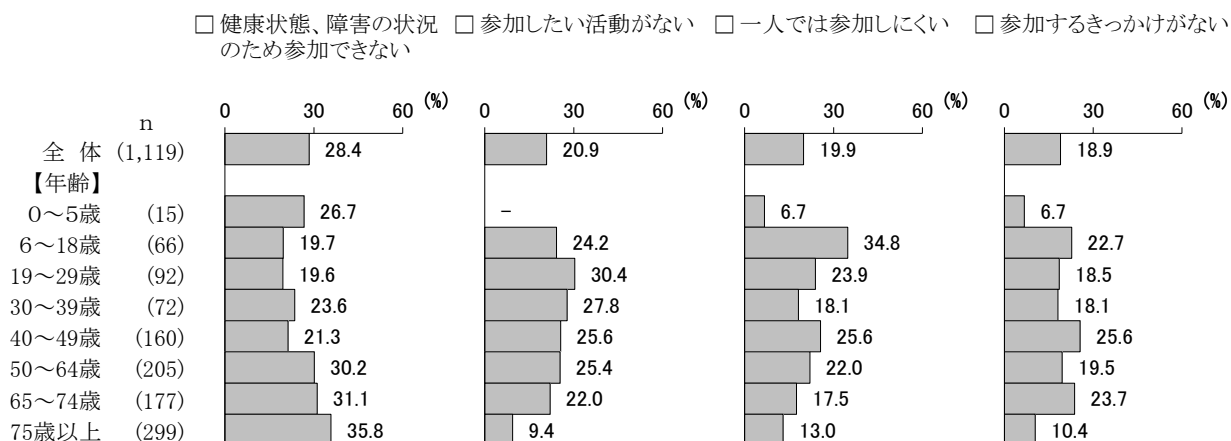
調査区分別にみると、身体障害者では「健康状態、障害の状況のため参加できない」(32.7%)、「年齢的に参加するのが難しい」(26.8%)が、知的障害者では「一人では参加しにくい」(30.2%)が比較的多くあげられている。また、精神障害者では「健康状態、障害の状況のため参加できない」(28.8%)、「参加したい活動がない」と「一人では参加しにくい」(ともに27.0%)、「経済的に余裕がない」(33.0%)、「新しい場所に行くのが不安」(29.2%)など多様な理由があげられている。難病・特定疾患では「仕事や家事・育児が忙しく時間がない」(29.0%)が他の調査区分より多くなっている。

調査区分別（上位10項目）



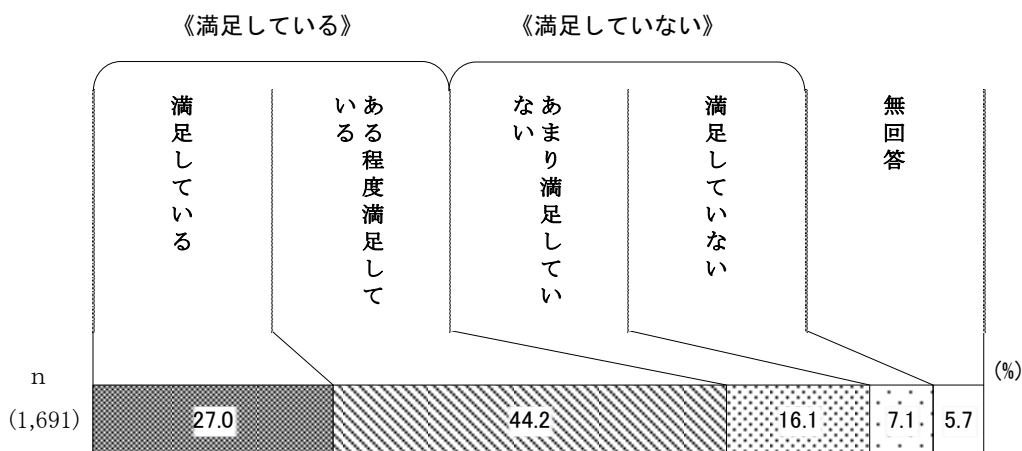
年齢別にみると、「健康状態、障害の状況のため参加できない」は年齢が上がるとともに多くなる傾向があり、50歳以上では3割台となっている。19～29歳を中心に「参加したい活動がない」、「どのような活動があるのかわからない」が2割から3割台となっている。この他の傾向としては、6～18歳では「一人では参加しにくい」と「参加の仕方がわからない」が、19歳から49歳では「新しい場所に行くのが不安」、30歳から64歳では「経済的に余裕がない」や「仕事や家事・育児が忙しく時間がない」が、75歳以上では「年齢的に参加するのが難しい」が比較的多くなっている。

年齢別（上位10項目）



(3) 特に用事のないときの過ごし方の満足度

問26 あなたは、特に用事のないときの過ごし方に満足していますか。(1つに○)

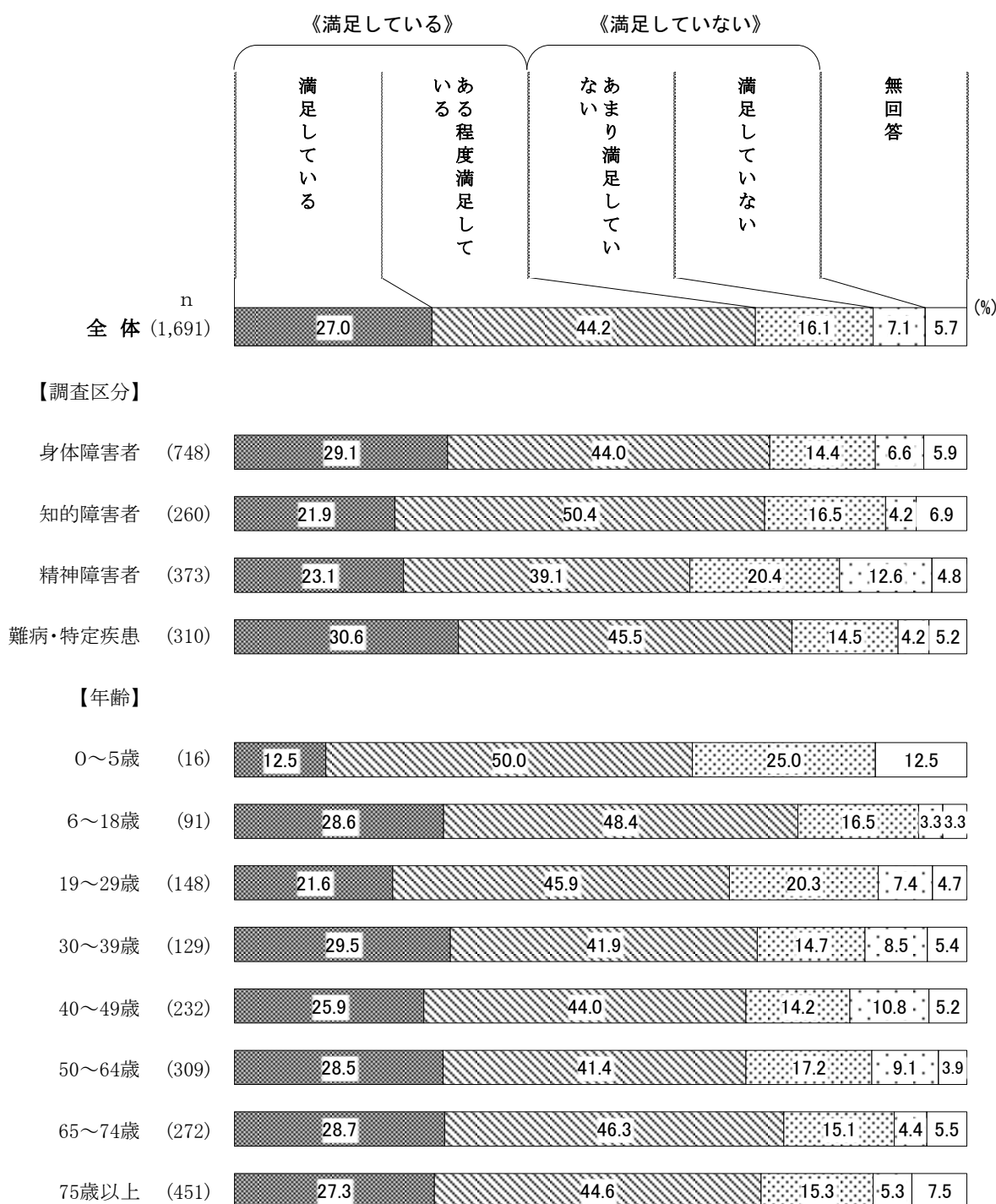


特に用事のないときの過ごし方に「満足している」は27.0%で、「ある程度満足している」(44.2%)をあわせた《満足している》は71.2%となっている。《満足していない》(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は23.2%となっている。

調査区分別にみると、《満足している》は難病・特定疾患が76.1%と多く、すべての調査区分で6割以上となっている。一方、《満足していない》は精神障害者で33.0%と唯一3割台となっている。

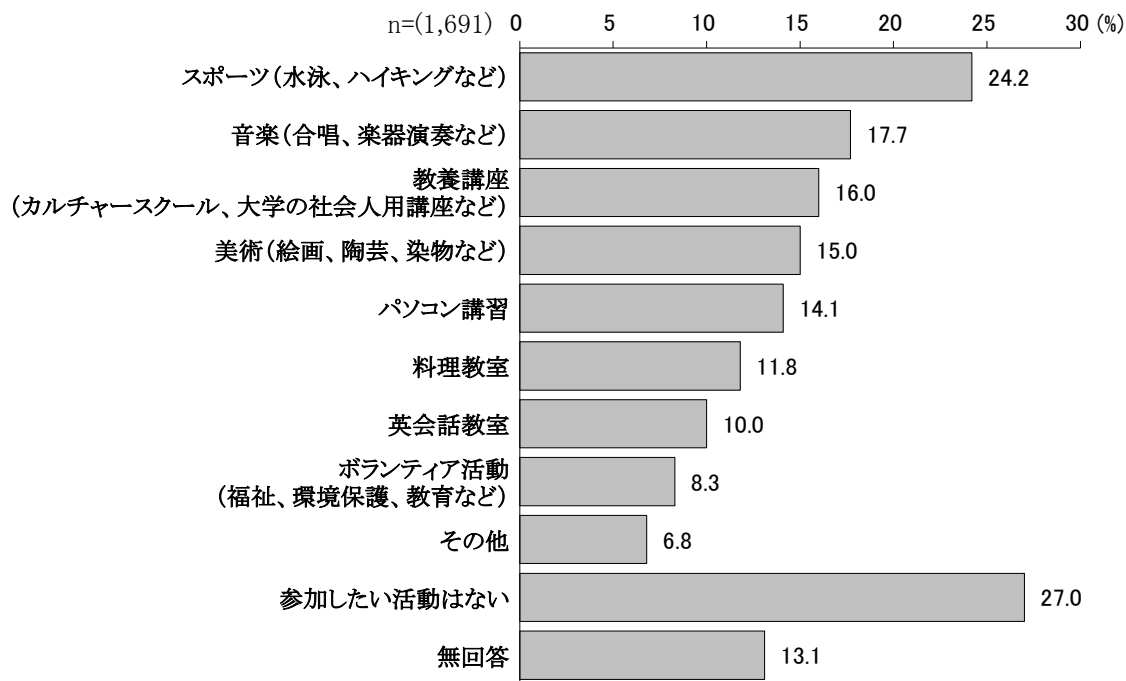
年齢別にみると、《満足している》はすべての年齢で6割以上となっており、特に6～18歳では77.0%、65～74歳では75.0%となっている。

調査区分別、年齢別



(4) 参加したい活動（現在参加中も含む）

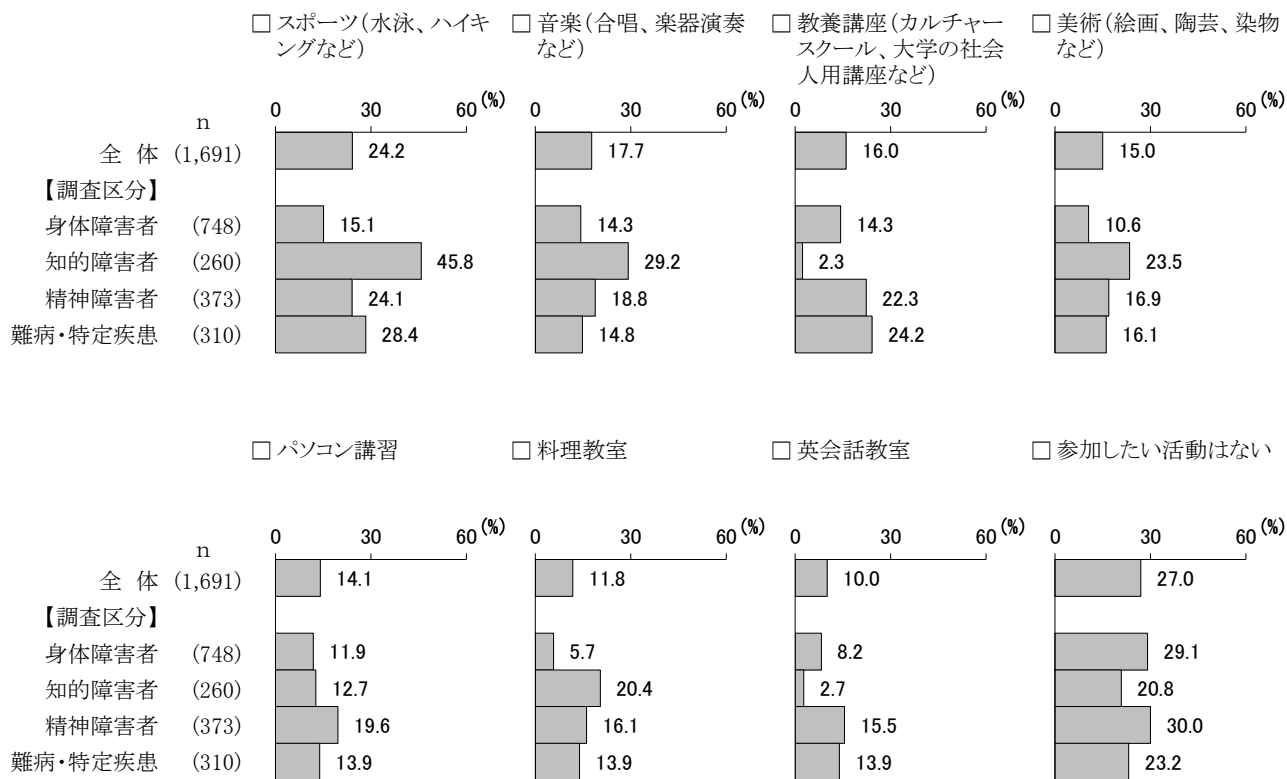
問27 市内では以下のような活動が催されています。あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。（あてはまるものすべてに○）



参加したい活動（現在参加中も含む）は、「スポーツ」が24.2%で最も多く、以下、「音楽」（17.7%）、「教養講座」（16.0%）、「美術」（15.0%）、「パソコン講習」（14.1%）、「料理教室」（11.8%）、「英会話教室」（10.0%）が1割台が続いている。また、「参加したい活動はない」が27.0%となっている。

調査区分別にみると、知的障害者では「スポーツ」が45.8%と特に多く、「音楽」(29.2%)、「美術」(23.5%)、「料理教室」(20.4%)も他の調査区分より多くなっている。精神障害者では「パソコン講習」(19.6%)が比較的多くあげられている。

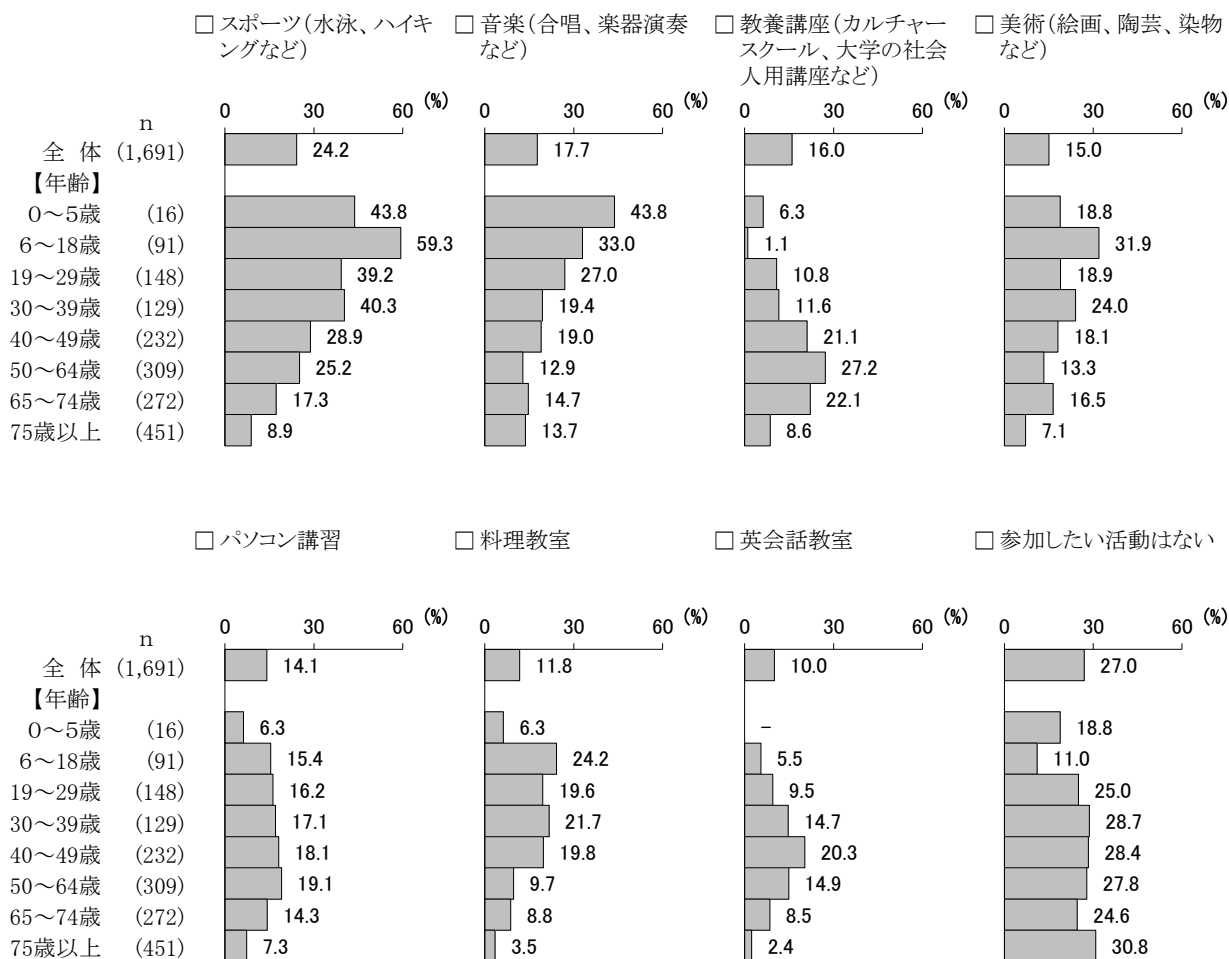
調査区分別（上位7項目＋「参加したい活動はない」）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「スポーツ」、「音楽」、「美術」は6～18歳を中心に多く、年齢が上がるとともに少なくなっている。「教養講座」は50～64歳の27.2%を中心に40歳から74歳まで2割台、「英会話教室」は40～49歳の20.3%を中心に多くなっている。また、「料理教室」は6歳から49歳までの広い年齢層で2割前後、「パソコン講習」は6歳から74歳にわたって1割台と一定の意向を集めている。

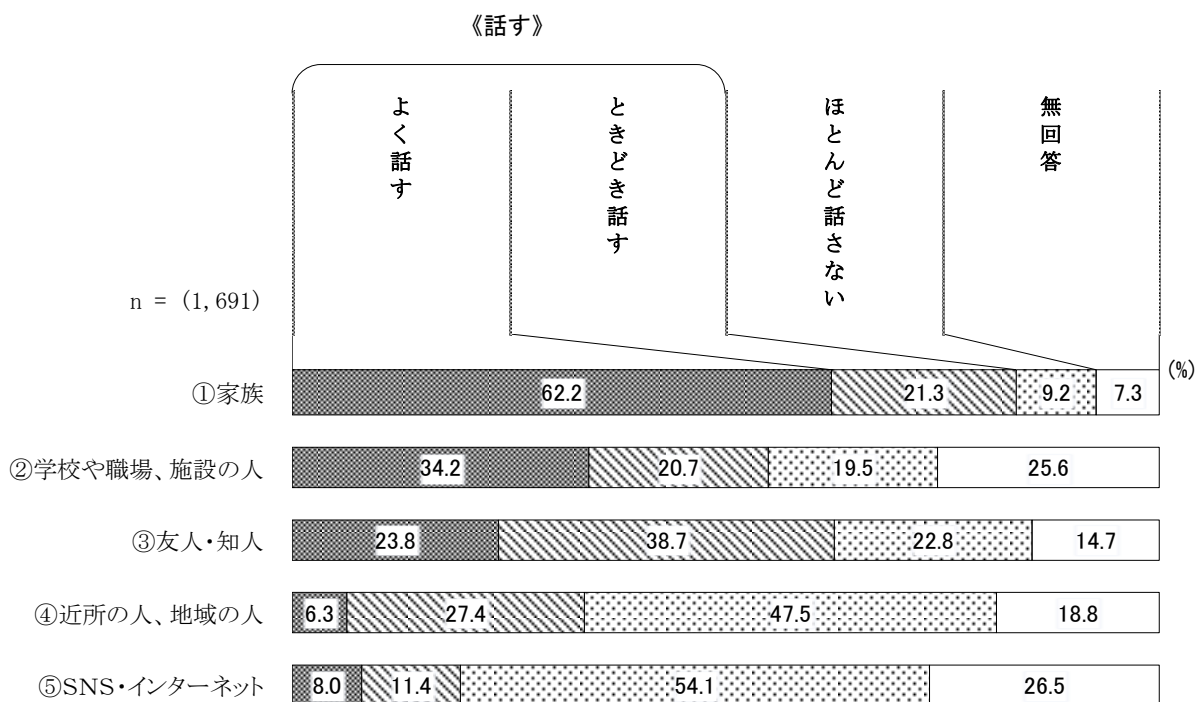
年齢別（上位7項目＋「参加したい活動はない」）



(5) 周囲の人たちとの会話頻度

問28 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。

(それぞれ1つに○)



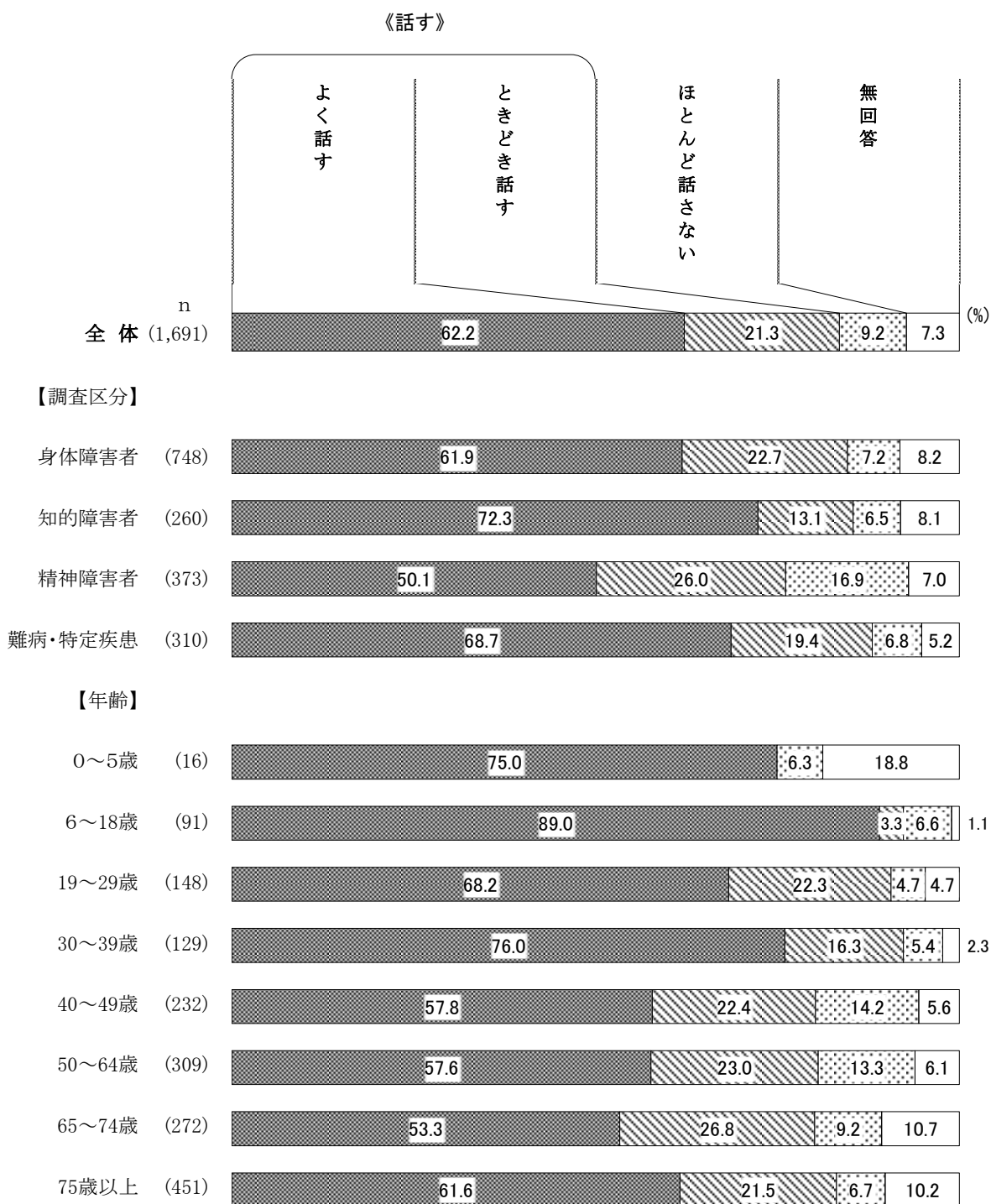
直近の6ヶ月間での、周囲の人たちとの会話頻度を聞いた。「よく話す」は“①家族”が62.2%、“②学校や職場、施設の人”が34.2%、“③友人・知人”が23.8%となっている。「ときどき話す」をあわせた《話す》でみると、“①家族”は83.5%と多く、“③友人・知人”は62.5%、“②学校や職場、施設の人”は54.9%となっている。一方、「ほとんど話さない」は“⑤SNS・インターネット”が54.1%、“④近所の人、地域の人”が47.5%となっている。

第3章 調査結果の詳細

①家族を調査区分別にみると、《話す》は、身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患では8割以上となっている。一方、「ほとんど話さない」は精神障害者で16.9%となっている。

年齢別にみると、《話す》は、6歳以上の年齢でいずれも8割以上となっている。一方、40歳から64歳では、「ほとんど話さない」が1割台となっている。

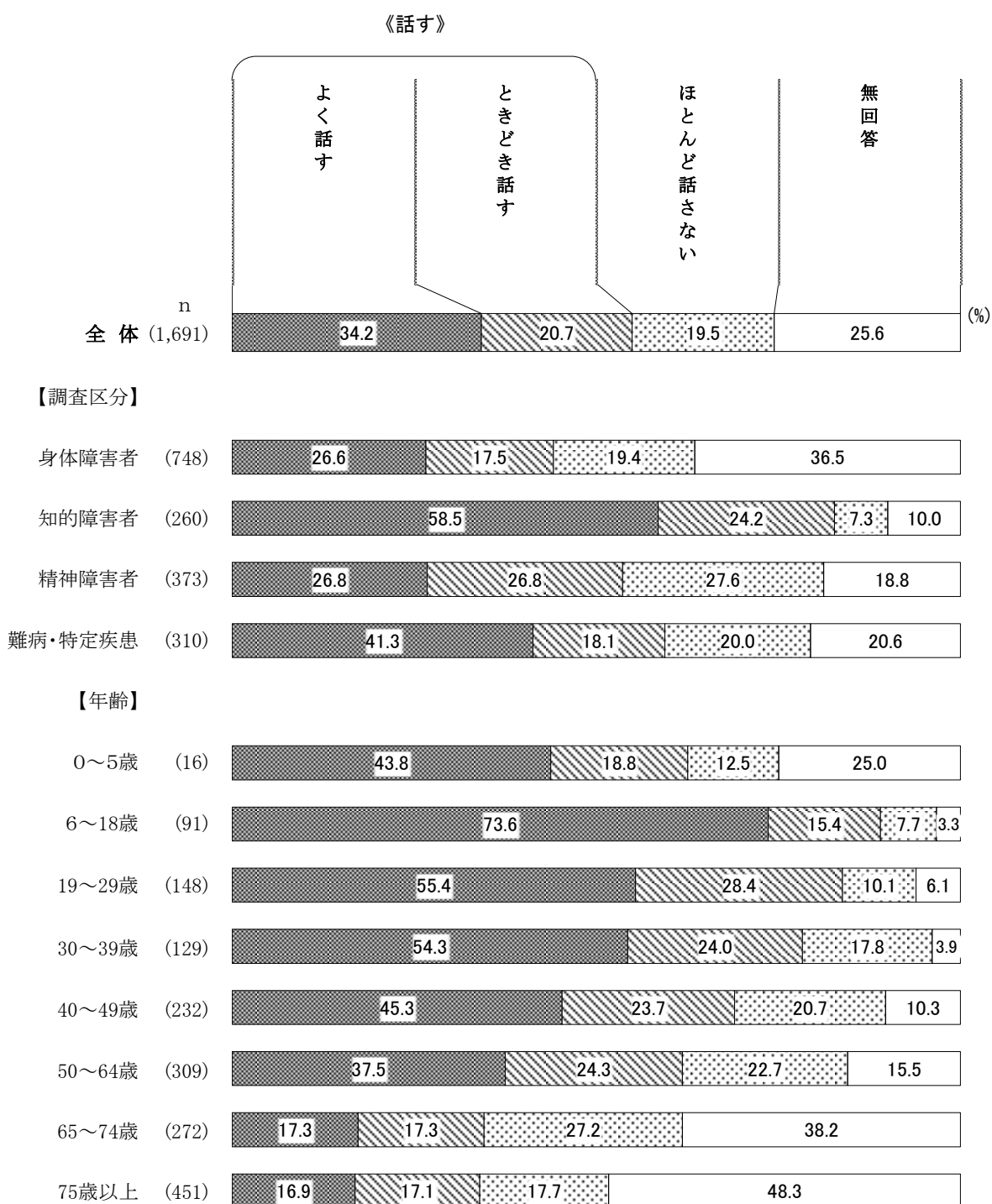
調査区分別、年齢別 (①家族)



②学校や職場、施設の人を調査区別にみると、《話す》は、知的障害者で82.7%となっている。一方、「ほとんど話さない」は精神障害者で27.6%と多くなっている。

年齢別にみると、《話す》は、64歳以下の年齢でいずれも6割以上となっている。一方、40歳から74歳では、「ほとんど話さない」が2割台となっている。

調査区分別、年齢別（②学校や職場、施設の人）

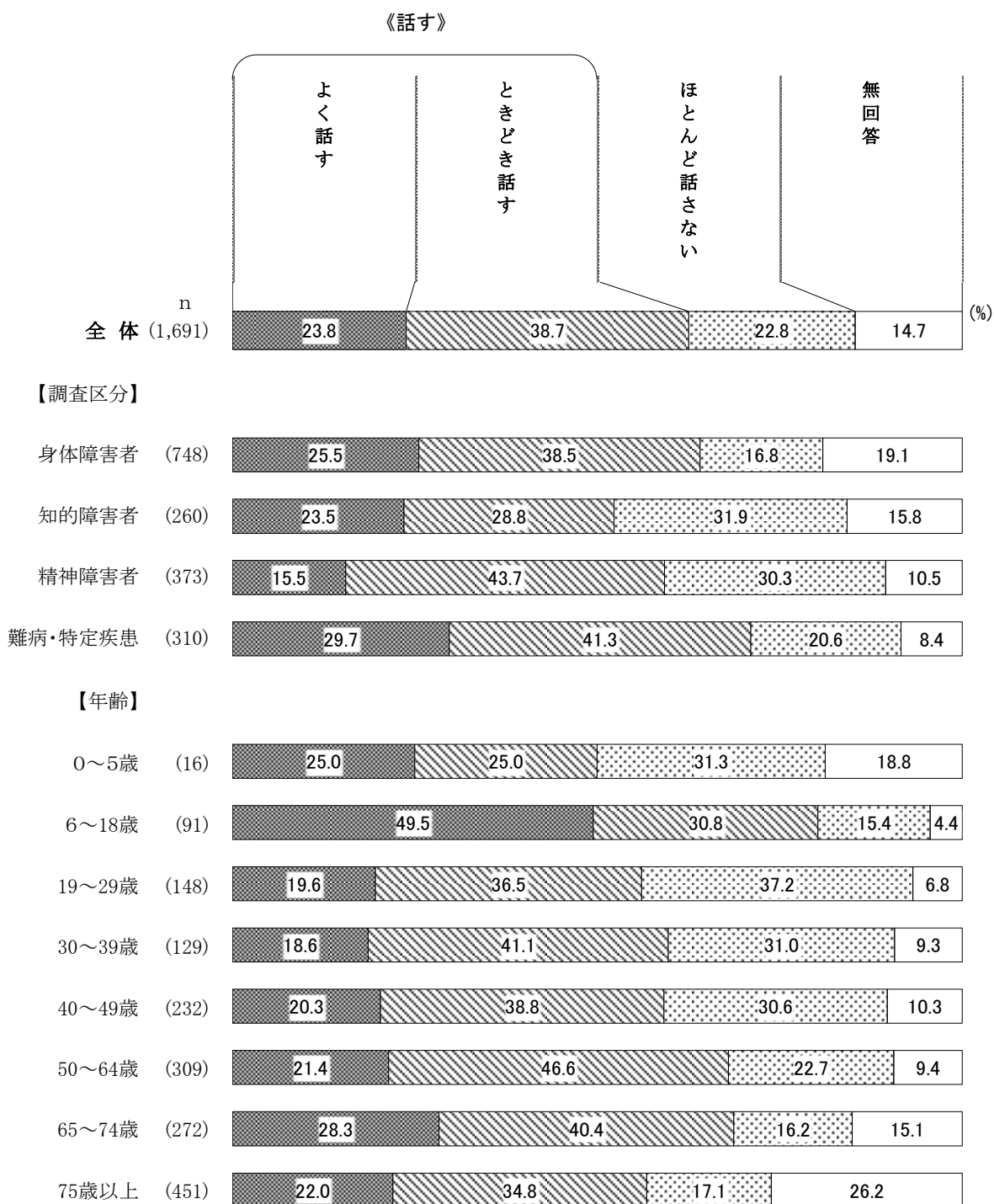


第3章 調査結果の詳細

③友人・知人を調査区分別にみると、《話す》は、難病・特定疾患では71.0%となっている。一方、「ほとんど話さない」は知的障害者で31.9%、精神障害者で30.3%と多くなっている。

年齢別にみると、《話す》は、いずれも5割以上となっており、特に6～18歳で80.3%となっている。一方、19歳から49歳では、「ほとんど話さない」が3割台となっている。

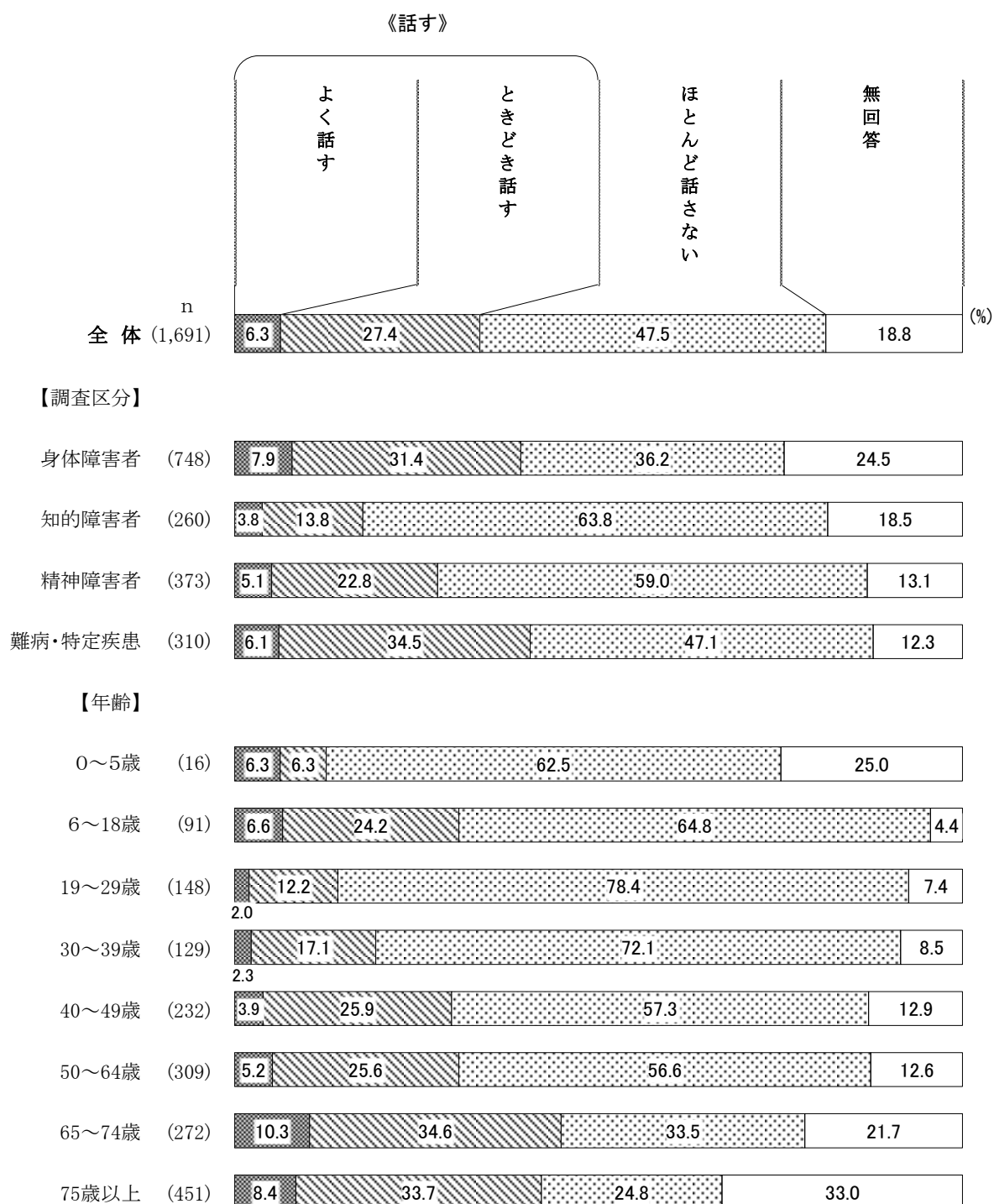
調査区分別、年齢別（③友人・知人）



④近所の人、地域の人を調査区分別にみると、《話す》は、身体障害者、難病・特定疾患では4割前後となっている。一方、「ほとんど話さない」は知的障害者で63.8%、精神障害者で59.0%と多くなっている。

年齢別にみると、《話す》は、65歳以上の年齢でいずれも4割以上となっている。一方、19歳から39歳では、「ほとんど話さない」が7割以上となっている。

調査区分別、年齢別（④近所の人、地域の人）

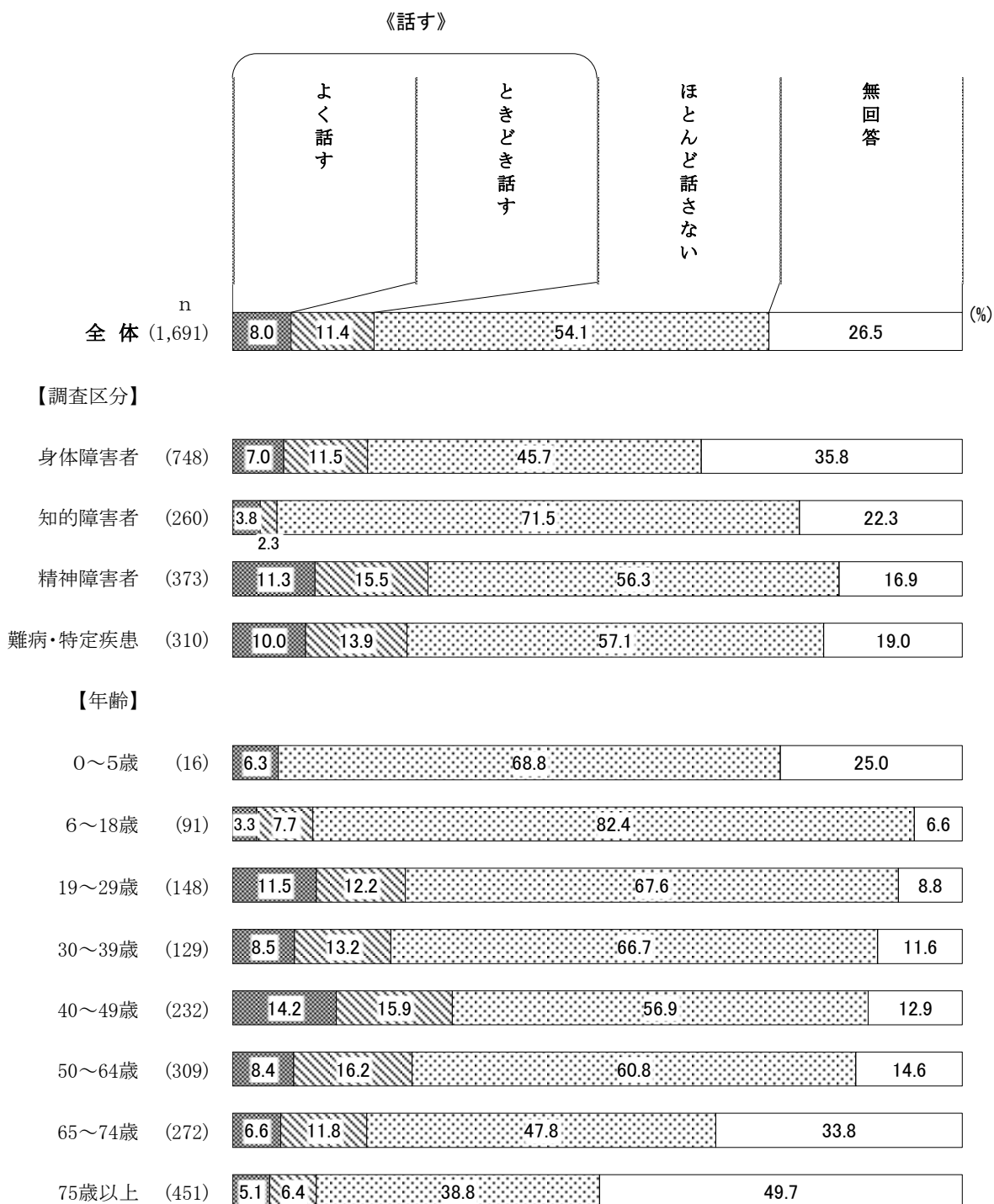


第3章 調査結果の詳細

⑤ SNS・インターネットを調査区分別にみると、《話す》は、精神障害者、難病・特定疾患では2割台となっている。一方、「ほとんど話さない」は知的障害者で71.5%、難病・特定疾患で57.1%、精神障害者で56.3%と多くなっている。

年齢別にみると、《話す》は、40～49歳の30.1%を中心に19歳から64歳の年齢で2割から3割台となっている。一方、6～18歳では、「ほとんど話さない」が82.4%となっている。

調査区分別、年齢別 (⑤ SNS・インターネット)



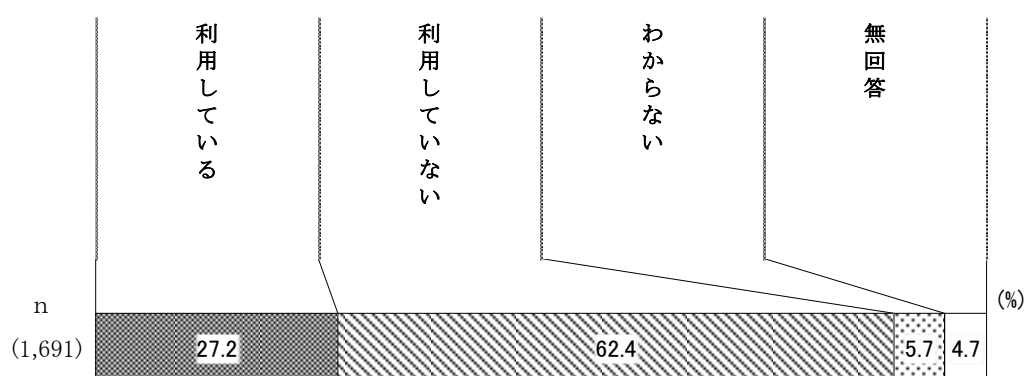
11. サービスの利用等について

(1) 障害福祉サービスの利用状況

問29 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)

障害福祉サービスとは？

- ・ 障害者総合支援法に基づく居宅介護、短期入所、生活介護、共同生活援助、自立訓練、就労継続・移行支援、施設入所支援、児童発達支援、放課後等デイサービスなど、市役所からサービス受給の決定を受け、ピンク、紫またはクリーム色の受給者証の発行を受けたうえで利用するサービスのことです。



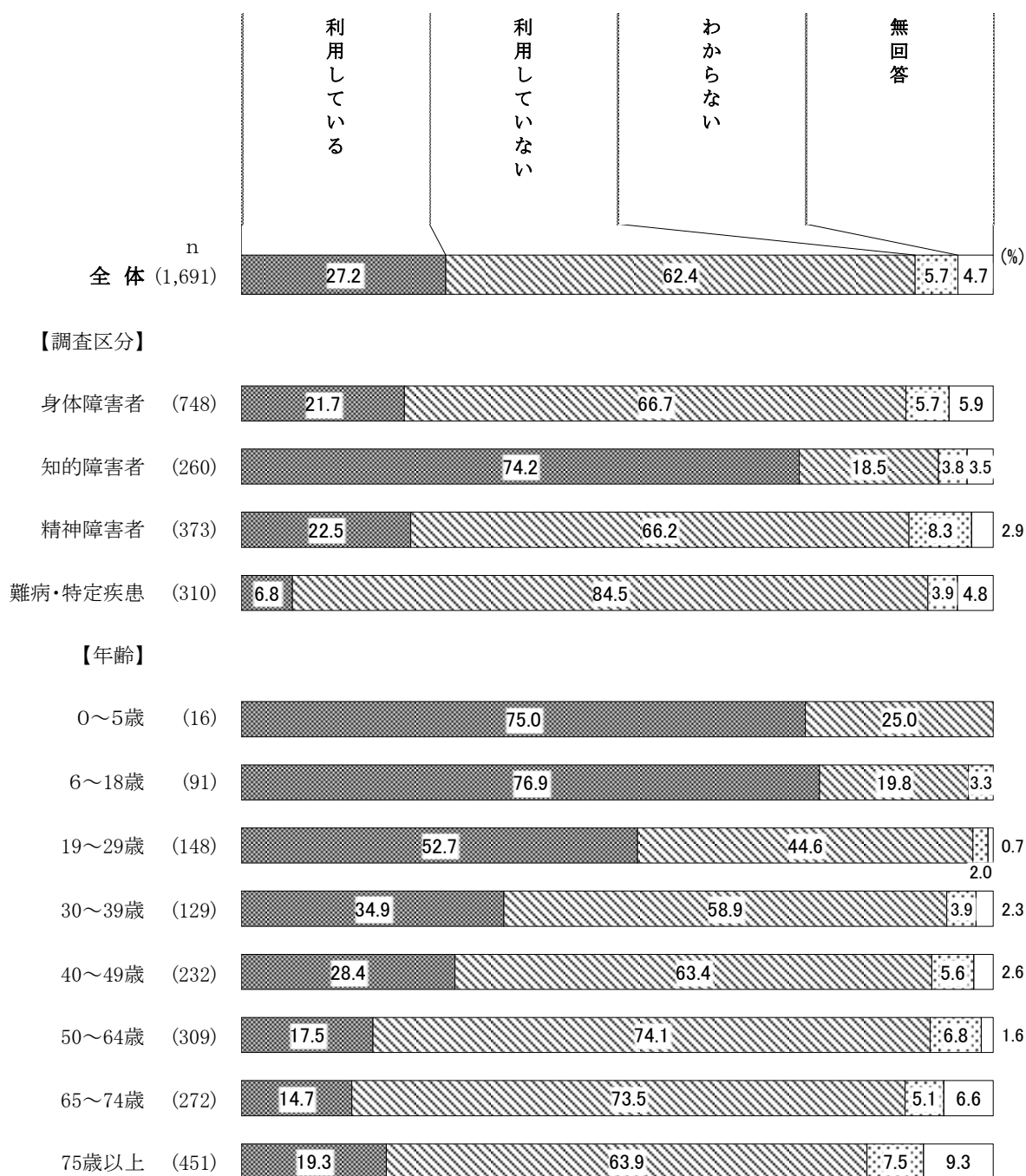
現在の障害福祉サービスの利用状況は、「利用している」が27.2%、「利用していない」が62.4%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「利用している」は知的障害者で74.2%と特に多い。一方、「利用していない」は難病・特定疾患では84.5%を占め、身体障害者（66.7%）と精神障害者（66.2%）で6割台となっている。

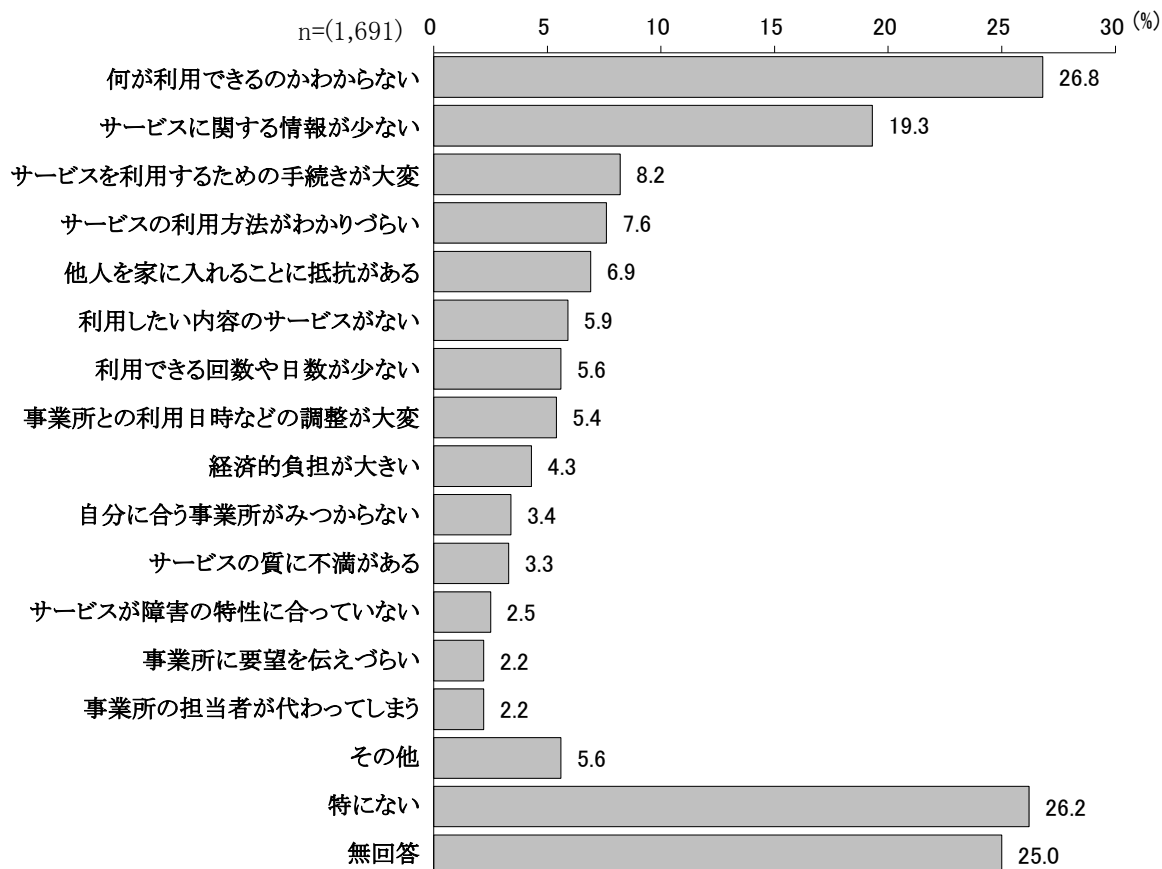
年齢別にみると、「利用している」は年齢が上がるとともに少なくなる傾向がみられる。

調査区分別、年齢別



(2) 障害福祉サービスを利用する際の不便

問30 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思
うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

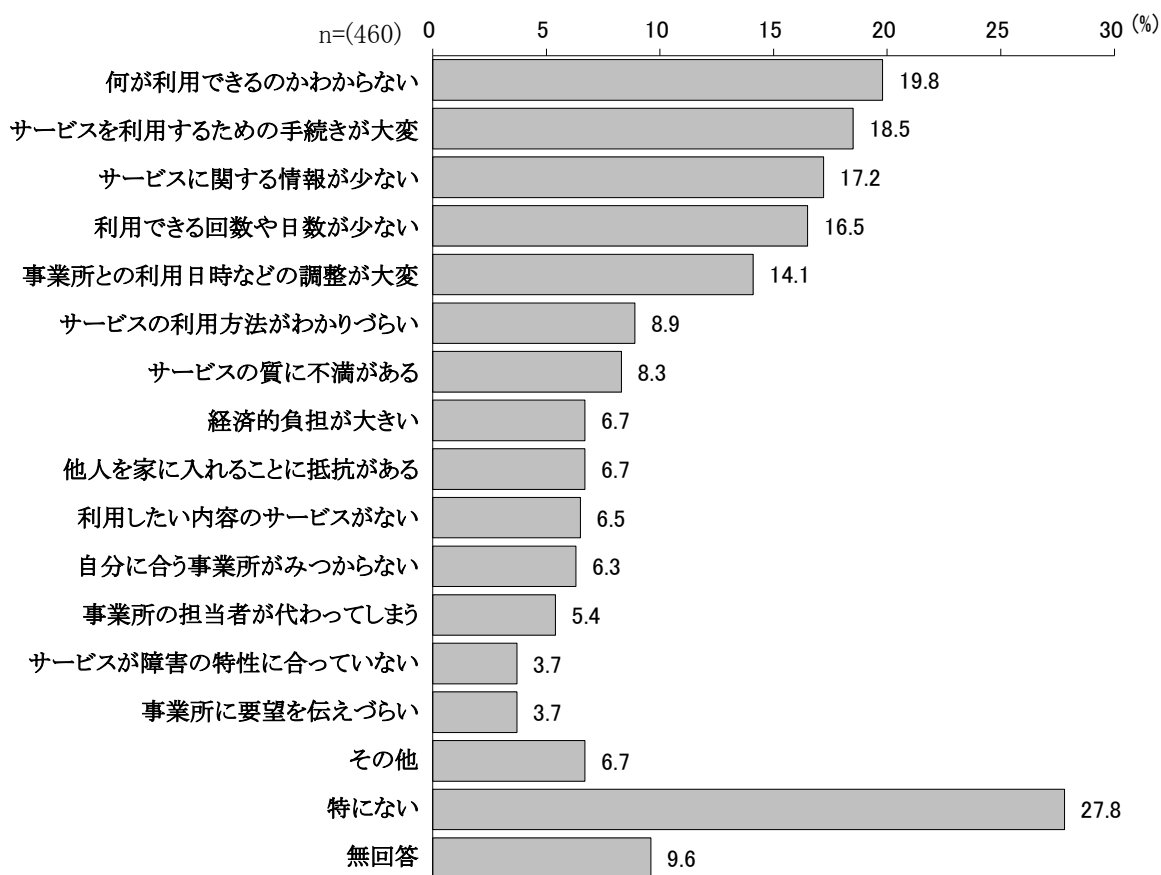


障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「何が利用できるのかわからない」が26.8%で最も多く、これに「サービスに関する情報が少ない」が19.3%が続いている。また、「特にない」が26.2%となっている。

第3章 調査結果の詳細

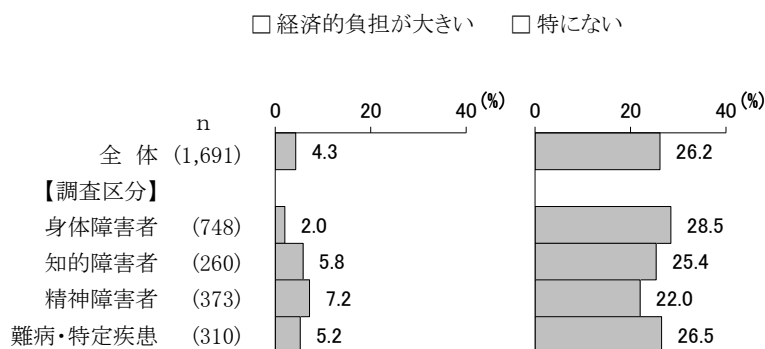
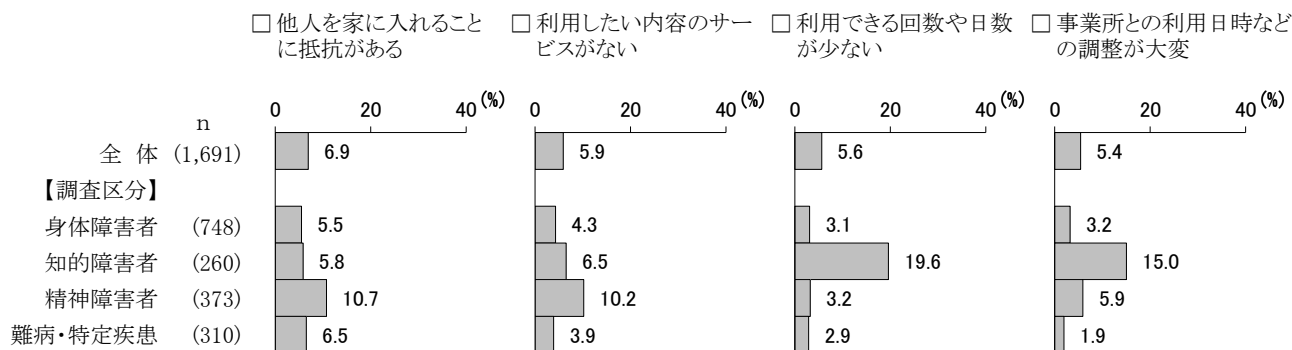
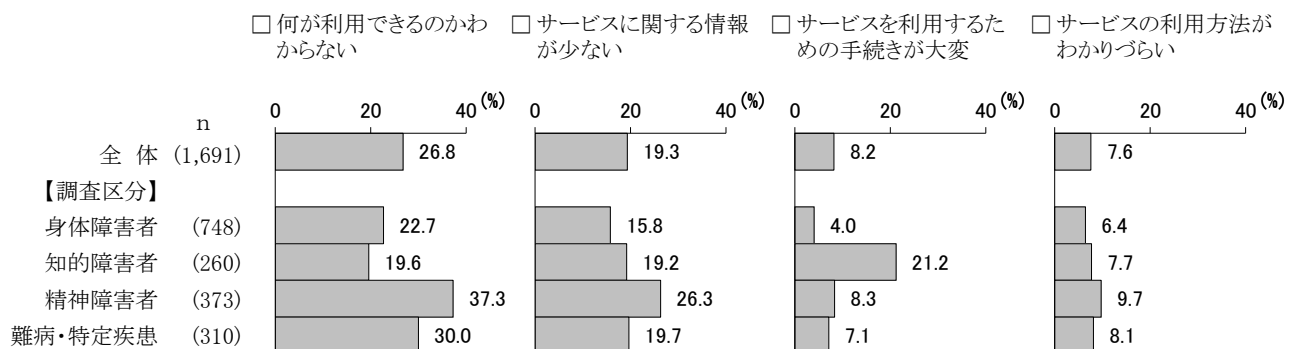
参考として障害福祉サービス利用者に絞ってみたのが以下の図である。サービス利用者であっても困ったり、不便に思うことでは、「特にない」が27.8%で最も多い。具体的な内容では、「何が利用できるのかわからない」が19.8%で最も多く、以下、「サービスを利用するための手続きが大変」(18.5%)、「サービスに関する情報が少ない」(17.2%)、「利用できる回数や日数が少ない」(16.5%)、「事業所との利用日時などの調整が大変」(14.1%)が1割台で続いている。

参考 障害福祉サービス利用者のみ



調査区別にみると、いずれの調査区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。特に精神障害者では「何が利用できるのかわからない」(37.3%)、「サービスに関する情報が少ない」(26.3%)が多くなっている。また、知的障害者では「サービスを利用するための手続きが大変」が21.2%となっている他、「利用できる回数や日数が少ない」(19.6%)や「事業所との利用日時などの調整が大変」(15.0%)も他の調査区分より多くなっている。

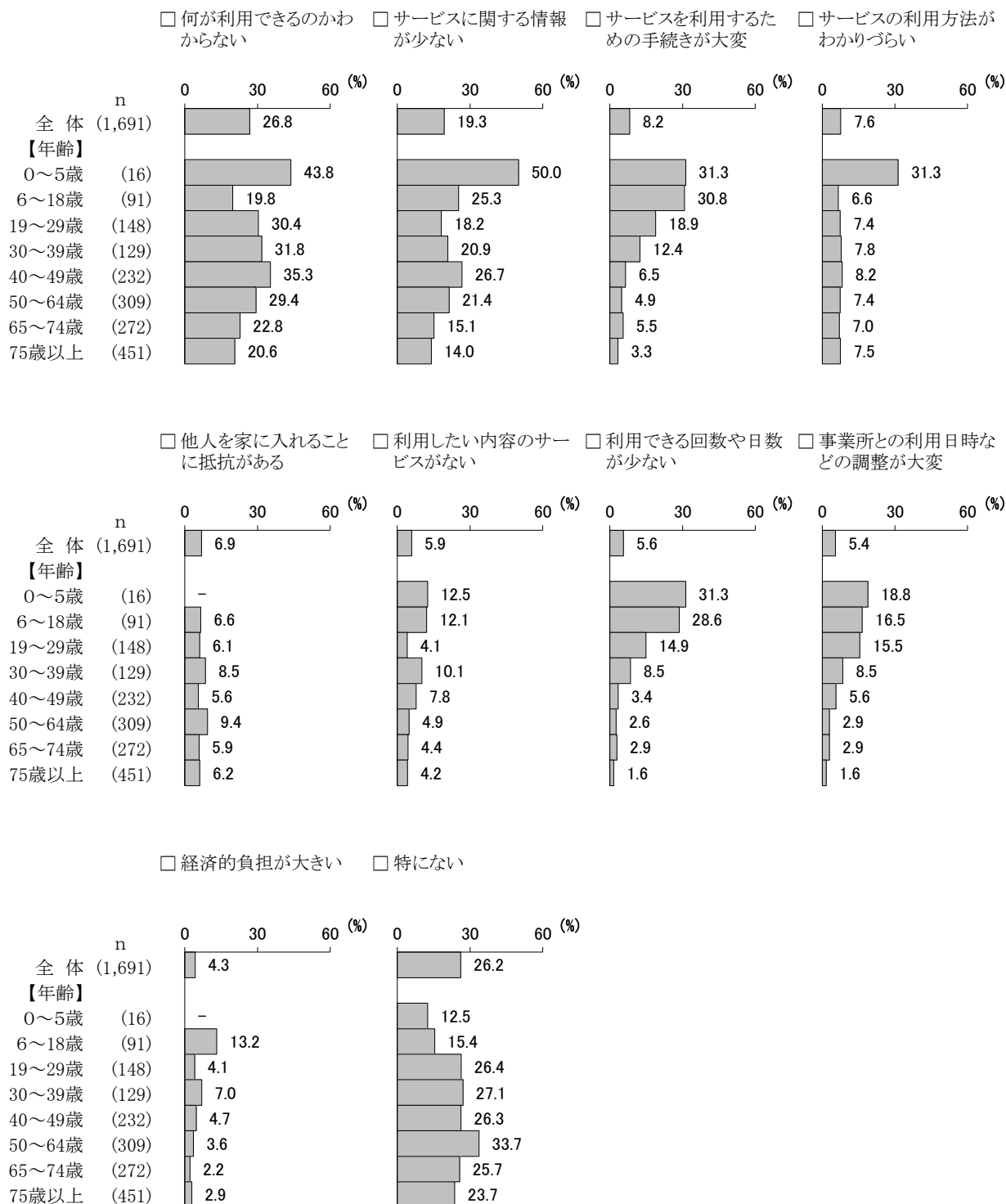
調査区分別（上位9項目+「特にない」）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、ほとんどの年齢で「何が利用できるのかわからない」、「サービスに関する情報が少ない」が多くなっている。「サービスを利用するための手続きが大変」、「利用できる回数や日数が少ない」、「事業所との利用日時などの調整が大変」は6歳から29歳の年齢で多くなっている。

年齢別（上位9項目＋「特にない」）



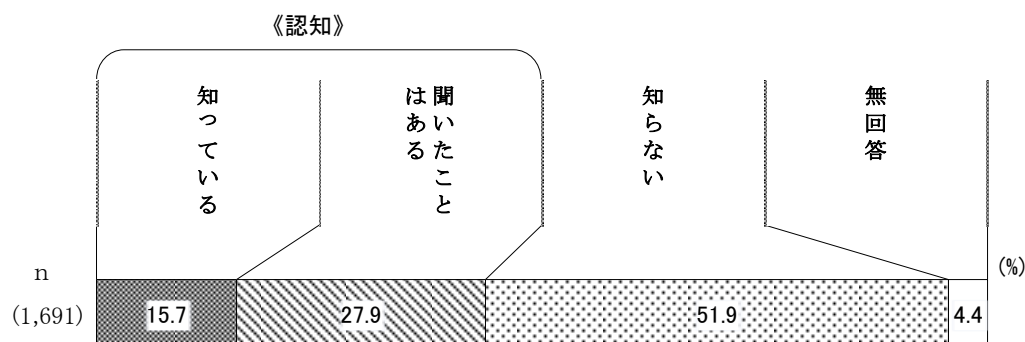
12. 障害者差別について

(1) 障害者差別解消法の認知状況

問31 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

障害者差別解消法とは？

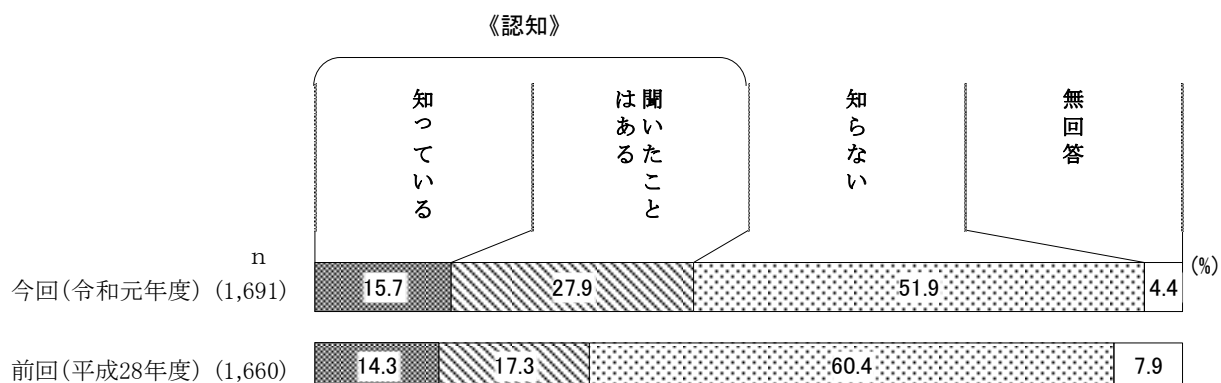
- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。



障害者差別解消法を「知っている」は15.7%、「聞いたことはある」は27.9%となり、両者をあわせた《認知》は43.6%となっている。

平成28年度に実施した前回の調査と比較すると、「知っている」では大きな違いはないが、「聞いたことはある」は前回より10.6ポイント多く、《認知》でみた場合では12.0ポイントの増加となっている。

〈参考〉 障害者差別解消法の認知 前回（平成28年度）調査との比較

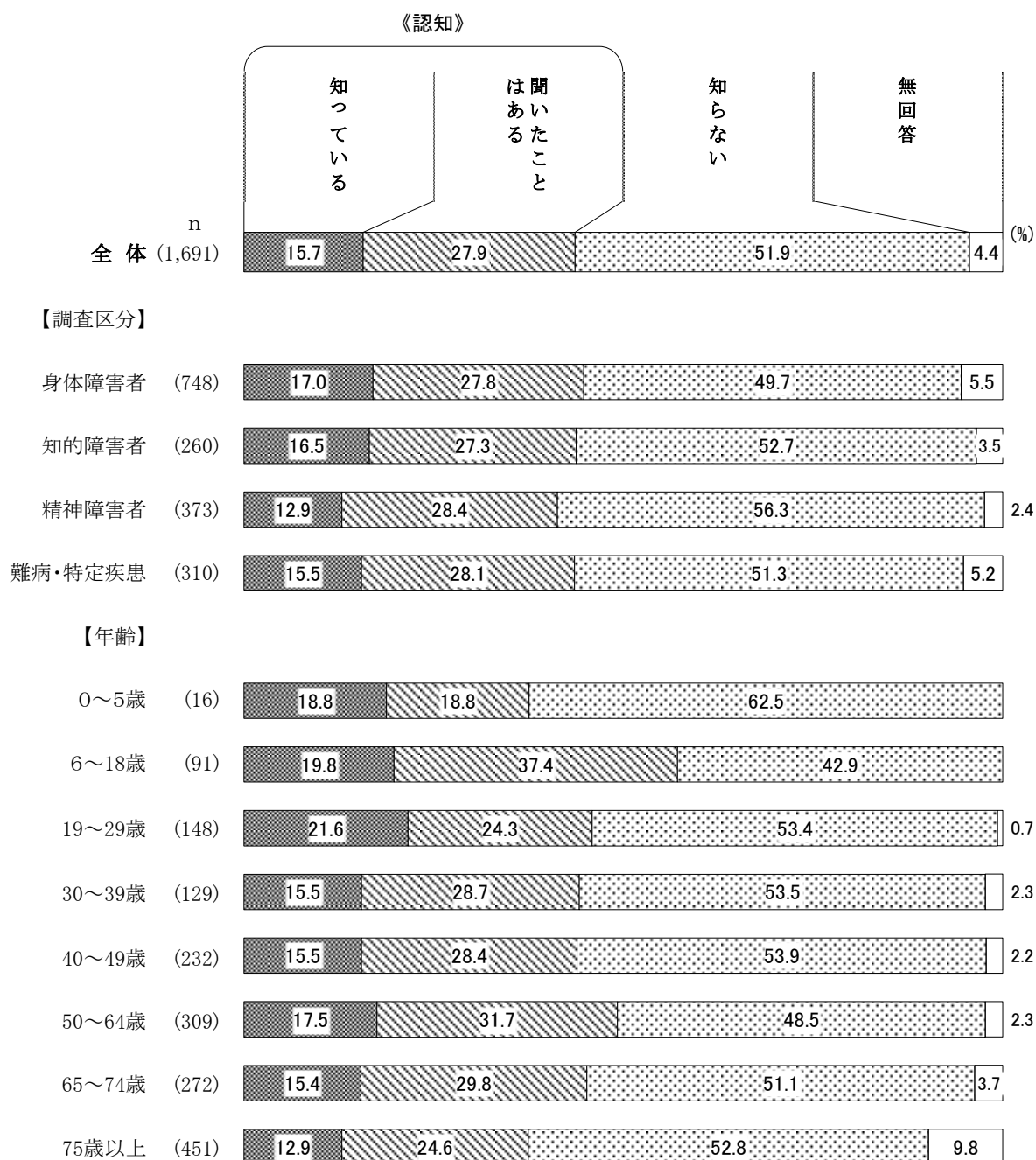


第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「知っている」は1割台となっており、《認知》も4割台となっている。

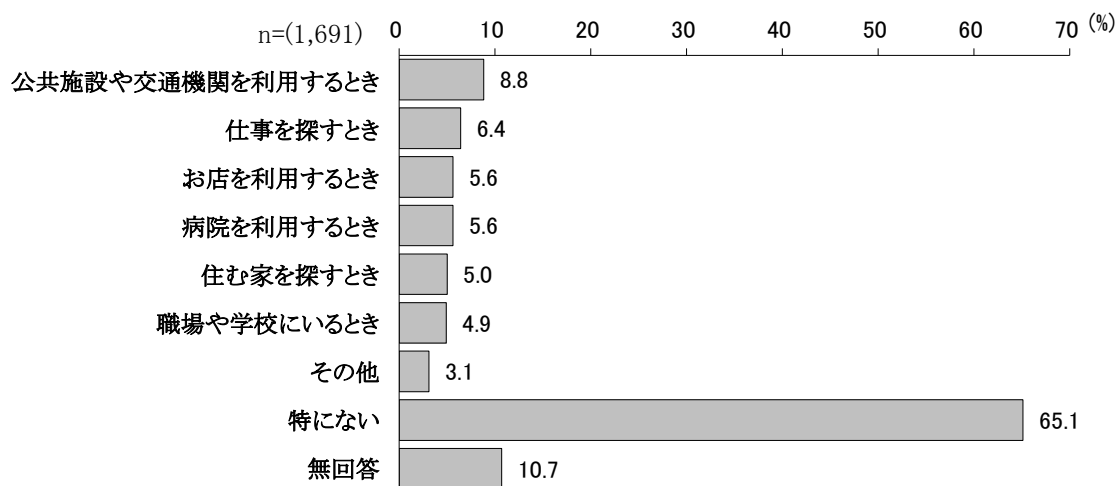
年齢別にみると、《認知》は74歳以下ではいずれの年齢も4割以上となり、特に6～18歳で57.2%と多くなっている。

調査区分別、年齢別



(2) 差別を感じる場面

問32 あなたは、周りの方々に、障害を理由に差別されていると感じることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

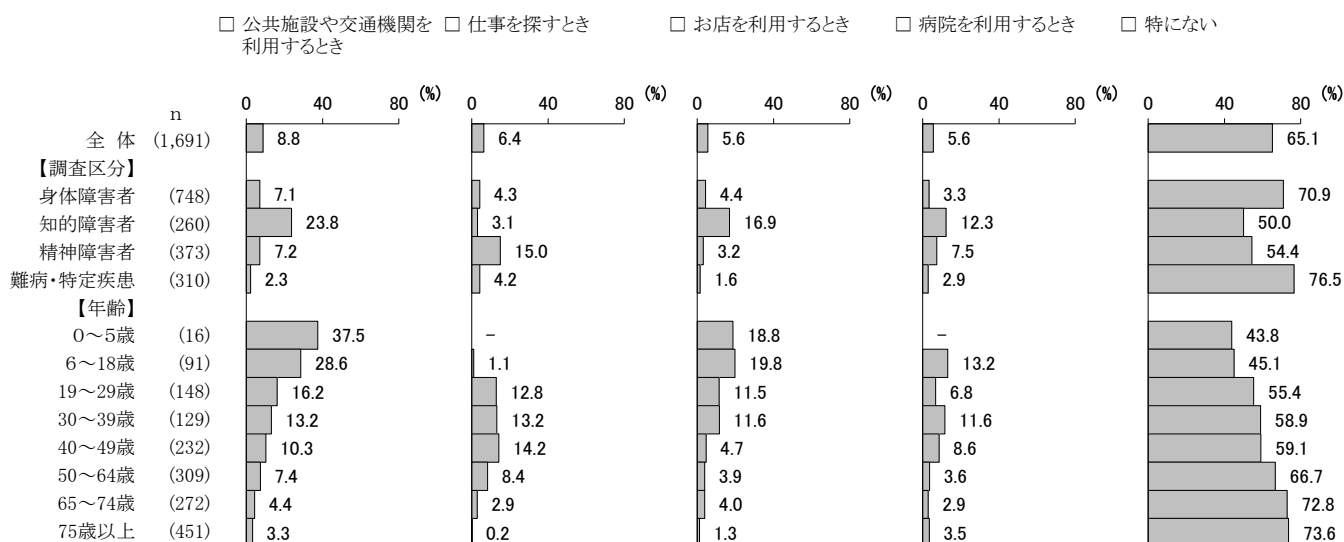


周りの方々に、障害を理由に差別されていると感じることがあるかを聞いたところ、「特にない」が65.1%と多くなっている。感じたことがある場面では、「公共施設や交通機関を利用するとき」(8.8%)、「仕事を探すとき」(6.4%)、「お店を利用するとき」と「病院を利用するとき」(ともに5.6%)などがあげられている。

調査区分別にみると、知的障害者では「公共施設や交通機関を利用するとき」が23.8%、「お店を利用するとき」が16.9%、「病院を利用するとき」が12.3%、精神障害者では「仕事を探すとき」が15.0%と他の調査区分より多くなっている。

年齢別にみると、6～18歳では「公共施設や交通機関を利用するとき」が28.6%、「お店を利用するとき」が19.8%、19歳から49歳では「仕事を探すとき」が比較的多くなっている。

調査区分別、年齢別 (上位4項目+特にない)

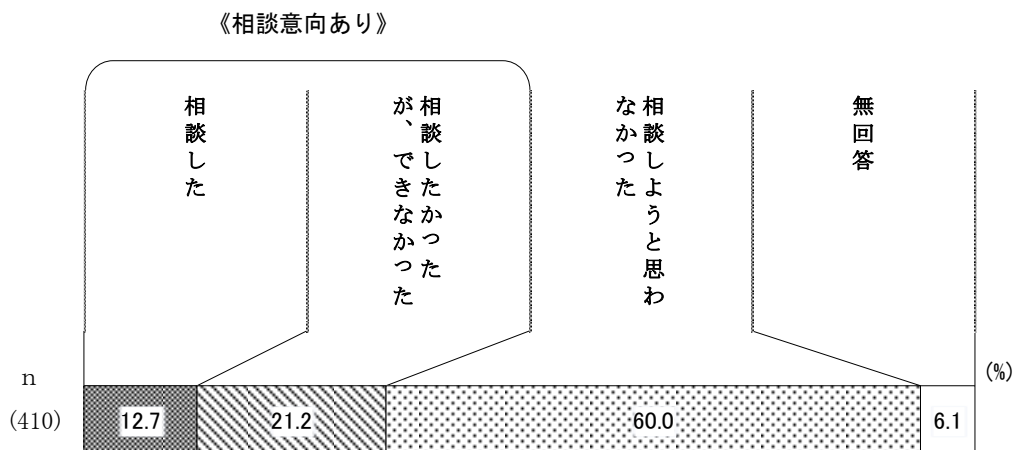


(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験

【問32で「公共施設や交通機関を利用するとき」、「職場や学校にいるとき」、「お店を利用するとき」、「病院を利用するとき」、「仕事を探すとき」、「住む家を探すとき」、「その他」と回答した方にお聞きします。】

問32-1 差別を受けたと感じたとき、どこかに相談をしましたか。(家族や友人を除く)

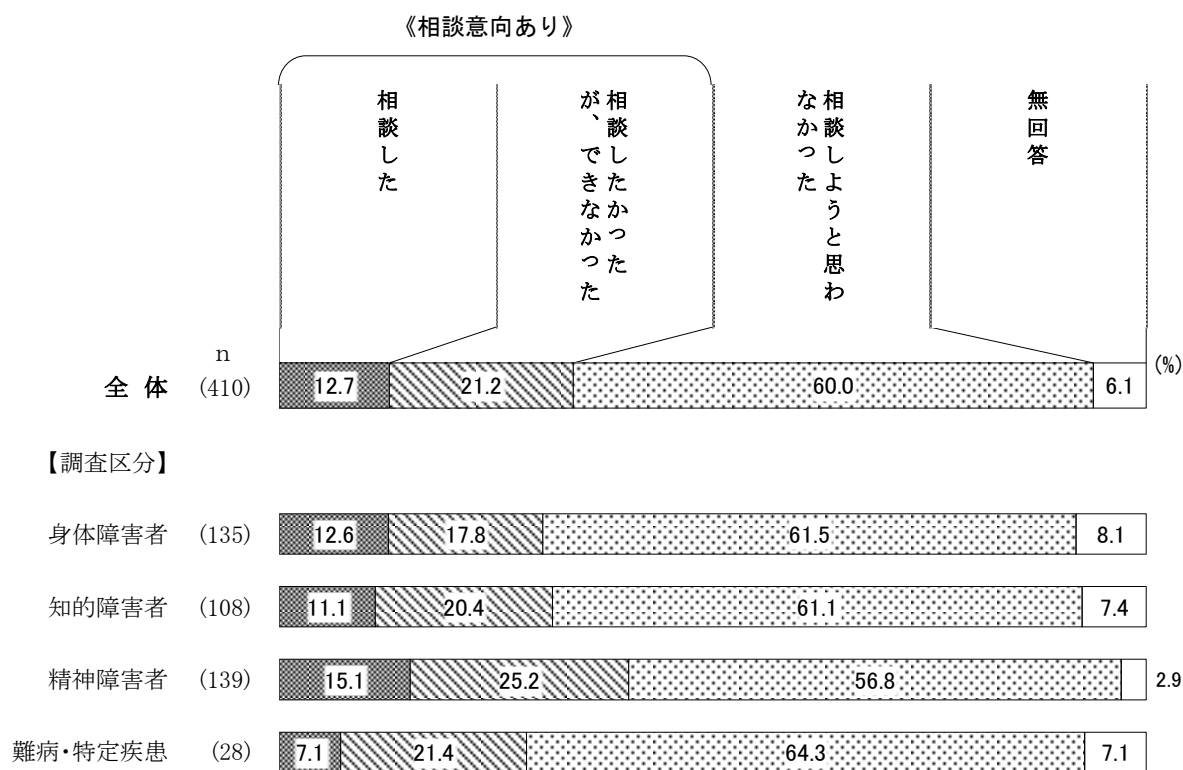
(1つに○)



差別を受けたと感じたときに、「相談した」は12.7%にとどまっている。「相談したかったが、できなかった」は21.2%、「相談しようと思わなかった」は60.0%となっている。「相談した」と「相談したかったが、できなかった」の両者をあわせたものを《相談意向あり》として捉えると、33.9%となっている。

調査区分別にみると、「相談した」は精神障害者で15.1%となっている。《相談意向あり》としてみると、精神障害者で4割台、身体障害者、知的障害者で3割台となっている。一方、難病・特定疾患は「相談しようと思わなかった」が64.3%とやや多くなっている。

調査区分別

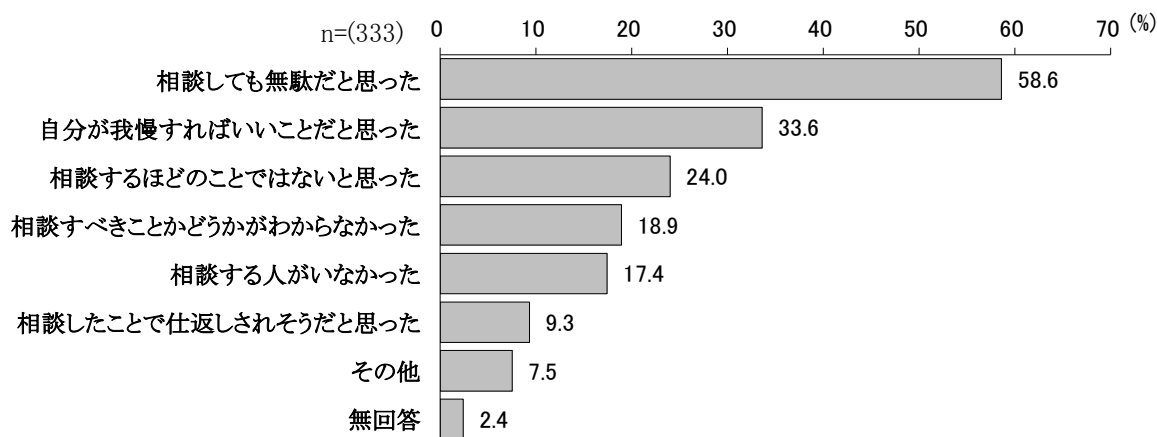


(4) 相談しなかった（できなかった）理由

【問32-1で「相談したかったが、できなかった」または「相談しようと思わなかった」と回答した方にお聞きします。】

問32-2 どこにも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。

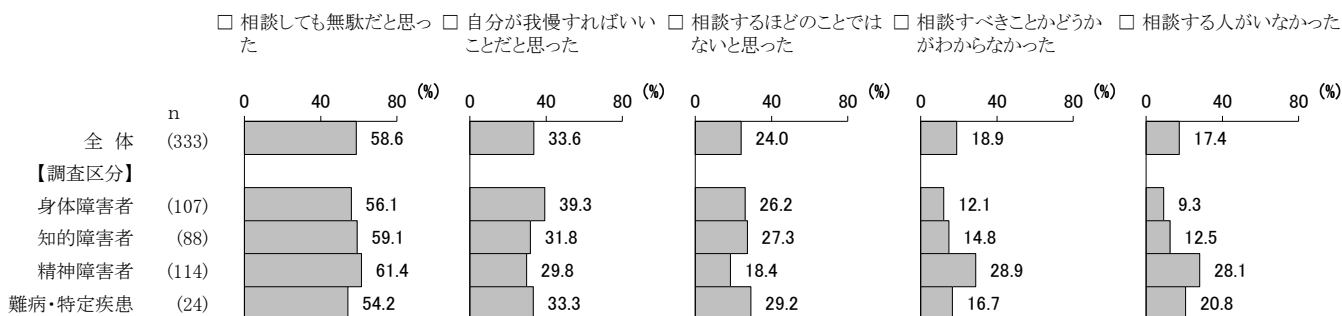
（あてはまるものすべてに○）



どこにも相談しなかった（できなかった）理由は、「相談しても無駄だと思った」が58.6%で最も多く、以下、「自分が我慢すればいいことだと思った」が33.6%、「相談するほどのことではないと思った」が24.0%、「相談すべきことかどうかがわからなかった」（18.9%）、「相談する人がいなかった」（17.4%）が1割台で続いている。

調査区別にみると、「相談しても無駄だと思った」はいずれの調査区分も5割から6割台で最も多い。身体障害者では「自分が我慢すればいいことだと思った」が39.3%、精神障害者では「相談すべきことかどうかがわからなかった」が28.9%、「相談する人がいなかった」が28.1%で他の調査区分より多くなっている。

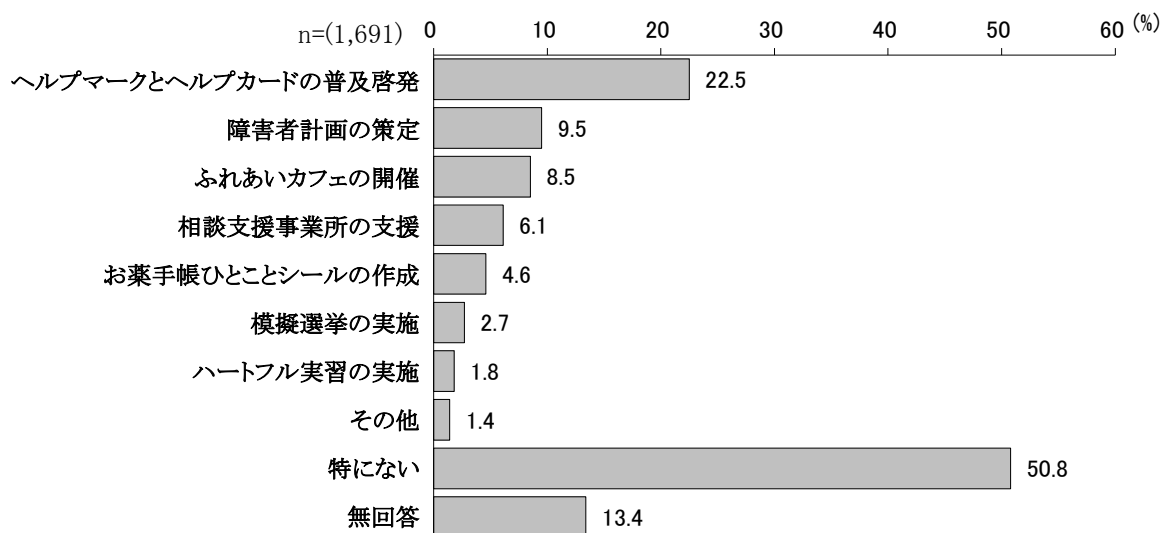
調査区分別（上位5項目）



13. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について

(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果の認知

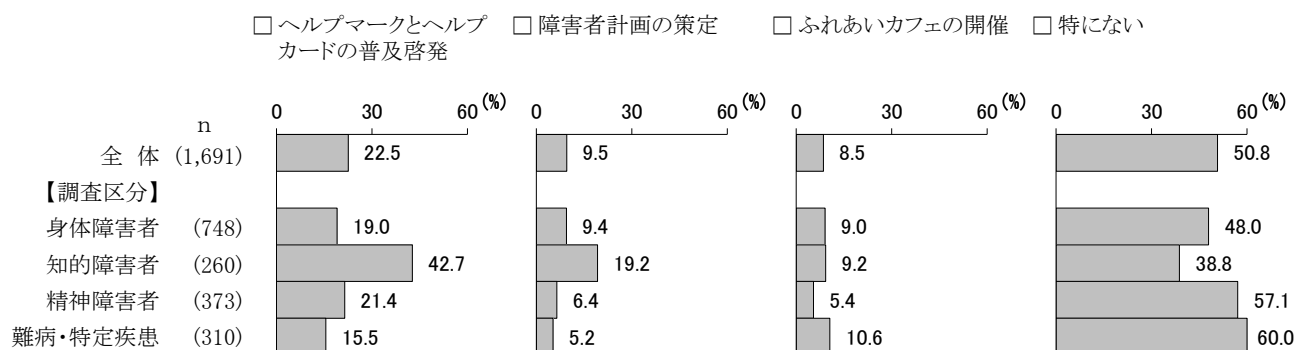
問33 武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果として、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)



武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果として、知っているものは、「ヘルプマークとヘルプカードの普及啓発」が22.5%で最も多く、これに「障害者計画の策定」が9.5%、「ふれあいカフェの開催」が8.5%で続いている。なお、「特にない」が50.8%となっている。

調査区別にみると、いずれの調査区分でも「ヘルプマークとヘルプカードの普及啓発」が多く、特に知的障害者では42.7%となっている。また、知的障害者では「障害者計画の策定」が19.2%と他の調査区分より多くなっている。

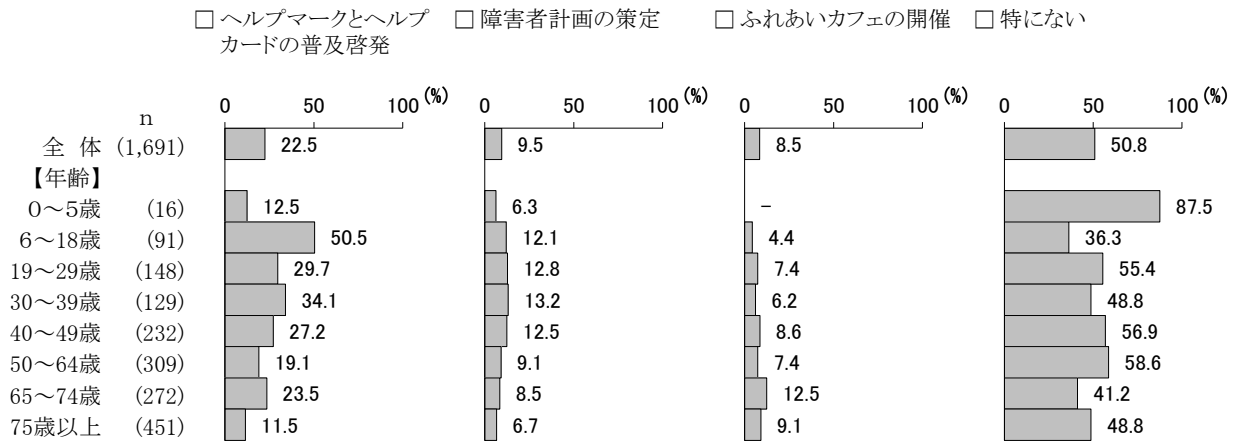
調査区別別（上位4項目＋「特にない」）



第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、いずれの年齢でも「ヘルプマークとヘルプカードの普及啓発」が最も多く、特に6～18歳で50.5%となっている。

年齢別（上位4項目＋「特にない」）



(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向

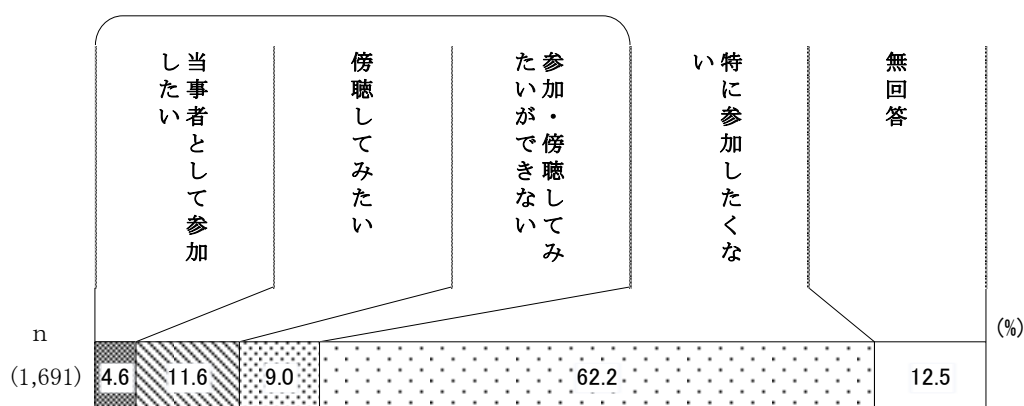
問34 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。

(1つに○)

武蔵野市地域自立支援協議会とは？

- ・ 障害のある方々が地域で自立した生活を送ることができるよう、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関して中核的な役割を果たす協議の場です。
- ・ 全体を取りまとめる「親会」と、「くらす」「はたらく」「相談支援」「権利擁護」「障害当事者」の各専門部会を設け、各部会で立てた年度計画に基づく様々な活動がなされています。

《参加意向あり》



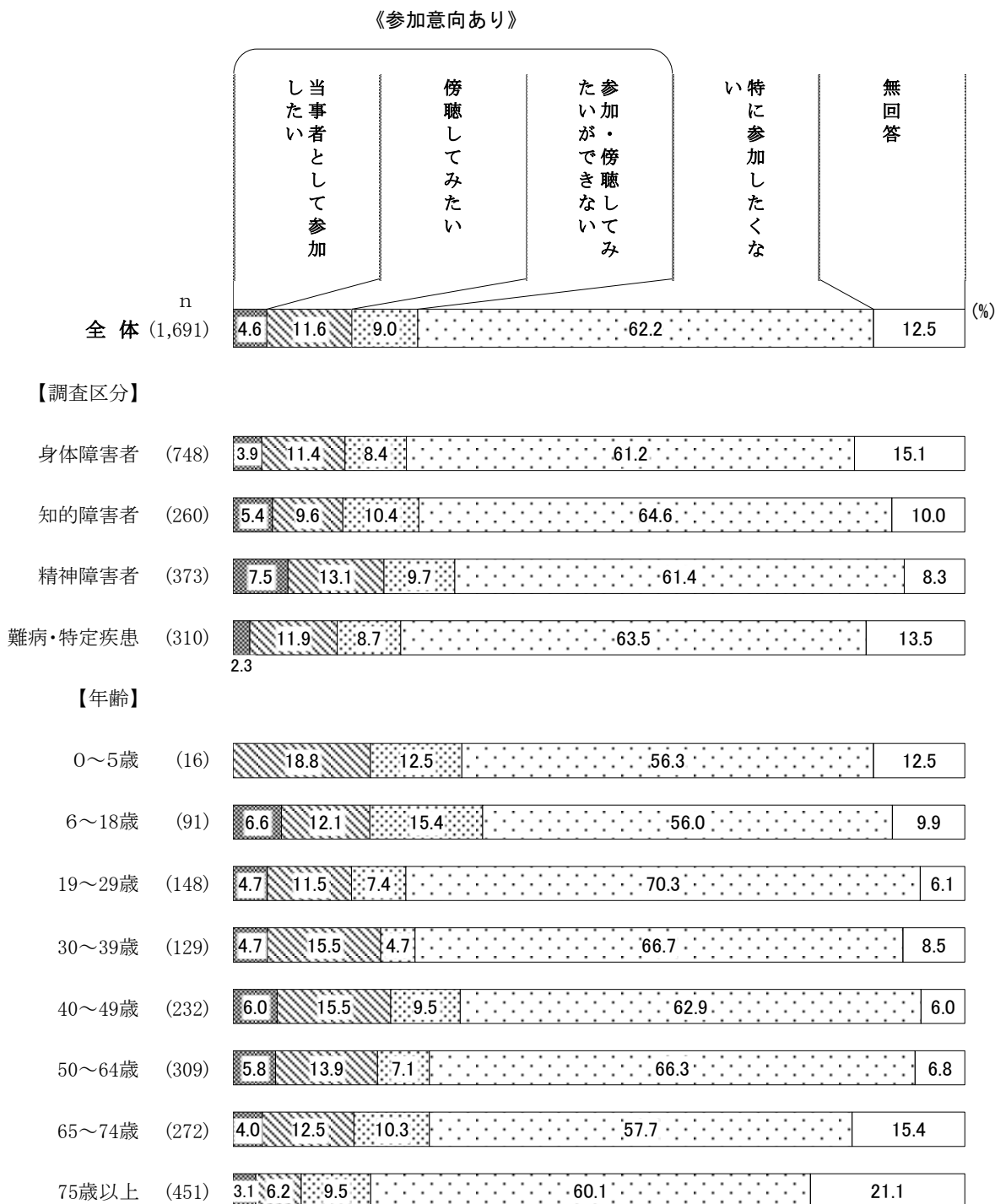
武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向は、「当事者として参加したい」は4.6%、「傍聴してみたい」は11.6%、「参加・傍聴してみたいができない」は9.0%となっている。なお、「特に参加したくない」が62.2%と多い。「当事者として参加したい」と「傍聴してみたい」、「参加・傍聴してみたいができない」を合わせたものを《参加意向あり》として捉えると、25.2%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「当事者として参加したい」は精神障害者で7.5%となっている。《参加意向あり》としてみると、精神障害者で30.3%となっている。一方、いずれの調査区分でも「特に参加したくない」が6割台と多くなっている。

年齢別にみると、《参加意向あり》は6～18歳と40～49歳で3割台となっている。一方、いずれの年齢も「特に参加したくない」が5割以上となっており、特に19～29歳で70.3%と多い。

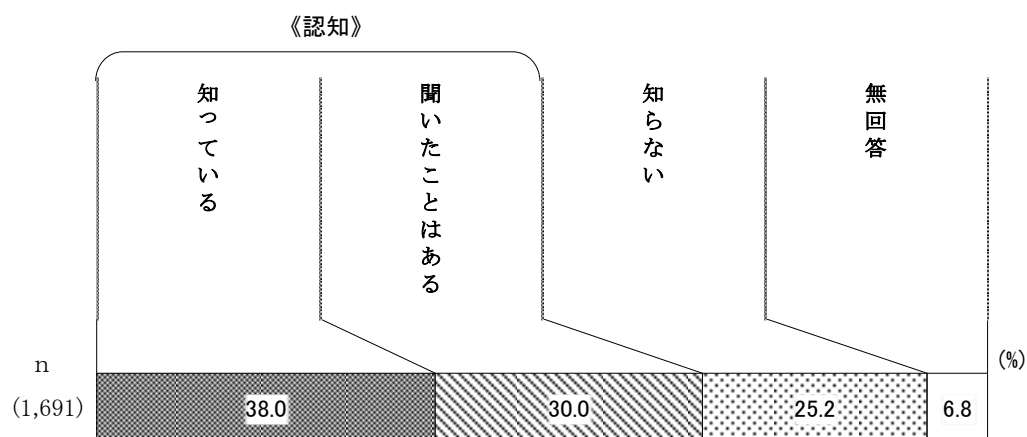
調査区分別、年齢別



14. 今後のことについて

(1) 成年後見制度の認知

問35 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)



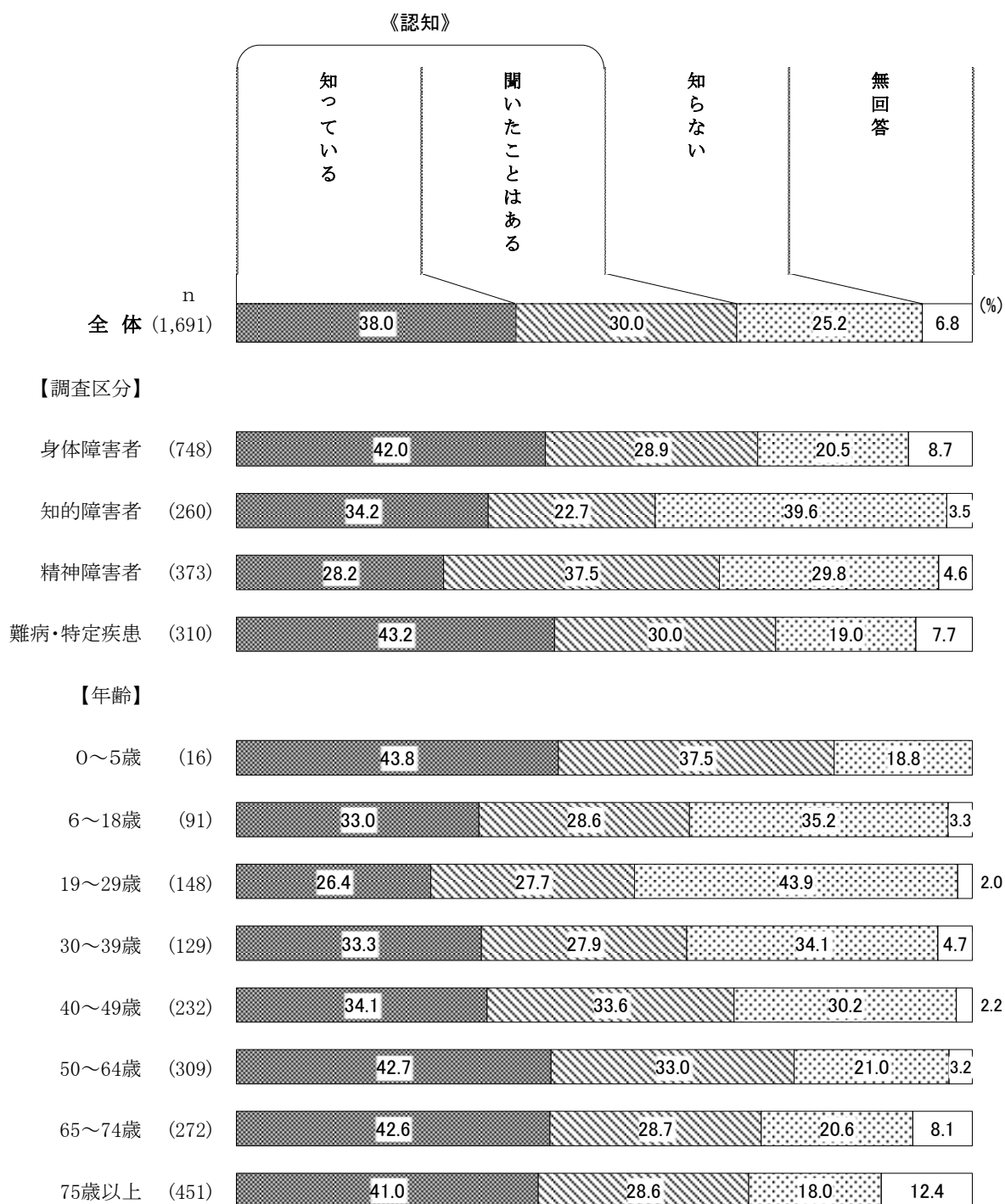
成年後見制度を「知っている」は38.0%、「聞いたことはある」は30.0%となり、両者をあわせた《認知》は68.0%となっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「知っている」は難病・特定疾患と身体障害者で4割台となっており、「認知」も7割台と多くなっている。

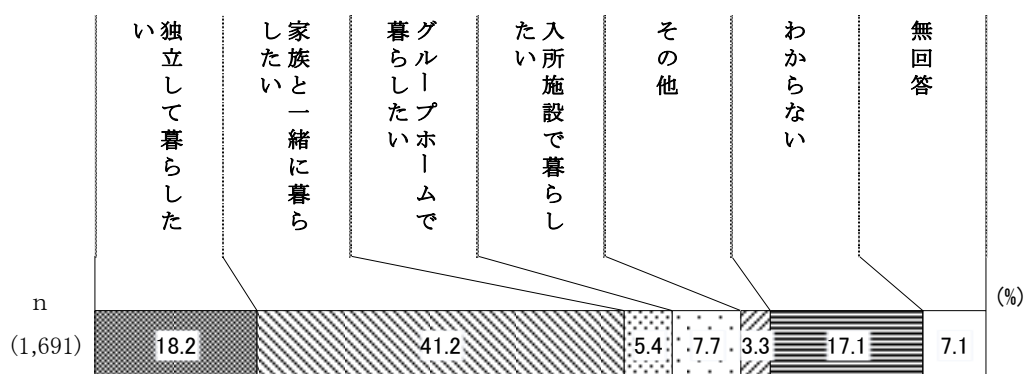
年齢別にみると、「知っている」は50歳以上で4割台となっている。「認知」はいずれの年齢も5割以上となっており、50～64歳と65～74歳では7割台と多くなっている。

調査区分別、年齢別



(2) 将来の暮らし方

問36 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)



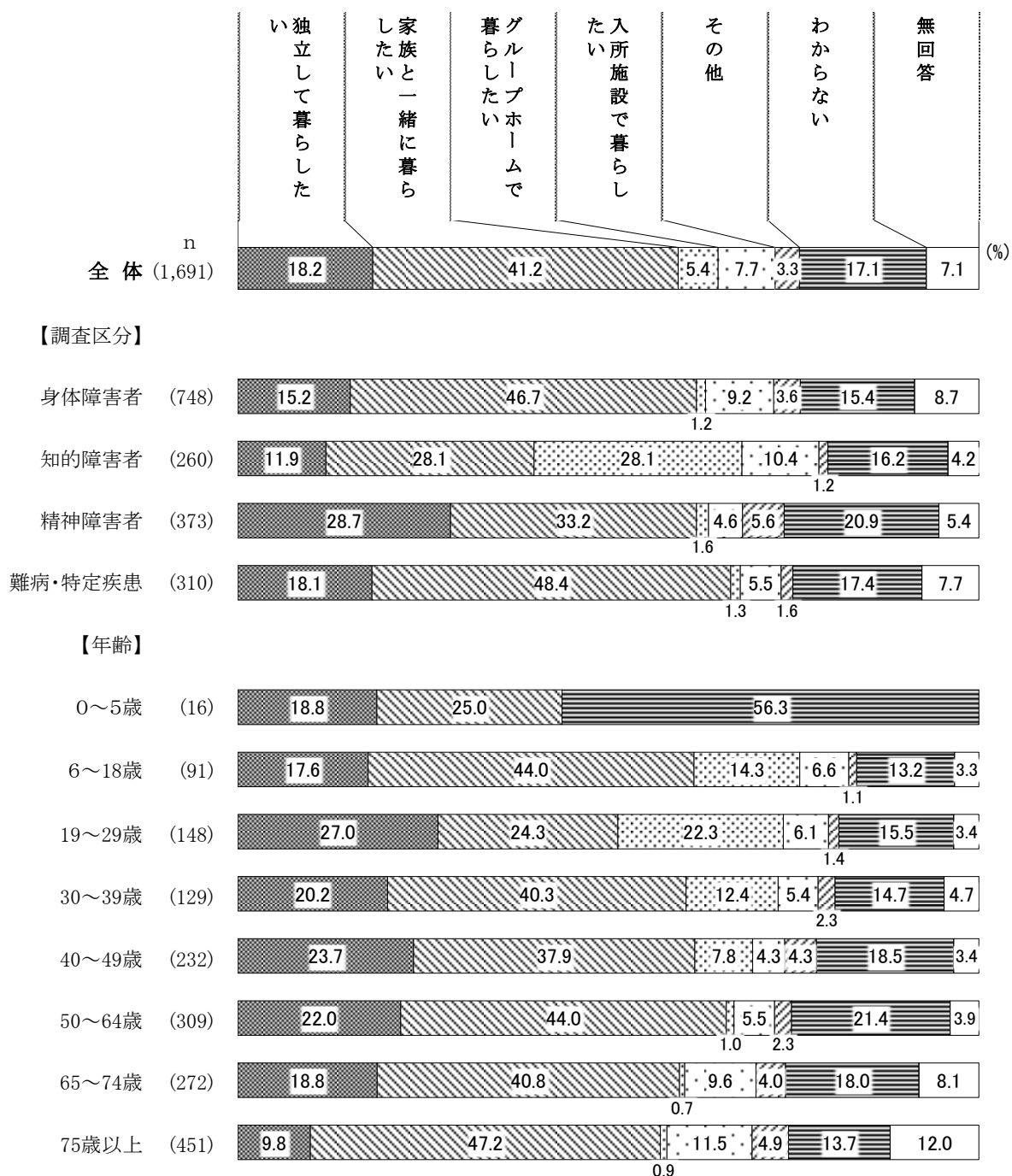
将来どのように暮らしたいと考えているかでは、「家族と一緒に暮らしたい」が41.2%で特に多く、「独立して暮らしたい」が18.2%となっている。また、「わからない」も17.1%と比較的が多くなっている。

第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると「家族と一緒に暮らしたい」は難病・特定疾患で48.4%、身体障害者で46.7%となっている。知的障害者では「家族と一緒に暮らしたい」と「グループホームで暮らしたい」がともに28.1%、精神障害者では「家族と一緒に暮らしたい」(33.2%)とともに「独立して暮らしたい」(28.7%)も多くなっている。

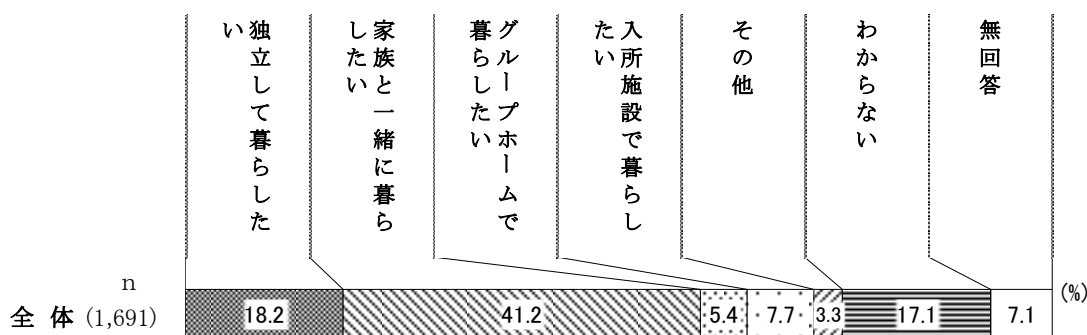
年齢別にみると、19～29歳を除き、いずれも「家族と一緒に暮らしたい」が最も多くなっている。19～29歳は「独立して暮らしたい」(27.0%)や「グループホームで暮らしたい」(22.3%)が「家族と一緒に暮らしたい」(24.3%)と並んでいる。

調査区分別、年齢別

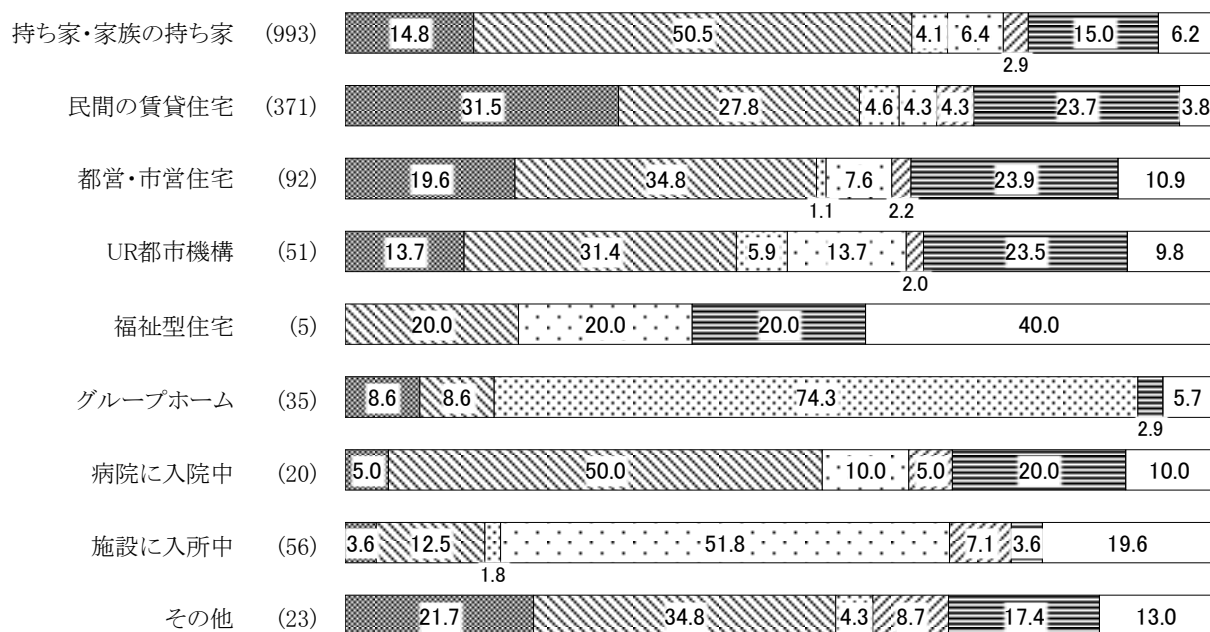


現在の生活場所別（問3参照）にみると、“持ち家・家族の持ち家”では「家族と一緒に暮らしたい」が50.5%と特に多く、“都営・市営住宅”（34.8%），“UR都市機構”（31.4%）でも3割台となっている。“民間の賃貸住宅”では「独立して暮らしたい」が31.5%と多くみられる。“グループホーム”では引き続き「グループホームで暮らしたい」が74.3%、“施設に入所中”でも引き続き「入所施設で暮らしたい」が51.8%と多くなっている。

（現在の）生活場所別

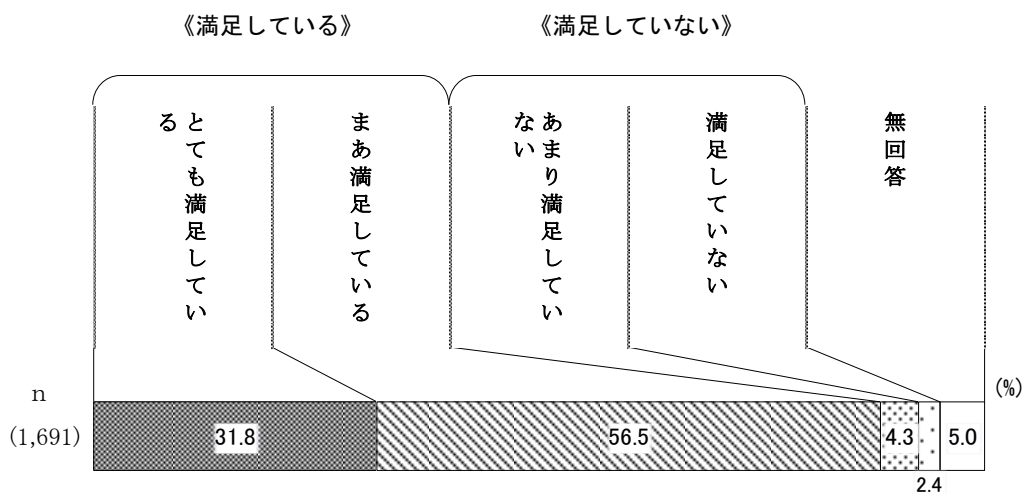


【現在の生活場所】



(3) 武蔵野市での暮らしの満足度

問37 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

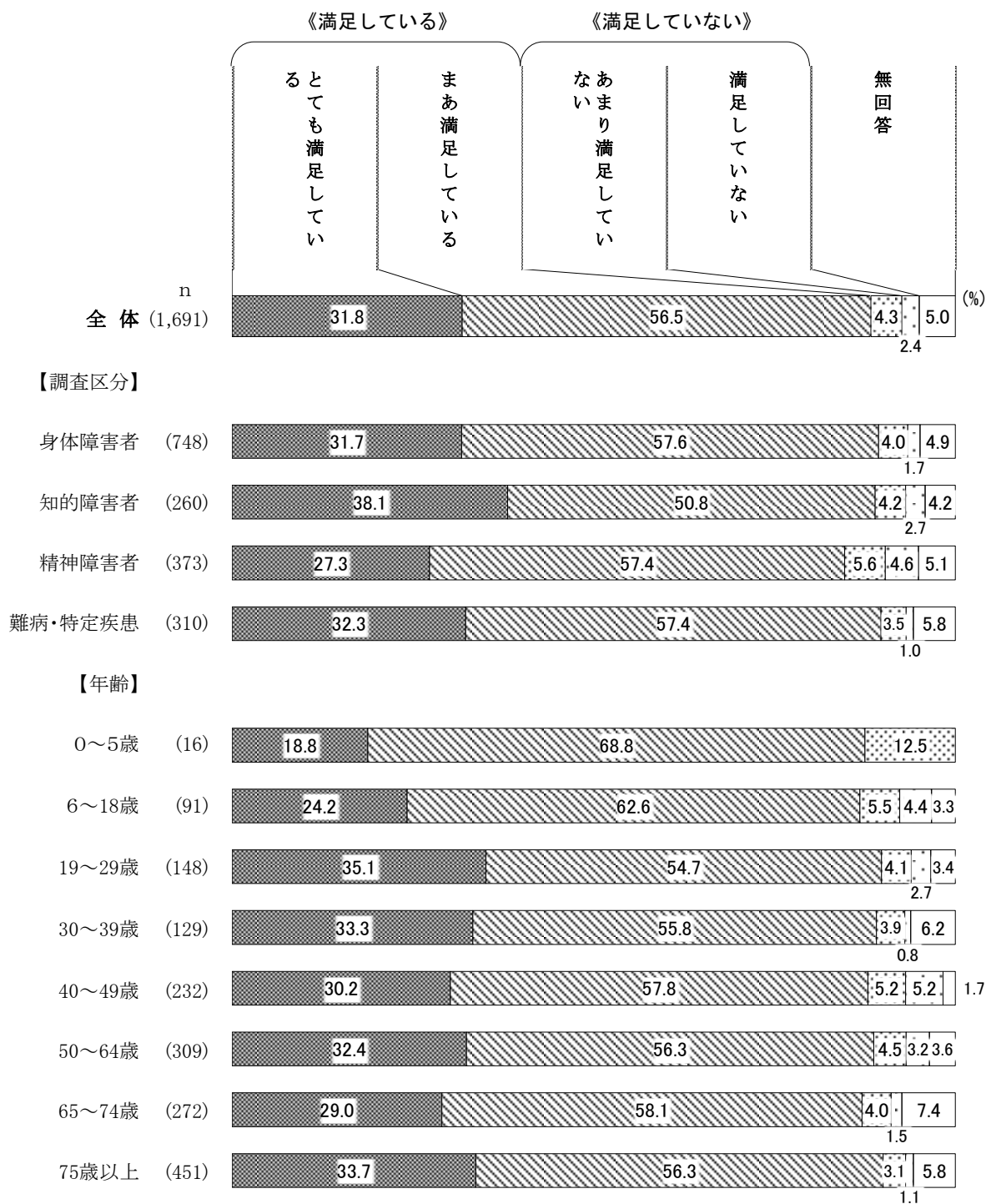


武蔵野市での暮らしに「とても満足している」は31.8%で、「まあ満足している」(56.5%)をあわせた《満足している》は88.3%となっている。《満足していない》(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は6.7%とわずかとなっている。

調査区分別にみると、《満足している》は、いずれの調査区分でも8割以上、身体障害者（89.3%）、知的障害者（88.9%）、難病・特定疾患（89.7%）では9割近くとなっている。また知的障害者では「とても満足している」が38.1%となっている。

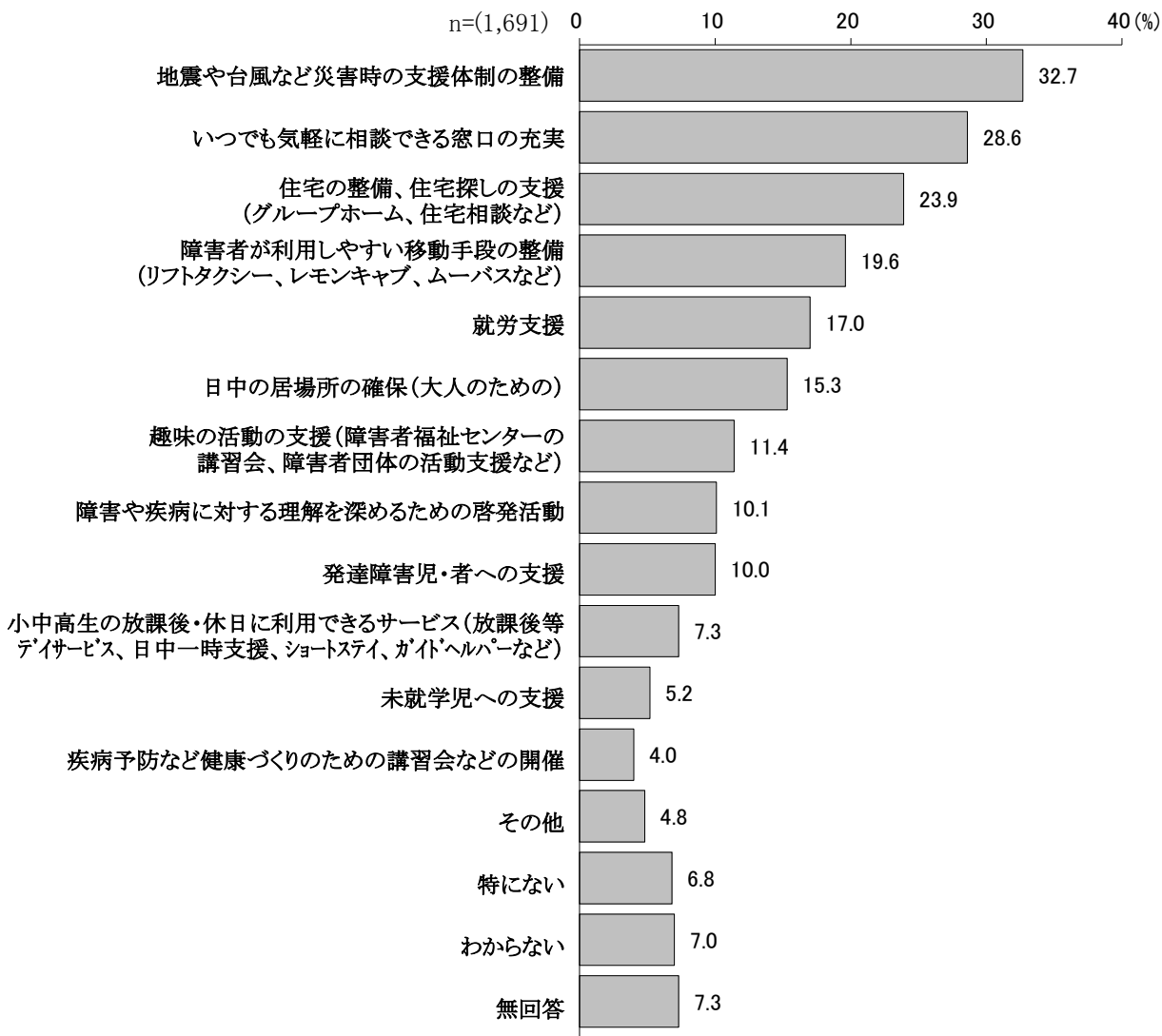
年齢別にみると、《満足している》は、いずれの年齢でも8割以上、19歳以上では9割近くに達し、75歳以上では90.0%となっている。

調査区分別、年齢別



(4) 充実すべき障害者福祉施策

問38 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)



今後、市の障害者福祉はどのようなことを充実させていけばよいか聞いたところ、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」が32.7%と最も多く、以下、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」(28.6%)、「住宅の整備、住宅探しの支援」(23.9%)が2割台、「障害者が利用しやすい移動手段の整備」(19.6%)、「就労支援」(17.0%)、「日中の居場所の確保(大人のための)」(15.3%)、「趣味の活動の支援」(11.4%)、「障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動」(10.1%)、「発達障害児・者への支援」(10.0%)が1割台で続いている。

調査区分別にみても上位5項目の順位は異なるがおおむね共通している。その中では、身体障害者では「障害者が利用しやすい移動手段の整備」(29.0%)、知的障害者では「住宅の整備、住宅探しの支援」(46.5%)及び「日中の居場所確保」(25.0%)、精神障害者では「就労支援」(27.3%)への要望が強くあらわれている。

年齢別にみると、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「住宅の整備、住宅探しの支援」、「就労支援」は多くの年齢からあげられている。18歳以下の年齢では「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」や「発達障害児・者への支援」が上位となり、19歳から39歳では「住宅の整備、住宅探しの支援」が、40歳以上では「地震や台風など災害時の支援体制の整備」が第1位となるなど、年齢による違いもみられる。

調査区分別、年齢別（上位5位表）

（%）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=1,691		災害時の支援体制 32.7	相談窓口の充実 28.6	住宅整備、住宅探し支援 23.9	移動手段の整備 19.6	就労支援 17.0
【調査区分】	身体障害者 n=748	災害時の支援体制 34.6	移動手段の整備 29.0	相談窓口の充実 26.9	住宅整備、住宅探し支援 16.3	日中の居場所確保 13.6
	知的障害者 n=260	住宅整備、住宅探し支援 46.5	災害時の支援体制 32.7	日中の居場所確保 25.0	趣味の活動支援 24.2	相談窓口の充実 21.2
	精神障害者 n=373	相談窓口の充実 38.9	住宅整備、住宅探し支援 28.4	就労支援 27.3	災害時の支援体制 26.8	発達障害児・者支援 15.3
	難病・特定疾患 n=310	災害時の支援体制 35.2	相談窓口の充実 26.5	住宅整備、住宅探し支援 17.7	移動手段の整備 17.1	就労支援 16.8
【年齢】	0～5歳 n=16	放課後等の利用可能サービス 62.5	移動手段の整備 31.3	住宅整備、住宅探し支援／未就学児支援／ 発達障害児・者支援／相談窓口の充実		25.0
	6～18歳 n=91	放課後等の利用可能サービス 44.0	発達障害児・者支援 39.6	住宅整備、住宅探し支援 38.5	日中の居場所確保 28.6	就労支援 26.4
	19～29歳 n=148	住宅整備、住宅探し支援 37.2	災害時の支援体制 27.7	趣味の活動支援 21.6	相談窓口の充実 20.9	就労支援 19.6
	30～39歳 n=129	住宅整備、住宅探し支援 32.6	相談窓口の充実 31.8	災害時の支援体制 29.5	就労支援 23.3	日中の居場所確保 22.5
	40～49歳 n=232	災害時の支援体制 35.3	住宅整備、住宅探し支援 33.2	相談窓口の充実 31.0	就労支援 28.9	啓発活動 15.5
	50～64歳 n=309	災害時の支援体制 34.0	相談窓口の充実 32.0	住宅整備、住宅探し支援 27.2	就労支援 23.3	移動手段の整備 18.1
	65～74歳 n=272	災害時の支援体制 32.4	相談窓口の充実 31.3	移動手段の整備 21.7	住宅整備、住宅探し支援 18.0	就労支援 14.7
	75歳以上 n=451	災害時の支援体制 35.9	移動手段の整備 31.5	相談窓口の充実 27.9	日中の居場所確保 13.3	住宅整備、住宅探し支援 11.1

※表記の都合上、選択肢は簡略して表示している。

(5) 回答者からの意見・要望（自由記述）

問39 武蔵野市の障害者福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

（公開してもよい／公開しないでほしい）

市の障害者福祉に対して意見・要望を自由に記述していただいたところ、495件の記述があった。

その内容を分類し、公開可（公開不可、不明を除く）とされている意見から、代表的なものを抽出した。なお、1人が2つ以上の分類にわたる内容を記述、また同じ分類枠でも内容が大きく異なる場合は、それぞれをカウントするため、件数は延べ件数となる。

※意見はほぼ記載通り転記しているが、誤字・脱字、句読点等の修正のほか、意味が通じにくい部分は意見の趣旨を損なわない形で修正している場合がある。

◆外出・バリアフリー・移動（54件）

- ・狭い道路で自転車が歩道を走るので危険になる。自転車は歩道では押して歩いて欲しい。
- ・視力障害者のブロックが歩行障害のある私にとっては、つまずきの危険になってしまっている。何かいい方法はないのか検討して欲しい。
- ・オストメイト対応のトイレをふやしてほしい。
- ・ガイドヘルパーさんが混みあっていて利用が難しいので、増やしてほしいです。
- ・レモンキャブの利用方法を知りたい。
- ・駅のまわり、公園、バス停などベンチをふやして欲しい。しんどい時に休める場所があると助かります。コンビニ、タバコ屋、オフィスビルの前などに喫煙スペースがあるとその前をとおるだけでしんどいので規制して欲しい。駅にホームドアを設置して欲しい。
- ・車イスで通行しづらい歩道が多いと感じる。デコボコしていたり、少しの段差があつたりすると介助者の負担も大きいし、斜めに傾いている歩道を歩行する際の危険や介助しづらさ（→車道と反対側に下がっているので、車イスを押す者にはそちらの腕に負荷がかかりすぎる。）について考えてもらいたい。しかもそういう歩道を自転車が通行するのは車イスにとって本当に危険。バスやレモンキャブなどの充実はとても大切だが、歩道という最も身近な部分についても目を向けてほしい。
- ・障害者でなくても、歩行に不安のある老人の、通院や公的手続きのためのタクシー料金の割引制度のようなものはできないものでしょうか。

◆福祉全般・制度（43件）

- ・難病の高齢者は、介護保険を先に使って足りなければ、障害福祉サービスを利用するように言われたが、介護保険ではサービスが認められていないこともある。（本屋に行くなどの趣味活動）生活の質を考えて、認めてもらえればありがたい。
- ・障害者福祉はおおむね身体障害でいえば4級以上を対象としていると感じているが、比較的障害の程度が軽い人も利用できるようにしてほしい。
- ・働きたくても働けない障害者もたくさんいるので「就労支援」に重点をおいた施策にかたよってばかりだと悲しくなってくる。バランスのよい施策を行うようにしてほしい。
- ・精神障害だけ支援が他の障害と比較して遅れている。
- ・障害者が気がねなく暮らせるまちでありますように、それが誰にとっても暮らしやすいのだと、認識できる施策をお願いしたいです。

◆市の福祉施策の評価（39件）

- ・武蔵野市は福祉がしっかりしているので安心して住める。
- ・良くととのっていると思います。財政的に持続可能を祈っています。
- ・ヘルプカード／ヘルプマークを見かけるようになった。たいへん喜ばしいです。自立支援協議会の努力が実りましたね。
- ・武蔵野市は全国的に色々な面で比較して見ると、上の中以上の市であると思うので、福祉面でも良い方だと感じています。要望はよい方であれば、いくらでもよい方がいいに決まっているので、ひとつずつよくなれば良いと思います。
- ・医療費の助成を受けています。おかげさまで安心して仕事と生活ができています。大変助かっています。ありがとうございます。

◆相談・情報（39件）

- ・現在は視覚障害者の事をよく理解して下さる障害者相談支援事業所の方がいらっしゃいます。いろいろと相談する事ができます。こういう専門の方がいらっしゃるととても有り難く心強いです。どんな障害でも知識のある方が市の福祉を担っていただけると幸いです。
- ・障害者福祉について、情報や内容を誰かに聞かないとわからない。
- ・現在、市内の障害者施設に通所していない。また、障害者団体に参加していないので、情報があまり入ってきません。入所施設、グループホーム、講演会等の情報は、市内の施設を利用している友人から教えてもらっている。武蔵野市で生活しているにもかかわらず、他市に住んでいるような、居ごちの悪さがある。
- ・土、日にも相談できたらとてもありがたい。もしくは夜間等。カウンセリングを受けたいが保険証が使えないのでいつも困っている。
- ・障害者福祉は高齢者福祉と一体だと思う。（年月がたてば自然と）その時々で相談内容や困り事も変わっていくと思うので、相談の窓口を知ることができるよう情報発信をしてほしいです。
- ・何をやっていて、どんなことを助けてもらえるのか情報が少ない。

◆障害児（35件）

預かり（12件）

- ・放課後等デイサービスが、利用者増加のため全く利用できません。一度OKされても、急な事業所閉鎖のためことわられたり、遠方の送迎必須のため働けなかったり、とても不便です。他の市や区内での利用をしていますが、市内に増やしていただきたいです。

療育（発達支援）（12件）

- ・使いたいサービスはあるが、職員の人手不足や事業所の撤退などで現実的に使えないことがある。
- ・子供（発達障害）が暴れるため、いつも病院に行く際悩んでおります。
- ・公的に療育を受けられるところがない。

教育（11件）

- ・学校と子育て支援機関をつなげる仕組み作りが必要。自立支援協議会に子育て部会や教育支援部会を新設してほしい。
- ・誰もが安心して地域の学校に通える環境を望んでいます。障害がある、ないに関わらず、一人の人として皆が認めあえる場や環境があつてこそ、地域、社会で過ごしていけると思います。就学時に分けることをしていると、大人になるまでに触れ合える時間もお互いに少なくなり、実際に必要な事や伝えることに対してもスムーズにいかないと思います。子どもの頃から皆と一緒に過ごすことでお互いがわかり合えることを試行できるのではないのでしょうか。希望する地域、実施する地域は増えております。ぜひ武蔵野市でも行ってほしいと切に願います。

◆経済的支援（手当・助成・各種年金等）（31件）

- ・医療費の助成について。65歳未満で身体障害者手帳を取得し（障）申請した人は、65歳以上になっても医療費の助成が受けられると解釈している。65歳以上で身体障害者手帳を取得した場合、医療費助成が受けられないのは何故ですか。65歳以上で待遇差が出ていると思う。同じ待遇にして欲しい。
- ・例えば、会社員が障害者になってしまった場合、社会復帰後にも従来の仕事は続けていくことはできるが、週休2日では以前の様に体を動かす事がつらくなり、週休3日等に変更ができたとしても以前と同じ労働時間では無くなるため、所得は当然下がる。これに対する手当等の制度があると良いと思う。
- ・独立しては経済的に厳しいので、収入補助が必要。
- ・障害年金取得までのサポートをして欲しいです。社労士に依頼すると多額の費用が掛かるので取得までの道のりをサポート及び解説して下さる方がいれば、心強いと感じます。
- ・難病者福祉手当が所得制限基準超過者への支援を2019年8月から見直すことが通知されました。福祉充実のためでしょうが、より具体的に説明がほしいと思います。対象者ひとり一人に具体的に支給対象外なのか等の、より丁寧な通知・説明があつてもよい。
- ・経済的理由で治療を受けづらくなならないよう、医療費の助成は有難く、続けて欲しい。余裕のある場合には必要ない方もいると思う。一律ではなく必要性を見極めてお金を大切に配当して頂きたい。

◆職員・市役所（27件）

- ・市役所1Fに窓口があり、行きやすい。
- ・武蔵野市の障害者福祉課の皆様はとても親切で、市の教育や人材が行き届いていらっしゃると感じ、いつも安心して相談や手続きができています。本当にいつもありがとうございます。
- ・一番の不满は市の担当者によって、対応のしかたがまるで違う。受けられる支援の数、度合いまで違って来る。

◆障害の理解、健常者の意識啓発（27件）

- ・人間、それぞれ顔が違うように、同じ病を負った人もそれぞれです。障害が違うことを認め、わかった上で小さな親切、余計なお節介にならないようにひとり一人が気を配るべきです。
- ・まだまだ世間一般には自閉症について知らない人が多く生きづらい。わがままで騒ぎ、やろうと思えばできるのに…と誤解されている。もっと啓発を行い、真のバリアフリーを実現してほしい。
- ・精神障害者への偏見が少なからず多いと思う。正しい理解の為に、一般の方々への啓発をぜひ行ってほしい。
- ・見た目ではわからない難病への理解がまだまだなので、少しずつでも色々な人に理解してもらえるような活動があればうれしいです。

◆サービスや生活補助、施設利用（26件）

- ・以前に送迎付きのサービス（公的なもの、体を動かす運動）を利用していました。とても満足していたのですが更新のタイミングを逃してしまい、途絶えてしまいました。私は耳が悪く目も悪いので情報が入ってこなかったのです。途中参加は出来ないとの事で、大変さびしい思いをしました。とても良いサービスでしたので、もっとクラスを大きくするとか数を増やすなどしていただければ嬉しいです。
- ・高齢者施設を増やしてほしい。入所しやすい状況があれば、1人暮らしでさみしい思いもせず、武蔵野市での生活を続けることができるが、お金（税金）もかかるので強くは言えません。
- ・就労時間、日が限られてしまっている。収入がほとんど無い為、1日預けてもらえる場所をふやして欲しいです。
- ・いろいろな支援があるが、対象が身体と知的の方のみの場合が多いと感じる。精神障害者にももっとサービスが増えて欲しい。
- ・スタッフが24時間いる女性だけの施設をお願いします。

◆活動・交流・講座等（20件）

- ・武蔵野総合体育館で障害者がスポーツや運動をしやすい様にしてほしいです。（障害者のためのスポーツ教室など）
- ・気軽に利用出来る運動する場・指導する方、プロだけでなく、一緒に動き遊んでくれる人がいる場所があるといいと思います。（運動だけでなく、絵を書く、歌をうたう等も、年齢に関係なく集まる場）よろしくお願い致します。
- ・障害者と健常者が一緒になって交流できる場があったらいいと思う。精神障害者の将棋大会をつくってほしい。
- ・未就園児などをかかえた難病の母親の集まり、あるいは難病を抱えたお子さんの親などの集まりがあると心の支えになるし、メンタル面でも心強いので、そういう場や機会を提供してもらえると助かります。

◆住居やグループホーム、施設入所等（20件）

- ・住宅に困っている。家賃が高いので困って都営住宅の申し込みをしているが当たらない。もう少し空き家をお願いしたいです。
- ・体が動く間は、作業所等で仕事をして、グループホーム等で好きな事をしながら生活し、その後もグループホームや施設（老人ホーム等）で安心して生活出来る場が欲しい。親が亡くなってからが心配。
- ・施設やグループホームは、重度の人達、又は男性が優先されているので、軽・中度の人の終の住処も作ってほしい。

◆就労／雇用（20件）

- ・市内で働ける場所をもっと知りたい。
- ・将来農業をしたいと考えているので、そういう就労支援を一緒にしてほしい。面接や仕事を覚えるまではついていてほしい。その後も担当の人が定期的に来てほしい。健常の人と分けなくてほしい。学校でも分けなくてほしかった。サービスが少ないし混んでいる。
- ・障害者を育てた経験のある親が社会復帰できる仕組み、サポートをお願いしたいです。例えば、健常児のコミュニティであれば先輩ママと新米ママとのつながりはできやすいですが、障害児を授かると、自分から動かない限り、『縦のつながり』はなかなか生まれません。結果「孤立」を招く危険性もあるので、障害や病気の子どもの親が集える、もしくは働くこともできる公的な場所があったら良いと思います。

◆不安に感じていること、困りごと（19件）

- ・親も歳を取り、ゆくゆくは自活しなければならないが生活費が心配。多少の老後の資金の準備はしているが、先々どうなるかわからない。不安である。
- ・地域で完全に孤立している事が最大の悩み。障害があるので尚更、物凄く、生きづらさを感じていて酷く苦悩している。老後も含めて折角の人生、前向きに豊かな人生を歩みたいと思っているが、困難を極めている。社会と人とつながりたい。
- ・働くのがつらいが医療費が高くて体調が悪くてもムリして働くしかないのがつらすぎる。病院にかかる以外でもやはり難病は何かとお金がかかる。がんばってムリして働かなければ医療費やその他の経費がまかなえない。

◆災害時の対応（14件）

- ・今のところは夫の支援があるので日常生活で困ることはないのですが、今後視力がおちた場合、災害時の避難などに支障がでるのではと不安を感じています。
- ・昨年の大きな台風（令和元年東日本台風）の際に、避難するべきか、どこに避難所があるのか等の判断に困りました。また、避難所に行っても居場所があるのか、不安も感じました。災害時の情報や判断基準等、もっと考えていかなければならないと、自分自身考えるきっかけになりました。もしもすでに情報提供が行われているようなら、もっと周知をお願いしたいです。
- ・薬（災害時）の確保をしてほしい。2週間分の薬をあずける施設を作って欲しい。
- ・災害時、障害者とその家族だけの避難所があればうれしい。健常者の人たちに迷惑をかけたくない。災害時は不安です。

◆親なき後の不安（13件）

- ・本人も歳を重ね、両親も高齢になると、子どもの行く末がとても心配です。武蔵野市ですと生活できればと思います。
- ・親がわりの後見制度もあってほしいと思っています。
- ・親なき後、兄弟、姉妹に迷惑をかけないで自立した生活が出来るようにして欲しい。

◆保健・医療（12件）

- ・障害、難病・疾患患者に対して、診察する医師の姿勢がここまで自分の範囲という線を引く先生がいる事が残念です。はれものにさわるような不快な経験を何回もした事は事実です。もっと広い心を持ち、患者に接して向き合ってほしいと願っています。（現在は良いドクターにやっとなめぐりあい、良かったと思っています。）
- ・自閉症や知的障害などに対応できる専門医療機関が市内にはなく、多くの障害者が市外の遠くの医療機関まで足を運んでいるのが現状です。緊急時や将来的なことを考えると不安でなりません。

◆申請・手続き（10件）

- ・市役所からはなれて住んでいます。色々な手続き（通院費など）の申請は書いて持っていただけなのに、本所でしかできない。市政センターで、できる手続きを増やしてほしい。視覚障害（弱視）のため、バスに1人で乗るのも大変です。各市政センターでできたら楽です。安全です。
- ・平日、日中仕事している人にとって、市役所の窓口が平日の決まった時間のみの対応なのは大変困っている。手続きが支所ではなく、市役所に出向く必要があるのは不便である。
- ・駅前に障害者窓口を設置してほしい。いろいろな手続きに役所まで行くのが大変。

◆学校等卒業後の受け皿や社会人のための居場所（8件）

- ・高校卒業後の居場所の確保が難しいと感じています。昼間活動終了時間が早いと聞いています。その後の居場所が全く無い様なので不安です。
- ・子どもが学生の頃は、放課後等デイサービスや学校での預かりサービスもあり、決まった曜日に働くことができました。現在子どもは作業所に通所していますが、決まった曜日にショートステイ短期入所又は移動支援の予約がとれません（ヘルパー不足とは伺っています）。帰宅時間が早くなり、学校卒業と同時に仕事ができなくなりました。成人のショートステイ・短期入所枠を増やしていただきたいと切に願っています。
- ・就労してからの居場所が職場と家のみ。児童デイサービスのような活動のできる環境を作してほしい。体力がある年代の男子に親が付き添うことは難しくなっていく。

◆実態調査について（22件）

- ・現在受けている福祉内容については満足している。現在健康であり様々な福祉制度を受けることなくすごしているが、体が不自由になり1人で動けなくなった時、支援を受ける必要があり、様々な制度があることを、アンケートを通じて知ることができて、大変勉強になりました。
- ・このようなアンケートは、「市障害者計画に反映する」、「日常生活を送る上で必要な検討の資料とする」とありますが、実際に『反映』、『検討』した場合は公表（開）してほしい。
- ・こういった書類も、より太く濃い色の文字を使って欲しいです。コントラストが弱い目ですと、よく見えません。
- ・このアンケートに関して、本人は何に困っているかそれさえも分かっていないので、回答がしばらく保護者としては考えてしまいます。
- ・アンケートの内容が生活の実態と合わない。

◆その他（16件）

- ・市の特色を生かした文化事業を充実してください。かつて武蔵野美大が存在し、美術展が栄えました。美術の街武蔵野市を復活してください。年寄りにとって心がなごみ、元気につながります。
- ・駐車場の料金が高すぎます。特にコインパーキングは高いです。又、吉祥寺は少ないので多くしてほしいです。

第4章 調査票

武蔵野市 障害者福祉についての実態調査

～生活支援ニーズ調査～

－ 調査ご協力のお願い －

日頃より武蔵野市の福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査は、武蔵野市が実施するもので、調査対象者として令和元年11月1日現在、障害者手帳をお持ちの方や医療費の助成を利用されている方などから無作為で抽出した3,000名の方へ調査票を送付させていただきました。立ち入ったことや、ご自身とは関係ないと思われる内容もあるかと思いますが、お答えいただけるものだけでも結構ですので、ぜひともご協力をお願いいたします。

調査結果は、来年度改定を予定している武蔵野市障害者計画に反映するとともに、皆様が日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料とします。

なお、本調査票にお名前をお書きいただく必要はございません。また、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個々の方のお名前やご回答内容が特定されたり、公表されるようなことは一切ございません。どうぞ率直なご意見、お考えをお聞かせください。

令和元年11月

武蔵野市長 **松下 玲子**

【ご記入にあたって】

- 1 回答で、「その他」を選択される場合には、() 内にその内容を具体的にご記入ください。
- 2 記入が済みましたら、返信用封筒（切手不要）に入れ、
12月20日（金）までにご返送ください。
- 3 ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、おひとりでの記入が難しい方もご相談ください。また、ルビ付きや、拡大版は障害者福祉課にもご用意がございます。ご希望の方はお申し出ください。

武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課 担当：寺井／飯田

電話番号 0422-60-1904、1847

ファックス 0422-51-9239

E-mail SEC-SYUGAI@city.musashino.lg.jp

回答者についてお聞きします。

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)

- | |
|-----------------------------------|
| 1 宛名のご本人が記入 |
| 2 宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入 |
| 3 宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入 |
| 4 その他 () |

以下、すべての設問中の「あなた」とは、封筒の宛名のご本人です。封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や支援者の方がご本人のことをお答えください。

あなた（封筒の宛名のご本人）についてお聞きします。

問2 あなたの年齢、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

① 年 齢 (令和元年11月1日 現在)	1 0～5歳	4 30～39歳	7 65～74歳
	2 6～18歳	5 40～49歳	8 75歳以上
	3 19～29歳	6 50～64歳	
②居住地域	1 吉祥寺東町	6 中町	11 境
	2 吉祥寺南町	7 西久保	12 境南町
	3 御殿山	8 緑町	13 桜堤
	4 吉祥寺本町	9 八幡町	14 その他
	5 吉祥寺北町	10 関前	()

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。

- | | | |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 持ち家・ご家族の持ち家 | 4 UR都市機構 | 7 病院に入院中 |
| 2 民間の賃貸住宅 | 5 福祉型住宅 | 8 施設に入所中 |
| 3 都営・市営住宅 | 6 グループホーム | 9 その他 () |

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------|---------------------|
| 1 ひとり暮らし | 6 子・子の配偶者(妻・夫) |
| 2 父母 | 7 孫・孫の配偶者(妻・夫) |
| 3 祖父母 | 8 施設やグループホームで生活している |
| 4 配偶者(妻・夫) | 9 その他 () |
| 5 兄弟・姉妹 | |

問5 あなたが生活するためのお金（収入源）は、次のうちどれですか。
 （あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1 給与 | 6 生活保護 |
| 2 施設・作業所などの工賃 | 7 手当 |
| 3 障害年金 | 8 同居家族の収入や仕送り |
| 4 老齢年金 | 9 その他（ ） |
| 5 事業・財産収入 | 10 収入なし（今までの貯金を元に生活している） |

問6 あなたの世帯全体の平成30（2018）年中の収入額はどのくらいでしたか。（1つに○）
 ※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入（税金を引かれる前の金額）でお答えください。

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 収入はない | 7 300～400万円未満 |
| 2 50万円未満 | 8 400～500万円未満 |
| 3 50～100万円未満 | 9 500～1,000万円未満 |
| 4 100～150万円未満 | 10 1,000万円以上 |
| 5 150～200万円未満 | 11 わからない |
| 6 200～300万円未満 | |

あなたの状況についてお聞きします。

問7 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。（1つに○）

- | | |
|---------|----------------|
| 1 持っている | 2 持っていない ⇒ 問8へ |
|---------|----------------|

▶【問7で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

（あてはまるものすべてに○をつけて記入）

- | | | |
|---------------------|-------|--------------|
| 1 身体障害者手帳を持っている | | _____級 |
| 2 愛の手帳を持っている | | _____度 ⇒ 問8へ |
| 3 精神障害者保健福祉手帳を持っている | | _____級 ⇒ 問8へ |

▶【問7-1で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問7-2 障害の種類はどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------|
| 1 視覚 |
| 2 聴覚・平衡 |
| 3 音声・言語・そしゃく |
| 4 肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害） |
| 5 内部（心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこうなど） |

すべての方にお聞きします。

問8 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、小児慢性疾患医療などが含まれます。

- | | | |
|----------------|-------|----------|
| 1 医療費の助成を受けている | 2 申請中 | 3 受けていない |
|----------------|-------|----------|

問9 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 発達障害 | 3 難病・特定疾患 |
| 2 高次脳機能障害 | 4 いずれも受けていない |

問10 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

- | | |
|------|--------------|
| 1 はい | 2 いいえ ⇒ 問11へ |
|------|--------------|

▶【問10で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。
(主にあてはまるもの5つまでに○)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1 身体介助(入浴・排せつなど) | 8 日常的なコミュニケーション |
| 2 家の中の移動 | 9 薬・服薬の管理 |
| 3 外出(通院を含む) | 10 お金の管理 |
| 4 日常の買い物 | 11 市役所や事業者との手続き |
| 5 家事(調理、洗濯、掃除) | 12 その他() |
| 6 食事の配食 | 13 特にない |
| 7 寝具の乾燥・丸洗い | |

▶【問10で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-2 主に介助しているのはどなたですか。(1つに○)

- | | |
|------------|------------------|
| 1 父母 | 5 子または子の配偶者(妻・夫) |
| 2 祖父母 | 6 孫または孫の配偶者(妻・夫) |
| 3 兄弟・姉妹 | 7 その他() |
| 4 配偶者(妻・夫) | |

保健・医療についてお聞きします。

問11 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれるかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。（それぞれ1つに○）

①かかりつけの医師	1 いる（市内）	2 いる（市外）	3 いない
②かかりつけの歯科医師	1 いる（市内）	2 いる（市外）	3 いない
③かかりつけの薬局（薬剤師）	1 いる（市内）	2 いる（市外）	3 いない

問12 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。
（主にあてはまるもの3つまでに○）

1 近所で診療をしてくれる医療機関がない	7 受診の手続きや案内などが障害への配慮に欠けている
2 通院するのが大変	8 医療費の負担が大きい
3 訪問診療をしてくれる医療機関がない	9 入院の際に付き添いや個室の利用を強いられる
4 通院時に付き添ってくれる人がいない	10 その他（ ）
5 障害を理由に診療を断られることがある	11 特になし
6 障害のため症状が正確に伝えられない	

問13は40歳以上の方にお聞きします。（40歳未満の方は問14へ）

問13 現在、介護保険の認定を受けていますか。（1つに○）

- 1 受けている 2 受けていない ⇒ 問14へ 3 申請中 ⇒ 問14へ

▶【問13で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問13-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。（1つに○）

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1 要支援1 | 3 要介護1 | 5 要介護3 | 7 要介護5 |
| 2 要支援2 | 4 要介護2 | 6 要介護4 | |

▶【問13で、「1 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問13-2 利用している、又は利用したことがある介護保険サービスはどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 訪問介護（ホームヘルプ） | 6 福祉用具購入・貸与 |
| 2 訪問看護 | 7 住宅改修 |
| 3 訪問リハビリテーション | 8 その他（ ） |
| 4 通所介護（デイサービス） | 9 いずれも利用していない |
| 5 通所リハビリテーション（デイケア） | |

相談や情報入手についてお聞きします。

問14 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

1 ある

2 ない ⇒ 問15へ

▶【問14で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

問14-1 困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕(1つに○)

1 いる

2 いない ⇒ 問14-4へ

▶【問14-1で「1 いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-2 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1 地域生活支援センターびーと | 13 福祉公社 |
| 2 ライフサポートMEW (サポミュー) | 14 学校の先生 |
| 3 地域活動支援センターコット | 15 教育支援センター |
| 4 市役所 | 16 こころの健康相談室 |
| 5 障害者福祉センター (ほくと、ゆいっと) | 17 民生委員 |
| 6 みどりのこども館 (ハビット) | 18 身体 (知的) 障害者相談員 |
| 7 施設や就労支援事業所 | 19 保健所 |
| 8 相談支援専門員 | 20 その他 |
| (事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | () |
| 9 医療機関 (医師、看護師、リハビリスタッフなど) | |
| 10 ケアマネジャー | |
| 11 在宅介護支援センター、地域包括支援センター | |
| 12 ホームヘルパーなどのサービス提供事業者 | |

▶【問14-1で「1 いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-3 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 相談場所が遠い | 7 訪問での相談が受けられない |
| 2 相談する日時が合わない | 8 じっくり話を聞いてもらえない |
| 3 プライバシーが守られるか不安 | 9 相談先が限られている |
| 4 相談先の知識不足や対応に不満 | 10 その他 |
| 5 実際に支援が始まるまでに時間がかかる | () |
| 6 実際の支援につながらない | 11 特にない |

【問14-1で「2 いない」と回答した方にお聞きします。】

問14-4 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1 相談先がわからない	4 他人に相談するのが不安
2 誰にも相談したくない	5 その他 ()
3 家族や友人以外に相談する必要がない	6 相談するほどのことでもない

すべての方にお聞きします。

問15 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1 地域生活支援センターびーと	15 教育支援センター
2 ライフサポートMEW (サポミュウ)	16 こころの健康相談室
3 地域活動支援センターコット	17 民生委員
4 市役所	18 身体(知的)障害者相談員
5 障害者福祉センター(ほくと、ゆいっと)	19 保健所
6 みどりのこども館(ハビット)	20 市報
7 施設や就労支援事業所	21 障害者福祉のしおり
8 相談支援専門員 (事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)	22 障害者福祉課の広報誌 (「つながり」・「こころのつながり」)
9 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)	23 市のホームページ
10 ケアマネジャー	24 むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ
11 在宅介護支援センター、地域包括支援センター	25 インターネット
12 ホームヘルパーなどのサービス提供事業者	26 その他 ()
13 福祉公社	27 特に情報を得ていない
14 学校の先生	

問16 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)

1 通園・通学している	2 通園・通学していない ⇒ 問20へ
-------------	---------------------

▶【問16で「1 通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問16-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

【父親の就労状況】	【母親の就労状況】
1 正社員として働いている	1 正社員として働いている
2 パート・アルバイトなどで働いている	2 パート・アルバイトなどで働いている
3 働いていないが、できれば働きたい	3 働いていないが、できれば働きたい
4 働いていないし、その意向もない	4 働いていないし、その意向もない
5 その他 ()	5 その他 ()
6 父親はいない	6 母親はいない

仕事の状況や今後の希望についてお聞きします。

問20 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)

- 1 会社員、団体職員などとして働いている
- 2 自営業をしている
- 3 パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている
- 4 内職をしている
- 5 就労継続支援A型・B型、就労移行支援を利用している
- 6 その他()

7 働いていない
→問20-3へ

【問20で「1」から「6」と回答した方にお聞きします。】

問20-1 現在の職場に就職した、または現在の事業所を利用し始めたのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。(1つに○)

- 1 診断を受けた後 ⇒ 問21へ
- 2 診断を受ける前 ⇒ 問21へ
- 3 わからない・覚えていない ⇒ 問21へ

【問20-1で「1 診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】

問20-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 ハローワーク
- 2 市役所
- 3 武蔵野市障害者就労支援センター「あいる」
- 4 障害者就業・生活支援センター
- 5 障害者職業センター
- 6 通っていた学校
- 7 就労移行支援事業所
- 8 その他の福祉施設
- 9 市内の福祉団体
- 10 いずれも利用していない

【問20で「7 働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問20-3 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 会社員、団体職員などとして働いてみたい
- 2 自営業をしてみたい
- 3 パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい
- 4 内職をしてみたい
- 5 就労継続・就労移行支援を利用してみたい
- 6 働きたいとは思わない
- 7 その他()
- 8 わからない

→問20-4へ

→問21へ

【問20-3で「1」から「5」と回答した方にお聞きします。】

問20-4 働くにあたって、特に心配なことはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 労働条件（時間や賃金）
- 2 自分の健康状態や体力
- 3 自分のスキル（ビジネスマナーやパソコン操作など）
- 4 通勤
- 5 疾患や障害の特性に合う仕事があるか
- 6 職場の設備（仕事に使う道具や、階段、段差、トイレなどの使いやすさ）
- 7 職場の人間関係
- 8 職場の人の疾患や障害への理解
- 9 就労移行支援事業所などから引き続き支援を受けられるか
- 10 どのような支援を受けられるのかわからない
- 11 その他（）
- 12 特にない

すべての方にお聞きします。

問21 あなたが働く際、特にどのような支援があったらよいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 仕事内容を調整してくれる（障害に合った仕事内容、勤務日数や時間など）
- 2 職場の設備（トイレ、エレベーターなど）がどのようになっているのかを確認してくれる
- 3 職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる
- 4 就労や生活に関する相談先がある
- 5 急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる
- 6 仕事に役立つ講習を受けられること（ビジネスマナーやパソコン操作など）
- 7 自分に合った仕事を見つける支援（仕事探しや会社訪問への同行など）
- 8 疾患や障害の特性に合った職業訓練
- 9 疾患や障害のある人向けの求人情報の提供
- 10 就労先に出向いて来て、直接、作業のやり方や職場環境の指導をしてくれる
- 11 就労継続・就労移行支援などの場がたくさんある
- 12 その他（）
- 13 特にない
- 14 わからない

趣味の活動や地域の活動についてお聞きします。

問25 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)

1 参加している ⇒ 問26へ

2 参加していない

【問25で「2 参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問25-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------|-----------------------|
| 1 参加したい活動がない | 7 一人では参加しにくい |
| 2 介助者がいない | 8 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加の仕方がわからない | 9 どのような活動があるのかわからない |
| 4 経済的に余裕がない | 10 仕事や家事・育児が忙しく時間がない |
| 5 参加するきっかけがない | 11 年齢的に参加するのが難しい |
| 6 新しい場所に行くのが不安 | 12 その他 () |

問26 あなたは、特に用事のないときの過ごし方に満足していますか。(1つに○)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 ある程度満足している | 4 満足していない |

問27 市内では以下のような活動が催されています。あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 スポーツ（水泳、ハイキングなど） | 6 教養講座（カルチャースクール、大学の社会人用講座など） |
| 2 音楽（合唱、楽器演奏など） | 7 パソコン講習 |
| 3 美術（絵画、陶芸、染物など） | 8 ボランティア活動（福祉、環境保護、教育など） |
| 4 料理教室 | 9 その他 () |
| 5 英会話教室 | 10 参加したい活動はない |

問28 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。(それぞれ1つに○)

	よく話す	ときどき話す	ほとんど話さない
① 家族	1	2	3
② 学校や職場、施設の人	1	2	3
③ 友人・知人	1	2	3
④ 近所の人、地域の人	1	2	3
⑤ SNS・インターネット	1	2	3

サービスの利用等についてお聞きします。

問29 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 利用している | 2 利用していない | 3 わからない |
|----------|-----------|---------|

障害福祉サービスとは？

- ・ 障害者総合支援法に基づく居宅介護、短期入所、生活介護、共同生活援助、自立訓練、就労継続・移行支援、施設入所支援、児童発達支援、放課後等デイサービスなど、市役所からサービス受給の決定を受け、ピンク、紫またはクリーム色の受給者証の発行を受けたうえで利用するサービスのことです。

問30 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思われることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1 サービスに関する情報が少ない | 9 サービスの質に不満がある |
| 2 何が利用できるのかわからない | 10 自分に合う事業所が見つからない |
| 3 利用したい内容のサービスがない | 11 事業所に要望を伝えづらい |
| 4 サービスが障害の特性に合っていない | 12 事業所の担当者が代わってしまう |
| 5 サービスの利用方法がわかりづらい | 13 経済的負担が大きい |
| 6 サービスを利用するための手続きが大変 | 14 他人を家に入れることに抵抗がある |
| 7 利用できる回数や日数が少ない | 15 その他（ ） |
| 8 事業所との利用日時などの調整が大変 | 16 特にない |

障害者差別についてお聞きします。

問31 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

- | | | |
|---------|------------|--------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない |
|---------|------------|--------|

障害者差別解消法とは？

- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。

問32 あなたは、周りの方々に、障害を理由に差別されていると感じることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 公共施設や交通機関を利用するとき | 5 仕事を探すとき |
| 2 職場や学校にいるとき | 6 住む家を探すとき |
| 3 お店を利用するとき | 7 その他 () |
| 4 病院を利用するとき | 8 特にない ⇒ 問33へ |

▶【問32で「1」から「7」と回答した方にお聞きします。】

問32-1 差別を受けたと感じたとき、どこかに相談をしましたか。(家族や友人を除く)
(1つに○)

- | |
|-------------------|
| 1 相談した ⇒ 問33へ |
| 2 相談したかったが、できなかった |
| 3 相談しようと思わなかった |

▶【問32-1で「2」または「3」と回答した方にお聞きします。】

問32-2 どこにも相談しなかった(できなかった)のは、なぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | |
|-----------------------|
| 1 相談するほどのことではないと思った |
| 2 相談すべきことかどうかがわからなかった |
| 3 相談する人がいなかった |
| 4 相談しても無駄だと思った |
| 5 相談したことで仕返しされそうだと思った |
| 6 自分が我慢すればいいことだと思った |
| 7 その他 () |

武蔵野市地域自立支援協議会の活動についてお聞きします。

問33 武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果として、あなたが知っているものはどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1 障害者計画の策定 | 5 ふれあいカフェの開催 |
| 2 お薬手帳ひとことシールの作成 | 6 模擬選挙の実施 |
| 3 ハートフル実習の実施 | 7 ヘルプマークとヘルプカードの普及啓発 |
| 4 相談支援事業所の支援 | 8 その他 () |
| | 9 特にない |

※武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果については同封した別紙をご覧ください。

問34 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。
(1つに○)

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 当事者として参加したい | 3 参加・傍聴してみたいができない |
| 2 傍聴してみたい | 4 特に参加したくない |

武蔵野市地域自立支援協議会とは？

- ・ 障害のある方々が地域で自立した生活を送ることができるよう、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関して中核的な役割を果たす協議の場です。
- ・ 全体を取りまとめる「親会」と、「くらす」「はたらく」「相談支援」「権利擁護」「障害当事者」の各専門部会を設け、各部会で立てた年度計画に基づく様々な活動がなされています。

今後のことについてお聞きします。

問35 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

- | | | |
|---------|------------|--------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない |
|---------|------------|--------|

※成年後見制度については同封した別紙をご覧ください。

問36 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1 独立して暮らしたい | 4 入所施設で暮らしたい |
| 2 家族と一緒に暮らしたい | 5 その他 () |
| 3 グループホームで暮らしたい | 6 わからない |

問37 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1 とても満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 まあ満足している | 4 満足していない |

第4章 調査票

問38 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。
(主にあてはまるもの3つまで○)

- 1 住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）
- 2 日中の居場所の確保（大人のための）
- 3 趣味の活動の支援（障害者福祉センターの講習会、障害者団体の活動支援など）
- 4 未就学児への支援
- 5 小中高生の放課後・休日に利用できるサービス
(放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど)
- 6 発達障害児・者への支援
- 7 就労支援
- 8 いつでも気軽に相談できる窓口の充実
- 9 障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動
- 10 障害者が利用しやすい移動手段の整備（リフトタクシー、レモンキャブ、ムーバスなど）
- 11 地震や台風など災害時の支援体制の整備
- 12 疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催
- 13 その他（）
- 14 特になし
- 15 わからない

問39 武蔵野市の障害者福祉にご意見・ご要望がございましたらお書きください。

記入いただいたご意見・ご要望を公開してもよろしいですか。(どちらかに○)
(1 公開してもよい / 2 公開しないでほしい)

アンケートは以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございました。

返信用封筒に入れ、**12月20日(金)までに** 郵便ポストに入れてください。

武蔵野市障害者計画・第6期障害福祉計画策定のための

武蔵野市障害者福祉についての実態調査

報告書

令和2年3月

【編集・発行】武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
☎ 0422 (60) 1904, 1847